

7-44-31

特 275

161

田貫昭題辭
見舜雅著述

神州元氣全

常陽

至誠堂出版

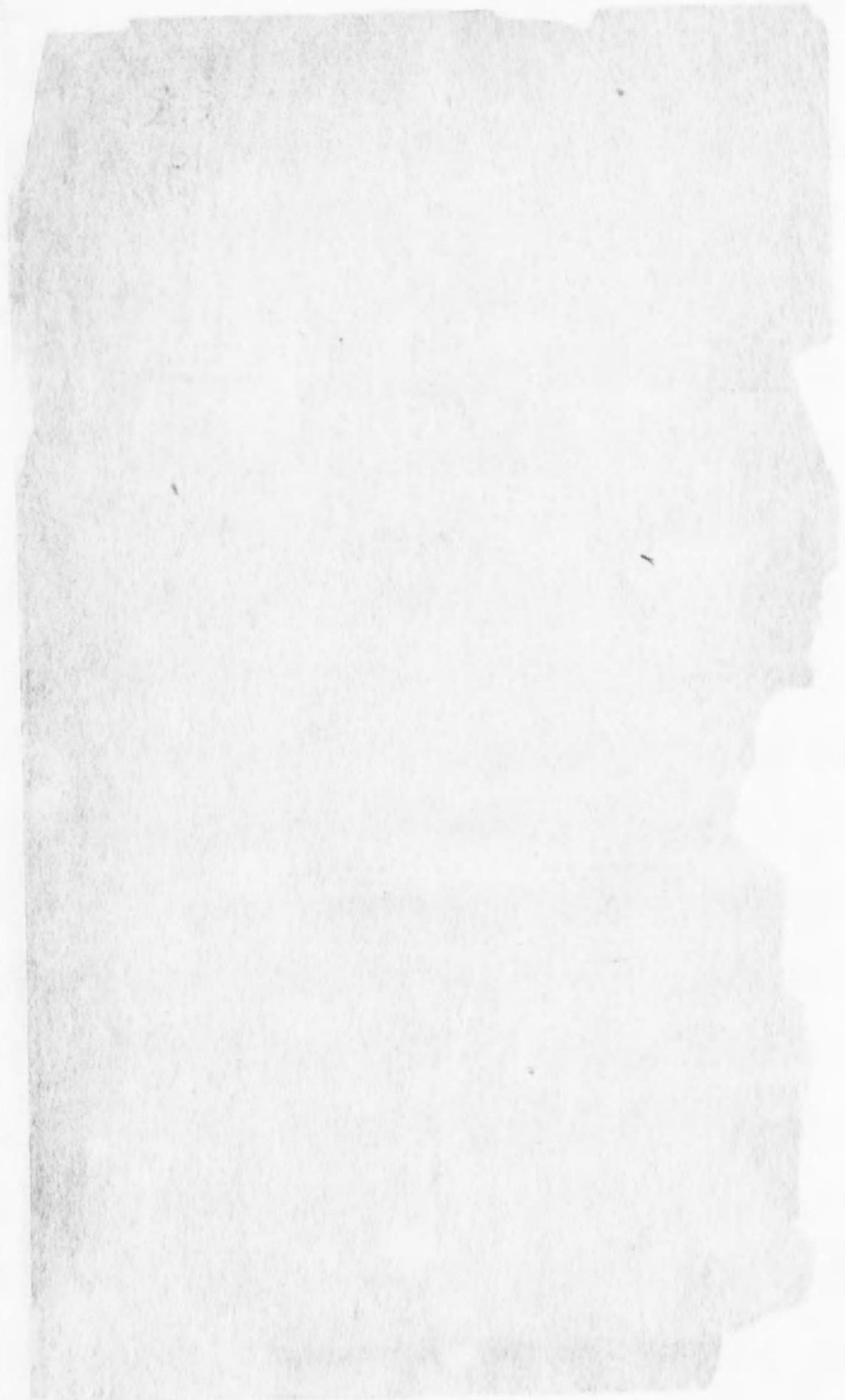


始



揮 握
彌 靈
天 蛇
之 之
學 珠

HRUOK



明治三十一年初夏

淺草寺沙門貫昭書



自序

神佛混淆，由來遠矣。明治百度維新，政事的判然粗行焉。而教理的判然未行矣。便以教理混然，故如天理蓮門等，非神非佛，妖教紛然，顯于世。陪混實務，相妨障也。相瞋睨也。各自臨，未省悟釐正時。內地開放，外教蔓延，秋臻矣。乃奸黠異教乘內道弊，亦淆教理，捏造非神非佛非耶，怪宗更欲侵掠神佛實務也。蓋萬流宗派混濫，而激發大波瀾，決壞我大道，毀傷我國躰者。夫在干邇也。惟內道者，國家之精神也。精神惑亂，即國家惑亂也。國家惑亂，即國躰阡弱也。國躰阡弱，管不能趨進文明域，還所以不得不逡巡退步也。以之予爲國爲

法、焦慮不能措忘、淺陋、嘲、豫、爲、鎮靜、宗教海、激瀾、令、我、國、躰、精神症、痊愈著述、一書、便題、皇國全通神佛新線路、意專在、欲、健全、國躰、進、開化、極也、所謂皇國全通者、何曰、我神社佛、閣業已、魏立、于滿天下、敬神崇佛、道通、達于五畿七道、故也、而所以、明晰、前設、線路崩壞、罪原、在、後設、線路者也、問、全卷、概、唱、神佛耶、判、然而、本題所以、省、畧、天、耶、者、何曰、是、固、供、內、道、準備也、即、準備完成、而後、抗禦、異教、蹂躪、我、線路、大意也、故、省、焉、矣、尙、譬、喻、立題、要領、縷々、暢、結論、畢、今、些、補、厥、闕、畧、以爲、序、云爾

皇曆明治三十一年二月中浣

著者謹識

凡例

- 一 本書ハ神佛兩道教理ヲ以テ之ヲ判然シ之ヲ興隆シ以テ日本ノ精神ヲ固結セシムルヲ主眼トセリ故ニ原因ニ約シテ神佛新線路ト題ス然ルニ或人譬喻立題ハ一見其主意ヲ解シ難シト爲ス故ニ結果ニ約シテ神州ノ元氣ト命シテ發行セシム便チ本書ノ題目ニ二種アルヲ知リ玉フ可シ
- 一 烏有憑虛ノ假名ヲ立テ問者トナシ講師トセシ所以ンハ神佛耶ヲ論明スルノ便宜ヲ圖リシ所以ンナリ
- 一 今人ハ凡ソ政治下ニ在テ政事家ノ思想アリ登校受學シテ教育家ノ思想アリ尙ホ進ンデハ物理化學哲學ノ思想ナキハ非ズ故ニ本書ハ是等ノ諸ノ思想ヲ有セル衆機ニ投ゼン爲ニ初ニ宗教ノ政事教育學術ニ關シテ問題ヲ提起シ而シテ後ニ神佛耶ノ三道上ニ比較的ノ論戰ヲ開キ邪教ヲ拆伏シ正法ヲ顯揚シ了ルヲ以テ序次トナス

- 一 古今哲匠ノ珍說冊子及ビ叢誌ニ散在シテ周覽シ難ク失忘シ易シ之ニ依テ摺摭採輯シテ自他ノ便覽ニ供ス間々己意ヲ附シタル者ハ牽強附會ノ嫌ヘナキ能ハズト雖努メテ教理ノ應用ヲ試ミシ處ナレバ乞フ看客之ヲ諒セヨ
- 二 記載錯綜引證缺要所說煩重ノ嫌ヒ頗ル多シト雖モ内地開放ノ時機ニ迫リ内道ノ豫備トシテ緊急ヲ要シ爲ニ刪訂ノ遑ナク法友ノ需ニ應シ匆卒活版ニ附ス固ヨリ童蒙ヲ迷ハスノ罪ト杜撰ノ囑ヒヲ免レザルヲ知ル江湖ノ博雅之ヲ恕シ幸ニ魯魚ノ誤リヲ料シ闕ト略トヲ補ヒ玉ハンコトヲ請フト云爾

著者識

神州元氣總目錄

問答の原由

- 西京線路瀛車室内宗要問答速記情況
- 居士ト書生優美ノ威儀
- 烏有憑虛ノ二氏揖讓接話
- 内地雜居ノ前後神佛ノ分岐ニ迷フ國民ヲ指導スル居士ノ主義
- 敬神崇佛國(日本)ニ生レ氏子檀家ノ名分ヲ有シ神佛ヲ知ラザルコトヲ耻ル書生ノ穎悟
- 神佛妄信者ノ漠然タル答辭
- 知識ノ啓迪ヲ仰ギ外人ノ侮弄ヲ防グノ旨趣
- 淨土ヤ高天原ニ(神佛ノ安心所)速達スル真理ヲ問フ
- 神佛ノ安心所ヲ得ルハ内地混住ノ時

機緊急ノ要問也ト答フ

- 問要八條 一 政事宗教ノ本領 二 信教自由ノ憲章 三 内外宗教ノ眞妄 四 神佛判然ノ朝旨 五 神佛兩道ノ分岐 六 祭儀法式ノ大意 七 敬神崇佛ノ要旨 八 佛敎前途ノ通塞 八條中自分ニ部門ニ五曰立派曰祭儀曰法式曰祈禱曰三寶具是也
- 立派部門
 - 初メニ政事宗教ノ本領
 - 各々四種ノ本領區域權限アルコトヲ問答ス
- 二 信教自由ノ憲章
 - 信教ヲ自由ニシテ眞正ノ道德ヲ撰修スルハ社會ノ美事
 - 我國ノ信教者ハ皇國國體ヲ遺ル、勿レ
 - 臣民ノ一天子ヲ敬戴セルハ世界絶倫

ノ國躰也

●教勅ヲ拜シ宸影ヲ戴クハ忠實發揮ノ善巧方便

●寫眞ノ無靈ヲ唱フ蘇門ノ不教

●獨一眞神ヲ尊テ神皇佛ヲ卑ム蘇門ノ邪見

●君ヲ遣シ國ヲ售ル賊心ヲ教養スル外教ノ諸派

●宗教撰擇容易ニ非ズ

●政教混同ノ弊害ヲ斷ズ文明ノ利劍

●信教自由權ヲ妄弄スル輕躁者ニ注意

僻見政事家ノ宗教無必要論

●政教ノ原由關係兩存ノ義

●水谷仁海政教分界及關係論

●河井清丸政教兩存論

●國體適合ノ宗教ヲ撰メ

●宗教ノ國政ヲ輔弼スル証例

反對四大恩論

●權義ニテ五倫ヲ論ズ

●絶待的道德歴史引證

●感情的ノ道德ハ法律ヲ味マス

●權義ハ政要也

●宗教道德ハ隱惡ヲ治ス

僻見教育家ノ宗教無必要論

●教育ニ四種アリ

●尋常ヨリ大學ニ入ル者萬分ノ一二

●學徳不備ノ民多キ國ハ開化ニ非ズ

●教員ハ普ク巡教ノ暇ナシ

●四民營業ノ暇智徳ヲ研ク所ハ寺院也

●宗費ヲ資助セズ寺祿ヲ貪ボル檀家ノ弊

●堂宇濫用ノ檀家ノ罪

●學校ヲ重ンジ寺院ヲ輕ンズル無見識

●哲學士ト雖諸宗ノ修證ハ得難キ理由

二

●五戒ノ(性戒遮戒)二義

●戒法ヲ受持セバ福德ヲ生ズ

●止善行善ノ二義

●五戒十善ヲ行ハザル國ハ眞ノ文明ニ非ス

●法律ヲ怖レズ因果ヲ怕ル、文証

●五逆十惡ハ三惡趣ニ墮シ五戒十善ハ三善道ニ昇ル因果ヲ明ス

●出世ノ法ハ至善淨境ニ入ルノ業

●法律ノ罪人ト道德ノ罪人ノ分別

●日中ノ劫盜妄開化ノ世ニ横行ス

●監獄懲役場ハ惡業ノ學校

●因果ノ天則ハ生々ノ賞罰

●政事の權利義務ト聖經的道德ノ範圍

●權利義務ハ相待的也道德ハ絶待相待ニ涉ル

●相待的權義ニテ絶待ノ道德ヲ論ズ附

ニ涉ル

●最勝智徳ヲ圓滿セ令ルハ獨リ佛教

●凡ソ四諦十二因緣六度ノ大法ハ多生ノ修行ヲ要ス

●大學卒業生ト雖モ佛門ニ入ラザレバ

三惑ヲ斷シ難シ

●校外ニ三寶ノ必要有テ存ス

●爲法的施財シテ道德世界ヲ造ルハ檀

家ノ本分

●我國家的教育ニ宗教ヲ加ヘザル所以ノ

問答

●國家教育ニ敬神戴皇スルヲ宗教視セ

ハ國體ノ消長ニ關セサルヤ

●校内儀式的ノ敬神ヲ學ブハ却テ外教

誘導ノ楷梯トナラズヤ

●言擧ゲセヌ神典故外教降伏ノ神學書

ヲ編シ難シ

●神佛混合ノ會釋ハ我神道ノ本意ニ背

三

クニ非ズヤ

- 宗教的ノ敬神ニ非レバ異教ノ傾動スル所トナラズヤ
- 答ニ曰國性寛大ニシテ已ニ儒佛二教ヲ撰用ス
- 古ヨリ今ニ及ビ教典具ラザル神道獨教權ヲ執ラバ日東ハ又生蕃
- 萬國交接ニ際シ信教自由ヲ許シテ偏頗ノ害ヲ除ク
- 教科書ニ佛教ヲ加ヘザルハ國害ノ謂ニハ非ズ
- 敬神ハ古風維存ノ旨趣
- 中學大學アリ故ニ尋常ハ諸學ノ初門完然ノ人物ヲ造ル所ニ非ズ
- 國體維持ヲ小學ニ一任シテ神佛二教不要ト見ル僻論者ハ曾テ外教ノ勢力ヲ知ラズ

四

- 神佛ノ學院ハ學校ト均シク隆盛ヲ謀レ
- 佛學院ハ最勝智德ノ學校ト思ヒ
- 教科書ニ國利ノ佛教ヲ加ヘザルハ同一公認ノ外教中ニ國害ノ教派モ有レバ也
- 神道ハ宗教的ノ國家教
- 國號及君臣ノ道ハ敬神ノ至誠ヨリ成立ス
- 天耶ノ極盛ニハ我神道衰滅ノ局忠愛ノ情誼モ亡ブ
- 外人我國家的學校ヲ見無完教トシテ別ニ學校ヲ私立スルノ害
- 神佛一致振興ノ爲ニ教理ト事務判然ヲ望ム
- 佛耶ノ 皇上ニ對シ敬不敬アル原由問答
- 敬不敬ハ教義ノ乖角ニ原因ス

- 一神教ハ萬神教ヲ毀チ
- 人權同一ハ君臣ノ道ヲ壞リ
- 社會主義ハ國家主義ヲ害フ
- 佛教ハ平等ノ上ニ差別ヲ説ク
- 君トナリ臣トナル是宿縁
- 佛徒ハ依正二報ノ深縁ヲ信ジテ忠愛ノ情義敦シ
- 蘇門國害ノ引證
- 一切國權天主ヨリ出
- 國王ハ天主ノ僕
- 耶蘇ハ諸王ノ王諸主ノ主
- 耶蘇ノ臣タル諸王臣民ノ大義ヲ亂レバ罪ニ定メラル
- 外教ノ創業ハ國風同化ノ假面ヲ被ル
- 邪教ノ潛勢力
- 佛門國利ノ引證
- 國王ノ善報福德最勝

五

- 諸天護ニ持國王ノ福德
- 山河大地國王ノ所領
- 人民豐樂王爲ニ根本
- 聖王生ニ治國之法ニ利ニ衆生
- 王能觀ニ察天下ノ民安樂
- 王以ニ正化ニ八大恐怖不レ入ニ其國
- 人王令ニ修ニ十善ニ名ニ福德主
- 臣民守レ道令ニ外人感化ニ則爲レ國爲レ君福業一端
- 人王正見化レ世名爲ニ天主
- 今上聖德比ニ說佛說國王十德
- 佛家ハ國體維持ニシテ耶氏ハ國體改造也
- 日本ノ臣民ニ外教抗禦ヲ望ム
- 三ニ内外宗教眞妄邪正比較的問答
- 未開ハ萬神半開ハ一神滿開ハ無神ノ學說ヲ聞ヘテ我神道ノ萬神ト佛教ノ

- 三世諸佛トヲ未開ノ遺物也ト疑問ス
- 諸大家ノ卓論ニテ耶蘇教ノ妄説及國害ヲ證ス
- 天之御中主神ハ一神ニシテ即萬神ナルコトヲ明ス
- 佛ニ無量ノ德アリ應ニ无量ノ名有ルベシノ文證
- 一塵ト雖遮那ノ覺躰ナラザルハナシ
- 外教ノ无形神ヲ尊ンデ有形物ヲ輕ンズルハ神ノ心ヲ尊ンデ神ノ躰ヲ輕ンズルガ如シ
- 佛ノ无我平等ヲ讚シテ天帝ノ我慢惡差別ヲ詰ス
- 耶蘇ノ建立セシ天帝ト我が天神ト差別ノ問
- 外教ハ有見ヲ執ジテ空間ニ天帝在スト妄計ス

- 外教ノ神ハ妄造ニシテ我神道ノ神ハ真正ナルヲ論ズ
- 我が岐美二神ハ外教ノアタムイヲハノ子孫ナルヤノ問ヘ
- 答五個ノ盆中ノ子子一時發生ヲ以テ五大洲人間ノ始祖一時發生ヲ證ス
- 世界始原ニ就キ神道ノ開闢説天耶教ノ創世説近世實驗學説ノ比較的質問
- 地質學上地球構成時期ヲ七期ニ分ツ
- 近世學者ノ始原説ハ水火二元論トナス
- 天帝創世説ハ水元論
- 日本ノ開闢説ハ佛教ノ六大説ニ髣髴セリ
- 印度ノ地、水、火、風、空、我、識、等ノ諸論師ノ評
- 數論勝論ノ二大哲學有無ノ二見

- 大總括絶待的釋尊ノ百非論
- 南无十方(空間)一切常住(時間)三寶(物心理)ト唱念スレバ時空物心理ノ五大原ニテ一切世界ノ成敗スルヲ悟了ス可シ
- 時間ヲ明ス初メニ刹那(短時)ハ現時ノ一秒ニ幾何アルヤヲ明ス
- 空ク刹那(長時)ヲ引證シテ時ニハ實体ナキ故長短ナキコトヲ明ス
- 時間ヲ以テ萬物發成ノ大元ト爲ス
- 空間ヲ明ス初メニ佛教ノ空ト勝論ノ空トノ異ヲ辨ズ
- 空ハ涯際ナクシテ四大ノ遊所ナリ而シテ萬物發成ノ大元ト爲ス
- 物ヲ明ス初メニ國土ハ四大ニテ成ルコトヲ明シ四大ノ隣虛ヨリ一進シテ色空不二ニ説及ス

- 國土ニ成住壞空衆生ニ生老病死ノ因果アルヲ明ス
- 堅濕煖動ノ本性不生不滅ノ躰ナルコトヲ明ス
- 四大ハ萬物ノ大元ナルコトヲ明ス
- 國土ノ年齢及ビ國土世間ノ命數衆生世間ノ壽量ト近世ノ實驗學説ト比較的ノ質問
- 器世間ノ命數一大切ヲ換算ス
- 住切即チ一中切ヲ換算シテ人間世界ノ壽量ヲ明ス
- 今日ヨリ器世間初成迄ノ年數ヲ勘算ス
- 日本天照太神ヨリ歷世ノ神皇今上迄ノ年數ヲ歷算ス
- 支那天皇氏ヨリ今世迄ノ年數ヲ歷算ス
- 西洋ノ學説世界年齢ノ長短論

- 未ダ以テ實驗說ト理想說ノ中一說ニ 僻ス可ラザル論
- 八萬四千ノ塵勞ハ世界ノ起滅ニ關ス
- 須彌高廣八萬四千由旬ハ八萬四千ノ 塵勞ヲ表スルコトヲ論ズ
- 煩惱無盡ノ理想說ハ實驗說ヨリ長キ 理由ヲ論ズ
- 末世人ノ長一尺ノ佛說ト佛蘭西統計 學者ノ末世人長ノ說ノ近似說
- 彌勒佛世ノ人長ヲ擧テ衆生ノ罪福ノ 業力ニ因テ大小身ノ果ヲ顯ハス辨
- 近世實驗家が地球ノ減勢太陽光線ノ 減力地轉ノ緩漫月界息火空曠ノ現狀
- 水星界ノ經營星雲及ビ黑星等ノ發見 ヲ引テ輕シク佛敎ノ國土ノ成敗年序 久遠說ヲ破棄ス可ラザルヲ論ズ
- 心ヲ明スニ无相ニシテ無量ノ相ヲ現

- ズル論証
- 心ニ善惡ノ性ヲ具スルコト譬ヘテ舉 示ス
- 心念ニ生住異滅ノ四相アルヲ明ス一 色四心所ヲ釋ス
- 一心ニ智慧ト情識ヲ具スルヲ明ス
- 天帝等ノ造化ノ神ハ情識ナルヲ論シ
- 天安心所ニ非ルヲ明ス
- 八識ヲ轉ズレバ五智ノ如來ナルヲ說
- ヘテ安心所ナルヲ示ス
- 三界唯心造ノ義ヨリシテ心ヲ萬物ノ 大元トナス
- 理ヲ明スニ佛敎ノ十界十如ハ天則ニ シテ天地間ノ眞理ナルコトヲ明ス
- 四諦ノ法ニ迷フト悟ルトニ依テ十界 現ズルヲ明ス
- 四聖位ヲ明スニ就テ四種ノ涅槃ヲ略

說ス

- 十如是ヲ一譬喻引例メ詳解ス
- 十如是三轉讀法ニ順ジテ即空即假即 中ノ三觀ヲ明シ佛敎ノ大安心ノ法ナ ルヲ示ス
- 世界萬物ノ起盡ハ十如是ノ理ナルコ トヲ明シテ萬物ノ大元ナルヲ示ス
- 已上時空物心理ノ五大元ノ絶待的妙 理ヲ論明シテ佛敎ハ一切宗教ニ超越 シ一切ノ學說ニ最勝セルコトヲ示ス
- 物ノ有機無機ハ原素ノ聚合充分不充分ニ 原因シ原素外ニ心識ナシト爲ス唯物論旨 ノ問ヘ
- 答ヘ化學作用ハ活力ニ勝ツ能ハザル 二例
- 原子哲學ノ精神ノ原子モ佛家ノ色心 不二ノ玄理ニ及バザルヲ論ズ

問

- 六大無碍常瑜珈ヲ釋シテ一切萬物絶 待的ヨリ成ルコトヲ明ス
- 元素ノ和合性離散性恒存性ヨリ六大周徧 ニ論及シ萬物ノ成敗衆生ノ生死アルノ疑
- 色心ノ關係ヲ說キ三世ノ業力ヲ譬ヘ 萬象ヲ成シ生死ノ相ヲ疑フヲ答フ
- 无生ニシテ生シ無滅ニシテ滅シ不往 ニシテ往キ不來ニシテ來ル妙理ヲ論 明ス
- デモクタス氏ノ原子哲學ノ原則ヲ以 テ佛家識大周徧ノ說ヲ證ス
- ルクレシアス氏ノ物體无究ニ分拆ス ル能ハザルノ論ヲ引テ佛家法體恒有 ノ說ヲ證ス
- マクスウエル氏ノ天地變革論ヲ引テ 佛家無常ノ說ヲ證ス

●外教ノ妄説ヲ棄テ佛教ノ眞理ヲ探レト勸ム

何宗ガ滿開時代ノ無神教ニ應當スルヤヲ問フ

●神人同一ハ無神教ナリト答フ

●獨一眞神宗ハ人即神タルコトヲ得ザルヲ論ズ

●プロテスタントノ上帝説モ神人同一ノ理ナキヲ論ズ

●妖怪哲學ニ耶蘇ノ三位説ヲ破ツテ佛ノ三身即一ト成ラザル限リハ耶ハ佛ニ數歩ヲ讓ラザルヲ得ズト爲ス説ヲ舉示ス

●我國ニテ大勳者ヲ祭ル處ノ神ニハ有功者ハ成ルコトヲ得ルヲ證ス

●臣民ガ天之御中主神及ビ天照大皇神ト同體也ト唱フルコト能ハズ是ヲ以

等ノ諸神ノ名號ヲ詳釋シテ天之御中主神ハ天地萬物生成ノ理ト岐美二神ノ化現ノ事ト事理色心不二ノ神ナルコトヲ證シ一神即萬神ナルコトヲ明ス

●岐美二神血統ヲ垂レ 天照大神之ヲ繼承シ天津罪國津罪ヲ立テ祭政一致ノ神道ヲ建テ玉ヒシコトヲ説明ス

●天罪八條國罪十三條ヲ解釋シテ我國法トシテ今人彌々謹テ罪穢ヲ犯ス勿レト論ズ

●皇孫神勅ヲ奉シテ天下ヲ治メ蒼生无究ノ神恩ヲ被ムルコトヲ明シテ報本反始ノ道ヲ指導ス

佛ノ實跡ヲ問フ

●ホトケト訓ズルヲ釋ス

●自覺々他覺行圓滿ノ義ヲ釋ス

テ眞ノ神人同一ノ神教ニ非スト爲ス
●死後神ト祭ルハ中世佛教傳來已後佛法ニ倣フコトヲ辨ズ

●歷朝ノ 皇靈モ國齋ニシテ神トシ祭ラザルヲ例證ス

●佛教各宗ノ衆生即佛ノ安心ヲ引證シテ佛教ヲ無神教ナルコトヲ論明ス

●張商英ノ無佛論ヲ著サントシテ了ニ佛ハ有無ヲ離シ亦有無ヲ離レザル妙體ナルヲ悟リタル文釋

四ニ神佛判然ノ朝旨

●我が國神ノ實體ヲ問フ

●天之御中主神、高皇產靈神、神皇產靈神、可美葦牙彥舅神、天常立神、泥土煮神、沙土煮神、角織神、活織神、大處舅神、大處姥神、面足神、惶根神、伊邪那岐尊、伊邪那美尊、

●法身ノ引證

●報身ノ引證 (自受用身他受用身)ノ解

●應身ノ引證 (勝應身劣應身)ノ解及ビ八相

●心性ニ法身般若解脱ノ三徳アルヲ明ス

●三身即一引證

●佛ヲ死物視セルヲ駁ス

神佛混然ノ由來ヲ問フ

●我國佛教傳來已前兩道混合ノ瑞兆アリシ證

●百濟國聖明王佛像經論ヲ本朝ニ貢獻スル表文

●大臣蘇我ノ稻目佛教國害ナシト信認セシ事

●佛像ヲ難波ノ堀江ニ投ズ

- 守屋等ノ國家觀念ノ厚キハ嘉ス可キモ法ノ正邪ヲ分タザルヲ惜ム
- 聖德太子十七憲法第二條ノ註釋
- 三種三寶ノ註釋
- 萬國ノ極宗トハ聖德太子ノ慧眼ノ鑑識
- 神儒佛ノ鼎樹比喩
- 皇大神ノ神詔ニヨリ盧舍那佛ヲ鑄造シ伊勢ニ大神寺ヲ建立スル事及天下敬神敬佛併行ノコト
- 全國七分佛教徒ノ爲ニ開拓セシ事
- 最澄大師日吉山王ノ神詔ニ依テ一實神道ヲ悟リ 桓武帝ニ授ケ奉リシ文證註釋及ビ相承
- 慈眼大師徳川將軍チ一實神道ヲ以テ兎嶺ニ祭リシ事
- 神佛判然ノ朝旨ハ如何ン

- 中世佛教來ツテ神道ノ流弊ヲ除キ本地垂迹論ヲ唱ヘテヨリ純粹ノ神道萎靡ス
- 神道回復ノ有志舉テ明治維新ニ乗ジテ神佛判然ヲ成ス
- 佛骨表ヲ愛讀セル腐儒國學家排佛掩功的ノ不平論ヲ珍味トシタル淺學輩朝旨ヲ誤解シテ佛家ニ暴害ナセシ事
- 神佛混然ガ正說ナルヤ判然ガ實義ナルヤ
- 佛教ヨリ見ルトキハ混然モ判然モ正義ナルヲ論ズ
- 佛教ノ平等門ニ入レバ日本ノ萬神ハ勿論外數ノ天帝モ佛體ナルコト
- 同ク差別門ニ入レバ神佛ハ勿論一切萬物歷々トシテ因果優劣アル事
- 神道ハ國體維持ノ因縁ヨリ成ルガ故ニ即人道教也

- 佛教ハ上中下三根ノ爲ニ三惑ヲ斷ズル法ヲ説クガ故ニ世間出世間ノ賢聖教也
- 人間世界ハ四念處ニ干テ淨樂我常ノ妄觀ヨリ緣起ス
- 聲聞緣覺菩薩ノ三世界ハ四念處ニ干テ正觀ヲ爲スヨリ緣起ス
- 佛界ハ四念處ニ干テ八顛倒ヲ離ル、ヨリ成就ス
- 現時ハ神佛判然ノ制規故差別門ニ入テ神佛耶判然ヲ唱フ可シ
- 佛門ニテ偶像ヲ設ケテ信仰スル理由ヲ問
- 答フルニ三義ヲ舉示ス
- 我國神ノ祭祀ニ奉弊ヲ神體視シテ敬拜スルヤヲ問フ
- 耶蘇ノ空中有見ニ簡ミ御玉代和幣御玉串ヲ以テ神體ト見テ敬拜スルコト

- ヲ明ス
- 我神道ノ天堂地獄說ヲ問フ
- 高天原ノ略釋及生天ノ說ナキヲ辨ズ
- 底津根之國略釋及罪穢ノ發元夜見ノ國ナルヲ論ズ
- 顯幽分界ノ事
- 耶蘇ノ天堂地獄說ヲ問フ
- 天道地獄ハ天主ノ豫定中ニ構造スト云不眞理ヲ駁撃ス
- 佛教ノ天堂地獄說ヲ問フ
- 佛教ノ天堂地獄說ハ一切衆生ノ業感ト爲ス引證
- 天堂地獄ノ有無ハ己心ヲ觀想シテ證得ス可キ論
- 西方極樂國ノ在所遠近異說ノ詰問
- 機根ニ應ジ遠近ノ說ヲ投與セシ辨
- 周畔徧覽无非佛界ノ釋

道標示ヲ問フ

- 神佛ノ混淆ハ異教ガ亦神佛ニ混淆シ來ルノ標準トナルヲ論ズ
- 政彙教彙ヲ製作シテ政事教理ニテ分岐ヲ標示ス可キヲ説ク
- 政彙ハ教理的ニ非ルヲ辨ジ即チ一新已來ノ神佛判然ハ表皮のナルヲ引證ス
- 桓武帝奠都紀念祭ニ神佛兩式ヲ以テ舉行セザリシハ史ニ照シテ缺典ナルヲ陳ベ將來ニ向テ萬事精神的ニ行ハレンコトヲ祈望スル論
- 非神非佛ノ天理教ヲ防止シ更ニ非神非佛非耶ノ妖教豫防方ヲ講明ス可キヲ論ズ
- 神佛兩道ノ分岐ニ事理ノ二彙ヲ製スルニ神佛各々八種ノ證アルヲ列舉ス

● 西方己心ノ問要

- 機根ニ應ジ觀佛シ念佛ス可シ
- 阿彌陀ハ理佛ナリヤ事佛ナリヤ
- 蘆津實全彌陀ノ實躰說引用
- 法藏比丘ノ事行理性ニ合ヘ无量壽ト成リ玉ヘシ故ニ事理不二ノ佛ト爲ス
- 正念ヲ以テ妄念ヲ斷除ス可キヲ獎勵ス
- 耶蘇說ノ客觀的天帝ト佛說ノ客觀的ノ彌陀ト異別アリヤ
- 耶蘇ハ單ノ客觀的神ノ奴隸教ナルヲ論明ス
- 佛ノ客觀的ハ遂ニ主觀的ニ歸ス故ニ衆生ガ佛ト成ル義ヲ以テ佛ノ奴隸教ニ非ルヲ論證ス
- 神佛耶俱ニ教權ヲ執テ一線路ニ競爭軋轢スル弊害ヲ豫防センガ爲ニ三道分岐ノ指

祭儀部門

- 祭儀法式ヲ知ラザル氏子檀信ハ萬邦混住ノ曉キ我國古俗ノ祭儀法式ヲ疎略ニシ異邦ノ珍奇ナル祭典ヲノミ嚴行シ終ニ太古ノ美風ヲ滅却ス可キヲ以テ普ク細民ニ知ラセン爲メ二間ヲ構フル中初メニ我國ノ大祭祀日ヲ問フ
- 四方拜
- 元始祭
- 政始
- 新年宴會
- 陸軍始
- 海軍始
- 皇靈祭
- 紀元節
- 神武天皇祭

● 神道ハ國家的、佛教ハ普通的

- 神道ハ純潔、佛道ハ染淨不二
- 神道ハ詫宣、佛道ハ自證
- 神道ハ祓除、佛道ハ懺悔
- 神道ハ人鬼ヲ崇拜セズ
- 佛道ハ靈位ノ増進ヲ祈ル
- 神道ハ攘災招福、佛道ハ誘善利生
- 神道ハ現在ヲ尊ビ佛道ハ未來ヲ尊ブ
- 吉事ハ神道凶事ハ佛道
- 井上博士ノ神佛實務分擔說ヲ引テ結論ス
- 神道ノ葬祭ニ關スルハ本色ナラザルヲ知ラズ猥リニ離檀セ令ル輕躁者ニ注意
- 神道家ハ産婚ノ祝祭ヲ制定シテ外教ノ結婚指環授與式及ビ出産洗禮式ヲ壓止ス可キ論

- 神嘗祭
- 天長節
- 新嘗祭
- 大祓
- 大嘗會（以上詳解）
- 神名帳ノ社殿ハ國神即チ古代ノ神人ヲ祭祀セルヤノ疑問
- 紀ノ景行帝ノ條ヲ引テ古代ノ人即チ人鬼ヲ祭リシニ非ルヲ證ス
- 神社ハ祭政一致ノ政事堂ニシテ天神ヲ祭レル也固ヨリ神道ハ亡者ヲ神祭セザルヲ證ス
- 佛道ガ我國ノ葬儀ニ關セシ原由ヲ問フ
- 我國ノ齋儀ハ元ト殯殮ト林葬ナリシ說

- 儒葬祭佛葬祭ノ混行
- 推古帝三輪ノ神託ヲ承ケテ葬祭ヲ佛門ニ一任シ玉フ勅語
- 儒道ハ感ヲ盡シテ鬼ノ報ヒヲ知ラザル說
- 佛道ハ精靈ヲシテ妙覺位ニ引導スル眞法ナルヲ明ス
- 葬法ノ功德勝劣ヲ問フ
- 天竺ノ四種ノ葬法功德優劣
- 佛敎ノ荼毘法（火葬）ハ衛生的經濟的道德的ナルコトヲ論證ス
- 死人ニ對シ引導ノ功德アリヤ否ヤヲ問フ
- 心法ノ靈色法ノ精ヲ解釋シテ色心不二ノ說ニ及ブ而シテ色心共ニ毘盧ノ覺體ナルヲ明ス
- 現在ノ引導ノミヲ執ズル論者ニ對シテ佛意ハ三世ノ引導ヲ要スル說

- 僧ヲ請シテ引導スル問答
- 父母ノ棺ヲ昇ク可キ問答
- 送葬ノ幡天蓋ノ問答
- 亡者ニ水ヲ供ズル問答
- 死者ニ經衣ヲ着セシメ血脈及ビ六道錢ヲ帶バシメ杖履ヲ持タシメ旅行ノ狀ヲ爲サシムル問答
- 六道錢費消高四千八百圓ヲ以テ各郡ニ地藏尊ヲ建立シテ群靈ヲ回向ナス可キ論
- 四十九餅ノ問へ
- 五輪合成一味平等鑲字所成ノ塔ナル詳解
- 四十九院ノ問答
- 六地藏ノ名號及種字ノ解釋
- 玉祖ノ神官地藏尊ノ靈感ヲ被リシ說
- 十三佛ノ名號及ビ種字ノ解釋並ニ年

- 忌吊ヒニ之ヲ配當シテ塔婆ニ書寫スル問答
- 法要準備ノ僧ガ質問セラレ閉口セシ例ヲ舉ケテ六角塔婆ノ表儀功德ヲ問フ
- 内外宗敎對峙ノ時ニ方テ僧ガ儀式的ノミ知リテ法要ノ事理ヲ辨ゼザレバ外敎ニ或ハ恥辱ヲ受ケン亦檀信ガ墨守的ナルトキハ邪敎ニ誘惑セラレンコトヲ說ク
- 吊祭ハ新參宗派ノ掌裡ニ入ルヲ警メ近來葬祭佛敎ト卑劣視セル僧ノ省悟ヲ望ム
- 六角塔婆ハ六道ノ罪惡ヲ消滅スル功德ノ文證
- 忍辱太子父王ノ建塔ノ功德ニテ成佛セル因縁
- 五輪及ビ塔ノ圖并ニ略解

- 塔ノ異名數種梵漢翻譯及解釋
- 五大種字字義顯色表形性德業用方位五智五佛五分法身互具等ノ一覽表及ビ其暗誦法ヲ示ス
- 六角塔ノ正面ニ書スル光明真言ノ講談
- 分字釋(一字ゴトニ分ケテ説ク)合字釋(字ヲ合セ句義トシテ釋ス)總通釋(大意ヲ貫通シテ解ス)三重ノ講談
- 六角塔左右方面ニ書スル四句ノ偈ヲ十界ノ相性ニ配當シテ教相的ニ詳解ス
- 六角塔ノ裏面ノ正方ニ書スル五字ノ三字ノ解釋
- 六角塔ノ表裏及裏ノ五佛ノ種字釋
- 列女道氣位、列女道氣位、列女道氣位ノ三身ノ真言釋

- 亡者ノ俗名ヲ改メテ法名ヲ與フル義ノ問答
- 名ハ虛妄ノ法ニシテ實ナシ以テ道俗ヲ分ツノ義問答
- 亡靈ニ、香華、燈明、飲食、等ヲ供ズルニ納受ノ現象ナシ故ニ世人其功德ノ有無ヲ疑フ此時ニ方ツテ无形拜天的ノ多道來テ嘲笑セバ愚俗之ニ迷ハシ爲レ之諸供物ノ本據、及ビ功德、並ニ三日ノ追齋、七本塔婆、等ノ本義ヲ示セ
- 右答辨逐一詳解
- 金剛界大日ノ姿字胎藏界大日ノ姿字受染明王ノ姿字ハ年忌ノ種字十三佛種字釋ノ外ナレバ茲ニ釋ス
- 塔婆ノ裏ニ書スル姿字即チ一字頂輪王ノ真言無量ノ三法含藏ノ美ナルヲ

列示シテ詳解

- 年忌、月忌、正月、命日、精進日、等ノ問答
- 年忌追善ニハ名聞ノ志ト慳貪ノ志ト交義上ノ志ヲ離レテ如法ニ營ム可キ論
- 逆修ノ功德問答(附タリ内外宗教ノ競争ノ時機ニハ逆修ヲ勸誘ス可キコトヲ論明ス)
- 諸塔婆ノ表幟及ヒ建塔ノ趣旨及ヒ塔ノ立破罪福問答
- 建塔ノ三意
- 四阿羅漢果ノ塔表
- 緣覺ノ塔表
- 佛ノ塔表
- 比丘ノ立塔
- 師僧ノ爲ノ立塔

- 塔ノ銘記ノ本據
- 八種ノ人ノ立塔
- 在家ノ石碑ハ墓標
- 列字ヲ刊石セルハ五輪塔ノ畧式
- 建塔十種功德
- 石塔ニ梵字ヲ除キ紋章ヲ彫刻シ法名ヲ傍面ニ隱シ正面ニ俗ノ姓名ヲ顯ハセルハ非法ニシテ勝功德ヲ失フ論
- 石塔ヲ以テ力ヲ試ミ或ハ倒シ或ハ碎キ若クハ年忌率都婆ヲ折リ若クハ焚クハ出佛身血ノ五逆罪ナル文證
- 春秋ノ彼岸法會ハ例ヲ外邦ニ採リシヤ、本朝ハ何レノ頃ヨリ行ハレタルヤ、而シテ何ノ爲ニ設ケラレタルヤ、元來彼岸ノ名ハ何ノ義ゾヤ、ノ問答
- 春秋皇靈祭ハ彼岸ノ中日ナル事
- 異邦ニ彼岸法會ヲ開クノ意得

- 六度ニ對スル、六弊ヲ明シ、并ニ六度果報、六度ノ順序、事理六度等、ノ名義ヲ詳釋ス
- 孟蘭盆會ノ緣起在家ノ誤解及ビ我朝ノ創修問答
- 施餓鬼法會ノ緣起問答
- 十夜緣起問答
- 神道及ビ外教並ニ精理學上亦ハ世ニ儒要者アリ供給者アルニモ係ラズ佛家ハ放生會ヲ舉行セル問答
- 放生會緣起、功德、及ビ本朝ノ創修、祈禱部門
- 祈禱無驗論ト有驗論
- 孔子ノ祈禱、外教ノ祈禱、天理教等ノ諸祈禱、論
- 佛家ノ祈禱ハ轉業法ニシテ眞理ナル論辨

- 九字護身法ノ意得、及凡夫ノ印明功力有無問答
- 十八道、護摩供、金剛界、胎藏、四度行法ノ問答
- 西山公念珠ヲ摺テ祈ルハ如法ナラズノ問答
- 柴手水、及ビ浴ニ河水ニ、並ニ灌頂ヲナス、等ノ得益問答
- 護符、札守、ハ何ノ理法ニ從テ製セルヤ是レニ多ク、急々如律令、若クハ、文字、ヲ書ケリ其緣起及ビ釋義ノ問答
- 斷食、木食、ノ行ハ佛家ノ要法ナルヤノ問答
- 日待、月待、星祭、庚申祭、及ビ每家三寶荒神、ヲ祭ル本據ヲ列示セヨ詳細問答

- 疫神ヲ遂ヒ、角大師ヲ門ニ帖スル、本據問答
- 御關ハ吾國俗ナルカ將タ佛教ニ出タルヤノ問答
- 誕辰ノ祝賀ニ對シ佛法ニ利益アル念誦法アルヤノ問答
- 厄年ヲ妖怪學ニ豫期意向トナスノ理ヲ明シ我國ニテ觀音ヘ詣テ、除厄スルノ古俗問答
- 三寶具部門
- 六金色ノ佛旗ノ表示問答
- 斗帳、卓圍、旛、蓋、華鬘、瑤珞、等ノ佛前莊嚴具ノ本據問答
- 壇ノ意得問答
- 五股杵、並ニ三股、獨股、ノ表示及ビ之ヲ用ユルノ意得問答
- 鈴ノ表示及ビ用法問答

- 金剛盤表示
- 華瓶、花瓶佛供、六種供具、及ビ幡、ヲ供ズル問答
- 佛前寶鏡ノ問答
- 邊陲ニテ羅網、及ビ鈴、並ニ樂器、ヲ神道ノ專用器械ト意得タル者アリ是ガ爲ニ示ス其本據問答
- 佛家日用ノ梵器ナル鍾、鈸、法螺、磬、木魚、大鼓、梵鐘、打金、等及ビ梵唄曲節、ノ濫觴音樂ノ功能、問答
- 今時ノ僧家ハ弘教ノ爲佛敎唱歌ヲ造リ亦觀音大師等ノ御詠歌及ビ和讚ヲシテ卑野ニ流レシメズ清雅ニ導カンコトヲ望論
- 僧家日用品三衣袈裟、金襴衣、布衣、及ビ紫衣、素絹衣、座具、念珠、應量器、托鉢ノ錫杖、拄杖、拂子、如意、手

爐、淨瓶、戒刀、水囊、扇子等ノ問答

- 道具ノ字義
- 僧ノ六物ノ名目
- 多寒ノ國ニハ百一ノ具ヲ聽サル
- 三衣ノ釋
- 三衣ヲ見テ人ノ名クルニ從フ義
- 三衣ヲ用ルニ從テ名クル義
- 三衣ヲ被着スルヲ得ル者ノ品位
- 賢聖沙門ノ標幟三世如來ノ着衣
- 三衣ハ三毒ヲ斷ジ三業淨シ
- 大衣ノ三品九種
- 二十五條ノ大衣ノ表彰
- 三衣ノ田相緣起及ビ註釋
- 袈裟ハ法衣ノ統名
- 袈裟ノ翻譯及ビ諺解
- 三種ノ境色ノ解
- 袈裟ノ別名

● 袈裟五種ノ功德

- 袈裟ハ八法ヲ以テ信重ス
- 五納衣三重ノ名義
- 佛意弟子ヲシテ出世間ノ道ニ隨ヒ世樂ヲ捨テシメン爲ニ十二頭陀ヲ讚ス
- 佛ケ五人ノ弟子ニ納衣ヲ着セシム
- 大乘小乘布衣蠶衣ノ論證
- 金闍衣ハ台密二家ノ受用シテ可ナル
- 經說附タリ日本佛教ハ大乘了經義故ニ金闍衣ヲ着スルニ耐ユ可キノ說
- 生絹衣ノ開遮ノ義
- 着衣ノ功過心ニ在リ
- 涅槃ヲ求ムル者ニ無上衣食ヲ許シ玉フ經說
- 紫衣ヲ賜フ起原
- 素絹衣ヲ賜フ起元附タリ天台宗ノ正服(餘ノ詳解推シテ知ル可シ)

七ニ敬神宗佛ノ大意問答

- 神社佛閣全國ニ雙立スル義
- 今時ノ氏子檀家ハ神佛ノ何ンタルヲ知ラサル者多シ
- 外教來テ我臣民ノ空腦ヲ徹觀シテ邪教ヲ注入スル論
- 神道ノ氏子外教ニ反對ノ要論
- 神道ハ國牀ノ防禦
- 佛道ノ檀家外教ニ反對ノ要論
- 佛道ハ眞理的ノ防禦
- 神佛一致國家愛護ノ爲ニ教理ノ判然ヲ唱ヘ實務ノ分擔ヲ望ミシ理由
- 内地開放ニ際シテ神道ニテ緊急準備問題三條並ニ注意
- 全ク佛道ニテ緊急準備問題參條並ニ注意

八ニ佛教前途ノ通塞ノ問答

- 住持ノ三寶衰敗シテ人世各自本具ノ三德ヲ忘失スル事
- 寺院ノ名義ヲ辨明シ其本分ヲ知ラシム(附タリ天竺漢土日本寺院ノ創立及ビ本山末山)
- 布教策六項院內感化策、在家布教策、海陸軍布教策、海外布教策、外來住者布教策、監獄懲役場布教策、及ビ胎內教育、家庭教育、社會教育、出世間教育ニ論及ス、
- 宗意的法務國家的法務ノ振興
- 寺院財源論
- 時機適合ノ宗制改良實施法
- 檀家ノ名義ヲ辨明シテ其本分ヲ知ラシム
- 一世ノ財寶ヲ以テ萬代ノ福智ヲ求ムル說

- 司馬温公が家訓
- 八重眞實ノ經説ヲ引テ今時ノ名字ノ僧モ眞實ノ一ナルコトヲ論明シ併セテ外教徒ヲ尊敬スルニ勝ルノ功德アルヲ開示ス
- 檀家ノ盡ス可キ本分六條
- 佛教ノ前途流通ト墜塞トハ寺檀僧俗ノ本分ヲ盡スト盡サハルトニ基因スルヲ論明ス
- 佛教ト我國家ト關係緻密ニシテ盛衰共ニスル論
- 結論本書立題問答
- 本書譬喩立題ノ四義ヲ明ス
- 憑虛烏有ノ假名ヲ解釋シテ結尾ス

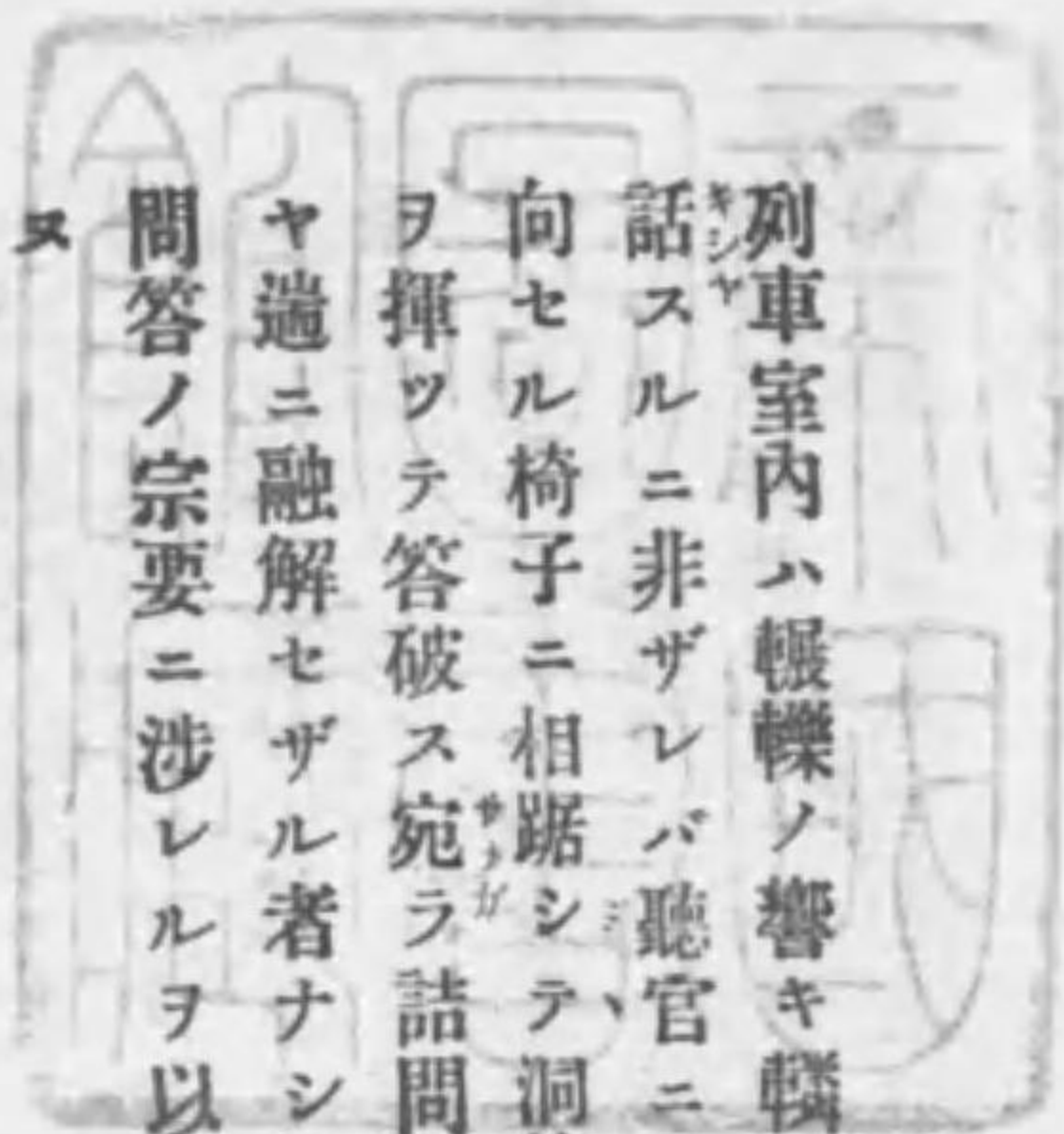
神州元氣總目錄終



神州元氣

一名 皇國神佛新線路

岡見舜雅著



列車室内ハ輾轉ノ響キ囂々トシテ人ノ語音ヲ奪ヘリ故ニ口耳ヲ近接シテ高聲ニ談話スルニ非ザレバ聽官ニ確徹セズ爾ルニ衆中ニ於テ俊秀ナル二個ノ乘客アリ恰好シ對向セル椅子ニ相踞シテ洞簫ノ聲懸河ノ辯ヲ以テ質問ヲ構フレバ則華鯢ノ音富菓那ノ辯ヲ揮ツテ答破ス宛ラ詰問冬氷ノ堅キガ如クナレバ便辯論夏日ノ炎ノ如クニシテ相觸ルヤ過ニ融解セザル者ナシ故ニ自能ク滿室ノ聽神ヲ敬テ感嘆敬服セシメタリキ予ハ殊ニ問答ノ宗要ニ涉レルヲ以テ車室輻々滿軀顛々ノ困難ヲ侵シツ、該論談ノ顛末ヲ速記シ

所謂俊秀ナル乘客トハ甲ハ紋紗ノ拾得ヲ着シ蒔繪ノ鐵笏ヲ持シ鬚髯垂容儀安詳トシテ達悟ノ慧德四邊ニ輝耀セル老居士ナリ乙ハ淺黃羅ノ羽織ヲ着シ瀑布縞ノ麻袴ヲ穿テ小冊子ヲ懐ニシ勤學志道伶俐ノ天性容顏ニ鮮彰セル書生ナリ倘シ居士ヲ維摩ニ擬シタランニハ書生ハ當ニ文殊ニ比シツ可キ風采アリ而シテ問題泉ノ如ク湧キ答義瀧ノ如ク

流レテ絶ヘズ寔ニ好キ論義ノ抗敵手ニゾ在ケル
 初メ少間相黙視ノ在リケルガ書生先ヅ容儀ヲ戒飾シ慙慙ニ居士ニ揖禮シテ問テ云ク小
 生ハ鳥有ト呼ベル葛菟ノ童子ナリ熟々先生ヲ瞻仰スルニ正ニ凡骨ニ非ルヲ知ル希クハ
 尊名及ビ化遊ノ地ヲ欽承セン居士恂々如トシテ答テ云ク余ハ憑虛ト稱セル居士ナリ實
 ハ内地開放ノ前後ニ於テ神留^{カンゾク}在^シマス高天原^{タカマカハラ}ト佛ノ常住シ玉フ淨土ノ分岐ニ佇立シテ吾
 國民ガ遠路ニ迷ハザラン爲ニ參詣ヲ勸誘セル老車夫ナリ然ルニ今儕ヲ視テ非凡視セル
 ハ敢テ當^{コト}ヲ得サル處トス這般此瀛車ニ來投セシ者ハ專ラ桓武帝^{コノミチ}奠都一千百年ノ紀念
 祭ニ賽^{カヘ}サン爲ナリト謙遜ノ答辭ニ鳥有一層欽慕ノ念ヲ増シ忻々然トシテ云ク迂生モ亦
 紀念祭ニ詣ント欲シ乗車セル也然レトモ黃金ニ化スヘキ貴重ノ光陰ヲ此線路ニ空消セ
 ンコトヲ遺憾トセシニ豈圖リキヤ線路能ク居士ノ如キ善知識ヲ導キ一室ニ親近セシメ
 玄談ヲ拜聽セシムルノ便宜ヲ與ントハ嗚呼僥倖太甚シ尙之今尊答ノ語中居士ガ敬神崇
 佛破邪顯正ノ旨自包含セルヲ敬承シ不肖等味劣ニシテ元來敬神崇佛ノ國ニ生レ氏子檀
 家ノ名分ヲ有シツ、今日迄神佛兩道ヲ臨テ楊氏泣岐ノ感ヲナシ神佛ノ何タルヲモ討究
 セザリシヲ耻ゾ苟且ニモ日本人民ニシテ神佛兩道ヲ知ラズシテ内地雜居ノ曉ニ到ラバ
 近隣ノ外人ニ汝カ毎朝拍手シテ敬セル神ナル者ハ如何毎夕奠香シテ信ズル佛ナル者ハ
 如何等ト試問セラレン爾ルニ豫テ之ヲ豫ラズンバ口舌ヲ具シ乍ラ啞ノ如ク緘默セザル
 ヲ得ス止ム事ヲ得ズ之ニ答ヘバ我其何タルヲ知ラズト雖至心ニ神佛ヲ崇敬スレバ攘災

招福ノ靈驗ヲ被ムルノミト斯カル漠然タル答辭ヲ作サンカ必ズ日本未開汝等妄信等ト
 冷笑侮蔑セラレン誰カ國ノ爲ニ此侮弄ヲ甘受スルヲ得ンヤ爾レバ則今日ヨリ言前ニ定
 レバ踏カズノ賢言ヲ日日三復シテ知識ノ啓迪ヲ仰ガンコトヲ欣ハザル可ラス是唯國家
 的外部ヲ莊飾セル主意ノミナランヤ躬ヲ神佛ノ道ヲ尋テ精神ノ歸向安着スル處ヲ確定
 セズンバアラズ偏ニ請フ小子ノ如キハ途聞途説ノ機類ニ非ルヲ洞觀シ不敏ヲ哀慙シ上
 洛途次ニ空消スル時間ヲ愛用シ居士ノ信奉セル真正ノ兩道ニ更ニ線路ヲ敷キ火輪ヲ飛
 シ迅速ニ淨土ヤ高天原ニ臻達セシメル底ノ開導ヲ被リタシ如何

爾時居士ハ書生ノ問學熱心ナルニ感激ヤシタリケン莞爾トシテ答曰善ヒ哉問フコト子
 ガ所問ハ現今ノ時機ニ於テ最緊要ナリトス我不肖ト雖道ヲ以テ自任スル者也爭カ子ガ
 道ヲ問フノ篤志ニ感動セザランヤ依テ固陋ヲ省ミズ質疑ニ應ジ些カ倦怠セザル可シ鳥
 有喜色滿面ニ溢レテ云ク貴重ナル神佛ノ問題ヲ掲ゲテ輕忽ニ應答ヲ求メシニ叱責忌避
 セラレズ速ニ質問ヲ許容シ玉ハルコト畢生希有ノ幸慶也今日厚意ヲ謝スルノ遑暇ナキ
 ヲ以テ他日ニ讓リ欠禮ヲ眷ミズ敢テ説明ヲ請ハント欲スル綱目八條アリ一ニ政事宗教
 本領二ニ信教自由憲章三ニ内外宗教眞妄四ニ神佛判然朝旨五ニ神佛兩道分岐六ニ葬儀法式
 大意七ニ敬神崇佛要旨八ニ佛敎前途ノ通塞也初ニ政事宗教ノ本領ヲ問ハントス是レ今ノ
 天下ノ人專政事ノ必要ノミヲ感ジテ宗教ヲ無必要視スル時勢故請フ明瞭ニ説示シ玉ヘ
 答云 川井清丸曰ク 政事ハ形體世界ヲ領シテ人間ノ權利義務ヲ甄別シ衆庶ノ安寧ヲ

計ル者也宗教ハ精神世界ヲ領シテ真理ヲ闡明シ本性ヲ悟了セシメ精神ニ快樂ヲ與フル者也而シテ精神ハ無始終也故ニ宗教ハ生々ノ福祉ヲ施ス者トシ形體ニハ終始アリ故ニ政事ハ生涯ノ幸慶ヲ與フル者トス尙ホ政事ハ君民締約ヨリ成ル故ニ締約國內ニ行ハルハ得レドモ無締約ノ外國ニ行フコトヲ得ズ宗教ハ信仰ヨリ行ハル者也故ニ信者アレバ五大洲中流傳ヲ恣ニスルコトヲ得ル者也政事ハ人體ヲ支配スル者ナルガ故ニ已ニ行為ニ顯レタル罪科ヲ處罰スルノ權力アレトモ未ダ形迹ニ顯レザル惡意ヲ禁遏スルノ權力ナシ宗教ハ人心ヲ支配スル者ナルガ故ニ未發ノ良心ヲ發揮シ且未顯レサル惡心ヲ禁誡スルノ權力アリ爾レトモ已ニ形迹ニ顯レタル罪惡ハ處罰スルコト能ハザル也ト是則政教ノ本額區域權限ノ説トナス

問云信教自由ノ憲章ハ信教徒ノ要目也宜ク詳密ニ講明ヲ乞フ
 答云 憲法二十八條ニ曰日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨グズ及ビ臣民タルノ義務ニ背カザルノ限リニ於テ信教ノ自由ヲ有スト見ヘタリ實ニ社會ハ信教ヲ自由ニシテ各々完全ノ道徳ヲ撰擇シテ修備セルハ一大美事也ト雖我國ノ臣民トシテ 天皇及社會ニ對スル以上ハ其安寧秩序ヲ妨グザルヲ要ス可キ也蓋宗教ハ人ヲ熱心ノ極度ニ驅ル者ナルヲ以テ宗義ニ固執スルトキハ君主又ハ國家アルヲ忘ルニ至ルコト无シトセズ斯ノ如キハ國家ノ安寧ニ害アルヲ以テ其無害ノ限リニ於テ信教ノ自由ヲ有セシムル也夫我國ハ萬世一系ノ 天皇ヲ奉戴スルコト神明モ管ナラズ驅命ヲ犧牲ニ供シテ忠誠ヲ抽ニスル世界絶

美ノ体裁也故ニ近世學校ニ於テ我國家教育ノ目的トシテ生徒ノ爲ニ教勅ヲ宣布シ欽慕忠實ノ念ヲ發揮セシムルノ便宜ヲ圖リ佛教ノ偶像ヲ拜スルト全ク 天皇ノ尊影ヲ拜戴セ令ルノ式ヲ執行セラル是レ善巧方便トシテ贊同ス可キ處ナラズヤ爾ルニ寫眞ハ無靈也拜戴ス可キニ非ズト唱ヘ不敬ヲ行フ者往々輩出スルハ是耶蘇教ヲ妄信シテ尊王愛國心ヲ忘却セル者則耶蘇十誡第一ニ曰ク(舊約全書エジプト記)我ハ主ニテ汝等ノ崇神ナリ我前ニ他ノ崇神ヲ有スルコトアルコト勿レ像ヲ彫刻シテ之ヲ敬拜スルコト勿レ(私ニ云ク寫眞モ像ヲ顯ハス者ナリ)ト又カトリック教徒ハ聖教理緒ヲ編制シテ其中十誡ヲ辨解スルニ畏レ多クモ 天皇ノ神廟トシ四千万ノ臣民ガ至尊トスル天照大神八幡大菩薩ヲ歷然邪神也ト述ベタリ要スルニ无形ノ獨一眞神ヲ天地万物ノ能造者トシテ最尊シ其所造ノ萬物ハ有形ニシテ輕賤也敬禮ス可キ者ニ非ストナス
 是則君臣尊卑ノ道ヲ破壞シ平等權利(是惡平等)ノ人界ヲ造出セントスル教義ナルガ故ニ我君臣ノ大道確固タル國體ト乖角セル所以也若此宗教ヲシテ國家顛覆ノ勢力無シ或ハ日本ニ同化セシ等ト皮膚ヲ視テ神髓ヲ照サズ輕々之ヲ放棄シテ恣ニ傳播セシメバ豈止ニ不敬事件ヲ起ス耳ナランヤ自然我臣民ヲシテ君ヲ忘レ國ヲ售ルノ賊心ヲ教養シ終ニ國家ノ安寧ヲ妨害スルニ至ラ令ンコト必セリ此潛勢力ヲ譬フルニ癩疔ノ糜爛シテ救命ス可ラザルガ如キケン豈宗教ノ撰擇容易也トセンヤ實ニ宗教ノ民心ヲ褫奪スルヤ忽其舉動形跡ニ顯レ政事ニ及スコト條理ノ見易キ處也昔時政教混同シテ教權政權互ニ侵

掠奪闘アリシコト内外ノ史上ニ徴シテ昭々タリ是ヲ以テ現今日進文明ノ智劍ヲ以テ政
 教ヲ兩斷シテ其葛藤ノ根元ヲ除キタリト云フ爾レドモ尙宗教ヲ撰擇スルニ非レバ必シ
 モ其憂ナシト保ス可ラズ憲法ニ安寧秩序ヲ妨グズ臣民ノ義務ニ背カザル範圍内ニ於テ
 信教自由ヲ有セシメ下ヲ朝旨治ク臣民ノ了解シ日本臣民タル者ハ佛教自由權ヲ弄セン
 トナラバ先ヅ須ク忠愛ノ精神ヲ牢固ニシ宗教ノ眞妄邪正ヲ鑑識スルノ慧眼ヲ開キ我が
 國體ニ準ゼル眞正ノ教法ヲ擇ンテ完全ノ智徳ヲ兼備シ文運ヲ擔フテ開化ノ局域ニ臻達
 スルノ重大義務アルヲ忘ル可ラズ若此義務ヲ知ラズシテ明リニ信教自由權有リト意得
 國體ニ睨キシ邪宗ニ欺惑セラレ國家ノ安寧ヲ傷害スルアラバ現在ハ天下ノ刑戮ヲ免レ
 ズ未來ハ永劫苦海ニ沈淪センコト疑ヒナシ(正法ヲ悟ラズシテ邪教ニ迷フガ故也)誰カ
 戒慎セズシテ可ナランヤ

問云 所説ノ如クンヤ宗教ハ殆ド政事ノ厄介物ノ如ク天下ノ贅物ニ似タリ寧全廢スル
 ノ勝レルニ及カザル可シ其故如何ン人間社會ハ權利義務ノ政道ニテ満足スレバ也今ヤ
 法度典刑ヲ明カニシテ勸善懲惡シ學校ヲ設ケテ智體徳ノ三育ヲ完全ナラシム何ノ足ラ
 ザル處有テカ宗教ヲ要ストセン

答曰 前辯ニ政教ノ本領區域權限ヲ明シ而シテ政教ノ關係ヲ説カザリシヲ以テ其疑塊
 アルコソ道理ナレ惟ルニ政教偏廢論者ハ政教ノ原由關係兩存ノ義ヲ知ラザルガ故也夫
 レ政教ハ人生ノ爲ニ發起シ人生ノ必須ヨリ併行セル者也而シテ人生ハ幸福ヲ享受セン

ト樂欲スル者ナルガ故ニ政教ノ緣起ハ人生ニ幸福ヲ與ヒントスルニ由ルガ故ニ人界ニ
 之レ無シテ叶フ可ラザル者トス是ヲ政教ノ原由ト云フ而シテ人生ハ純一ナレドモ形心
 ノ二個ニ分別スベシ故ニ心識ニ幸福ヲ與フル者ハ宗教ニシテ形體ニ幸福ヲ與フル者ハ
 政事ナルコト前説ノ如シ而シテ心識ノ作用ヲ整理シテ心識ニ幸福ヲ與ヒバ形體上ニ快
 樂ト顯レ亦形體上ヲ整理シテ形體ニ福祉ヲ與ヘバ自心識ニ快樂ヲ覺ユベシ又形心俱ニ
 不整理ニシテ放縱ノ結果ハ苦痛ヲ相感覺スルモ同義也トス喻バ心裏ニ煩勞アレバ形體
 ニ疲頓ヲ覺ヘ體面ニ腫傷アレバ心裏ニ苦痛ヲ感ズルガ如シ是ヲ政教ノ關係ト云フ水谷
 仁海師云ク政事宗教ノ分界アルハ猶物ノ表裏内外陰陽晝夜ノ別アルガ如シ政事ハ顯法
 ヲ以テ人ヲ治ル下日光ノ晝ヲ照スガ如ク教法ハ幽理ヲ以テ人ヲ導クコト月光ノ夜ヲ照
 スガ如ク政事ハ陽ニシテ男也宗教ハ陰ニシテ女也男女和合シテ一家ヲ治メ政教一致シ
 テ天下ヲ治ム可キ也物ノ表面善美ナルモ裏面醜惡ナレバ人以テ之ヲ賤ムナラン國家モ
 亦是ノ如シ單ニ政事ノミ善美ナルモ宗教醜惡ナルハ眞ノ文明國ト言フ可ラズト宜ナル
 哉西洋ハ文明ニ誇レドモ是唯形象のト文明ノミ耶穌ノ妄言ヲ宗教トナスヲ透看スレバ
 無形の眞正ノ開化ニ非ルヲ知ラン故ニ仁海師ハ表裏ノ醜美ヲ喻テ政教ノ完全ヲ望メリ
 又河井清九氏曰ク政教ノ二ハ車ノ兩輪ノ如ク鳥ノ兩翼ノ如ク陰陽ノ如ク晝夜ノ如ク父
 ト母トノ如ク身ト心トノ如ク裏ト表トノ如ク相偏廢ス可ラズ相凌轢ス可ラズ相凌轢ス
 可ラザル耳ナラズ輕重等差ヲ其間ニ置カズ互ニ助成シ互ニ翼賛シテ其効ヲ一致セシム

ルヲ以テ肝要トス是レ謂ユル政教ノ本色ナルノミ然レバ即教法ノ政事ヲ度外ニシ政事ノ教法ヲ度外ニスルハ猶半身不隨ノ人ノ如シ夫斯ノ如クニシテ國ノ富強ヲ欲スルモ豈得可シヤ況ヤ教法ノ國體ニ背ケルヲ甲ハ是ヲ懲惡シ乙ハ是ヲ排斥スルニ至テハ猶身心惱亂ノ人ノ如シ其レ斯ノ如クニシテ國ノ亡ビザルヲ欲スルモ豈得ベケンヤト云ヘリ是レヲ政教兩存ノ義ト云フ爾ラハ則各々政教ノ原由關係兩存ノ義ヲ會得シ國體適合ノ善教ヲ撰採シテ國政ヲ裨補シ國運ヲ開達セシメント欲スルニ在リ尙宗教ノ國政ヲ補弼スルノ証例ヲ擧ゲン宋ノ文帝侍臣ニ問フテ曰ク坐ラニシテ秦平ヲ致スノ道アリヤ何尙之對テ曰ク百家ノ郷二十人五戒ヲ持スレバ千人淳謹シ千室ノ邑ニ百人十善ヲ持スレバ百人和睦ス此風致ヲ以テ寰邑ニ周クスレバ編戶億千ナレバ仁人百万ナラン夫レ善ク一善ヲ行ヘバ一惡ヲ去ル一惡去レバ一刑息ム一刑息メバ國萬形息ム是レ君ノ謂ユル坐シ乍ラ秦平ヲ致ス所以ノ道也ト所謂五戒トハ不殺生(人畜ヲ殺サザルハ仁ノ道ナリ)不偷盜(他ノ財ヲ竊盜セザルハ義ナリ)不邪淫(他ノ婦女ヲ姦セザルハ禮ナリ)不妄語(詐欺セザルハ智ナリ)不飲酒(醜亂セズ常操アルハ信ナリ)ナリ前ノ四戒ハ性戒ト云フテ性ニ善惡アリ故ニ性善ヲ以テ性惡ヲ戒慎スル也後ノ一戒ハ遮戒ト云フテ人ニ依テ開遮アリ(飲酒ノ過失ナキ者ニハ開ス)止觀ノ四ニ云ク若シ戒ヲ受ケテ持テハ福ヲ生ジ犯セバ罪ヲ獲ル受ケザレバ福ナリ受ケズシテ犯セバ罪ナシト矣爾レバ則福生ヲ祈ルハ人情ノ常也誰カ持戒ヲ樂マザランヤ次ニ十善ニハ止善ト行善トノ二義アリ一不奪生命二不

與不取三不行邪淫四不虛誑語五不魚惡語六不兩舌語七不无義語八不貪欲九不瞋恚十不邪見是止善也(大日經ノ心ヲ取ル)次一放生二施食三梵行四實語(眞實ノ語ヲ以テ迷衆ヲ度ス)五直語(直接語也即虛飾ノ語ヲ去リ饒益ノ語ヲナス)六輕語(憤怒暴言者ヲ宥ムルニ柔輒ノ語ヲ以テ和悅ナラシム)七和合語(他人ノ紛諍ノ不和ナルヲ講和セシムル語)八不淨觀(男女ノ身分ニ貪愛シ金帛ニ執着シテ道ノ障想ノ名義ハ法)九慈悲觀(我意ニ違フ者ニ於テ怨恨ノ心強キトキハ)十因緣觀(四界次第ニアリ)九慈悲觀(切テ愛念シテ父母妻子ノ念ヒヲ爲スヲ云フ)十因緣觀(四義山簣ニ曰ク牛羊ノ如ク一向道理ヲ知ラヌヲ愚痴ト云フニ非ス三世ノ因果ノ道理ニ昧キテ愚痴ト云フ此レヲ對治スルニ十二ノ因緣法ヲ觀念ス所謂十二因緣ノ諺解ハ西谷名目鈔ニアリ長)是ヲ善行ト云フ夫レ我國ハ文明ナリ開化セリト自稱スレドモ如斯善法ヲ見聞シ十惡ヲ去リ十善ニ止リ十善ヲ行ハザレバ妄開化ノ國民也果シテ言行一致セシヤ否ヤ宗ノ景濂仁王經疏ニ序シテ曰ク成周已來昏迷邪僻ノ徒並ビ起リテ縲紲モ以テ因テ懲スニ足ラズ斧鉞モ以テ威トスルニ足ラズ西方ノ聖人(釋迦如來ヲ云)歷ク因果輪廻ノ說ヲ陳ブ暴疆ヲシテ之ヲ聞カシムレバ頸ヲ赤シテ脊ニ汗シテ逡巡畏縮シ蟻螻ト雖敢テ殺スコト無キニ至ル是レ豈治化ノ不足ヲ補フ者ニ非ズヤト亦是政教兩存スベキ義ヲ彈セリ所謂因果輪廻トハ六道ノ善惡因果ノ相ヲ云フ也六道トハ地獄畜生餓鬼阿修羅人間天堂ヲ云フ即惡業ノ因ハ五逆(殺父殺母殺阿羅漢)十惡(身殺生偷盜邪破和合僧出佛身血)九

ニ惡口兩舌綺語忘語ノ四惡アリ) 也是ニ上中下ノ三品アリ上品ノ五逆十惡ノ業因ハ地
 意ニ貪慾瞋恚愚癡ノ三惡アリ) 獄ノ苦果ヲ感シ中品ノ惡因ハ畜生(畜生ノ相互ニ吞啖スル苦果也) 下品ノ惡因ハ餓鬼
 (凍餓ノ苦果也)ノ業果ヲ感ズトナス善業ノ因ハ五戒十善也(前ニ注ス)此果報ニ上中下
 ノ三品アリ下品ノ善因ハ阿修羅(諍鬪ノ苦アレドモ衣食ニ富メリ) 中品ハ人間(樂倫
 ノ道行ハル、境界) 上品ハ天堂(五戒上品ノ善ヲ行ヘ世)ノ樂果ヲ感ズトナス尙レ之出
 世賢聖ノ道因ハ聲聞緣覺菩薩佛ノ妙果ヲ証得スト説キ以テ人生ノ心性ヲ至善清淨至極
 ニ悟入セシム實ニ政治社會ニ于テ法律ノ綱ヲ免カレ天幸ト心得ル者苟クモ因果ノ教理
 ヲ聽キテ己ノ罪業ヲ反照スルトキハ未來ノ冥報脫スル能ハザルコト秦鏡ヲ懸テ見ルヨ
 リ明カニ知ラレン然レドモ奸惡ナル狡猾兒ハ左シモ怖畏スベキ苦杖徒流死ノ五刑ヲモ
 屑トセズ大膽ニモ法律書ヲ閱テ輕重ヲ量リ所罰ヲ甘受シテ己意ヲ完フシ若クハ法網ヲ
 免レタルヲ愉快トシ若クハ一人ニテ達シ難キ惡業ハ結黨シテ陽ニ虛勢ヲ示シ陰ニ虛喝
 ヲ瞰ハシ脅迫的ニテ顯民ヲ傷害ス等密々ノ奸策名狀ス可カラズ諺ニ日中ノ劫盜ナル者
 妄開化ノ世ニ横行スルアリ是レ因果ノ正理ヲ信ゼズ或ハ聖道ヲ知ラザル者ノ所行ノミ
 夫レ因果ノ道理誰カ知テズシテ可ナラシヤ某氏云監獄及懲役場ハ惡事ノ學校ナリ出檻
 免役ハ惡業ノ卒行ナリ改惡遷善ノ効アルナシ聖教ヲ布キテ感化セシムルニ及バズト此
 語一應辟セリト雖恩典ニ褻レ刑ヲ畏レズ罰ニ懲リズ感化院ニ入レドモ悔悟セザル者夥
 多ナル世ニハ亦以全然僻論トナス可ラス然レバ則宗教ナル者アツテ精神世界ヲ統轄シ

惡心ヲ認識シテ戒ヲ以テ捉ヘ定ヲ以テ縛シ慧ヲ以テ殺シ因緣果報ノ天則ヲ以テ三世ノ
 惡業ヲ譴責シ罪障ヲ斷滅セシメザレバ如何ニ刑躰世界ニ威嚴恐ル可キ刑具ヲ備ヘテ威
 シ懲スト雖續々法律ノ罪人ト顯レ來テ政廳ヲ煩ハサンコト必然也然ルニ宗教ヲ政事ノ
 厄介物ト論ジ去ハ豈誣言ニ非ズヤ次ニ權利義務ヲ以テ世道立ツベシト云ヘルハ宗教的
 ノ道德ハ無益ト云フガ如シ是レ道德ノ本躰ト權利義務本躰ヲ知ラズ其作用ノ同キ邊ノ
 ミヲ一瞶シテ漫評スルノミ夫レ權利義務ノ本躰ハ專相待的ニシテ且規約上ニ行ハレ道
 德ノ本躰ハ絶对的及ビ相待的ニシテ且規約内外ニ行ハル、者也其故如何權利ハ己ノ所
 欲ノ謂也義務ハ己ノ所レ不レ欲勿レ施ス人ノ謂也孔子ノ謂ユル恕ノ意味也故ニ是相待的
 ノ道德ニシテ絶对的ニ非ル也然ルニ宗教ノ道德ハ只ニ相待的ノミナラズ絶对的自己單
 獨ノ情操ヨリ起ル者有テ權利義務ノ理ト至ク反對セル者アリ是レ大躰原由ニ於テ異點
 ノ有レバナリ其ハ後ニ論決セン先ッ人生各自ニ權利アリテ利ヲ量ル權衡ヲシテ自己ニ
 傾重セシムルノ慾望アリ若獨リ私欲ニ任セ自由ノ權利ヲ恣ニ弄ブトキハ必ズ他人
 ノ權利ヲ妨害スルニ至ル故ニ能ク自己ヲ反省シテ戒慎以テ他權ヲ妨害セザランコトヲ
 務ム是ヲ義務ト云フ爰ヲ以テ政事ハ人間相互ノ權利ヲ平均ニ發達セシメン爲ニ規約的
 法律ヲ立テ權利ニハ必ズ義務ヲ併行セシム若シ規約ナク義務ナキ權利ヲ振フ者アレバ
 直チニ其權利ヲ奪フテ懲戒ス故ニ加藤弘之氏真政大意ヲ著シテ權利義務ヲ以テ天下民
 生ヲ待ツテ政要トナスコトヲ明セリ然レドモ近世無教育不道德ノ曹此權利義務ノ道理

ヲ誤解シテ云ハク權利ナキニ義務ヲ盡スノ要ナシ權利ヲ自棄スレバ義務ヲ盡サズシテ可也ト例セバ今佛教ノ四大恩報謝ノ義ニ反論ヲ設ケテ云ク吾人固ヨリ身體ヲ父母ニ請フテ受ケタルニ非ズ亦愛育モ敢テ求メタルニ非ズ然ルニ佛ガ父母ニ報恩セヌ逆不孝罪アリト嗚々セシハ何ノ謂ゾヤ(親子トナル宿世ノ厚縁ヲ知ラザル者論)亦鳥獸等ハ本來人間ノ使役スル爲人間ノ饌膳ノ爲ニ天帝カ蕃殖セシメシ者也何ゾ佛ガ衆生恩ニ報セヌ逆吾人ニ殺生ノ罪アリト責ルヲ得ンヤ(衆生業感ノ正理ヲ知ラザル外教ノ説)亦國王ハ民ノ貢物ヲ以テ生存スル者也然ラバ政務ノ勤勞ハ人民ノ勞役ニ報酬スル所以ン也何ゾ必シモ國王ノ恩ヲ報ズベキノ理アラシヤ(君臣ノ道ナキ國人ノ私論)亦佛ノ出家苦行度生等モ已意ニ出テ敢ヘテ吾人ノ依頼セシニ非ズ然ルヲ化益ノ恩ヲ報ゼヨトハ何ノ謂ゾヤ(佛縁深厚ノ自身ヲ省ミザル者ノ論)亦法モ佛ノ寓論也(佛法ハ本來常住ノ真理ナルコトヲ知ラヌ者ノ論)僧ハ乞丐也吾人何ゾ報恩ノ義務ナキハ勿論尊敬スベキ義有ンヤ(出家人乞ハ自行化他ノ爲ニシテ通途ノ乞食ト同ジカラズ)ト是レ心地觀經ヲ拜讀セズ一片權利義務ノ理ヲ執シテ喋々シ世智辯聰ニ誇ル輩ノ暴論耳若シ是等ノ輩ニ儒ノ五倫ヲ論ゼシメバ必ズ斯ク謂フ可シ君不仁ナレバ則臣不義ニシテ可也父不慈ナレバ則子不孝ニシテ可也夫姪亂ナレバ則婦不貞ニシテ可也兄無愛ナルトキハ弟不遜ニシテ可也朋不信ナレバ我絶交シテ可也等ト是レ相待的ノ權利義務ヲ以テ絶对的ノ道義ヲ駁論スレバ也若之ヲ絶对的道德ノ感情ヨリ反論セバ亦斯ク言フヲ得ベシ朋友不信ナ

ルモ蘭相如ノ廉頗ニ對スル如ク公義信情ヲ盡シテ親接スベシ兄不愛ナルモ義經ノ朝頼ニ對スル如ク始終序讓スベシ夫姪奔ナルモ在原ノ業平ガ室ノ如ク眞實ヲ以テ夫ヲシテ悔悟セシメサル可ラズ親无慈ナルモ閔損單衣ニシテ寒ニ耐ヘ嚴父ヲ諫メ繼母ヲ悔過セシメシ如クセザル可ラズ君不仁ナルモ朱雲ガ前漢ノ成帝ヲ直諫シテ帝心ヲシテ省悟セシメ折檻ノ芳蹟ヲ後世ニ留メシ如ク忠直ナラザル可ラズト上説ニ于テ便チ道德ハ本性絶待相待ノ二義ヲ具シ即規約内外ニ行ハレ權利義務ハ單ニ相待的ニシテ且約束以内ニ行ハルル義ナルヲ知了ス可シ然ルニ若道德ノ僻論者有テ仁義道德ハ天下ヲ平治スルノ政要ニシテ西洋ニ唱フル權利義務ノ義ハ彝倫ヲ破壊シ仁政ノ大害ナリト云ハシカ其理決シテ然ラズ其故如何道德ハ類ル絶对的理外ノ感情ヨリ發スル者アルガ故ニ若シ君父等ノ犯罪ニハ身命ヲ抛テ庇護セル等ノ行爲アリテ天下ノ法律ヲ曖昧タラシムルノ弊害ヲ生ズ故ニ下ハ立法家アリ上ニ行政家アリテ規約上能治所治ノ分際權利義務判然トシテ權利アレバ義務アリ義務アレバ權利アリ義務ナキノ權利ヲ振フ者アルトキハ貴賤親疎ニ關セズ公平無私依怙最負ナク之ヲ剝奪シ些カモ假籍ナク處置スルニ於テハ必ズ改道昭々タルベシ是ヲ以テ見レバ權利義務ハ政事上必須ノ義アリトナス而シテ上下俱ニ義務ナキ自由權ヲ弄スル曹ノ爲ニハ絶对的道德ノ教理モ最大必要ナラザル可ラズ豈偏見以テ政事上權利義務アレバ宗教ノ道德必要ナシト論ジ去ルヲ得ンヤ次ニ學校ヲ設ケテ智體德ノ三育ヲ完全ナラシムレバ宗教無必要ナリト云ヘリ然レドモ教育ニハ胎内家庭

學校社會ノ各種ノ教育アリ而シテ學校教育ハ各種ノ教育ノ元素ナリト雖モ周チク餘ノ教育ヲ完全ナラシムルコト能ハズ如何トナレバ十六七歳以下ノ幼童若冠ノ者ニハ諸ノ科目ヲ學得シ了ルコト能ハザレバナリ假令中學大學アリテ諸學ヲ履修シ盡スベシト云フト雖中學以上ニ入學スル者ハ俊秀ノ人子ノミ故ニ己入學未入學ヲ比較スレバ凡尋常ヨリ高等ニ入ル者半數ヲ超過セザル可シ而シテ高等ヨリ中學ニ入ル者ハ十分ノ一二ニシテ尋常ヨリ大學ニ入ル者ハ百分ノ一二ヲ超過スルコト無カル可シ是レ經濟ノ許サハル所ナレバ也然リ而シテ萬分ノ九千九百九人ハ全ク學業ノ不完然タルヲ免レズ即學徳不完全ノ者多數ノ國ハ文明ト云フコトヲ得可ラズ尤小學ニテ体育ハ完全スレドモ智徳ノ兩育ハ大學ヲ經ルト雖モ完全セザル者アリ其多數ノ智徳不完全ノ者ニ對シテ治ク布教開導スルコト學校教師ノ力及バザル處暇ノ藉サハル處ナラズヤ爾ラバ則四民營業ノ追暇ヲ以テ己ノガ檀那寺ニ參詣シテ戒定慧ノ三學ヲ根機ニ應ジテ學得スルトキハ海内普ク智徳圓備シテ眞文明ノ國ト云フニ愧サルニ到ラン斯カル國益ノ宗教ヲ無益視シテ或檀徒ガ住僧ノ職權ヲ妨害シ營ニ宗學布教等ノ費ヲ給助セザルノミナラズ寺財產ノ收入ニ干涉シ寶物ヲ飲食ニ浪費シ己ガ子弟教育ニ佛僧ノ堂宇ヲ學校ニ代用シ或ハ集會飲食場ニ濫用シテ恬トシテ其糞爵ヲ省ミズ子孫ニ三寶不敬ノ不德義ヲ視習ハシメ自家ノ衰亡ヲ速クノ業報ヲ悞レザルハ焉ンゾ大邪見ニアラザラン檀家タル名分ニ背ク者ニ非ザランヤ(檀家トハ檀那ノ家ノ約ニシテ檀那トハ印度ノ語ニシ)又學校ト寺院ノ國益ニテ此ニ布施ト云フ寺僧ニ淨財ヲ喜捨スルノ義ナリ

有無輕重ヲ論ズル如キハ固ヨリ愚人也豈沈思默考セザル可ンヤ斯ク說來ラバ宗教ハ學校教育ノ行届カザル下等社會ニノミ必要ニシテ必ズ上流社會ニハ無必要ナラント思量セル者アラン豈夫レ然ランヤ淺短ナル外教諸派ハイザ知ラズ佛教ノ如キハ甚深微妙ノ法ニシテ大乘(大機根ノ者ヲ運載スル法輪ヲ云フ也)小乘(小機根ヲ乘載スル法ヲ云フニシテ大ニ對ス)權(衆生ノ他意ニ隨ヒ假リニ設ケタル方便ノ教法ヲ云フ)實(佛ノ自意ニ隨ヘ説カレタル眞實ノ理法ヲ云フ)アリテ上中下ノ三根ヲ攝化シテ洩スコトナシ則大機根ノ哲學士ト雖天台ノ一心三觀事理權實ノ教義眞言ノ三密瑜伽ノ密法禪宗ノ見性成佛淨土ノ他力易行ノ安心是等ノ教海ヲ一回跋涉スルモ大難事トスル處矧ンヤ此法ヲ修メ行證ヲ成滿スルニ於テヲヤ佛教ハ上ハ 天皇陛下及諸大臣陸海ノ將卒下ハ衆民ノ伶俐ナル者ヲシテ最勝ノ智徳ヲ具備セシムル要法ト云フニ憚ラザル也若疑ハシクハ試ニ四諦(苦。集。滅。道。)十二因緣(取。有。生。老。死。憂。悲。苦。惱。)六度(施。戒。忍。進。禪。智。)等ノ大法ヲ一覽セヨ(六度ノ中大智度ヲ説カレタルハ大般若經ニシテ六百軸アリ其法深ナル以テ知ルベシ)實ニ佛道ハ無上也捨身ノ願力ニ非レバ成就セザルコトヲ知了セラレン如ク斯無盡ノ法藏ナルヲ以テ學校ノ如ク何年間修學シテ卒業スト云チ得ズ經論ヲ玩索ノ上ニ自心ヲ照見シ見思塵沙无明ノ三惑ノ盡ザラレ限リハ不退ノ修行ヲ要スル者ナリ故ニ假使大學卒業生ト雖モ三惑ノ有ラン限リハ妄念發ルベシ妄念發ラバ仙道ニ依テ安心立命ヲ求メザル

ヲ得ザル可ヘシ爾則學校教員ガ寺院檀信ヲ化益スル如ク生徒ノ畢生ヲ守護シテ教化ヲ行フコト能ハザルハ論ヲ俟タズ尙各宗ノ碩德佛教ノ各部門ヲ分擔修學シテスラ容易ニ其一道ヲ實踐シ盡スコト能ハズ况ンヤ若冠ニシテ教師ノ資格ヲ得テ頻數ナル幼童ヲ教授スル曹ニ於テ佛教ノ一部ヲ涉獵スルモ豈容易ナランヤ是則政事學校ノ外ニ宗教寺院僧侶ノ必要有テ存スル所以ノ者ナリ然ラバ天下ノ檀信宜シク宗教必要ヲ辨知スルト同時ニ信崇ヲ傾ケ爲國爲法ノ丹志ヲ抽ンシ檀家ノ名分ニ愧ザル様資財ヲ喜捨シテ佛教興隆ノ策ヲ講究セバ佇立シテ真正ノ文化ヲ觀ルコトヲ得ン

問テ曰ク小生嘗テ教員某氏ノ私宅ヲ訪問シ談適國家的ノ教育ニ及ブ因テ我が國家教育ノ教科ニ在來ノ神佛二教ヲ加ヘザルハ何ノ所以ンカアルノ問題ヲ提出ス然ルニ教員對テ云ク我が國家的ノ教科ニ惡ンゾ印度ノ佛教ヲ加フ可ンヤ我國ノ教育ニハ尤モ宗教ヲ忌避スル處ナリ如何トナレバ宗教ハ味劣ノ感情ヲ惹起シ文明ノ日進ヲ妨ゲ國家ニ害アレバ也故ニ我國ノ故典ナル神道ト雖宗教思想ヲ含蓄セルヲ以テ之ヲ取捨シ内地混住ノ準備トシテハ只氏神默拜位ハ我國ノ古俗トシテ教授シ實踐セシムルナルベシ然レドモ彼外教ノ如ク神學ヲ編成シテ神ノ何ンタルヲ喋々教授スルコト非ル可シ如何トナレバ外人之ヲ一蔑シテ宗教學校トナシ畏レ多クモ我が 天皇ヲ神道ノ總裁ノ如ク 天照大神ヲ本尊ト見奉リ漫リニ宗教部内ニ投入シテ之レガ淺深微妙ヲ論評シ自然宗教思想ヨリ内外衝突ヲ來スアラバ國家ノ大事國體ノ消長ニ關スレバ也ト小生ハ當時之ヲ聞ヒテ

唯々トシテ去レリ退テ倩考スルニ内地開放期ノ切迫セルヤ我國家教育ニ佛教ヲ加フル不可ハ明カナレドモ宗教的我國ノ神學科ヲ加ヘザルノ不可ヲ感ズ其故如何僅カ學齡中只儀式的ノ敬神ヲ學ヒタルノミニテハ退校後外教ノ爲ニ汝ガ敬奉セル神ハ如何ナル者ゾト試問セラレンニ之ニ對答スル能ハザルトキハ却テ彼ガ爲ニ誘導セラレ國家ノ觀念ヲ紊ルノ楷梯トモナル可レバ豫メ彼外邦ノ神學ニ超勝セル高尚ノ神典ヲ教授シ置キ以テ明答ノ便ヲ與フルコト最モ急務ナラント欲ス爾ルニ我神典ハ元來言擧ゲセヌ教ト誇稱シアリテ(本居大人ノ語)今神學編成ノ引證ニ玄妙ノ說アルナシト聞ク尤モ中世神佛混然ノ際佛道ノ教義ヲ藉テ修飾セシ高妙ノ義アルモ今時ハ神佛判然ノ制規ニシテ我古典ニ引據ナキ佛教ノ名字ヲ替ヘタル者ハ引證ニ不可ナル可シ況ヤ宗教ノ臭味ヲ去ルノ目的ナル文部ノ學科ニ入レントスルニ於テオヤ然リト雖宗教情操ニテ神ノ尊キ義ヲ教ヘザレバ自然我敬神ノ道ハ廢レ永年ニ於テ異教ノ爲ニ傾動セラレ切角ノ國家的教育ノ精神ヲ褫奪セラレンコト必セリ故ニ予ハ宗教的高妙ノ神學科ヲ我國家的教育ニ加ヘラレンコトヲ欲ス予ガ此杞憂論ノ可否如何ン

答テ曰惟ミルニ當時ハ宗教排斥ノ學生ノミ輩出スルヲ以テ是ガ爲ニ教員某氏ノ說ト貴子ノ說トヲ一束ニメ答辯ヲ試ント欲ス夫レ我が國性ハ寛大ナルヲ海ノ如ク自神道アルニモ係ラズ古昔ハ儒佛二教ヲ撰用シ今時モ憲法ニ信教自由ヲ許シ萬邦ノ諸宗ヲ流入セシメテ文域ニ國歩ヲ進メントス若國性頑陋隘少ナルルハ自國ハ神州ニシテ神道アリ焉

ゾ支那ノ儒ヲ用シヤト云フテ今日迄教典具ハラザル神道ニ一任シタランニハ恰モ臺灣ノ生蕃ノ如キケン又獨儒ヲ信シテ佛ヲ疑フトキハ得失ノ詳諍止ムトキ無カラシ剩ヘ今日萬國親接ノ時機ニ臨ンデ在來ノ儒佛神王教ヲ國家教育ニ用ヘ他ノ宗教ヲバ信用セストスルハ管ニ我大憲ノ旨ニ反スルノミナランヤ列國ノ交誼ヲ傷ハシ詳言セバ天主教ヲ探ランカ佛國ハ悦ビ他國ハ瞋ラン耶蘇教ヲ用ヘンカ英米ハ喜ンデ他國ハ悲ラン希臘教ヲ加シカ魯國ハ讚シテ他國ハ批セン是レ偏頗ノ弊原ニシテ我國風トシテ苟且ニモ爲サザル處也而シテ學科ニ宗教ヲ加ヘザル所以蓋是ニ在リ爾ルニ教員某氏ガ我教科書ニ宗教ヲ用ヘザルハ專宗教ハ國害ノ謂也ト意得シハ豈夫レ謬見ナラザル可シヤ

現今國家教育ニ聊カ敬神ノ道ヲ教ユルハ宗教思想ニハ非ズシテ我國ノ古風ヲ維持セントスル目的ナラン爾ルニ貴子外教ノ神學ト我學校ニ教ユル敬神ノ道ノ淺深巧拙ノ批評ヲ蒙ルノ疑懼心ハ即尋常高等ノ學校ハ諸學ノ初門ナルヲ知ラズ文明ノ今人ヲ完全ニ造出シ得ル所ト誤認セルヨリ發ル予ハ固ヨリ此等ノ學校ハ少年初等ノ教育場ニシテ固ヨリ完全ヲ望ムモ得可ラズ順テ我國家教育ニ用ヘラレントスル神道ノ如キモ古史ヲ知ラシムルニ止リ外教ノ批難ニ對答シ且ツ彼レ專門ノ神學士ヲ一言下ニ說破信服セシムル底ノ實力ヲ具備セシムル能ハザルハ勿論也是レ學齡學期短少ナレバ也專我國體維持ヲ學校教育ニ一任ノ神佛二教ノ學院不要ト視ルハ誤リナルヲ知ルト同時ニ愛國ノ識者駢ビ起リ神佛ノ學院ヲ天下ニ布設ス可キ必要ヲ感ゼザル可ラス故ニ現狀ノ通り學校ト學

院ト併立シテ之ニ幾層ノ興隆方ヲ講ジ畢生ノ教養ニ從事セ令ルヲ可ト信ズル也我信崇ノ僧侶ヨ佛敎ノ菩提樹ハ千載以上我國ニ培養セラレテ枝葉天空ヲ覆ヘ蹠根地心ヲ貫キ妙法ノ華香ハ人心ニ薰染シテ人力ノ克ク之ヲ移シ之ヲ除ク可ラズトシテ安堵ス可キ秋ナランヤ我誠敬ノ神職ヨ我神道ハ國體ノ本性ナリ本尊ノ天照大神ハ天皇ノ祖神ナリ此道此神ヲ輕侮スレバ國家ノ罪人トシテ上下ノ赦サル所也トシテ放任ス可キ時ナランヤ神佛一致協同シテ愛國ノ氏子檀信ヲ募リ大中小學院ヲ僻陬ニ至ル迄ニ羅列セシメ惟神ノ道純潔ノ行ヲ主張シ四恩十善ノ法ヲ弘宣シ奸譎ナル邪教ヲ防禦セザル可ラズ殊ニ釋氏ハ廣大圓滿ノ法藏ヲ有セリ之ヲ開キテ應機得益ノ祖意ヲ聿修センコトヲ力メ普ク學院ヲ興シ學校ト並立チ宜ク最勝ノ智德ヲ完備セ令ル學校ノ感アラシム可シ豈惟ニ學校ノ教科書ナル小冊子ニ盡天盡地ヲ覆フ可キ大法網ノ一日ナル一頌半偈ヲ加フルノミヲ望マンヤ便チ法益多カラザレバ也而シテ佛敎ハ超世ノ宗教ニシテ護國ノ性格有リテ國害ヲ體質ナキハ卓識ノ已ニ鑑定スル處也決シテ國害ノ故ニ教科書ニ編輯セラレザルニ非ズシテ信敎自由ノ憲法ノ治下内外新舊ノ宗教同一ノ公認敎トナル中ニハ國體傷害ノ患アル宗派モアル可ク其中ニ特リ佛敎ヲ信用スルノ不可ナル事情有テ採用セラレザル所以明カナリ知ラズンバアル可ラズ尙之神道ハ元來祭天ノ古俗ニシテ太古宗教情操ヨリ構成セラレ而シテ我國家ハ之ニ由テ基礎柱樞ヲ成立ス然レドモ我國家的教育ニハ是ガ宗教ノ臭味ヲ除キ以テ教科ニ加ヘザルヲ得ズト漫リニ取捨スルアラバ古典ノ

本体ヲ失へ漸次古道ヲ忘レ遠路ニ迷ハシムル憂ヒアリ故ニ予ハ今人自意ニ修飾セルニ
 荷擔セザルナリ試ニ見ヨ我君臣ノ道ハ世界絶倫ニシテ彼支那等ノ有力ノ臣ガ君トナリ
 無力ノ君ガ臣トナル如キ苟且ナル君臣ノ位地ニ非ズシテ則 天照大神ノ神勅ヲ大本ト
 セシ萬代不易ノ大道ナリ例セバ日本國トハ日ノ神ノ本國ノ義神國トハ神ノ開國ノ義皇
 國トハ皇孫ノ領國ト云フ義ナリ惟ルニ君臣ノ位次國土ノ名稱總テ元敬神ノ至誠ヨリ進
 出シテ成ラザルハナク行ハレザルハナシ若臣民外邦ノ神教ニ誑惑サレ我國ノ神ノ尊キ
 信念ヲ非ンズルニ至ラバ隨テ我殊勝ナル忠君愛國ノ衷情モ薄ンジ去リ彼禪讓放伐國ノ
 君臣ノ道ト簡擇ナキニ到ラン爰ヲ以テ考フルトキハ學校教員ハ可成の宗教ノ感情ヲ以
 テ我神ノ尊キ所以ンヲ内外人ノ子弟ヲ問ハズ生徒タラン者ノ腦裏ニ注入シ消失セシメ
 ザランコトヲ努ムルニ在リ尙校外専門ノ神道家ニ於テ其道ヲ研究セシムルニ在ル也内
 地開放ノ時ニ臨ミ豫備方向確定セサルコトハ甚ダ危キナラズヤ殊ニ雜居ノ外人我學校
 ヲ一瞥ノ是無宗教國ノ學校也ト心理不滿ヲ懷キ(西洋諸國ハ兒童ニ宗教ノ道德ヲ示ス
 爲ニ國教ノ神ノ何ンタル及ヒ神ノ愛
 ヲ教科書ニ摘)別ニ學校ヲ私立シ文部ノ規定外ノ時間ニ於テ自國奉信ノ神ノ愛等ヲ教
 示スト云フ(我國ヲ神ノ尊キヲ忘却シ國害甚ダシク既バン細陳セバ一類ハ教育法ノ
 授セラレハ片ハ我國ヲ神ノ尊キヲ忘却シ國害甚ダシク既バン細陳セバ一類ハ教育法ノ
 巧拙ヨリ彼校ニ入り(富者ノ子弟)一類ハ彼此ノ學費輕重ヨリ彼ノ校ニ入り(貧者ノ
 子弟)爰ニ於テ教養サレタル父兄子弟ハ人情トシテ彼ゴツトニ拜跪シ我神社ヲ醫後ニ
 セン而シテ神孫ノ 皇室ヲ輕蔑シ惹ヘテ國躰ヲ破壊セシムルニ到ル及歷朝ノ天子ノ歸

崇シ玉ヘシ佛教ノ正理ヲ誹謗シ民家祖先ノ靈牌ヲ安置セル寺堂佛壇ヲ摧毀シテ江河ニ
 拋棄スルニ到ラン是等ノ流毒ヲ常ニ洗滌センニハ神佛兩道教理ヲ判然ニシ事務ヲ分擔
 シ競争ヲ戒メ協同ヲ宗トシ各自敎院ヲ都鄙ニ布設シ爲國爲法ノ熱誠ヲ抽ンズルニ在リ
 是レ愚翁ガ持論ナリ尙教理判然事務分擔ノ義ハ質問ニ隨テ應答センノミ
 問テ曰前答ニ宗教ハ人ヲ熱信ノ極域ニ驅ル者ナルガ故ニ彼外教ハ天帝ヲ最尊シテ我
 天皇陛下及太祖廟ニ不敬ヲ爲スト云フ然ルニ佛教モ均ク宗教ニシテ佛菩薩等ノ最敬ス
 ル者アリ而レドモ 天皇ノ祖廟ニ對シ不敬ヲ行ハザルハ蓋佛教ハ人心ヲ固結セシムル
 ノ能力ナキカ將タ教理ノ相違ニ原由セルヤ如何ン
 答テ曰佛教ニ感化力無キガ故ニハ非ズ佛門ノ教義ハ彼外教ト至反對ノ故也前說ノ如ク
 彼耶蘇教ハ無形ノ一神ヲ能造者トシテ尊敬ス可キ者トナシ有形ノ衆生ハ所造者ニシテ
 尊敬ス可キ者ニ非ズトシテ君臣ノ道ヲ擊破シ而シテ衆生ハ同權利ヲ有シテ尊卑ナシト
 ス是レ則社會主義ニシテ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統スノ憲法ヲ遵守スル國家
 主義ニ反對セリ故ニ我最尊ナル 天皇ノ宸影ニ不敬シ或ハ我國誠敬セル 天照大神ヲ
 始メ鎮坐ノ萬神ヲ天帝ヨリ蔑ルトキハ宛モ國王ガ人民ヲ賂ルガ如シト說クガ故ニ彼ノ
 信徒ニ神棚ヲ囿中ニ投ゼル者モ輩出セル也故ニヤ我政府ハ從來外教ノ興廢ヲ省ミザリ
 シモ内地開放ノ曉ニハ公認教トシテ内外親疎ノ差別ヲ立テズ待遇スルモノナレバ國民
 ハ彌々國家ノ爲ニ宗教ノ正邪ヲ鑑識スルノ慧眸ヲ展ベザルヲ得ザル也我佛教ハ彼外教

ト正反ニシテ平等ノ上ニ差別ヲ開示ス例セバ性ニ約シテ云フハ平等ニシテ則衆生即佛也(即トハ當体全是ノ義也)相ニ約シテ云フトキハ差別ニシテ衆生ハ生死ニ流轉シ佛ハ涅槃ニ安住ス一心法界ノ故ニ佛トナリ衆生トナルハ迷悟罪福ノ因行ニ依テ得果ノ異ヲ現ハセリ故ニ上ハ富メルコト四海ヲ有テ宿福ノ貴キコト上品十善ノ徳ヲ以テ金殿玉閣ニ降誕シ玉ヘル天子ト下ハ貧キコト一撮土モ有タズ宿業ノ賤キコト中品ノ十善ヲ修シ芒宇矮屋ニ出生セル人民トハ歴々トシテ果報ノ差相ヲ示ス而シテ劣報ノ民ト勝報ノ君トハ能治所治ノ權威ノ分際明白也斯カル因果ノ正理ヲ信ゼル佛教徒ハ 天皇ノ聖徳ヲ尊敬シ奉ルト同時ニ國神ノ恩賚ニ報答シ奉ルノ念慮深カル可キハ勿論也當ニ依報土正報身ノ因縁深厚ナルヲ信受セザル者ハ我ガ佛徒ニハ非ル可キ也便チ依正身土ノ關係緻密ノ(不二)眞理ヲ悟了スルガ故ニ各自ノ生國ヲ愛惜セルノ衷情モ篤カル可キハ亦論ヲ俟タズ是ヲ以テ應サニ知ル可シ外教徒ハ耶蘇ノ捏造セシ天帝ヲ獨一眞神ト忘信シテ我ガ國神ヲ忘想ノ僞神トナスト同時ニ 天皇ヲ耶蘇ノ有司僕使ト輕蔑シ皇國々躰ヲ破壞センガ爲ニ人權同一ヲ唱ヘテ君臣ノ大道ヲ蹂躪ス斯ノ如ク教義ノ違反セル爲ニ佛徒ハ我國ヲ保護シ耶徒ハ不敬ノ事件ヲ發ス原因結果ノ昭然タルコトヲ今其証文ヲ擧ゲテ佛耶ノ國家ニ對スル利害ヲ辯明セン初ニ蘇門ノ設ヲ擧クレバ羅馬書ノ第十三章ニ云ク各人在上ノ權ニ服ス可シ蓋天主ニ由ラザルノ權ハナシタモツ所ノ權ハ皆天主ノ命ズル所ナリ故ニ權ニ逆フ者ハ天主ノ命ニ逆フ且逆フ者ハ已ニ罪ニ定メラル、ヲ致スト

是一切國ノ權力ハ皆天主ヨリ出ヅトナス又曰ク爾此ニ緣テ宜ク稅ヲ輸ス可シ彼乃チ天主ノ僕ナルヲ以テ常ニ斯ノ職ヲ守ル夫レ爾衆ニ予ベキ所ハ之ニ予ヘヨ宜ク貢ス可キハ貢セヨ宜ク稅スベキハ稅セヨ宜ク畏ルベキハ畏レヨ宜ク敬スベキハ敬セヨト矣リ默示錄十七章同十九章ニ云ク天主耶蘇ヲ名ケテ諸王ノ王諸主ノ主ト右ニ說ノ大意ハ耶蘇ヲ推尊シテ天地ノ大王トナシ萬國ノ萬王ハ皆是レ耶蘇ノ有司僕使ナリ是故ニ耶蘇ノ臣タル諸王ハ宜ク耶蘇ノ命ニ遵フベシ耶蘇ノ僕タル者ハ宜ク耶蘇ノ令ヲ守ル可シ若シ君臣ノ大義ヲ亂シ或ハ主僕ノ分ヲ明ニセザレバ當ニ不忠ノ臣タル可シ當ニ不義ノ僕タル可シ斯ノ如キ不忠不義ノ有司僕使ナレバ已ニ罪ニ定メラル、者ニシテ其職ニ居ル可ラズ其職ニ居ル可ラズシテ其職ニ居ル者ハ有名無實ノ有司僕司ナルガ故ニ貢ス可キモ貢スルニ及バズ稅ス可キモ稅スルニ及バズ畏ル可キモ畏ルルニ及ズ敬ス可キモ敬スルニ及バズト云フニ過ザル也云々(辨斥魔教論卷ノ上ノ十三)蓋内地雜居ノ上ハ外教モ公認教トナリテ我國ノ民心ヲ得ン爲ニ最初ハ引例ノ如キ說ヲ秘シテ國教ニ同化セシ風ヲ公示セン然ト雖愚民其教義ヲ是認シテ迷執深キニ到ラバ或ハ 天皇ハ神聖ニシテ犯ス可ラズノ憲法ヲモ打忘レ勿躰ナクモ我 天皇ヲ耶蘇ノ僕司也天帝ノ神慮ニ背ケリ制裁セズンハアル可ラズ杯ト唱フル者輩出セズト斷言ス可ラズ然レバ邪教ノ潛勢力今日ヨリ寒心シテ銳意排斥セザル可ラズ次ニ釋門ノ說ヲ擧グレバ心地觀經ノ上ニ曰ク善男子國王恩者福德最勝也雖生人間得自在故

註シテ云ク善男子トハ聽法ノ大長者衆ヲ指ス國王ノ恩トハ薩遮經ニ三ノ八左曰ク王者ハ民之父母也法ヲ以テ衆生ヲ攝護シテ安樂ナラシムルガ故ニト次ニ福德ノ最勝トハ無量壽經ニ曰ク尊貴豪富高才明達ナル有リ皆宿世慈孝修善積德ノ致ス所ニ由ルト是レ國王ハ善業ニヨリ人界ニ由ルト雖福德最勝ニシテ一切自在也最モ尊重スベシトナリ三十三天諸天子等恒與ニ其力ニ常護持故

註シテ曰ク三十三天トハ切利天也問フ六欲天ノ中何ゾ切利ニ限テ力ヲ與ヘテ護持スル耶答フ地居天ノ最頂ハ限リ切利ニアリ今國ヲ護ルニ從フ故ニト是レ天衆ノ恒ニ戮力シテ國王ノ福德ヲ護持スト也則忠良ノ臣民死力ヲ殫シテ國王ヲ守護スルハ當ニ切利天神ノ化身ト謂ツ可キ也

於ニ其國界ニ山河大地盡大海際屬ニ國王ニ一人福德勝ニ過一切衆生福ニ故

註シテ曰國王ノ領土内ハ一滴ノ水一塊ノ土モ王ノ所有ナラザルハ無シ外邦猶シ斯ノ如シ況ンヤ我國ハ天神ノ開拓シテ神孫ヲ以テ一系相承セル皇國ニ於テナヤ

是大聖王以ニ正法ニ化能使ニ衆生ニ悉皆安樂上譬如ニ世間一切堂殿柱爲ニ根本ニ人民豐樂王爲ニ根本ニ依レ王有故

註シテ曰大聖ノ法ヲ以テ國王ノ位ニ居ルヲ大聖王ト名ク正法トハ本經ノ下文ニ説ク所ノ三聚戒也所謂三聚戒トハ第一攝律儀戒(諸惡ハ一切行ハズト云フ義也)第二攝善法戒(諸善ハ一切行フベシト云フ義也)第三攝衆生戒(如何ナル方便ヲ回ラシテモ一切衆生ヲ救護ス可シ)

ト應念スル義也)此戒法ヲ受持シテ國ヲ護ルガ故ニ臣民惡ヲ作サズ善ヲ行ヘ樂果ヲ獲ル也今ヤ容聖文武ノ大君上ニ在スガ故ニ人民安樂ヲ得ル義以テ推知ス可シ

亦如ニ梵王能生ニ萬物ニ聖王能生ニ治國之法ニ利ニ衆生ニ故

註シテ云梵王能ク萬物ヲ生ズトハ名義集ノ二八初成時梵王先ニ生ル獨住スルコト一切(増減合メテ三億三千五百九十六萬年也)未タ梵侶有ラズ後ニ念ヲ起シテ云願ハクハ諸ノ有情來テ此處ニ生ゼヨト此念ヲ作シ巳ルニ梵子即チ生ズ外道測ラズ便チ執ズ梵王ハ是レ常ニシテ梵子ハ无常也ト是レ即印度ノ外道ハ梵王ノ壽命ハ際限ナク人間ハ壽量限リアリ而シテ能ク一切万物ヲ生ズル者ハ梵王也ト謬見ス(今ノ耶蘇ノ説ク造物主ノ如シ)ト也故ニ實ハ妄説ナレドモ聖王ノ能ク治國ノ法ヲ制定シテ衆生

ニ利益ヲ與ヘ玉フニ譬ヘケリ如ニ日天子能照ニ世間ニ聖王亦能觀ニ察天下ニ人安樂故

註シテ曰聖王ノ能ク天下ヲ觀察ストハ仁德帝ノ民ノ竈烟ヲ視ソナハシ玉ヘ民ノ貧富ヲ察シ玉フガ如シ

王失ニ正治ニ人無ニ所依ニ若以ニ正化ニ八大恐怖不レ入ニ其國ニ所謂他國ノ侵逼自界叛逆惡鬼疾病國土飢饉非時風雨過時風雨日月薄蝕星宿變怪人王正化利ニ益人民ニ如是八難不レ能レ侵故譬如下長者唯有ニ一子ニ愛念无レ比憐愍饒益常與ニ安樂一晝夜不レ捨國大聖王亦復如是等示ニ群生ニ如ニ同一子ニ擁護心晝夜無レ捨

註シテ曰ク無偏無黨ヲ正治ト云へ偏黨ヲ離ル、ヲ正化ト云フト太子ノ憲法ニ曰以レ和
 爲レ貴无レ忤爲レ宗人有レ黨亦无レ達ト云ヘリ今上ハ明治ノ初メ萬機公論ニ決ス可
 シト大詔ヲ垂レ玉へ國會ヲ開ヘテ偏黨アルコトナシ爾ルニ臣民結黨シテ激烈ノ衝突
 ヲナシ睿慮ヲ痛マシ奉ルコトアルハ豈恐レ多キコトナラズヤ宜シク萬民一子ノ如ク
 不斷愛念シ玉フ皇恩ヲ憶想シ忠實以テ八難ヲ免レンコトヲ祈願ス可シ
 如レ是人王令レ修三十善一名ニ福德主若不令レ修名ニ非福主所以者何若王國內一人修善
 其所作福皆爲三七分一造善之人得其三五分於其國王常得二分一善因王修同福利一故
 造三十惡業亦復如レ是同其事一故一切國內田地園林所生之物皆爲七分一亦復如レ是

註シテ云ク人王民ニ十善ヲ行ハシムルヲ福德主ト名ケ民ノ所作ヨリ生ゼル福德七分
 ノ中ニ二分ヲ得ル作善ノ民ハ其五分ヲ得ル十惡業ノ禍ヲ受クルモ得分同ジト爾レバ
 忠良ノ臣民ハ君ノ爲ニ積善生福ノ勤行怠ル可ラズ史紀ニ夏后氏禹出テ罪人ヲ見レバ
 車ヨリ下リテ問而泣テ曰ク堯舜ノ人ハ堯舜之心ヲ以テ心ト爲ス寡人之ヲ痛ムト罪人
 感嘆シテ改惡遷善シ犯罪ノ者無キニ到リシト云フ我國内外ノ人民混住スルノ日ニ吾
 人ガ謹身守道シテ美風ヲ以テ外人ヲ敬服歸化セシムルモ君ノ爲メ自ノ爲メノ福業ノ
 一端ト心得可キ者ナリ
 若有二人王一成成就正見一如レ法化レ世名爲天主一以天善法一化二世間一故諸天善神及護世王
 常來加護守王宮一故雖レ處人間一修行天業一賞罰之心無一偏黨一故一切聖法皆如レ是如

是聖主名正法王

註シテ云正見ハ邪見ノ反也天ノ善法トハ十善戒法也(前ニ註ス)護世ノ王ト者毘沙門
 等ノ四天王天佛ノ滅度ニ臨ミ親付囑ヲ受テヨリ常ニ來テ十善ノ王宮ヲ守護シ給フ
 次ニ無偏無黨ト者妙經營譬喻品ニ曰ク愛無一偏黨一ト書ニ曰ク偏ナク黨ナク王道蕩々々
 リ黨ナク偏ナク王道平々々次ニ正法王トハ十善ヲ修セシメ十惡ヲ治ルガ故ニ名ク
 以ニ是因縁一成就十德一名ニ能照一以智慧眼一照二世間一故二名ニ莊嚴一以三福智一莊嚴
 國一故三名ニ與樂一以二大安樂一與人民一故四名ニ伏怨一一切怨敵自然伏故 五名ニ離怖一能
 卻ニ八難一離一恐怖一故六名ニ任賢一集諸賢人一評ニ政事一故七名ニ法本一萬姓安住依國王一故
 八名ニ持世一以天王法一持二世間一故九名ニ業主一善惡諸業屬國王一故十名ニ人主一一切人民
 王爲レ主故一切國王以ニ先世福一成就如是十種勝德

註シテ云ク今上 天皇ハ佛所說ノ聖王ト同ク十德ヲ具備シ玉ヘリ能ク慧眼ヲ以テ世
 ノ時機ヲ照鑑シ 皇政ヲ一新シ萬邦ノ文物ヲ輸入セシメテ國土ヲ莊嚴シ壓制ヲ廢シ
 テ民ニ權利ヲ與ヘ隣邦ノ怨敵ヲ征伏シテ新版圖ヲシテ自仁服セシメ自界ノ叛賊ヲ降
 伏シ流疫ヲ豫防シ萬國交接シテ飢饉ヲ免離セシメ而シテ八難ノ怖畏ナカラシム賢良
 ヲ登用シ國會ヲ開キ大政ヲ議セシム等寔ニ煥乎タル聖德稱讚シ奉ルニ遑ナシ今ヤ離
 怖ノ德ヲ以テ國力ヲ發達セシメン爲重稅ヲ課シ玉ヘドモ國民隨喜ノ貢スルハ僉天
 皇ノ峻德ニ之レ由レリ誰カ感佩セザランヤ冀クハ我佛門ノ檀信ハ三時此經文ヲ讀誦

シ生涯忠魂ヲ研キ 皇上ニ奉事セラレシコトヲ至禱ス

斯ノ如ク佛耶ノ教理ハ全ク反對セリ猶氷炭相容レザルガ如シ古人云ハズヤ毫釐モ違フ有ラバ天地懸隔スト爾ルニ大異大反ノ兩教ナルガ故ニ互ニ弘宣スルニ隨ツテ睽離千里ナラン則佛家ハ國體維持ノ方向ニ騁セントシ耶氏ハ國體改造ノ方向ニ趨ラントシテ殆ド兩頭蛇ノ進退不隨意ノ國性ヲ作サン若水火兩存セザル如シトセバ一方ノ教徒勢力殫テ殄滅ニ歸セン改造主義ガ勝利ヲ得タランニハ和風變シテ洋俗ニ化シ眞以テ 神德皇恩ヲ拜謝セント忠悃ヲ挺ンズル者幾ンド跡ヲ絶ニ到ラン日本臣民ニシテ皮下血氣アル者爭デカ奮慨シテ抗禦セザランヤ

問テ曰ク予ハ嘗テ信教自由ノ憲章ヲ閱スルヤ己ニ内外宗教ノ眞妄邪正ヲ鑑識シテ眞正ノ宗門ニ入りテ智徳ヲ兼備センコトヲ誓願シテ未ダ果サバリキ然ルニ今日ハ己ニ内地開放ノ時機目睫ニ迫レリ若シ内地開放シ異邦人雜居スルト全時ニ數派ノ外教徒競ヒ來テ常在宣教セン爾ラバ吾人後進ノ曹ノ諸宗門ニ迷惑セザラン爲ニ略、内外宗教ノ眞妄等ヲ比較的ニ説示シ玉ハズヤ

答テ曰ク我レ維新ノ當初杞憂道人ノ闢邪管見錄安井息軒ノ辯妄白巖禪師ノ霧海南針等ノ著書ヲ囑テ天耶ノ邪宗ナルコトヲ知リタリヤ中頃佩玆居士ノ天耶正謬護法居士ノ辨斥魔教論等ニ依テ亦其妄説ナルヲ辨ヘタリ輓近井上哲治郎氏ガ教育ト宗教ノ衝突論ニテ亦國害ナルコトヲ確信シタリ尙此時憂國哲士天下ニ輩出シ舌ヲ爛カシ筆ヲ禿ロニシ

テ駁撃論破シテ餘蘊アルヲ見ズ故ニ今日吾人が喋々スルハ贊論ナル可シ然レトモ貴子ノ懇切ナル試問ナレバ此カ試ミニ應答セント欲ス先ヅ閑話ヲ開キ那レノ邊ヲ比較セントスルヤ

問テ曰ク某學士云ク萬神教ハ未開時代ニ興リ一神教ハ半開時代ニ興リ無神教ハ滿開時代ニ興ルト矣然ルニ我國ノ神教ハ八百萬神ヲ建立セリ故ニ或人云ク未開ノ時人ハ見聞覺知奇怪ナラザルハナク九霄ノ自蒼々タル山林自森々タル江海自淼々タル日月風金飛潛動殖已身ヲ首メ一切ノ物体ニ不測ノ感ヲ作シ自身何ノ因縁ニ由テ發生セル彼物質那レノ邊ヨリ顯現セシヤト疑死シテ終ニ神也妙也畏ルベシ敬ス可シト奇觀怪聞スル所ノ物ヲ神ト名ケテ初メテ多神教ヲ創造シ自力ヲ捨テ他力ヲ欣ヒ禽獸ニ至ル迄敬禮スルニ至リシト云フ是レ必ズ其理ナシト云フ可ラズ是理ヲ推ストキハ疑フラクハ我國ノ諸神及印度傳來ノ三世諸佛等ハ野蠻時代ノ妄造遺物ナルヤノ感ナキ能ハズ而シテ耶蘇ハ獨一眞神ヲ建テ、開化時代ノ宗教也ト稱讚スル者アリ果シテ然ルヤ如何ン

答テ曰夫レ我國ノ諸神ヲ妄想トスルハ淺見モ甚ダシ如何トナレバ天之御中主神ハ萬物圓滿ノ躰ニシテ其神德ノ顯現ニ從ヘ其現象ニ名ケ奉リシガ便チ萬神ノ神號也故ニ萬神ハ即天之御中主ノ神也再陳セバ一神即萬神萬神即一神也而シテ天之御中主ノ神號ハ一神ノ靈域ヲ覺悟セシ上ニ名ケ奉リシ也皇學家小林善昭氏曰佛ハ未ダ顯ハレサル性理ニ名ケ神ハ既ニ顯レタル物ノ德ニ名クト是密門ノ表德門ニ髣髴セリ豈我國ノ萬神ヲ未開

時代ノ遺物視シテ輕蔑スルヲ得ン次ニ印度傳來ノ三世諸佛モ同ク未開ノ思想ト蔑視ス可キ理アラシキ其故如何ン釋尊印度ニ出現ノ時ハ彼國ノ文明稍々極域ニ進ミシ比ヒニシテ物質ノ研究畢了シテ九十餘種ノ哲學士競ヒ起リ无形ノ幽理ヲ闡ハセタル時機ナリシ也而シテ釋尊ハ佛部ヲ説クニ止ラズ菩薩部金剛部天部羯摩部ヲ説キ玉ヒリ是レ一切衆生悉有佛性トモ艸木國土皆成佛(是レ佛性アル者必ズ成佛スルトノ經文也)トモ云ヘル眞理ヨリ一切ノ境界ハ佛ナラザルハナク恩資ナキ衆生モナシト照見シテ衆生本具ノ德ヲ敬謝スルノ法ヲ説キ玉ヒシヤ明晰ナリ觀經疏ニ曰ク佛有ニ无量德應有ニ无量名ト爾レハ无量ノ佛名ハ一佛ノ名號ト同フシテ則チ一多不二ハ佛家ノ常談ナリ烏ンゾ野蠻蒙昧ノ思想ヨリ構造セシ諸佛ナラシヤ尙レ之佛敎ニ顯密二法アリ顯敎ハ一ノ理性ヨリ萬ノ事物世界ヲ照シ密敎ハ事物世界ヨリ一ノ理性ヲ照ラス而シテ二敎不二ニノ事理相即スル玄妙ノ法理也故ニ一佛ハ無量也無量佛ハ一佛也則毘盧遮那佛ハ徧一切處ノ妙躰ニシテ四大ヲ以テ體トナス爾レハ一塵ト雖遮那ノ覺躰ナラサルハナキ也妙宗鈔ニ曰此諸名皆實ニシテ不虛悉是レ究竟佛ノ異名也ト釋セリ是レ天地間ノ眞理ナラズヤ然ルニ耶穌ハ獨一眞神ヲ建立シテ是ヲ尊敬シ此外ニ尊敬物ナシト確信スル如キハ所謂神ノ心ヲ尊ミテ神ノ躰ヲ卑ムガ如シ是理決シテ失當ナラサル可ラズ是レ能造所造ノ虛妄分別ナラズシテ何ンソヤ夫レ尊ム所ノ神躰ノ分レテ顯現セシ萬物ノ尊キ所以ヲ知ラサル如キ宗敎ハ却テ野蠻時代ノ宗敎トシテ信ズ可ラザル也亦惟我ノミ尊シト謂フ如キ

大我慢ノ天帝ハ蠻土ノ神也豈尊ム可キ者ナラシヤ須ク信ズ可ク尊ムベキハ佛陀ノ无我平等ノ法躰ナラズヤ此無我ノ理性ヲ悟了シテ始テ天上天下唯我獨尊トモ唱フ可シ爾ルニ蒙昧ニシテ自我尊大ナル天帝ヲ信ジテ甘ンジテ夫レガ奴隸トナル輩ハ亦是文明世界ノ野蠻人ナラズヤ阿々

問テ曰耶穌ノ建立セシ天帝ト我が天神ト差別之アリヤ

答テ曰耶穌ハ有無ノ二見ノ中有見ヲ我執セシヤ明カ也如何トナレバ天ニ造物主アリテ萬物ヲ生ジ世ヲ救ヘリト妄計シ無形ノ眞神ヲ實躰ト確認シテ信仰スルガ故也予ハ是ヲ眞神ト言ハズシテ邪妄ノ神ト云ハンノミ我國ノ天神ハ霄壤間ニ漸々舒々化現セル物躰ニ徳用アルヲ實驗シテ名ケ上リシ神號ニシテ尙國土ヲ開拓セル勳勞アル者及國家ノ爲ニ身命ヲ犠牲ニ供セシ者等ノ功績較著ナル者ヲ推尊シテ神ト名ケテ祭祀セシ者ナルガ故ニ予ハ是ヲ正眞ノ神ト云フニ躊躇セザル也全ク虛構妄造ノ神ニ非ルガ故也夫レ眞妄邪正ノ差異アル何ンゾ鑑別ニ苦ム所アラシヤ

問テ曰外教ニアダムイブヲ以テ世界人種ノ始祖也ト説ク然ラバ我國ノ人種ノ始トスル伊邪那岐伊邪那美ノ二神ハ彼ノ子孫ナラズヤ

答テ曰此質問ニ對シ川井清丸氏ノ明答アリ今約シテ之ヲ云ハン先ヅ試ミニ水ヲ五個ノ盆ニ盛リテ永ク庭前ニ置カンニ時期來レバ悉ク腐水シテ一時ニ子子ヲ發生セン爾ルニ甲盆ノ子子ハ乙丙丁戊ノ盆ノ子子ノ始祖ナリ亦ハ移住セシナリ等ト云フヲ得可ラズ如

何トナレバ五個ノ盆中ニ子ノ化生スル時期幾ント一時ニシテ何レガ始祖ト云フ者モ
 ナク又移住シテ蕃殖セシニモ非レバナリ爰ヲ以當ニ知ル可シ五大洲ノ人間創メテ化生
 セシ所以ンモ亦復其如ク人間ノ居住シ得ル時機ニ到レバ其土地ニ自人間ヲ生ズ可シ故
 ニ歐羅巴ノ人種ハ亞細亞人種ノ始祖ナリ或ハ移住セシナリト誇言スルコトヲ得可ラズ
 然リ然ラバ則東洋東海ノ絶島國ナル我蜻蛉洲ノ人種ノ始祖歐洲ヨリ來リシト云フハ固
 ヲリ誣言ニシテ無理無躰ト謂ハザル可ラズト云ヘリ嗟正當ナル説明ナル哉國民宜ク之
 ヲ辨知シ外邦分家ノ日本人種ト輕蔑セラレコト無クンバヨシ
 問テ曰ク國人ノ始祖ノ義ハ如上譬喩ニテ能ク會シ得タリ爾レドモ年來疑雲ノ霧レザ
 リシハ世界始原說ナリ夫レ我國ノ神道ニ天地開闢說アリ或ハ天耶ノ世界創造說アリ又
 ハ近世ノ學說ニ天然地理アリテ其說區々ニシテ熱レヲ真熱レヲ偽ト看破スルコト能ハ
 ザルナリ然レトモ何レモ世界ノ始原ハ學士ノ討究スベキ要點ナリト思肯セリ何トナレ
 バ吾人ハ有形世界ニ生息シツ、其世界ノ始終ヲ研究シ置カサルハ酷ダ迂濶千萬ナレバ
 ナリ然ルニ或人曰佛敎ハ可見的物質ノ大元論ハ措ヒテ論ゼズ不可見的精神說ニ傾キ一
 向ニ空論ニ流ル是等ノ宗敎ハ中古以上陔邑ノ文盲無識ノ輩ヲ瞞着スルニハ好便ナル可
 シト雖現時ノ如ク都鄙ニ學校興リ物理化學哲學ト學科ヲ分チ陪、精妙ノ學域ニ進ム時
 機ニ臨ンテ眼前ノ物質ヲモ説明スル能ハサレハ信仰ヲ冷却シテ最モ不都合ナル可シト
 然レトモ佛家ニ正確ナル世界ノ元原論アリヤ否若シ之レ有ラバ希ハクハ我神道開闢說

天耶敎ノ創世記ト近世ノ實驗學說ト比較的ニ説明シ玉ヘ

答テ曰近世ノ學士ガ傳フル天然地理ハ實驗ノ說ニシテ則地質學上ヨリ推理ノ地球ノ構
 成時間ヲ七期ニ分カテリ第一無生類時代(地上ニ動物ナク水晶及火成岩此時代ニ成
 リ且ツ此時ニハ地球上ノ大陸甚狹隘ニ海

ノミ也地皮ハ水ノ渣滓)第二シリユリヤン時代 (海水中蝸牛鳥賊ノ如キ内部ノ骸骨ヲ
 物ヨリ成立スト爲ス)

第三デホニヤン時代(此時始テ魚類ヲ生ズ且ツ陸地ニ無血虫ヲ生ズ)第四煤炭時代(此時草木蕨類高木ニ似タ
 ヲ多ク繁リ陸地ニハ處

々ニ沮洳多ク故ニ草木皆水中ニ積堆シ埋)第五匍匐蟲時代 (海陸ヲ問ハズ長
 没シテ數千年ヲ經テ今日ノ石炭ニ化ス)第六胎生

獸時代(地類漸滅シテ巨大ナル四足獸蕃殖ス現)第七人類時代(此時ニハ巨獸跡ヲ絶稍
 時ノ種類ニ似タル棕櫚椰樹等ヲ生ズ)

此七期ノ中ニ現時ノ山水海陸ノ配布等皆整備セリ蓋學者ノ此時期ヲ論定スルヲ得タ
 ル者ハ地層中ニ化石ヲ包藏セルニ由ル也爾レトモ實驗學ハ理ノ盡サル處アルハ止ム
 ヲ得ザルナリ所謂第一無生類時代ニ水晶及火成岩成ルト云フ是レ地球ノ本元太陽ノ熱
 塊分裂セシ者ト推斷セル材料也然ルニ又此時期地球面ハ海廣ク陸狹シト云フ若純粹ナ
 ル大火團ノ上ニハ水ノ滯留スル所以ナシ然レドモ海水ノ渣滓物ニ非レバ有層岩即地皮
 成立ノ因ナキヲ以テ火塊ノ冷却セシ邊ニ水留セシ義ヲ憶度セシ也要スル處世界ノ大元
 純一ノ火也シヤ純一ノ水ナリシヤヲ分別セシ者ニ非ズ則是レ水火二元ヲ以テ萬有ノ大
 原トナセシ者ナルコト知ル可キ也如何トナレバ水晶結成ノ時期ニハ一塵モナシ水中ノ

渣滓物凝集シテ初テ地層成シ義ナレバ也此火水ノ大原及ビ作用ノ元力ニ至テハ唯物論者ノ盡サハル處ナルヲ以テ此缺點ニ乗ジ基督現ハレテ天帝ノ造物説ヲ唱ヘ其原力ヲ天帝ノ神力ニ寓ス其創造ハ凡七千年已前六日間ニ天地日月萬物ヲ創造セリトナス創世記ニ云ク元始ニ神天地ヲ創造タマヘリ地ハ定形ナクシテ曠空シテ黑暗淵ノ面ニアリ神ノ靈水ノ面ヲ覆ヒタリキト是レ水ヲ以テ原始トナスナリ此水モ萬物ノ創造ノ天帝が始メテ造リシトナセバ神ヲ以テ元始トナスナリ无形ノ神ノミヲ以テ元始トナセバ即唯神論ナリ此神萬物ヲ造ルニ何レノ處ヨリ物質ヲ聚メ來ルヤ疑フ處ナリ釋尊ハ色心ヲ本有トナシ哲學士デモクダス氏ハ萬有ハ虛無ヨリ發生スルノ理ナシト云ヘリ是ヲ以テ通考スル時ハ外教ノ妄説齒牙ニ掛ルニ足ラザルナリ我ガ神道ノ開闢説ハ神代紀曰古天地未割陰陽不分渾沌如雞子溟滓而含牙及其清陽者薄靡而爲天重濁者淹滯而爲地(乃至)曰開闢之初洲壤浮漂譬猶游魚之浮水上也于時天地之中生一物狀如三章牙一便化爲神號三國常立神一ト矣リ是ヲ冥考スルニ渾沌如雞子溟滓而含牙清濁爲天地便化爲神等ノ義ハ判明ナラズト雖蓋シ佛敎ノ六大ヲ以テ萬家ノ總体トナスニ髣髴タリ故ニ外教ノ創說トハ同日ノ論ニ非ルナリ而フシテ唯物實験學ノ火水二元論ハ其ノ原因ヲ盡サズト爲ス何トナレバ坤輿上文物開進ノ率先國ナル印度ニハ夙ニ地論師アリテ地ヲ以テ萬有ノ原因トナシ水論師アリテ水ヲ以テ萬有ノ原因トシ本際論師アリテ水ト火トヲ以テ萬有ノ原因トシタル者アレバナリ乃チ順世論師アリテ地水火風ノ四大

ヲ以テ萬有ノ本體トシ空論師アリテ空無ヲ以テ萬有ノ原因トシ方論師アリテ空間ヲ以テ萬有ノ原因トシ我論師識論師等アリテ主觀的ノ實我心意ヲ以テ萬有ノ原因トスル者アリ是咸ク不完全ノ論說ニノ只後世ノ學者ノ參考書トシ世ニ傳フル耳是ヲシモ不完全トセバ近世ノ學說モ水火二元論ナルヲ以テ亦不完全ノ評ヲ免カレザルベシ其故如何總シテ火論ハ火論ニテ萬有ノ原理ヲ貫キ水論ハ水論ニテ萬有ノ原理ヲ盡シ共ニ對論セシムレバ甲論乙駁其決ヲ探ル可ラズ是レ五客各々五采ノ眼鏡ヲ掛テ櫻花ヲ視其色ノ異ルアルヲ論ズルガ如シ各眼鏡ヲ撤シテ真正ノ色ヲ認識スルコトヲ得ルト同ク世界ノ大元ヲ觀察スルニモ我執ヲ離レザレバ眞實ヲ識スルヲ得可ラズ爰ヲ以テ如上ノ諸論師ノ末ニ數論勝論ノ二大哲學起リ前舉ノ諸論ヲ總合シテ有無ノ二義ト爲シ各一見識ヲ執シテ論戰ノ止ム時ヲシラズ爾時ニ當ツテ釋尊崛起シテ其ニ大哲學ヲ總括シテ有無ヲ百非シ(百非ノ事起信記云ク一。異。有。无。等ノ四句ノ上ニ於テ之ヲ明サバ謂ク一ハ一ニ非ズ亦一ハ亦一ニ非ズ一ニ非ルハ一ニ非ルニ非ズ一ノ四句トナス異等モ之ニ例シテ共ニ十六ト成ル又過現未各ノ十六有レバ四十八ヲ成ス又已)斷常二見ヲ破シテ未世起未起ニ各四十八アリ根本ノ四ヲ並シテ都テ百非ヲ成スト也)斷然空无ノ義ノ衆生ニ天地間ノ真相ヲ明示シ下フ所謂數論ハ時間的ノ總合同躰斷無也此義非也眞象ハ有無相即ノ見ヲ主張シ勝論ハ空間的ノ分拆異躰實有ノ萬有實在ノ執見也是亦義ナルガ故ニ)見ヲ主張シタリシ也爰ヲ以テ釋尊ハ時空物心理ノ五大元ヲ舉ゲ常同有無融即セヌ也)見ヲ主張シタリシ也爰ヲ以テ釋尊ハ時空物心理ノ五大元ヲ舉ゲ常同常別无碍相應ノ義ヲ明シ玉フ全ク圓滿完結ノ天然ノ法ニ合シテ常經也後世餘蘊アルヲ

見ズ誰レガ此上ニ一指ヲモ出ス者アランヤ今日吾徒ヲ南无十方(空間)一切常住(時間)三寶(物心理也)ト唱念セシムルハ所謂時空物心理ノ五大因果ノ真理ヲ悟了セシメント也因テ今略ク時空等ノ五大原ヲ沙汰スルト共ニ其終局及循環ノ理ヲモ叩キ出サントス所謂時トハ長時ヲ梵ニ劫那ト云ヒ短時ヲ刹那ト云フ(西域記ニ云極短時ヲ刹那ト云フ所謂時トハ長時ヲ梵ニ劫那ト云ヒ短時ヲ刹那ト云フ)云フ謂ユル一刹那ノ百二十ヲ一咀刹那ト云フ而シテ六十ノ咀刹那ヲ一臘縛ト云フ(即七千二百刹那也)三十臘縛ヲ一牟呼栗多ト云フ(二十一万六千刹那也)五十牟呼栗多ヲ一時ト云フ(一千〇八百万刹那也)六時ヲ印度ノ一日一夜トナス(六千四百八十万刹那ナリ)今日ノ時辰機ニ換算セバ一日一夜ハ二十四時間ナルヲ以テ彼六千四百八十万刹那ヲ二十四分ニシテ一分間ニ即二百七十万刹那アリ一時間ハ六十分故ニ二百七十万刹那ヲ六十分クレバ四万五千刹那ナリ六十秒ノ一分ナルヲ以テ亦四万五千刹那ヲ六十分クレバ一秒ニハ七百五十刹那ナリト)所謂刹那トハ當時ノ一秒時間ヲ七百五十二細分シタル短時ヲ云フ蓋是ヨリ短キ時間ハ無ル可シ故ニ楞伽ニ云ク刹那ハ時不住名テ爲ニ刹那ト云フ此極短ノ時間ヨリ秒分時日月年劫那段々長時ニナル劫那ハ梵語ニテ此二分別時節ト云フ新婆沙論ニ云以人壽八萬四千歲ニ百年命減ニ一年減至三十歲(此年數八千三百九拾九萬年也)百年増ニ一年復增至八萬四千歲如此一減一増爲ニ一小劫(一億六千七百九拾八萬歲)二十増減爲ニ一中劫(三十三億五千九百六十万歲)成住壞空ノ四中劫爲ニ一大劫(一百三十四億三千八百四十萬歲也)云フ一大劫スラスノ如キ長時也然ルニ法華壽量品ニ譬ヘバ五百千萬億那由他(此云三萬億一萬億一數タル萬億ナリ)阿僧祇(此云無數)三千大千世界

假使人有リ抹ノ東方ノ五百千萬億那由他阿僧祇國ヲ過ギテ乃一塵下サン是ノ如ク東ニ行テ是微塵ヲ盡スガ如キ(乃至)是諸ノ世界ノ若シ微塵ヲ著ル及ビ着カザル者ヲ盡ク以テ塵ト爲メ一塵ヲ一劫トナサン我成佛シテヨリ己來タ復タ此レ於過ギタルコト百千萬億那由他(萬億ヲ一ト算ヘタル萬億ヲ云フ也)阿僧祇(無數)劫(時)ナリト是レ狭ナル凡智ノ輩ガ聞見スルキハ佛語非實トナサン爾レトモ三世洞達スルニ到レバ彼塵點劫モ長時ニ非ズ一刹那モ短時ニ非ズ其故如何ン万物ニ生滅アリテコソ過現未ノ三世ハアレ則物質不生不滅ナルトキハ三世ハナキ也依テ知ル可シ時間ハ全形跡ナキ者ニシテ勿論无始无終ナリ而シテ有情ノ苦樂長短等ヲ感覺スルハ无明長夜一夢ノ中ナルヲ攝論ニ云處レ夢謂ニ多年一覺乃須臾頃也故ニ時ハ雖无量攝ニ在ニ刹那ニ云云唯識論ニ云未得ニ眞覺ニ常處ニ夢中故説ニ爲ニ生死長夜ト吾人ガ夢ノ世ヲ夢トモ得覺ラズシテ或ハ悲泣シ或ハ驕笑シテ風顛ノ如クナルヲ佛菩薩ハ視ソナハシテ大悲心ヲ起シ玉ヘ濟度ノ爲ニ夢ノ世ノ時間ヲ利用シテ永劫ノ間ニ願行ヲ成滿シ下フ法華ニ衆生ヲ度センガ爲ノ故ニ方便シテ捏槃ヲ現ズト爾シ下フハ即是レ也亦一切衆生ハ此實躰ナキ時間ヲ實用シテ起滅ノ業相ヲ顯ハス此故ニ妄識世界ノ萬物ハ時日ヲ藉ラザレバ一物モ成立スル能ハズトナス爰ヲ以テ今時間ハ萬物發成ノ大元ノ一トナス

二ニ空トハ勝論哲學ハ空間ニ四方上下ノ方角アリト説ケドモ佛教ハ之ニ反シテ則空ト言ハ方隅ナク十方廓然トシテ涯際ナク罍碍ナク色香ナク始終ナシ一切衆生迷フガ故ニ

三界ノ城廓ヲ構成シテ始メテ六隅アリ遠近アリトス若シ悟ルトキハ本來東西ナシ何レノ處ニカ南北有ラント云ヘリ便チ空ハ涯際ナキガ故ニ無量ノ世界(近世列宿ハ世界也ト云フ)ヲ徧覆シテ狡隘ナルコト無キノミナラズ餘地アルコト亦無邊也而シテ世界ノ本躰ナル地水火風ノ四大ハ虚空ヲ以テ遊所ト爲シ或ハ和合シ或ハ離散シテ世界ノ始終ヲナス若シ虛ナキトキハ會散ノ餘地ナクシテ即一切世界ヲ成立スルヲ得ザルト全時ニ一切有情非情ノ發生スルコトモ能ハザル也故ニ今空ヲ萬物顯現ノ大元ノ一トナス

三ニ物トハ即地水火風也微細ノ邊ニ約シテ之ヲ色ト云ヘ龜大ノ邊ニ約シテ之ヲ四大ト云フ而シテ望遠鏡ヲ以テ仰觀シテ最大ナル者ハ日月星辰等ノ世界也(佛ハ三千大千世界トモ微塵刹土トモ云フ)肉眼ヲ以テ歴覽セントシテ无量无边ナルハ羽毛鱗甲人間草木等ナリ而シテ肉眼ノ識別シ難クシテ器械的ニテ捕捉シ見別スルヲ得微細ノ物ハ元素也器械的ニテ分拆シ得ザル物ハ原子ナリ所謂原子ヲ極微分子ト云フ尙進ンデ慧眼ヲ以テ觀照シテ開示セル所ハ色物ノ虚空ト交渉シテ色空ヲ分別ス可ラザル邊也其本躰ヲ指シテ色空不二ト云フ般若心經ニ曰ク色空ニ異ナラズ空ハ色ニ異ナラズ色即是空也空ハ即是色也ト矣(是ハ通途ノ會釋ノ法ノ外只一義ヲ舉示スルノミ)法藏消釋シテ云ク有ハ有ヲ空スルガ故ニ有ニ非ズ空ハ空ヲ有スルガ故ニ空ナラズ不空ノ空ハ空ニ而斷空ニ非ズ不有之有ハ有ニ而常有ニ非ズト是レ有形(色)無形(空)ノ交渉ノ極所ヲ云フ且ツ有無ノ見所ヲ破セル眞理ナリ如上ノ眞象ヨリ推考スルトキハ剛柔乾濕ノ反對性質物

(地ハ堅剛性風ハ柔軟性水ハ潤濕性火ハ乾燥性)假ニ和合ノ依報土(世界)トゾリ正報身(衆生ノ内體也)トナル也所謂身上ノ體ニ具ヘアル物ヲ内大ト云ヘ虚空ニ游離シテアル物ヲ外大ト云ヘ内外融通シ暫時モ休憩ナク四大互具互融シテ周徧セララルニ空ヲ加ヘテ五輪ト云フ輪トハ輪轉无究ノ義也再說セバ世界ト顯ハレテ成住壞空ノ起盡アリ衆生現ハレテハ生老病死ノ始終アリ是レ本來物ハ心ニ從フ者ニシテ心念ニ生住異滅アルガ故ニ色物ニ其四相ノ表現セル者也ソハ心ノ說ニ讓リテ茲ニ說カズ是レ則字内ニ顯現セル萬象ハ必ズ起滅ニ顯セル者ニシテ因果ノ理法ヲ彰ハセル也婆沙(廿一四)ニ說ニ作用ヲ以爲ニ因果ト云フ義ヲモ通考ス可シ則四大集成ノ始因アルガ故ニ離散歸空ノ終果アリ還離散ハ合成ノ原因トナル衆生モ亦其如ク四大假合シテ出生セル元因アルガ故ニ四大分離シテ死亡ノ結果アル也還結果ガ發生ノ元因ヲナス也今理學士ノ謂ユル物質不滅性力恒存ノ義ニシテ究竟スルトキハ佛說ノ不生不滅ノ義也故ニ依正ノ身土ハ地水火風ノ假合ニシテ無常ノ相ヲ顯トス雖堅濕煖動ノ本性ハ隣虛ニシテ空ト同ク恒存スル也究竟スルトキハ佛說ノ常住ノ義也釋尊ノ如キ因果ノ定理ヲ以テ宇宙間ノ眞象ヲ明示ス故ニ法流ヲ斟ム者ハ已身ハ元來何ノ因縁ニ由テ生ジ來レルト云フコト容易ニ知了シ得テ眞道ニ惑フコトナキハ希有ノ妙法ナラズヤ誰レカ開解立行セザラン縷々上說ノ如ク四大ノ物質ナキトキハ霄壤間ニ形象アル者一个モ有ル可ラズ愛ヲ以テ今物ヲ擧テ萬象發生ノ大元ノ一ト爲ス

問テ曰高説ニ依テ未ダ嘗テ他教ニ見聞セザル處ノ世界萬物ノ成敗集散ノ相及ビ原因結
 果ノ理ヲ聽探シ得タリ然レドモ未ダ國土合成ノ時期幾何ノ往昔ナリシヤ國土世間ノ命
 數衆生世間ノ壽量及ビ近世學士ノ餘論等ヲ視聽セズ乞フ不敏ヲ慙ミテ之ヲ詳説シ玉ヘ
 答テ曰現在世界ヲ賢劫ト云フ智論ニ以テ多賢人ニ故名賢劫ト云ヘリ一大劫ヲ以テ器
 世間ノ一期トナス所謂一大劫トハ成住壞空ノ四中劫ヲ云フ一中劫トハ二十ノ小劫ヲ云
 フ一ノ小劫トハ人壽八萬四千歲ト定量シテ百年毎ニ命一年ヲ減シテ八萬四千歲ヨリ十歲
 ニ至ル而シテ復百年毎ニ命一年ニ増シテ八萬四千歲ニ至ル（八萬四千歲ヨリ十歲ヲ減
百ヲ乘ジ其減劫年數八千三百九十）増減合シテ壹億六千七百九十八萬歲是ヲ一ノ小劫
 ト云フ也（新婆沙論ニ據ル）此小劫二十ヲ合セタル壹中劫ノ年數ハ三十三億五千九百
 六十萬歲ナリ故ニ四中劫ヲ合計スレバ一百三十四億二千八百四十萬歲是則一大劫ノ
 年數ニシテ器世間ノ命數ナリ此器世間上ニ生ノハ死シ死シテハ生ジテ人間ノ住スル間
 （成劫ノ天衆世界空劫中ノ有情ハ之ヲ除ク）ハ住劫ノ三十三億五千九百六萬歲ニシテ是
 レ人間世界滅盡ノ定量也今ヨリ世界合成ノ初劫ヲ算勘センニハ今ハ増減ノ幾何劫ニ當
 ルヤヲ知ラザル可ラズ統紀ニ減ノ第九小劫人壽一百歲ノ釋尊出世シ玉フトアリ爾來
 凡ソ三千年ヲ經過セリトスルトキハ百年ニ一年ヲ減ズル法ナレバ今ノ人壽ハ減ノ第
 九小劫三十年ノ時ニ相當セリ故ニ自今以後二千年ヲ歷ルトキハ人壽十歲ニ減シテ夫ヨ
 ヲ復善ヲ積ミ德ヲ脩メテ増劫ニ向フナリ却説住劫ノ減ノ第九小劫迄ノ年數十五億一千

一百九十一萬歲ヨリ千年ヲ減ジ（即百歲ヨリ十歲ニ至ル一千年引去ル也）十五億一千一
 百八十九萬九千歲ト成ノ中劫三十三億五千九百六十萬歲ト合算スレバ四十八億七千一
 百三十九萬九千歲也凡ソ此往昔ニ於テ器世間ハ四大集成セシ者也抑モ創世説ノ最モ古
 キ者ハ印度ニシテ之ニ次グ者ハ日本也（拾芥抄ニ天照大神ノ治天下二十五萬歲正哉吾
瓊々杵尊治天下三十一萬歲彥彥出見尊治天下六十三萬七千八百九十二年鴉萱尊不合尊
治下八十三萬六千四十二年神武天皇紀元ヨリ明治三十年迄二千五百五十五年皇孫尊已
前神代ノ年序未詳ナレドモ其悠遠ナル以知ル）亦日本ニ次グ者ハ支那也（天皇地皇人
皇顛頊高帝陶唐有虞ノ五帝合四百一十七主四百三十二年殷ノ三十主六百二十
九年周ノ三十七世凡八百六十七年周ノ第十七代惠王十七年）最モ近キ説ハ西洋ナリ（地
質學ノ諸大家ノ説ニ云ク地球冷却シテ動物生住スルヲ得ルニ至リタル後今日迄ノ年數
地質學上ノ證ニヨリテ計算セシ者ノ中ケルビンハ大略二千萬年也ト云ヘキングモ亦
同説ナリデナドワルコト等ハ水ノ沈澱及ビ侵蝕ノ作用及ビ地層中ニ其遺跡ノ存在
スル原始動物ノ發達ニ證ヲ取リテ前説ヲ以テ短ニ過グトナシ六千億乃至一億万年ヲ
以テ地球ノ年數ナリト主張シ現今ノ科學界一般ニ承認セララルト云）便チ最近説ハ地層
ヲ然レドモ耶蘇信徒ハヤソ説ノ即チ七千年ヲ信認シ居ルナラン）便チ最近説ハ地層
中ノ物質ニ就テ微知セル所ナリ最遠説ハ蓋シ理想ニ就テ照明セシ所ナリ予ハ兩説ニ於
テ一偏スルヲ欲セズ實驗以テ理想ノ正謬ヲ簡擇スルヲ欲スル也如何ントナレバ理想的
古聖ノ豫言ニ符合セル實驗學說近來多クレバナリ尤モ實驗ト理想ノ背馳セリ辻漫リニ

偏廢論ヲ發スルヲ好マズ如何トナレバ未發ノ者アツテ然ルヤ測リ難クレバ也夫レ世界
 (世トハ世代ノ義ニテ變遷ノ謂ヒナリ)ハ有情ノ業力ニテ感出セシ者也故ニ其業力盡
 (界トハ間界ニテ境界ノ義也常恒ト反ス)ハ有情ノ業力ニテ感出セシ者也故ニ其業力盡
 レバ世界ハ滅盡スル者也華嚴經曰ク三千大千世界以ニ無量因緣乃成大地依ニ於水輪
 風輪空輪空無ニ所依一衆生業感世界安住スト謂ユル無量ノ因緣トハ四心所(愛想行識)
 ノ無始己來ノ結合スル所也衆生ノ業感トハ八萬四千ノ煩惱ヲ云フ也即八萬四千ノ塵勞
 ヲ以テ世界ヲ構造スルガ故ニ長阿含起世經ニ曰高八萬四千由旬(六丁一里ニシテ四十
 里ヲ一由旬ト云フト)乃至廣八萬四千由旬ト換言セバ一須彌世界ハ有漏善惡ノ業煩惱
 ガ縱横ニ充滿ノ行レ有ノ義アリ若シ此世間ニ煩惱ガ滅スルハ存在ス可ラザルハ勿
 論而ノ人壽八萬四千歲ト定量セシモ蓋八萬四千ノ塵勞ヲ擬表セシ者也何トナレバ煩惱
 ガ盡レバ人間界ハ潰滅ス可ケレバ也八萬四千ノ人壽ノ中十歳ヲ遺存シテ滅ゼザレバ煩
 惱ノ盡ザレヲ謂フ煩惱業苦ニ省悟スル所有テ更ニ善福ヲ修メテ增壽ニ向フハ今人云ハ
 ユル世界ノ進化退化ノ說ニ髣髴セリ又煩惱ノ無盡ナル習氣ノ亡泯シ難キコト聲聞緣覺
 ノ二乘衆ガ修道ノ相ニテモ推知セラルベシ爰ヲ以テノ故ニ世界ノ起盡ハ一劫ヲ經ル
 ト爲スモ敢テ成敗ノ邈焉タルヲ批ス可ラザル也三世出興志ニ曰ク滅至三十歳ニ入ニ末法
 五千一百年人長一尺女人五月便嫁時刀兵災起由ニ人行惡轉盛各起殺害之心能
 行惡者爲人所敬ト是レ末世ノ人壽十歳ニ滅ゼシ時代ノ情况ナリ回顧スルニ昔時ノ

人ノ長壽ニシテ今世ノ人ノ短壽ナル比例アリ亦身量ノ長短モ古今大ヒニ相違ヲ現示セ
 リ近世佛蘭西ノ統計學者ガ前十四世紀間ノ人身ノ長ニ就テ古代ノ記録遺骨ヨリシテ種
 々ノ比較的研究ヲ積ミ終ニ驚クベキ人世ノ結果ヲ發見シタリト即ヒラデルフヤ時事
 新聞ニ云ク右ノ統計ニヨリ更ニ過去將來ヲ推算セバ太古元始ノ人間ノ身軀ハ駭クベキ
 巨人ニノ一丈六尺八九寸也蓋巨人ト云フ言ハ是等巨人ノ漸ク身小ト成リタル者ナラン
 初世紀ノ頃ニハ平均九尺ニシヤレマン帝ノ時代ハ八尺八寸也而ノ更ニ翻テ將來ニ
 推算スルニ今日ヨリ四千年ノ後ニ至レバ實ニ世界ノ人種ハ僅ニ壹尺五寸ノ平均也如此
 時期ニ至ラバ地球ハ眞ニ我謂ユル侏儒ノ社會トナリ經營モ大ニ異ルニ至ル可シ此ヨリ
 推ノ彌後ニ至レバ身體ハ益々少形トナリ終ニ全ク消滅ニ歸スベシト是レ佛說ト大同小
 異也則小異アル者ハ統計學者ハ實驗說ニ煩惱習氣ノ斷盡シ難キ等ノ(業ハ香類ノ如ク
 ノ如シ香類ノ業ハ離去スルヲ得レドモ薰染ニ薰染)心性學即理想ノ說ニ非ルガ故ニ所謂
 セル香氣ナル習氣ハ斷除シ難キ義ヲ通致スベシ)心性學即理想ノ說ニ非ルガ故ニ所謂
 終ニ全ク消滅ニ歸ス可シ等ト云フ尙レ之世ノ始終ヲ觀ル佛教ノ如ク永カラザルハ全
 ク一小劫ノ増減ノ一遷變ヲ計度セシ者ナラン蓋耶蘇創世七千年ノ說モ亦復其如ク一劫
 小中ノ時量ナランノミ統計曰住劫ノ第十小劫減八萬歲ノ時彌勒佛出世身紫金色二十
 二相坐寶蓮華光明無量身長三十二丈如黃金山亦曰時人身長十六丈壽命滿八萬歲
 無有中天女人五百歲方嫁日受妙樂等ト是レ福業ノ果報身量長大壽命長久受樂無
 究ノ狀ナリ彼ノ末法五千一百年人長一尺ノ說ト正反ニシテ皆善惡ノ果報ヲ表彰ス而ノ

能ク惡ヲ行フ者人ノ爲ニ敬ハルト云ヘルニ至テハ已ニ今人ノ情態ヲ寫眞セリ焉ゾ感嘆
 ニ耐フ可シヤ是ヨリ二千年(現時ハ人壽三十歳ノ時也)ノ後世ヲ想像スルニ猶餘アリ
 トス且今ノ實驗家ガ地球ノ減熱太陽光線ノ減力地轉ノ緩慢月界息火空曠ノ現狀水星界
 ノ經營星雲及黒星等ノ發見ハ頗ル佛教ノ三千世界及ビ娑婆世界ノ現在過去未來ノ心法
 說ニ契符セル者有テ彌佛教ヲシテ正確ナラシメ古人ノ疑塊ヲ摧破了スル形勢ハ正シク
 文化ニ進ミ來ルノ徵證ナラン以上贅辨シタル年序久遠ノ經說モ實證ヲ將來ニ求メ漫リ
 ニ妄說ニ附シ去ラザランコトヲ望ム是ノ如ク五大元中物說ノ遺漏セル國土初成ノ年紀
 及ビ國土人界ノ壽量等ノ略答畢ンヌレバ以下心ノ說ニ移ル可シ
 四ニ心トハ梵音質多此ニ縁慮義唯識論集起名心即八識ヲ云也心地ト者佛言三界之中
 以心爲主衆生之心猶如大地五穀五果從大地一生如是心法生出世善惡五趣三乘
 以三此因縁三界唯心故名心地法界次第曰能縁ノ用有テ質碍ナク心念意識等ノ種々ノ
 名アリト所謂能縁トハ善ト惡ト無記ト也此三ツノ能縁ガ四大ヲ躰トシ善惡ノ有情國土
 等ノ非情ヲ造ル也故ニ華嚴經曰心如巧畫師造種種々五蘊ト次ニ質碍ナシトハ心ハ無
 形ニシテ虛空ト同ジク罍碍ナク内外表裏無ク邊際ナシ故ニ慈雲尊者曰ク夫廣不可涯
 高不可蓋長不可尋將盈而虛將晦而明也雖邊而中微妙深絕難得而思議者
 惟心也ト亦無形ナルガ故ニ無始無終不生不滅也心ハ固ヨリ無相ナレドモ無量ノ相ヲ現
 ズ故ニ古哲曰ク一切萬境ハ心影法師ト通致スルニ有漏ノ心影ハ六道ノ境界ト顯ハレ無

漏ノ心影ハ四聖ノ境界ヲ現ハス便チ十法界ニ分ルト雖一心ノ迷悟ニ因テ異果ヲ示スナ
 リ故ニ萬境即チ一如也トス無相ノ一心無邊ノ相ヲナストハ此謂ヘナリ次ニ心トハ和訓
 抄ニコロノ約マレル也ト云ヘリ十八界ニ活動ノ善惡等ノ能縁タルノ謂ヒ也(正法
 念經)
 曰一切善不善法心爲(三)而ノ心ニハ善惡ノ性ヲ具セリ善惡ハ反對ナレドモ境遇善惡ニ縁
 根本ト是之ヲ云フ
 テ其作相ヲ異ニス喩ヘバ水晶ノ如シ太陽ニ對スレバ火ヲ吸集シ大陰ニ向フレバ水ヲ吸
 引ス水火ハ反對ナレト水晶ニハ水火吸引ノ質ヲ具フレバ也中陰經曰善惡隨其形行
 レ善即趣善行惡即趣惡ト云フシカレバ人心ハ惡縁ノ境ヲ避ケテ善縁ノ境ニ遊バ令
 ルヲ肝要ナラズヤ念トハ思ヒ續クルノ義ニ起信論ニ謂ユル生住異滅ノ四相綿々相續
 クノ意味也一念生ジテ其念ニ住スルヲ暫時ニノ初念ニ異リ遂ニ其念滅スルヤ後念
 生ジテ念々相續ノ寸時モ常ナク又絶ユルヲモナシ離ル、トモ難シ之ニ依テ淨家ハ是ラ
 ノ妄念ヲ離ルル爲ニ正念ノ唱名ヲ勤メラルル所以也此生住異滅ノ念相ハ國土ニ成住
 壞空ト顯ハレ衆生ニ生老病死ト現ハル是等ノ作用アルガ故ニ經ニ三界唯心造凡三界
 唯一心々外無別法示サレタリ意トハ有能知法之用名之爲意トアツテ法トハ
 法境也無表色(其躰ハ強キ善惡ノ身ト口トノ業ノ四大種ノ氣分ガウツリテ身口ノ作
 業ヲ離レテ善惡ノ業ヲ作セシ通リノ功能ガ始終身ニツキテ離レヌモ
 ノガ無表也四大ノ勢力ニテ出來ル故ニ色ニ屬ス左レモウ)心所有法(是ニ四十六ア
 ツリ香ノ如キモノニテ正シキ物躰ナキヲ無表色ト云フ)
 四十五

十アリ受ト想ト思ト觸ト欲ト慧ト念ト作意ト勝解ト三摩地ト也大善地ニ十アリ信ト勤ト捨ト慙ト愧ト下無貪ト無瞋ト不害ト輕安ト不放逸トナリ大不善地ニ十アリ忿ト覆ト墜ト嫉ト惱ト害ト恨ト諂ト誑ト誑トナリ不定地ニ八アリ善不善ノ惡作ト三性(善惡無紀)ノ眠ト三性ノ尋伺ト不善有覆ト貪ト瞋ト慢ト疑トナリ大煩惱地ニ六アリ癡ト放逸ト懈怠ト不信ト昏沈)不相應行ト(心不相應ノ義即色法也行ハ心所也是非色非心ノ義也ト棹舉トナリ)無爲法ト(是ニ三アリ擇滅無爲ト非擇滅無爲ト虛空無爲ト也)ノ四類ノ法ヲ云フ意ト滅定ト命根ト生ト住ト)無爲法ト(擇滅無爲ト虛空無爲ト也)ノ四類ノ法ヲ云フ意ト減ト名ト句ト文ト也)業相ヲ顯ハスナリ所謂四法ノ釋義ハ茲ニ罄ス能ハズ細密知了セント欲セバ俱舍論師ニ憑テ學收ス可シ識トハ了別ノ義ナリ此識所緣ノ境ヲ想ヘ像トルヲ想ト云ヘ此識所緣ノ境ニ遷リ流ル、ヲ行ト云ヘ此識ノ所緣ノ境ヲ領シ納ルヲ受ト云フ此四心所(心本無形ナレバ住所ハナキ也迷フガ故ニ住所ヲ構フルヲ心上ニ住所ヲ感)ニ依テ色界即チ國土世界衆生世界ガ發現スルナリ爰ヲ以テ致フルルハ得スルノ義也)ニ依テ色界即チ國土世界衆生世界ガ發現スルナリ爰ヲ以テ致フルルハ世界創造ノ天帝トハ所謂識ヲ云フナル可シ而シテ情識ガ凡迷世界ヲ爲スノ義トスルトキハ天帝ハ人ノ安心立命ノ爲ニ信仰スベキ神ニ非ルヤ明カ也正ニ情識ニ流レズ眞理ニ止リ識ハ幻事ノ如シ行ハ芭蕉ノ如シ想ハ陽燄ノ如シ受ハ水泡ノ如シ色ハ聚沫ノ如シト斯ク智慧ヲ以テ觀達スレバ彼五蘊ヲ轉シテ戒定慧解脫智見ノ五分法身ノ佛ヲ成スベシ再說セバ八識(眼識、耳識、鼻識、舌識、身識)ヲ轉ジテ五智如來(大圓鏡智、平等性智、妙觀察智、成所作智、法界體智)ト爲ラン斯ク比較シテ立論セバ佛ハ人ノ安心立命ス可キ本尊也感情的ノ

妄識ナル天帝ト智慧の眞覺ナル佛陀ト豈差別セザル可シヤカク引例セル智ト識トノ因果大異ナレドモ全ク一心ニ具備セル所以也却說本題ノ異名ナル心念意識ノ會釋了レリ此不可思議ナル心無ケレバ一切ノ境界顯發スルコトアルコトナシ故ニ今心ヲ擧テ萬物大元ノ一トナス

五ニ理トハ天モ覆フコト能ハズ地モ載スルヲ能ハズ廣大无邊不可思議ノ法ニノ萬古不磨ノ常經宵壤間ノ眞理也一法ヲ以テ萬事ヲ貫通ス有象无象有情非情一物トシテ此理法ニ依ラザルハナシ近世ノ哲學家ハ之ヲ天則ト云フ(人爲的ヲ人則ト雖人ノ居動日光飲一トシテ天則自然ノ作用ニ非ルハナク)所謂天則トモ謂ツベキ理法ハ佛教ノ十界十如人間モ其天則ニ支配セラレ、者ナリ)所謂天則トモ謂ツベキ理法ハ佛教ノ十界十如ノ義是也此理外ニ一理アルヲ見ズ蓋外教ノ天啓ハ此理法ノ一分ヲ自己ノ知識ヨリ感發セシニ外ナラザル可シ謂ユル十界トハ已ニ名目ノミ示セシ故更ニ四聖諦ノ上ニ於テ說明ス可シ夫レ四諦ノ法ニ迷フト悟ルトニ由テ十界分カレタリ謂ユル四諦トハ苦集滅道ノ四境也(苦トハ逼迫ノ義患難身心ニ逼迫スルノ謂ヒ也集トハ招集ノ義ニテ苦ノ因トニ使役セラレテ煩悩業ノ果報ヲ招集スルノ謂ヒ也滅トハ滅無ノ謂ヒテ煩悩(見思)ノ爲セヌヲ云フ道トハ能通ノ義ニテ因中ノ修行ガ果ニ通スルノ謂ヒナリ諦トハ審實不虛ノ義ニシテ苦集ハ世間(三界)ヲ云フ有漏(成論ニ云ク失道故ニ曰漏)ノ因果也道滅ハ出世間(涅槃)ノ道ナリ)無漏(不レ失道之義)ノ因果也其法理審カニ實ニノ虛妄ナラズトノ也)初メニ苦諦トハ上中下三品ノ五逆十惡ノ法ニ由テ地獄餓鬼畜生ノ苦境アリ又上中下三品ノ五戒十善ノ法ニ由テ天堂人間阿修羅ノ樂境アリ此樂畢竟眞ノ樂ニ非ズ有漏

ノ善報ナルガ故ニ業力盡レバ亦苦ト變ズ生死ノ苦惱片時モ休マザルガ故ニ車輪回轉端
 ナキニ譬テ六道輪廻ト云フ爾レドモ此六道衆生ハ見惑(四諦ノ法理ヲ見テ判斷ニ)思惑(迷フテ迷理ノ見惑ト云フ)ラズ惡習ノ付キシヲ迷事ノ思惑ト云(爲ニ陪々惡業因ヲ行ノ彌苦因ヲ感ズレモ更ニ惡因果ヲ結ンデ苦境ヲ出脱スルノ意ナシ故ニ三界ノ見惑八十八使ヲ合メ見一切處住地ト名ケテ一住トナシ三界ノ思惑八十一品ヲ分チテ欲愛住地色愛住地無色愛住地ト名ケテ三住トナス爰ニ住トハ住着ノ義ニ即三界ヲ離ル、能ハズ住スルト云フ義也是レ吾人モ此迷境ニ住着シアルヲ知ラザル可ラズ若シ一類アリテ此苦諦ヲ見テ怖畏ノ念ヲ動カシ佛門ニ入り苦ノ因ナル見思ノ惑ヲ斷シ安樂ナル涅槃ノ果ヲ得ント即チ滅諦ニ入ル處ノ因行ナル三十七科(四念處四正勤四如意五根五力七覺支八正道ヲ云フ)ノ道諦ヲ修シ偏眞ノ空理ヲ証リ有餘涅槃ニ入ルヲ聲聞界ト云フ(有餘トハ見惑思惑ノ正使役ノ煩ハシ惱マス故ニ使ト云フ)ハ斷シ盡シタレド(此見思ハ正ク身心ヲ使モ其習氣尙餘リアルヲ以テ)故ニ有餘涅槃ト云フ又一類有テ彼苦諦ノ實況ヲ觀見シ佛ニ値フテ十二因緣(無明、行識、名色、六入、觸、受、愛、取、有、生、老死)法ノ三世ニ聯結ノ生滅ノ苦アルヲ聞キ因緣ハ集合ヨリ有リ本來ハ無キ者也ト悟リ或ハ無佛世ニ於テ飛華落葉ヲ觀ジテ無生ヲ悟リ見思ノ惑ヲ斷シ且ツ習氣ヲ些カ除ヘテ無餘涅槃ニ入ルヲ緣覺ト云フ(無餘トハ界内ノ見思ノ惑ヲ斷シ盡シ界外ノ塵沙ヲ斷シテ他)又一類有テ彼苦衆ヲ見テ一切迷衆ノ受苦ヲ悲愍シ衆生ノ無邊ナルヲ濟度セント誓願シ集諦ノ中ニ見思ノ煩惱アルヲ憂慮シテハ煩惱無邊ナルヲ斷盡センヲ誓願シ滅諦ノ中ニ涅槃ノ

法門ハ無盡ナレドモ盡ク了知センヲ誓願シ道諦ノ中ニハ諸佛ノ成就シ玉ヒシ無上正眞ノ道アルヲ認メテ之ヲ成就センヲ誓願シ六度(施、戒、忍進、禪、智)ヲ滿行シ或ハ度生ノ爲ニ一分ノ無明ヲ扶殘ノ置キ有餘无餘涅槃ニ入ル者ヲ菩薩ト云フ(衆生ノ縁ニヨリテ有餘ノ涅槃ニ入り又々無餘ノ涅槃ニモ入ル也無餘ノ義前例メ知レ梵ニ菩薩トハ具ニハ摩訶菩提悉提薩垂也此ニ翻メ大道心成ニ衆生ノ義トナス即上ハ佛ノ道ヲ求メ下ハ衆生ヲ化スノ義)又一類アリテ界外ノ四十二品ノ無明ヲ斷盡シ智斷究竟ノ分別ナク中道ノ理ヲ証シ妙覺位ニ陞リ無住處涅槃ニ入り無作三昧ナルヲ佛界ト云フ(無住處トハ唯識論ニ曰不レ住ニ生死ニ不レ住ニ涅槃ニ究ニ未來ニ利ニ樂有情ニ故名ニ先住處涅槃ト悲即智ナル)佛隨ノ名義ハ別ニ説明センガ故ニ生死ニ住セズ智即悲ナルガ故ニ涅槃ニ住セザル也佛隨ノ名義ハ別ニ説明セン却說一心ニ善惡ヲ具スルカ故ニ迷フテ惡ノ因果ヲ顯ハシ覺リテ善ノ因果ヲ示ス是則十法界ノ顯現スル所以也此十界各一界毎ニ十如是ノ法理ヲ具スル也謂ユル十如是トハ相性躰力作因緣果報本未究竟等ヲ云フ相トハスガタ也萬物外面ヲ見テ簡別スベキ者ヲ以テ相トナス便チ人間ハ人間ノ相アリ下モ地獄ハ地獄ノ相アリ上ミ佛菩薩ハ佛菩薩ノ相アリテ十界盡ク善惡ノ相ヲ異ニセリ柳ハ綠ニ花ハ紅ナリ鳥ハ黒ク鷺ハ白ク竹ハ直ク蕨ハ曲レリ古往近來各異相ヲ具ノ變ズル相ナシ是等ヲ十界ノ相ト云フ性トハ内ニ據テ自分改メザルヲ以テ性トナス不變眞如ト云ガ如シ水ノ自分ノ性ハ雪氷霜雹ト其相ハ變ズレモ水性ハ變改セヌ如ク凡聖善惡十界ノ相ハ盡ク變レモ本性ハ皆一法性ニノ變易ナキヲ云フ木ヲ鑽テ火出ルハ木中ニ火性アル故也亦衆生ガ佛トナルハ

即佛性アルガ故也。是等ヲ十界ノ性ト云フ體トハ主ル質ヲ名テ躰ト爲スト云フ人ハ人、馬ハ馬、艸ハ艸トナル本具ノ相ヲ主ドル物質ナリ。便水大ハ海河井溝等ノ水ヲ躰トス。今時云フ廿四原素ガ人躰トナルノ義ナリ。地獄等ノ凡迷ノ躰ハ危惡ニシテ摧破スレトモ佛躰ノ如キハ金剛不壞也。亦舍利ノ破碎ス可ラザルガ如シ。此ノ如ク善惡ニ就テ異ル者ヲ總シテ躰ト云フ。是即十界ノ躰ナリカトハ功能ヲ名テカトナス。佛ハ佛ノ相ヲ現シテ極善度生ノ功用アリ。人間ハ人間ノ相ヲ現シテ彝倫ヲ行フ。功能アリ。畜類ハ畜類ノ相ヲ現シテ重ヲ負ヘ。車ヲ挽キ。地獄カ極惡ノ功用アリテ。劍樹ヲ舉デ。刀山ニ躋ル等。是等ヲ十界ノカト云フ。作トハ構造ヲ作ト名クト云フ。心ニ善ヲ構ヘテハ善ヲ作リ。惡ヲ構ヘテハ惡ヲ作ル也。作ルト行フトハ違ヒル也。例セバ善人ガ他人ヲ救助セントシテ家ヲ出ル。惡人ガ劫盜ヲ働カントシテ家ヲ出ツ。未ダ人ヲ救ハズ。未ダ財ヲ奪ハズト雖之ヲ作善作惡ト云フ。便チ己ニ救助シ己ニ切奪スレバ之ヲ行善行惡ト云フ。因トハ習因ヲ因ト名クト有テ習トハ習慣ノ義也。佛語ニ習氣ト云フ。譬ヘバ香篋ノ香ヲ取除キ能ク洗ヘトモ。香氣殘リアルガ如シ。善行ハ習氣ノ生ヲ易ヘテモ。善ヲ忘レズ。亦惡行ノ習氣モ亦復其如ク惡ヲ行フニ憚リナキ也。幼猫ガ鼠ノ味ヲ知ラザレトモ。鼠ノ聲ヲ聞ケバ耳ヲ澄シテ尋伺スルカ如ク。亦鼠ハ猫ニ逢フタルコト無ケレトモ。猫ノ聲ヲ聞ケバ怖レ逃ルガ如シ。人間モ幼年ヨリ利根達學ナルアリ。亦然ラザルアリ。盤上ノ勝負ニ強キアリ。弱キアル等ハ是レ習因ナリ。又男女ノ色欲等モ皆宿世ノ習因ト云ヘリ。是ヲ十界ノ因ト云フ。緣トハ因ヲ助クルヲ緣ト爲スト。アリテ因ハ植物

ノ種子ノ如ク緣ハ之ヲ萌芽セシムル雨水ノ如シ。助緣ニ逢ハザレバ發成スルヲ能ハズ。即人間モ純男ニノ子ヲ生ズルヲ得ズ。女子ノ助緣ニ逢フテ子ヲ生ジ得ベシ。亦ダ善緣アリ。惡緣アリ。衆生ガ佛ニ作ラントノ知識ヲ友トスルハ善緣ナリ。之ニ反シテ迷衆ガ三惡道ニ趣ク者ヲ朋トスルハ惡緣ナリ。之ヲ十界凡聖迷悟ノ緣ト云フ。果トハ習果ヲ果ト爲スト。アツテ所謂習果トハ宿因ノ習氣ナレバ宿習ノ果ト云フ。メシ即宿習トハ過去ヨリ行ヘ慣レタル也。前世ニ人間ニナル可キ習氣ニ依テ人間ニ生レ。又前生ニ畜生ニナル可キ習氣ニ依テ畜類ニ生レタルカ習果也。若クハ善若クハ惡ノ果ヲ感シタルノミニテ。未ダ惡果ノ人ガ惡ヲ行ハズ。善果ノ人ガ善ヲ行ハズ。邊ヲ果ト云フ。報トハ報果ヲ報ト爲スト。アツテ善惡共ニ過去ノ因ニ報フテ善果ノ者ハ善ヲ快ク。心ニ忌嫌ナク。惡法惡行ヲ見聞シテモ決シテ傾動ノ心ナキヲ云ヘ。惡果ノ者ハ惡ヲ快ク。行フテ放火及傷モ忌憚ナク。善法善行ヲ見聞シテモ些カモ反省セヌヲ云フ。換言セバ善知識ニ值遇シテ善法ヲ聞ケトモ。片腹痛ク聞ク等ハ過去世ニ於テ邪惡ヲ見聞シ行ヘ馴レタル報果也。トス之ニ反シテ亦知識ニ值遇シ惡法惡行ヲ見聞シテ反省ノ志ヲ發シ善ヲ行フテ心ニ快ク思フ輩ハ前生ニ於テ正善ヲ修行シ習慣トナリタル者也。是等ヲ十界ノ報果トナス。本末究竟等トハ本末トハ已上陳述セル相ヨリ報迄ヲ云フ。究竟トハ歸趣處ト云フ。義ニシテ俚言ニツ、マル處ノ謂ヒナリ等トハ等一ノ義ナリ。是ヲ十如是ト云フ。其妙義ヲ明サバ天台大師ハ此十如是ヲ三轉シテ讀誦シ玉ヒリ。一是相如(乃至)是報如。二如是相(乃至)如是報。三相如是(乃至)報如是也。此三

轉訓法ハ則空假中ノ三觀智ヲ以テ空假中ノ三諦ノ境ヲ照スノ義ヲ開示セル也所謂如トハ無異ニ名ク即チ空ノ義也空トハ一切ノ法ヲ亡氓スルノ謂也是トハ是認ノ義ニシテ一切法ヲ假立スルノ謂也依テ是ニ相如(乃至)是ニ報如トハ十界ノ相ノ異ルコトナキ一空相ノ上ニ十界差別ノ相ヲ假立シテ觀ズルヲ云フ(乃至)是ニ報如トハ十界ノ相性勢力作因緣果報迄ノ空諦ノ報ヲ一ニ差別ノ法ヲ建立シテ觀ズルノ義ニシテ即假觀也一如ニ因緣果報迄ノ空諦ノ報ヲ一ニ差別ノ法ヲ建立シテ觀ズルノ義ニシテ即假觀也一如ニ是相(乃至)如ニ是報トハ十界差別ノ相性勢力作因緣果報迄ヲ異ルコトナキ一空相ニ觀ズ即是レ空觀也三相如是(乃至)報如是トハ十界ノ相性勢力作因緣果報ハ空也假也中也ト云フ義也謂ユル中トハ絶待ノ義ニシテ十界ノ相性等ハ空トモ假トモ一偏シ難シト有無ノ破立ノ上ニカタヲチセヌヲ即チ中道觀ト云フ要スル所十種ノ諸法ヲ一念空ニテ觀ズレバ本ノ相ヨリ未ノ報迄空トナリ亦一念假ニテ觀ズレバ本ノ相ヨリ未ノ報迄假トナリ亦一念中ニテ觀ズレバ本ノ相ヨリ未ノ報迄中トナルト云フ義也而シテ空ニハ假中ノ二ヲ即シ假ニハ空中ノ二ヲ即シ又中ニモ空假ノ二ヲ即スル是ヲ即空即假即中ト云フテ圓頓ノ妙觀ト云フ是等ノ三觀モ一心ナレバ三諦ノ十法境界モ各々十界ヲ具シテ百界ト成リ各々衆生世間國土世間五蘊世間ニ經テ三千界ト成ルモ一實相也謂ユル十種ノ諸法(權也)ヲ究竟スルトキハ實相(實也)ノ一理ノ歸趣シテ等シクナルヲ以テ本末究竟等ト云フ所謂實相トハ實ヲ以テ相トナス也ト云ヘ分字シテ釋セバ實ハ理ニシテ相ハ事也事理不二ナルヲ實相ト云フ換言セバ十界ノ相ハ事也十界ハ一心ニ具スト云ヘバ

理也一心ノ具セル相ナルガ故ニ事理不二ノ義明カ也此十如是ノ法ハ宇宙間ノ眞理也佛家ノ安心茲ニ在リ能ク靜慮シテ工風スルトキハ大道ヲ發見シテ頓ニ妙覺ノ實位ニ昇ルヲ得ベシ逐次説明スルカ如ク十界万境此法理ニ依テ起盡等ヲ示サハナシ故ニ今理ヲ舉テ世界顯現ノ大元ノ一トナス

已上說來リタル時空物心理ハ本躰空ニシテ一如ナレドモ五大元ト分カル尙森羅万象ト分ルレドモ一躰トナル故ニ是等ノ義ヲ今ノ哲學士ハ一體兩面ノ說ト云フ依テ須ク知ルベシ佛教ハ唯心論ニ非ズ唯物論ニ非ズ即真空實有中道實相ノ妙法ナルヲ爾ラバ何ゾ世間一片ノ俗說ト同視ス可ンヤ乃ヘ我佛教ハ因果ノ定義ヲ以テ一切ヲ通說ス故ニ我國古代ノ說及ビ天耶教ノ如ク世界ノ元因ヲ說テ結果ヲ說カザル者ト同ジカラズ我佛教ハ了義經也理トシテ盡サハルナシ故ニ我國古代ノ說及ビ天耶ノ如ク神ノ化現ヲ說ヘテ何ノ理ニ依テ化現セシカ其結果何ニ歸趣スル原因結果ヲ盡サハル者ト異レリ我佛教ハ世界ノ通說也故ニ我神道及天耶ノ自國始元ノ別說ト異レリ我佛教ハ三世洞達ノ教法也天耶其他ノ一世二世ノ學說ト異レリ我佛教ハ止ニ其始終ヲ說クノミナラズ乃ヒ無始無終ヲ詳說セル圓滿完結ノ大法也願フニ佛ノ難解難入止々不須說等ト仰セラレタル希有ノ妙法ヲ圖ラズ尊重ノ念ヲ忘レ輕々贅論ニ引證セルコト其罪謗法ト均クシテ恐レ難キヲ恐ル乞フ貴子予ガ法界一滴ノ說ニ於テ法味ヲ得讚佛乘ノ資饌トナシ予ガ口業ノ罪報幾分ヲ滅ゼシメ玉ハンコトヲ

問テ曰高説ニ依リ世界ノ集散成敗循環無究ノ佛説ヲ會得シ多年ノ疑雲一時ノ教風ニ霽
 レ爽絶快絶歡喜極リナシ中ン就ク十界ハ自然本具ニシテ空假中ノ三諦三觀也ト拜聽シ
 テ我他彼此ノ妄執ヲ離レタルノ感アリ特ニ今日佛門ニ於テ安心ヲ得タルハ宿縁開發ス
 ル所ト感泣ノ外ナシ依テ自今生々誓テ三寶ノ恩ヲ謝シ奉ラント欲スル也爾ルニ從來佛
 教ト實驗學ノ關係上會通シ難キ細目多クアリ依テ敢テ問フ有情非情ノ原因ニ就テ唯物
 論士ノ曰ク腦髓ノ大小ニ從テ神經作用ノ敏捷ト遲鈍トノ差別ヲ作ス感覺ノ強弱ハ有機
 性ノ原素多少ノ原因也其最モ多キ者ハ聖賢トナリ最モ少キ者ハ禽獸ニ擇ビナシ己下次
 第二禽獸虫介ノ無筋骨無血璜石土塊ノ如キ無機物アルハ即有機性ノ元素聚合彌微少
 ナルヨリ全ク缺乏ニ到ツテ純粹ノ無機物ト成ル也之ニ依テ知ル感情ハ原素ノ聚合充分
 不充分ニ職由シ決シテ原素ノ外ニ心識ナル者アルニ非ルコトヲト若爾ラバ佛教ノ五大
 元ノ中ナル心ト云フ大元ナシト云フニ同義ナラズヤ
 答テ云ク化學作用ハ活力ニ勝ツ能ハズト云ヘリ須永氏云ク近來歐米ニ於テハ人工ヲ以
 テ雞卵ヲ製造スルノ法ヲ發明セル者アリ然レトモ動植物ノ生活上ニ於ケル一種ノ精氣
 ナル者ハ人爲ノ起サシノ得可キニ非ザルヲ以テ人工雞卵ハ其蛋白分ハ勿論黃子外殼ト
 モ毫モ實物ニ違ヒナキ者ヲ製シ得タルモ之ヲ孵化シテ雞トナラシムルコト出來得ザリ
 シト又或ル學者ハ化學上ノ方法ヲ以テ人肺ヲ製作センコトヲ勉メ其構造ハ粗ボ成ルニ
 近キニ至リシモ其一片靈活ノ氣ヲ與フル能ハザリシ爲メ活人ヲ造出スルコト能ハザリ

シト然レバ化學ハ如何ニ進歩ス共到底活力ヲモ起シ得ルニハ至ラザル可キハ勿論也ト
 云フ蓋是レ未ダ腦髓中ノ活力アル靈妙ノ原子ヲ發見セザルガ爲カ原子哲學師(分拆シ
 テ原性ヲ失ハザル限リヲ分子ト云ヒ原性ヲ分拆シ失フタルヲ原子ト云フ前説ノ極微分子也)デモクタス氏ノ原則第六ニ謂ユル精神ハ
 美ニシテ且ツ柔カナル圓形ノ原子ヨリ組成シ而シテ其原子ハ恰モ火ノ原子ニ類スト是
 レ唯物論最上ノ精微ニ達シタル者也爾レドモ未ダ其原子ヲ以テ作物ニ靈活ヲ與ヘ得タ
 ル説ナキハ蓋原子ハ發見スレドモ夫ヲ捕收スルハ人間作用ノ及バザル處カ然レドモ是
 ラノ説ハ佛家之ヲ概シテ肉團心ノ原素トモ云フベシ實際心性ハ其以上ノ無形説ニシテ
 謂ユル原子ノ精微ナル物ト心性ハ交涉シテ原子ナル物質カ將タ心性ナル無形ノ分際カ
 分別シ難キ幽玄ノ極致ヲ色心不二ト云フ可シ故ニ唯心所造説モ唯物化合説モ一偏ヲ執
 テ立論スルニ貫徹セザルコトハ無カル可シト雖此ノ如キ相待説ハ畢竟真理ニ非ス真理
 トハ樹木ノ真ノ如ク二個アル者ニ非ズ即チ中道ヲ云フ者也中道ハ宇宙ノ眞象ナリ即チ
 之ヲ實相トモ云フ佛家ハ常ニ中道實相ノ觀念ナクンバ非ズ佛法固ヨリ統合總括ノ法ナ
 レバ已ニ絶對的ノ五大元ヲ説ケリ故ニ知ルベシ五元即一元即五元ナルヲ豈偏見以テ
 唯心論ヲ廢セントシテ唯物論ヲ擴張スルヲ要センヤ茲ヲ以テ強テ化學ト佛敎ヲ會通セ
 ント欲セバ須ラク知ルベシ無機物ハ愚鈍ノ心性ト相應シテ因縁和合シ有機物ハ智賢ノ
 心性ト相應ノ因縁和合スルコトヲ即心成佛義ニ曰六大无碍常瑜伽矣六トハ地水火風空
 識ノ法數也大トハ此六個ノ事物法界ニ遍滿シ無邊ナルガ故ニ云フ无碍トハ地大ノ中ニ

餘ノ五大涉入シ餘ノ五大モ又互ニ涉入シテ有形(地水火風)ト無形(空識)ト反對物が融通シ互ニ障碍セズ壅塞スルコトナキヲ無碍ト云フ換言セバ燥性ノ煙火ト濕性ノ冷水ト堅固性ノ地ト搖動性ノ風トノ反對物が衝突セズシテ一ノ物質ヲナスモ即无碍也瑜伽トハ梵語此ニ相應ト云フ無碍无別ノ性ガ有碍有別ノ物ト因縁和合セルヲ相應ト云フ簡短ニ云フトキハ六大相應シテ事物ヲ成シ居レドモ本体ハ无碍也亦本体ハ无碍ナレトモ相應シテ萬象ヲナシ居ルト云フ義ニシテ即絶待ノ義ナリ深義多含ナル妙文ナレトモ前號ヲ正確ナラシメン爲ニ一義ヲ摘用セシノミ

問テ曰ク 元素ハ和合性ノ物ナリヤ分離性ノ物ナリヤ若和合性ト云ンカ化合ノ物体離散ノ終リアル可ラズ亦分離性ト云ハンカ分離シテ化合ノ時機アル可ラズ勢力保存性ト云ハンカ和合ノ勢力保存スル限リハ離散セザルベシ離散ノ性力モ亦然リ物質不滅ト云ハハ勿論原素ハ不滅ニシテ世ニ存在ス可シ存在スル限リハ十四原素集合シテ生レシ人ハ十四原素ノ世ニアラン限リハ死ス可ラズ而ルニ死スル所以ハ如何ン夫レト同シク四大和合シテ生レシ人ハ四大世界ニ周徧ノアラン限リハ死スコトモ勿ル可キニ死スル所以ンハ如何ン六大相應シテ物ノ生ズル義ナラバ同形同相ノ物ノミ生ズ可キニ千態萬狀ノ物ノ生ズルハ如何ン

答テ曰ク 物質ト心性ト互ニ涉入ノ和合シ離散シ生死アリ隱顯アリ異形異相ノ象アリテ三世因果ノ理ヲアラハス也然ルニ物質即原素ニノミ依テ理ヲ究ントスルガ故ニ此

ノ如キ疑念ヲ生ズル也即チ心意業力ニ依テ萬物ハ和合スル者故業力盡テ離散セル所以ン譬ヘバ心ハ弦ノ如ク物ハ矢ノ如シ發射ノ弦力ニテ矢ハ飛行クト雖弦力ノ盡ルヤ地ニ向テ墜落スルガ如シ三世ノ業力ノ如キハ鍛冶ノ火星ノ如シト即細分ノ火ハ最近邊ニテ消ヘ中分ハ中邊ニテ消ヒ最遠邊ニテ消ユ是レ則順現順次順後ノ三世ノ業力ヲ譬フル者ニノ性力恒存ノ義ヲ消釋セル者也ト知ルベシ無量ノ衆生ニ无量ノ形相アルモ皆心性ノ造ル所也細言セバ正報ノ精神(識大)轉業スレバ依報ノ十四原素ノ身體(四大)モ轉業ノ異物變體ヲ爲サバ可ラズ精神轉業スレバ同ク異體ノ境ニ往生セザル可ラズ是色心不二ノ謂ヒ也唯識論ニ曰此識性无始時來剎那剎那果生因滅果生ズルガ故ニ非斷因滅故非常非斷非常是緣起理故トアリ即人界ノ業盡テ他界ニ生ズルモ無生ニシテ生ジ無滅ニシテ滅ス不往ニシテ往キ不來ニシテ來ル也之ヲ喩フルニ金石ヲモ透徹セルイーセルガ太陽面ヲ攪動シ須臾ノ頃ニ視神經ニ光線ヲ感覺セシムル如クナラン萬境ノ性相ハ天然ニ具レリ故ニ故ラニ同體同相ノ物ノ生ズルコトモナシ之ヲ天台ハ常同常別古今法爾ト云ヘ又有佛無佛性相當然トモ云フ又經ニ不增不減トモ云フ四大ハ異體ヲナスモ本具ノ十界ノ相ヲ出ズ識大來往ストモ十界ノ性ニ外ナラズ十界本來一心ノ内ナレバ不_レ去シテ去リ來ラズシテ來リ外見ニ生死隱顯アレドモ實體生滅ナシ故ニ不生ニシテ生ジ不滅ニシテ滅スト云フ能ク色心二法ヲ悟明スレバ一切ノ疑雲トシテ晴レザルハ无ルマシ近世ノ學說ニ於テ佛說ニ近似シ而カモ佛說ヲ正確ナラシムル引例數多

シ
デモクタス氏ノ原子哲學ノ原則六項ニ曰ク

一萬物ハ虛無ヨリ生ゼズ（俱舍論ノ法體恒有ト同義也外致ノ無ヨリ有ヲ造リシ説ニ反ス）

二萬物ハ偶然ニ生ゼズ凡テノ遭遇ハ必ズ原因アリテ必然ノ理ニ依テ起ル（佛家ハ因縁ノ理ヲ説ケリスビノザガ因果ノ理法ノ外一理）

一法ナシト論定ス是近世ノ卓見ト云フベシ

三世ニ生存スル者ハ原子ト空間トノミ他ノアラユル事物ハ皆ナ意思ノ生ズル所ノミ（佛家意識ヲ以テ萬境ノ原因トナスコト前ハ具ニセリ）

四原子ハ其數无量ニシテ其形无究ニ變ズ或ハ相衝突シ或ハ横動ヲ爲シ或ハ回轉ヲ爲シ以テ世界ノ元始ヲ爲ス

五萬物ノ變化ハ原子ノ數ト大サト及ビ其集合ノ變化ニ基ツク

六精神ハ美ニシテ且ツ柔カナル圓形ノ原子ヨリ組成シ而シテ其原子ハ恰モ火ノ原子ニ類ス此等ノ原子ハ能ク變動シ又全身ニ周遍シ其運動ヨリ生活ノ現象ヲ生ズ

ルクレシアス氏曰ク 凡ソ物體ハ無究ニ分拆スルヲ得ズ吾人之ヲ分拆シテ遂ニ極微ヲ得ルモ若シ萬物ノ基礎タル極微ニシテ壞散セシメ得バ萬物ノ生育發達ノ次序モ亦壞滅ニ至ラン

マクスウエル氏曰ク 吾人ノ知ル如ク假令天然ノ原因ハ日々運動シ地球ト諸太陽系トノ排置及ビ其區域ヲ破壞セズトスルモ之ヲ變更スルノ傾向ヲ有スルヤ明カ也幾星霜ヲ經ル間ニハ天幹ニ於テ變革ノ行ハレシコトモアル可ク又既往ノ組織全ク廢頽シ新規ナル組織其衰滅ノ後ヲ占ムルコトモ有ラン然レドモ物質界ノ基礎トナリ萬有ヲ組織スル分子ハ是等ノ變換ニモ關セズ消散磨滅セズシテ永久ニ存スル者也

前舉哲學家ノ諸説ハ自ラ佛説ト寔合セル者也便チマクスウエル氏ノ説ハ太陽及ビ地球等ハ永遠ノ間ニ變換廢頽シ新規物ノ其後ヲ占ムル義ニシテ佛家ノ成住壞空ノ無常ノ理ヲ自ラ感發セシ者也物質不滅説モ又我が法體恒有及ビ不増不減ノ義ニ契符セリ又ルクレシアス氏ノ説ハ極微ノ分拆ス可ラサル説ニシテ唯物學ノ極點ヲ稱セリデモクタス氏ノ原則六項ハ盡ク佛門性相家ノ常談トスル處也而シテ六項ノ精神ノ原子説ハ微妙ニシテ當時世人ノ未發ナリシ神經系ノ職分ヲ爲サシメン爲ニ設ケシ者也ト云フ是レ佛家ノ識大周徧ノ義ヲ講究スルニ於テ確實ナル參考ニ供スベキ者ナラズヤ殊ニ我が識大周徧ノ理己ニ西洋哲學者ノ認知スル所トナレリ豫想スルニ外人尙一躍シテゴットノ隸籍ヲ脱シゴットガ靈魂賦與説ヲ摧破シテ佛ノ眞如海ニ遊泳スルモ遠キニ非ル可シト信ズ爾リト雖モ彼ノ徒ガ黄金ノ餌ヲ以テ迷鱗ヲ釣ルヲ奈何セン是ラノ迷鱗ヲシテ能仁ノ法網ヲ以テ救ヒ取り眞如海ニ放生スル事業ハ今日無財ナル僧家ニノミ委ス可ラズ我國ノ文明ヲ計ルニハ宜シク佛門ノ檀信徒爲國爲法ノ目的ニテ淨財ヲ投ジ佛法僧ヲシテ旺盛ナ

ラシメザル可ラズ僧家ハ精神茲ニ在リト雖モ財力乏クンテ到底事業ヲ成ス能ハザレバ也之レニ依テ予ノ如キ居士旨義ノ輩滿天下ニ群出シ政教ニ跨ツテ運動スルナケレバ何レノ時ヲ期シテカ皇國ヲ鞏固ニシ佛日ノ增輝ヲ膽ルヲ得ン若シ國人拱手シテ荏苒タラバ不日妖教ノ毒霧全國ニ充塞シ倭魂モ終ニ朦朧ト爲リ去ラン耳噫

問テ曰ク 近世ノ學說ト佛敎ハ反對セザルニ止マラズシテ危ヨリ細ニ入り蘊奧幽玄ニシテ應用自在ナルニ敬服セリ尙諮問セマク欲スルハ前說ニ謂ユル滿開時世ニ適スル宗敎ハ無神敎ナリト云ヘル所以也現世紀ハ稍開明ノ時運也而シテ天下ニ具眼ノ士多ラシニ何ガ故ニ夫ノ無神敎ヲ撰擇シテ世間ニ施行セザルヤ小子ハ無神敎ノ名目ヲ知ツテ未ダ能ク無神敎ノ宗義ヲ會サハル也請フ之ヲ詳說シ玉ハンコトヲ

答テ曰ク 謂ユル無神敎トハ則神ト人ト本來同體也或ハ人間ガ神ノ位地ヲ占ムレバ人即チ神也ト唱フル是也亦是レニ對シテ神ハ神變不測ノ妙力ヲ現ハス者也若人ニシテ其ノ神業ヲ爲ス能ハザレバ神ト稱ス可ラズ或ハ神ノ行蹟ヲ踐修スルコトヲ得ザレバ人ハ人ニシテ神ト同ジカラズト云フ之ニ由テ通考スルニ耶蘇新舊ノ敎徒ヲ問ハズ天帝ノ如キ眞神ヲ建立シテ之ヲ造化ノ神也ト尊信スル如キ立敎ノ宗徒ハ到底人ハ神ト同一ナリト觀念スルコト能ハザル可シ何トナレバ彼レガ云フ神ノ如ク既ニ人間ガ世界萬物ヲ捏造スルコト爲シ得ザレバ也籍使ユニテリアンガ上帝ヲ說クハカトリック若クハプロテスタントノ上帝說ニ異リテ宇宙萬象ノ大擘ヲ總管スルモノヲ第一原因ト名ケ又ハ宇宙

カト稱シ又ハ上帝也ト云フト雖又蕩々居士カ之ヲ佛敎ノ法性法身ト相似テ之ヲ如何ンガ簡別セント云フト雖彼レガ立敎ノ本擘神造世界說ニシテ造化主ト建テタル天帝ヲ本尊ト爲ス以上ハ人ガ上帝ト同一ノ神力ヲ具シ世界ヲ創造シ或ハ改造シ或ハ靈魂ヲ賦與シ得ザル限リハ爭デカ神人同一ヲ唱フルコトヲ得ンヤ井上圓了氏妖怪哲學宗敎部門ニ曰ク耶蘇基督獨リ神子タルノミナラズ一切ノ人類ハ皆神ノ造ル處ナレバ悉ク神子也トシ三位一擘ヲ解シテ神人同躰トナシ更ニ進ンデ草木國土アラユル諸物ハ皆悉ク神ノ手ニ成ルヲ以テ亦神子也トナシ其萬有ノ有スル所ノ勢力ヲ以テ神ヨリ分賦セラレタル神靈也トナストキハ三位一擘說忽チ變シテ神物同躰說トナリ萬有ト神ト平等无差別也ト云フニ至ラン然ルトキハ耶蘇敎ノ三位說ハ終ニ佛敎ノ三身說ニ歸シ兩敎合シテ一トナラン佛敎ニハ已ニ一切衆生悉有佛性ト云ヘ草木國土悉皆成佛ト云フハ即チ生佛一擘平等說也然レトモ今日耶蘇敎ハ未ダ此ニ至ラザルハ是レ其ノ佛敎ニ數歩ヲ讓ル所也ト云ヘリ然レバ耶蘇敎ハ客觀的ニ有神ヲ確信シテ神人一擘トナラザル所以ン明ケシ故ニ外敎諸派ヲ概シテ客觀的有神敎ゴツトノ奴隸敎ト云フナリ

次ニ我國ノ神ハ彼ノ基督教ノ天帝ト異ル所以ンハ彼レハ純粹ノ宗教的ニシテ此レハ國家的也所以ンハ如何ニ大古我國ニ發現セシ人ト物トノ德ヲ尊ンデ神ト名ケシ者ナレバ也惟ルニ今神代ヲ去ルコト遠シト雖人トシテ能ク神惟ノ道ヲ行ヒ得レバ神人同一ト云フコトヲ得可シ何トナレバ神惟ノ道トハ無爲ニ彝倫ノ道行ハル、ヲ云フトアレバ我國

ノ特性ナル君臣ノ道ヲ確守シ自國ヲ愛護スルノ和魂ヲ有シタル者ハ則神ト云フヲ得可シ何トナレバ 天皇ヲ現神ト崇メ奉リ身命ヲ犠牲ニ供スレバ即國靖ノ神社トシテ祭祀セラレバ也然レドモ宗教思想ニテ現生中ニ民タル者天之御中主神及ビ天照皇大神等ノ諸神ト同躰也ト云フコトヲ得サルベシ是レ甚ダ不敬ニ涉レバ也亦死後ト雖モ汝臣民ヲ祭レバ大國主ノ神ト同躰等ト云フコトモ能ハザルベシ是亦君臣上下神人ノ階級嚴然隔歴タル客觀的ノ有神見ナレバ無神教ノ範圍ニ非ザル也殊ニ死後神トシテ鎮祭スル義ハ中古佛教傳來已後佛式ニ摸倣シタル者ナルヤ昭然タリ其ハ神典ニ蒼生ヲ神トシテ葬祭セシ證例ハ嘗テアルコトナク但之レアルハ中世已來ノ新道ニシテ我神道ノ本色ニ非ズ何トナレハ人皇歷代ノ 尊靈ヲ神トシテ祭祀セシ例ナケレバ也譽田天皇ヲ八幡大菩薩ト稱シ奉リ菅丞相ヲ天滿天神ト稱シテ祭祀セシハ皆佛教信者ノ所爲ニシテ我神道ノ本旨ニ非ズ然リ而シテ歷朝ノ 皇靈スラ神トシテ祭祀セズ專國葬喪齋ノ古式ニ準據シ玉ヒシヨリ推ストキハ民ガ神葬後何レモ神ト作ルト心得ルハ神道ヲ知ラザルノ謬リ也何トナレバ佛家ノ成佛說ノ如ク人ガ神ニナルノ義ハ毛頭神道ニナケレバ也已ニ明セル如ク今我國ノ神ナル者ハ神惟ナル無爲ノ忠孝ヲ行ヘ國ノ爲ニ身命ヲ抛テ勳功赫々タル者ヲ神ト稱シテ祭祀セル也依テ當ニ知ルベシ此レハ歷史的ノ國家教ニシテ純粹ノ教宗ニ非ズ神人同一ヲ云ヘドモ宗教的ノ所論ニ異レルコトヲ

佛教ハ已ニ井上博士ノ所論ノ如ク生佛一如ノ宗義ナリ故ニ曰三身即一曰衆生即佛曰凡

聖不二曰是心作佛是心是佛等ト常ニ談ズル處止ニ人間ガ佛ト同一ナリト云フノミナラズシテ十界ノ衆生ガ盡ク一法性ニシテ天界モ地獄モ舉テ佛也ト爲ス細言セハ衆生外ニ佛ナク佛ノ外ニ衆生ナシト云フ者也天台傳佛心即ニ曰ク具ノ一字彌、本宗ヲ明セリト所謂具トハ善惡ノ十界ハ心性ニ具有スルトノ義也此性具ヲ問カバ誰カ凡聖即一煩惱即菩提生死即涅槃等ノ法味ヲ得テ佛ノ大覺位ヲ占ムルヲ得ベシ禪家ハ直指人心一見心性成佛ト悟リ淨家ハ佛心凡心機法一體ヲ示シ言家ハ三密瑜伽ノ觀想ニテ己ノガ三業ヲ佛ノ三輪ト相應セシメ一體无二ヲ修證ス此ノ如ク佛教ハ佛ト我ト入我々入シ無我平等慧ヲ證得シ三界ノ獨尊ト歎呼スルニ至ル是レヲ當ニ無神教ト云フベシ若シ生佛ノ間ニ一塵ヲ挾メバ己ニ天地無隔シテ主觀的ノ佛教ニ非ル也佛祖統紀四十六(二十六丁)曰ク神宗元豐三年張商英初仕入僧寺見藏經嚴正佛然而曰吾孔聖之教不加胡人之書耶位座長思憑紙閣筆妻向氏曰何不睡去商英曰吾正此著無佛論向曰既言無佛何論之有當著有佛論可也且商英默而止後詣同列見佛龕前維摩詰信手開視有云此病非地大亦不離地大倏然會心借歸細讀向曰讀此經始可著無佛論商英聞而大悟由是深信其道後謁東林總禪師遂蒙叩可云フ見ヨ佛教ハ固ヨリ有佛ヨリ無佛ヲ説キ佛無ヨリ有佛ヲ説キ殺活自在ノ法輪ナリ商英ノ心ニ會シタル經説ノ據ハ即維摩詰文殊師利問疾品第五也曰是病非地大亦不離地大水火風大亦復如是ト肇師注メ曰四大本性自無也衆緣既會增減相對以之生耳欲言有病本性自無欲

言ニ無病ニ相假而有故地ニ非亦不離地餘大類爾也是レ等ノ文ヲ會ストキハ無佛ト云ハントスレバ却テ有佛ナリ有佛ト云ハント欲スレハ還テ有佛也畢竟有無相融シ生佛一如ナリト悟明セン夫レ無神教トテ神佛ヲ蔑如スレバ亦タ無ノ見ノ外道ナリ月ノ見モ亦外道ナリ宜ク中ヲ擇ンデ執レ

問テ曰ク小生内外ノ宗教ヲ比較シテ撰探センコトヲ志シテ茲ニ年アリ今日高説ニ接シテ我國在來ノ佛教ハ最勝幽妙ニシテ且ツ文明ノ世ニ適合セル無神教ナルコトヲモ知了スルヲ得タリ尙拜聽セント欲スルハ神佛判然ノ朝旨也本題ノ順序トシテ初メニ我國ツ神ノ實體ヲ開示シ玉ヘ居士ハ笏ヲ觀想シテ幣帛トナシ自他ノ六根ヲ淨メテ恭ク答テ曰ク太古我國ニ於テハ上ニ戴ク物ヲ總テカミト云ヒシトゾ則神上長頭髮等ト國音相通シテ應用セリ中ニ就ク神トハ尊極敬戴ノ稱謂也正ニ我國神ノ實體ヲ知ラント欲セバ宜シク神號ヲ會得スルニ在リ其故如何ン名ハ其德ヲ表ストモ名ハ理性ヲ詮ストモ云ヘバ也夫レ天之御中主ノ神トハ萬神ノ本體也便天也御中主トハ宇宙ノ主宰ノ義也神トハ無形ノ活機ニ名ク合釋スレバ天ノ蒼々タル空漠ノ中ニ造化ノ主宰ヲ爲ス無形ノ活機アルニ名ク此靈德ニ恒久生々化々ノ活動アリ其活動ニ暢伸收縮アリ(陰陽ノ元氣也)其暢伸セル德用ヲ名テ高皇產靈神ト云ヘ收縮セル德用ヲ名テ神皇產靈神ト云フ謂ユル高トハ丈高ク發達スルノ義也(丈ハ高シ武ケシ猛ル等ト働ク語ナリ)皇ハ尊稱ニシテ即御ノ字ト同ク用ユ産ハ蒸ノ義

ニシテ陰陽ノ兩氣氤氳蒸シテ物ノ生息スルノ義也(草生若生息子息女等ノ息ノ義)靈ハ古代靈妙ヲ只ヒト云フ(奇異魂日火等ト云フ義也)次ニ神皇產靈神トハ神トハ屈ノ切レルナリ(喘マン喘ム喘メト轉スル語ニテ)即チ噲縮收歛ノ義ニシテ前ノ丈高ク發達スルノ義ト反對ナリ皇產靈トハ上説ノ如シ聯合シテ會釋スレバ宇宙ノ萬象ハ内ヨリ外ヘ伸達スル德ト外ヨリ内ヘ噲收スル德トノ兩機妙合セル中ヨリ發生スル者ナルガ故ニ其活機ニ名ケテ二神ヲ發見ス是ヲ以テ知ル神道ハ陰陽説ナルコトヲ次ニ兩機妙合シテ初メテ彰ハル、德ヲ表シテ可美葦牙彥舅神ト名ク所謂可美トハ美稱也葦牙トハ葦ノ泥裏ヨリ萌芽ノ水面ニ現ハル、ヲ云フ即葦芽ノ中ニハ發達ノ活機ニ陽氣ヲ含メラ故ニ男子ニ比シテ彥舅ト云フ彥舅トハ男子ノ美稱也斯ノ如ク萬物漸々ニ發達ノ氣相慕リ自精神ハ形躰ヲ統ベ形躰ハ精神ニ伴ヘ形心相須チテ其底極ヲ立ツ其靈妙ノ作用ヲ表シテ天常立ノ神ト號ク天トハ无形ノ精神ヲ云ヘ常トハ常恒不變ノ義也(常盤常夜床處等ノトコ也)立トハ自主自立ノ義ニシテ底極ヲ自立セシヲ云フ意ハ精神ヲ常ニ變ゼズ自主自立セシ神德ヲ云フ亦タ國底立神トモ云フ此神ノ德用ニ清濁ヲ別ツノ功用アリ名ケテ泥土養神沙土煮ノ神ト云フ謂ユル泥土ハ浮土ノ切マレルニテ水面ニ浮キタル泥土ノ義沙土ハ洲土ニテ水上ニ現ハレタル洲壤ノ義ナリ煮ハ借字ニシテ尊稱也(古ハニトモネト互用ス今ハニノ上ニアノ發音ヲ加ヘテ兄姉)以上ハ則岐美二神ノ化生シ玉ヒル土地ト云フ兄ハ男ノ美稱ニシテ姉ハ女ノ美稱也

ノ功用ニ神號ヲ附シタルナリ(佛說ニ謂ユル依報土也正報身ハ岐)次ニ岐美ノ二神ノ御
 形ノ角グミ玉ヒルガ漸々舒々發達シテ活動シ玉ヒルニ名ケテ角穢神活穢ノ神ト云フ謂
 ヌル穢トハ固ヨリ借字ニノクミノ聊轉ズル詞ナレバ角グミ活グミト云フニ同ジ尙岐美
 二神ノ神體進化シ玉ヘ男女ノ差別判然タル處ニ名ケテ大處舅神大處姥神ト云フ謂ユル
 大トハ美稱ニシテ處トハ男根女陰ノ通稱也(本來トトハ處ノ古語也人體ニ陰部程靈妙
 詞ヲ添ヘテホト)舅トハ男子ノ尊稱也姥トハ女子ノ尊稱也彌々岐美二神ノ五體面貌滿
 ミトトモイフ(足シ玉ヘ瞻仰スレバ威儀凜然トシテ惶敬ス可キ相ヲ備ヘ玉ヒリ是ヲ名ケテ面足神惶根
 神ト云フ根トハ例ノ借字ニシテ前ニ引ク處ノ尊稱也更ニ岐美二神年頃壯シニ及ビ互ヘ
 ニ誘ヘ誘ハレ妹背トナリ唱和シテ衆物ノ發育ヲ佑全スルノ功績ヲ顯ハレ玉フ其德ニ名
 ケテ伊邪那岐尊伊邪那美尊ト云フ即伊邪那トハ誘引ノ義也岐ハ男稱ニシテ美ハ女稱
 也故ニ誘フ男君誘ヘ女君ノ切マリタル也去レバ以上六神ハ岐美二神ノ進化ノ順序ニ約
 ノ名ケ奉リシ神號也抑モ天之御中主ノ神ハ色心事理不二ノ神(天地万物生成ノ理ト云
 フ)ニシテ一氣兩分シテ一分ハ國土及ビ萬物トナリ又一分ハ岐美二神ト化現シタル也
 而シテ岐美二神以前ノ神ハ自然萬物ノ生成スル不測ノ理勢ニ命ケタル名號ナレバ是ヲ
 理體ノ神ト云ヘ岐美二神ハ日本人種ノ始祖ニシテ以後ノ神ハ化生ニ非ズノ血統ヲ以
 テ天下ノ祭政ヲ繼承ス故ニ之ヲ事體ノ神ト云フ而シテ理體ノ神ト雖モ無形ニ非ズ皆此
 土ニ發現セシ物體(神德ノ萬物ト顯現セシ義ノ故ニ)ニ具ル理ナレバ也惟ルニ有形世界

ニハ淨穢差別シ善惡苦樂アリ(神州ノ潔癖性及ビ善神惡神アリ)天照大神ハ弟神素佐男
 尊ノ暴行(神道排斥)ヲ凌駕シ終ニ敬神ノ道ヲ貫達シ身心清潔ヲ宗トシ天津罪國津罪ヲ
 穢除スルヲ以テ天下ノ法律トナシ玉フ故ニ祭政一致ノ國ト云フ(謂ユル天津罪トハ
 放溝埋穢放頻蒔串刺生剝逆剝尿戶ナリ國津罪トハ生斷死斷斷白人胡久ハ母犯罪
 已子犯罪母與子犯罪子與母犯罪畜犯罪昆虫乃災高津神乃災高津鳥乃災
 畜仆志蟲物爲罪ナリ)畔放ノ阿ハアゼノ略也田ト田トノ境界ヲアゼト云フ此アゼヲ取
 ヲ溝ト云フ此溝ヲ埋メテ水利ヲ害スル也種ヲ播シテ實ノラザル也申刺トハ姉神ノ田ニ串
 障害ヲナスヲ云フ蒔トハ重ヲノ種ヲ播シテ實ノラザル也申刺トハ姉神ノ田ニ串
 ヲ多ク隱シ刺シテ注意セザレバ足ヲ傷ハシムナリ生剝逆剝トハ姉神ノ田ニ串
 ル織殿ノ頂キヲ穿チ天ノ斑馬ヲ逆剝シテ墮シ入ラレシ也尿戶トハ古事記ニ於テ開ニ看大
 管ニ殿上尿麻理散トアリ尿トハ尿閉理ニテ比理ト音通シテ義同キ也以上七科ハ天津罪
 ナリ生斷死斷トハ本居云ク生ケル人ニモアレ死屍ニモアレ其屬ニ疵ヲツケル穢
 レヲ以テ罪トスル也白人胡久美トハ本居云ク之良波太トアル物ノ類其外世ニ白子ト云フ
 物杯ノ類ヲ云フ胡久美トハ阿萬之之ニテ贅肉也此類ハ共ニ穢レ物ナル故神モ人モ忌ミ
 惡ム所ナリト已母犯罪トハ古事記仲哀天皇ノ御段大穢ノ所ニ上通下通婚ト云フ
 ル是也母與子犯罪トハ一トタビ嫁シテ女子ヲ産ミタル母親ヲ娶リ其子迄犯セルヲ云フ
 子與母犯罪トハ是ハ女子ヲ娶テ其母ヲ犯スヲ云フ畜犯罪トハ鳥獸ヲ犯ス也今ノ異邦人
 羊ヲ犯スト云フカ如シ昆虫乃災トハ惡行ノミニハ非ズ穢モ都美ナルヲ構ヘナリケレバ
 虫ノ害多カリシト見ユ都美ト云ハ惡行ノ詞ニハ非ズ穢モ都美ナルヲ構ヘナリケレバ
 聊カ疑ヒナシト高津鳥乃災トハ此災大殿祭ノ詞ニハ非ズ穢モ都美ナルヲ構ヘナリケレバ
 代ノ竈處ノ上ノ煙ヲ出處ニ諸鳥ノ毒糞又ハ毒物ヲ昨來テ此毒ニアタル災也高津神乃災
 トハ高トハ空ヲ云フ古事記ニ高往鶴高行ヤ隼ナド皆空行空飛ノ義高津神トハ雷ヲ云フ

ナルベシ畜仆志トハ多布志ハ令レ斃ニテ殺スヲ云フ蟲物爲罪トハ上代ヨリ萬自物アリ
 タリト見ユ蟲物トハ人ヲマジナヒ詛フトテ構フル業ナリ又咒ハレテ災ニカ、ルモ罪ナ
 リ以上十一科ハ國津罪ナリ今世ニ於テモ是ラノ天罪國罪ヲ犯サズ（此天罪國罪ヲ祓除
 ルヤウ謹戒スルハ日本人民タル者ノ本意ナラン知ラザル可ラズ）
 シテ清淨ナラシムルハ我國法ナレバ今人モ罪穢ヲ犯サ、ランコトヲ欲セザル可ラズ却
 說天照大神ハ祭政一致ノ道ヲ立テ皇孫ノ尊ニ寶祈ヲ嗣ガセ玉フ爾時ノ神勅ニ曰ク豐葦
 原ノ千五百秋ノ瑞穂ノ國ハ我生ノ孫ノ皇タル可キノ國也汝皇孫往テ治セヨ天ツ祚ノ隆
 當サニ天地トムダ究ミ無カルベシ矣如レ是神敕ニ依テ君臣ノ大道確立シ異邦ノ如キ禪
 讓放伐ノ患ナク皇統一系ノ 天皇ヲ奉戴シ無限ノ恩賚ヲ蒙リ支流餘裔安寧ノ大福祉ヲ
 享受スル者ハ咸ナ 皇大神ノ恩澤ニ非ルハナシ是レ我國ニ於テ上下一致シテ報本反始
 ノ至誠ヲ挺ジ恭敬シ奉ル處ノ諸神ノ實体ナリトス
 問テ曰ク 次ニ佛ノ實躰ヲ説明シ玉ヘ

居士塗香ヲ拈シ三禮シ謹ンテ答テ曰ク佛ト云フニ就テ如影集ノ四和訓部ニ四義ヲ明セ
 リ一ニハ煩惱ノキヅナガホトケタリト云フ心也二ニハ萬法ノ義理ガ能ク心得ホドケル
 故也三ニハ善光寺如來ヲ守屋等火ヲ以テ燒ク然レトモ湯ニアラザル故ニ難波ノ江ニ捨
 タリ其後堀出シテ見レバホトヨリ氣アリシ故也四ニハ聖德太子佛敎ヲ點シテ讀ミホド
 ケル故也ト云ヘリ右第一ノ義ハ解脫ノ義ニ約シ第二義ハ知者覺者ノ義ニ約シ第三第四
 ノ義ハ本朝ノ因縁ニ約シテ佛ヲホトケト唱ヘ來レルノ謂ヒ也字書等ニ佛ヲヨステビ

ト抔ト訓ゼシハ悉ク義ニ背ケリ何トナレバ佛ハ世ヲ棄ルニハ非ズシテ盡未來際世ノ衆
 生ヲ濟度シ玉フ者ナレバナリ文ノ一ニ佛ト者具ニハ佛陀ト云フ（梵語）漢語ニ譯セバ
 知者覺者トナル故ニ大論ニ曰ク秦ニハ言フ知者知ニ過去未來現在衆生非衆生數有常無
 常等一切諸法ニ菩提樹下了々覺知故名ニ佛陀ト亦文覺者ノ三義ヲ明ス一自覺二覺他三
 覺滿也而シテ西谷名目鈔ニ釋シテ曰ク凡夫ハ三覺都テナシ二乘ハ初ノ一ノ覺アリ後ノ
 二ノ覺ナシ菩薩ハ初ノ二覺アリ第三ノ覺滿ナシ佛ニハ三覺共ニ有レバ覺者ト云フナリ
 ト謂ユル自覺トハ已ノガ本性ヨリ無常ノ身ナルコトヲ覺リ常住ノ境界ニ入ルコトヲ修
 行スルヲ云フ覺他トハ其自覺ハ勿論他ノ生類ノ本性ヨリ無常ノ物ナルコトヲ覺リ共ニ
 常住ノ境界ニ歸入センコトヲ修行スルヲ云フ覺滿トハ覺行圓滿ノ略ニシテ自覺覺他ハ
 勿論常住涅槃ノ境ニ歸入スルノ修行究竟圓滿セシヲ云フ也私志記ニ云ク對ニ愚迷者不
 レ覺不レ知名ニ覺知者ト云々故ニ轉迷開悟スレバ衆生モ即チ佛也苟クモ體アル者ハ相ア
 リ相アル者ハ用アリ謂ユル體相用ノ義ヲ以テ佛ニ三身ノ義アリ今三身ノ義ヲ集注シテ
 佛ノ何ンタルヲ知ラシメントス謂ユル三身トハ法報應也初ニ法身ヲ明サバ法トハ可軌
 ニ名ケ身トハ聚集ノ義ナリ眞如平等性相宛然トシテ身土無碍ナル佛也又理法聚ト云フ
 ハ理トハ性ニ本具ノ德也其理性ノ清ク明カナル體ハ虚空ノ如ク處トシテ徧チカラズト
 云フコトナク諸佛ト衆生ト同一ノ相ナリ自是レ本來正覺ノ相ナルガ故ニ本覺佛トモ云
 フ性相名目ニ云ク法身ノ如來ハ非ニ青黃赤白色ニ非ニ長短方圓形ニ離ニ四句ニ絶ニ百非ニ言語

同斷心行處滅佛也ト四句ヲ離ルトハ有ト無ト非有非無ト非有無ト非有無トノ
 四見ヲ離ル、ヲ云フ百非ヲ絶ストハ前五大元原説ノ初ニ於テ説明セリ宜ク對照ノ知ル
 可シ此佛ノ性相ヲ究盡スルハ唯佛ト佛トノミ能クシ玉フ所ニシテ未ダ聲聞緣覺菩薩衆
 ノ窺ヘ知ラル可キ處ニ非ズ況ンヤ觀ジ説クコトヲ得ンヤ是ノ故ニ言語同斷心行處滅ト
 云フ苟モ此法身ヲ悟了スレバ已ニ佛地ニ入りタリトノミ性相名目ニ云ク理法身者凝然
 眞如當體也如空虛離思慮言語也ト是之ヲ云フ但シ萬法法身ナルガ故ニ千色萬形ヲ
 離レタルニ非ズシテ離ルト云フ爾ル所以シノ者ハ其一物ノ形色ヲ云フトキハ一物ヲ執
 シテ餘ニ涉ラザレバ法身ノ妙體ニ迷惑スルガ故也然レバ則法身ト指セバ天ノ外地ノ
 地外ノ一切ノ萬物ヲ指スガ如シト意得ベシ不増不減經ニ曰ク不離衆生界有法身
 不離法身有衆生界衆生界即法身法身即衆生界也ト云ヘリ彼ノ外教ガ能造所造ノ
 尊卑ヲ差別セル者ト異リ一色一香アル者擧テ法身如來ノ體ニ非ルハナシトス如來トハ
 金剛經ニ曰無所從來亦無所去故名如來ト无上依經ニ曰ク此法身流轉五道一名
 爲衆生即此法身修六度一名爲菩薩即此法身到於彼岸一名爲如來ト爾レバ則吾
 人ハ凡夫ニシテ五道ニ迷ヒル者ナレドモ法身ノ異名ナル吾人ナリト知了セラル、ナリ
 次ニ報身ヲ明サバ報トハ因行ニ緣リ證果ヲ得タルヲ云フ是レ始覺ノ如來ニノ智法聚
 云フ理内本分ノ智慧性ハ无言説ノ上ノ言説ナリ譬ヘバ如草木已知レ時種々華開種々
 結果乃至畜趣取食念子等皆法身身體是レ即性德ノ智慧也古人云ク蜘蛛結網文殊智

慧螻蟻養子觀音慈悲ト是レ下等ノ動物ト雖天然ノ自性ニ具フル智慧能力アル也此ヲ
 以テ當ニ知ルベシ一切性德トシテ起ル所ノ智能ヲ指シテ智法聚ト云フコトヲ聚トハ即
 チ身ノ義ナルコト前ニ註セリ又智ハ即修德也ト云フ即始覺ノ智ヲ究竟シテ清淨本覺ノ
 理ニ契ヘ理智互融シ色心不二ナル智ノ現ルヲ智法身ト云フベシ性宗名目ニ云ク報身如
 來トハ報ハ酬ニ萬善萬行修顯ニ本覺顯照智慧ト上冥ニ法身ト下契ニ衆生機ト皎々如滿月
 巍々如須彌是修德圓滿如來ト摩訶衍論ニ曰ク所言報身者具勝妙因受極樂果
 自然自在決定安樂遠離苦相故名爲報ト云ヘリ又報身自受用身他自用身分別アリ所
 謂自受用身トハ(自ラ法樂ヲ受クルノ義)内智光ヲ以テ眞法界ヲ照スヲ云ヘ他受用身
 トハ(他ニ法樂ヲ受ケシムルノ義)外身光ヲ以テ衆機ヲ照應スルヲ云フ也亦性宗名目
 ニ云ク自受用身トハ但正智圓滿後心ヲ取ル萬善萬行ヲ修シ鏡ヲ磨キ玉ヲ研クガ如シ我
 等具德ノ本覺ヲ修シ顯ハシ鉢得シテ本覺ニ冥ヒ境智妙合スルコト函ト蓋ト相應スルガ
 如シ是即智慧身ナリ(修德圓滿ノ智也)他受用身トハ八萬四千ノ相好ヲ具ヘ音聲無邊
 色像无邊ノ佛也ト云ヘリ梵網經曰ク我今盧舍那方坐蓮花臺周匝千葉上復現三千釋迦
 一華百億國一國一釋迦各坐菩提樹一時成正覺矣是レ他受用身相ナリ言ヲ換ヒテ
 云ヘバ法界身上ニ大聖ノ世間ニ出現スル時機ニハ十方ノ國土ニ聖人顯現シ異口同音ニ
 妙法ヲ説キ玉フヲ云フ此報身ノ佛名ヲ盧舍那ト云フ此ニ譯セバ淨滿トナル意ハ諸惑淨
 盡シテ衆德圓滿スト云フ義也彼法身ノ理ト此報身ノ智ト不二ナルヲ理智不二清淨法身

戸訶毘盧遮那如來ト云フ此ニ譯セバ一切ノ處ニ徧シト云フ義ニシテ佛ノ本體ヲ知ルノ要茲ニアリ三ニ應身トハ法身ノ理ト報身ノ智ト冥合シテ能ク大用ヲ起シ衆生ノ機ニ隨フテ普ク世ニ現ジ說法利導シ玉フ故ニ應身ト名ク宗鏡錄ニ云ク從眞起化接引迷根以ニ化即眞眞應一際即不來不去隨應物心ト是レ法身ノ眞性ヨリ變化シ現來ノ迷ヘノ衆生ニ接ハリ寂照ノ本地ニ誘引シ玉フ御身ナリ爾レバ法身ト應身ト一躰ニシテ間際ナク現來ノ相ヲ睹レドモ來現ニ非ズ此境界本ヨリ來々常住ニシテ去來ナシ故ニ佛ハ法華壽量品ニ方便以現ニ涅槃ニ而實ハ滅度ニ常住住此ニ說法ト宣ベ玉フ三乘ノ機根ニ應ジテ身ヲ變現ス故ニ應化身ト云フ明眼論ニ云ク二身(法身報身)垂レ應名釋迦牟尼(此ニ能仁寂默ト翻譯ス能仁ハ姓ニシテ寂默ハ名也)應同萬機故稱應身今此應身ニ二種ノ身アリ一勝應身二劣應身是也劣應身トハ現在出世ノ悉達太子ノ釋迦佛ニシテ丈六卑少ノ形ヲ示現シ八相成道ヲ示スヲ云フ是レ凡夫ノ佛トナル相ヲ示シ玉フ也八相トハ降下、託胎、出胎、出家、降魔、成道、轉法輪、入滅、ヲ云フ勝應身トハ三藏(小乘教也)ノ丈六身ノ佛ニハ勝レ別教所立ノ尊特身ニハ及バズ故ニ丈六佛ニハ勝レ尊特佛ニ稍近キヲ以テ二佛ノ中ヲ取テ勝應身ト云フ山實ニ小乘三藏ノ教主丈六ノ應身ヲ以テ本トシ其上ニ四見ノ不同ニ從テ四教ノ教主ヲ分別スル也故ニ知ヌ三身不分ノ應身ナレバ法身迎モ高カラズ應身迎モ低カラズ三身相即ノ故ニト弘決ニ曰三身相即無暫離時既許法身獨一切處報應未嘗離於法身况法身處二身常在故知三身徧於諸法何獨法身ノミ

ナラン矣リ寶王論ニ云ク法身如三月之躰報身如三月之光應身如三月之影ト云ヘリ是レ三身即一ノ義ヲ彰ス者ニシテ吾人ハ此法報應ノ三身ヲ具足スルガ故ニ上根ノ者ハ即身成佛ヲ頓悟シ中下根ノ輩ハ堀木圖像ヲ拜シ紙墨ノ經論ヲ讀ミ知識ニ親近シ法身般若解脫ノ性德ヲ悟得シ知者覺者タル佛トナル是元凡聖不二ノ故也是ヲ佛ノ實躰說トナス世人死尸ヲ以テ佛ト謂ヘ以テ佛隨ヲ死物視シ來ルハ豈謬妄モ酷シカラズヤ知ラズンバアル可ラズ

問テ曰ク 神佛混然ノ由來ヲ問フ

答テ曰ク 神佛ノ混淆說ハ年序最モ久シキニ在リ我國ニ未ダ佛教ノ傳來セザリシ己前既ニ兩道ノ混合セントスル瑞兆アリシニヤ太神宮雜記ノ中ナル本朝ノ神社考ニ云ク人皇十一代 垂仁天皇二十六年十一月卯ノ日倭姫ノ皇女ニ託シテ曰ク各慎勿懈當諦聽神代人心皆清淨而正直故無諸罪咎然自地神未萬人其心黑而吟干根國底國依之西天有真人二代皇天隨機說法彼詞將來是故神明停詔宣讓如來佛者代神出世說法此神詔宣禪化導于西方彼佛經文顯利益於神明故悲華經曰我滅度後於惡世中現大明神廣度衆生云々昔神明ノ託宣ヲ受テ人間ノ進退ヲ定メシ也今ハ我國ノ教ヲ佛教ニ讓リテ因果必然ノ法理ヲ以テ人ノ進退ヲ節セントノ義也而ノ悲華經ノ意ハ神ハ佛ノ化身ニ即本地垂迹ノ理ヲ示セリ是ヨリ十九世ヲ歷テ人皇三十代欽明天皇ノ御宇ニ正シク佛教肇メテ流傳セリ便チ 欽明帝十三年百濟國(今ノ朝鮮)

聖明王ヨリ奴喇斯致ヲ使者トノ釋迦佛銅像一軀經論若干ヲ貢獻ス其表文曰是法於諸法中_レ最爲_二最勝_一難_レ解難_レ入周公孔子尙不能_レ知此法能生_二無量無邊福德果報_一乃至成_レ辨無_レ上菩提_一譬如_レ人懷_二隨意寶_一逐_レ所_二須用_一盡依_レ情此妙法寶亦復然祈願依_レ情無_レ所_レ乏且夫遠自_二天竺_一爰洎_二三韓_一依_レ教奉持無_レ不_レ尊敬_一由_レ之百濟王臣明謹遣_二陪臣奴喇斯致_一奉_レ傳_二帝國_一流_二通畿內_一果_二佛所_レ記我法東流_一ト此時 天皇ノ睿旨ニハ之ヲ恭禮セ_レント欲シ玉ヘ群臣ニ下シテ之ヲ議セシメ玉フ爾ルニ大臣蘇我稻目ハ所謂於諸法中最爲_二殊勝_一ノ表文ニ由リ其經論ヲ調査シ便チ國害ナシト鑑查シテ宜ク之ヲ禮ス可シト奏問シ奉ル物部尾與中臣勝海ノ二氏ハ教理ノ如何ンヲ論ゼズ夷狄ノ神夷狄ノ法ヲ信ズルハ我國ニ害アリ俱ニ宜ク禮ス可ラズト上奏ス帝之ニ從ヘ玉ヒ佛教ヲ信認スル所ノ稻目ニ佛像ヲ賜フ稻目ハ向原ノ家ヲ喜捨シテ精舍トナシ三尼ヲ置キテ佛ニ事フ尾與等深ク之ヲ忌ミ諸國大疫ニ乗ジテ入テ奏ノ云ク疾疫ノ起レルハ實ニ佛ヲ禮スルニ由テ我國神ノ忿怒スル所也宜ク速カニ佛像ヲ破毀シ以後福ヲ求メ玉ヘト 帝億兆ノ疾疫ヲ感念スルガ故ニ有司ニ命シテ佛堂ニ燔シ佛像ヲ難波ノ堀江ニ投ズ (時ニ本多善光之ヲ信州ニ如來是_レレナリ) 便チ物部氏ハ齋忌ノ禍津日ノ神ノ祭主タリ中臣氏ハ祓除ノ直日ノ神ノ祭主タリ是_レ我國ノ古道ヲ維持セル職任也故ニ保守ノ主義ヲ執ラレタルコト道理至極セリ嗚呼國家ノ觀念厚キハ感激スル處ナレ共佛法ノ護國利生ノ價值アルヤ否ヤヲ微看セザリシハ太甚タ惜ム所ナラズヤ亦蘇我氏ノ信教ハ明治ノ時世ノ輕躁者カ利己主義ヲ以テ異

教ノ我國躰ニ適スルヤ否ヤニ關セズ妄信セル如キニハ非ル可シ夫ヨリ三世ヲ經テ三十二代 推古天皇ノ御宇ニ當リ厩戸ノ皇子萬機ノ政ヲ執リ玉フ太子聖德マシマシ天下ノ臣民瞻仰スルコト大陽ノ如ク逆臣守屋ヲ誅罰シテ佛法ヲ流布シ玉フ御躬法服ヲ被着シ經ヲ講シ玉ヒバ天ヨリ華ヲ雨ラシ放光動地ノ瑞アリシトゾ斯レバ 天皇群臣尊崇スルコト佛神ノ如シ伽藍ヲ建立セラレ、コト四十餘箇所ニ及ベリ又此國ニハ昔ヨリ人淳朴ニシテ法令定マラス依テ十二年甲子太子初メテ冠位ヲ定メ上下級ヲ定ムルニ十二階アリ (大德小德大仁小仁大禮小禮大信小信大義小義大) 十七年己巳ニ憲法十七條ヲ制定 (智小智是也冠ノ色ヲ異ニシテ名ヲ定ムト云フ) 施行セシメ玉フ (神皇正統紀ノ意ヲ撮ル) 此憲法ノ第二ニ曰ク篤敬_二三寶_一三寶者佛法僧也則_レ四生之終歸萬國之極宗 何世何人非_レ貴_三此法_一人鮮_二尤惡_一能_レ教_レ從_レ之_二其不_レ歸_三三寶_一何以直_レ枉 矣ト謂ユル三寶ニ三義アリ一ニ同躰ノ三寶ニ別躰三寶三住持三寶是也初メニ同躰ノ三寶トハ一心ノ眞如ノ上ニ義ヲ以テ説クトキハ三ト成ル眞如ニ覺性アルヲ佛寶ト名ケ眞如ニ執持ノ義アルヲ法寶ト名ケ眞如ニ和合ノ義アルヲ僧寶ト名クト (釋氏要覽ノ義) 是_レ心性ノ德ニ名ク亦ハ性具ノ法身般若解脱ノ三德ヲ三寶ト云フニニ別體ノ三寶トハ此ニニ宗アリ初ニ小乘ニ説ク丈六ノ金身 (應身ノ釋迦也) 是_レ佛法也四諦 (前註) 十二因緣 (前舉) 生空 (衆生ノ空ナルヲ悟ル) 法空 (法ノ空ナルヲ悟ル) トノ教ハ是_レ法寶也四果 (須陀恒果 (此ニ預流ト翻ス) 須陀含果 (此ニ一來ト翻ス) 緣覺ハ是

レ僧寶也次ニ大乘ニ説ク三身ノ如來(前ニ釋ス)ハ是レ佛寶ニ空(大小相對ノ時小乘ノ
 フコトハ分段生死ヲ破シ人我ノ執情ヲ破スルガ故也大乘ノ)ノ教ハ是レ法寶也三賢(十
 住ノ十行、十向、十聖(初地ヨリ十地迄ノ菩薩也)是レ僧寶也三ニ住持ノ三寶トハ範金
 雕、木、繪、塑、ノ形像ハ是レ佛寶也三藏(經藏、律藏、論藏)ノ文句ハ是レ法寶也剃
 髮染衣ニノ同一理事(理和合事和合)ハ是レ僧寶也(要覽ノ意ヲ取ル)太子ハ是ノ如キ三
 寶ヲ篤ク敬フベシト規定シ玉ヒリ然ルニ邪見ノ僧俗ハ一塵一草ノ色香アル物咸ク如來
 ノ清淨法身ノ一片ナルヲ省悟セズ偶像ノ繪木ハ眞ノ如來ニ非ズトシテ或ハ焚シ或ハ蹈
 或ハ破リ或ハ流シ棄ツ嗟頑冥モ甚シク亦冥理モ恐シキコトナラズヤ人苟クモ佛像ヲ尊
 重シ(佛寶)經隨羅尼ヲ讀誦シ(法寶)善知識ニ親近スレバ(僧寶)散亂心ヲ止定シ大
 善道ヲ知了シ威儀嚴正ニナリ終ニ性具ノ三德ヲ發得シテ賢聖ニ到ルヲ何ノ疑ヒカアラ
 ン次ニ四生之終歸萬國極宗也何、世何、人此法ヲ貴バザラントハ謂ユル四生トハ胎卵濕
 化ノ云ニシテ天地間ノ群生ヲ云フナリ終皈トハヨリドコロト和譯スベシ云心ハ三寶ハ
 一切衆生ノ終ニ依投趣向スベキ所ニシテ若シ之ヲ依怙ト作ザルトキハ生死ノ苦輪ヲ停
 止スルコト難シト云義也萬國ノ極宗也等トハ佛教ハ坤輿上最勝妙極ニノ理趣決了セシ
 宗門ナリ故ニ正像未ノ三根ヲ攝化メ何レノ世ニ至リ如何ナル人物ニテモ法益ヲ與ヒズ
 ト云フコトナケレバ此法ヲ貴重セザル者非ジトノ義也現今學者ノ輿論トシテ佛教ヲ推尊
 シテ世界ノ教王ト唱フル處ヨリ回顧スレバ千有餘歲ノ往昔ニ在テ佛教ヲ鑑定メ過タザ

ル太子ノ慧眼誰カ嘆服セザランヤ人尤惡ナルハ鮮能教ユレバ之レニ從フトハ能化主
 ヲ獎勵スルノ語也爾レバ教職ノ僧家ハ懇切熱誠ニ布教ノ國民ヲ善良ニシ太子ノ佛法外
 護ノ恩德ニ報答スルニ在リ其レ三寶ニ歸セズンバ何ヲ以テカ枉レルヲ直フセントハ所
 化タル担信ヲ勸誡スル語也若シ我國民ハ外人ト隣伍セル今日ニ於テ完全ノ道德ヲ脩メ
 ザレバ國辱ヲ招ギ國利ヲ損ズルコトアルベシ宜シク佛門ニ參ジテ調直定ヲ學ブニアリ
 却說太子ハ專佛教ニノミ傾向シ玉ヒシニ非ズ非凡ノ卓識ヲ以テ儒門ニモ通ジ神儒佛ノ
 三道ヲ兼學兼用シテ神道ヲ根幹ニ譬ヘ儒教ヲ枝葉ニ比シ佛法ヲ華實ニ擬シテ一扶桑木
 ト見做シ玉ヒ或ハ鼎ノ三足ニ喩ヒテ一足ヲ倒セバ餘ノ二足俱ニ倒ルト宣說シ玉ヒリ是
 レ兩部神道ノ興ル權輿ナリトス是ヨリ十一世ヲ歷テ人皇四十五代 聖武天皇天平十三
 年十一月十一日ノ夜夢ニ皇太神ノ御告ヲ被ムレリト曰本朝和神國可也奉欽仰神明
 給也而日輪者大日如來也本地者盧舍那佛也衆生者悟之當歸依佛法也ト言了リテ
 日輪ノ相ヲ現シ玉フ其光赫如タリ帝覺テ感激シ意ヲ決シテ金銅ノ盧舍那佛ヲ營造シ玉
 ヘリ(以上大神宮雜記ニ見ユ)ト當時ハ良辨行基鑑眞等ノ高僧顯ハレ教旨ヲ補翼シ奉
 リ天照太神宮ニストラ盧舍那佛ヲ以テ本地トナシ大佛ヲ鑄造シ玉フ(續日本記ニ曰ク神
 護二年七月丙子遣使造丈六佛像於伊勢大神宮ト云ヘリ)故ニ天下到ル處ニ兩部ノ神社
 佛閣創立セラレ別當社僧ヲ置ヒテ敬神崇佛駢行セラレタリ(祭主神職翹精舍ヲ營ムノ
 ミナラズシテ出家スル者多カリシヲ神國決疑ニ具サ也)世益新聞上佛教ノ博識ガ調査

スル所ニ依レハ當時全國ノ七分ハ佛教徒ノ爲ニ開拓セラレ僧侶ヲノ開山開土ト特稱セシムルニ至リシ說アリ然ルニ世俗ノ見解ニ本地尊ク垂迹卑シト爲ス嫌ヘアリシニ延暦十年日吉山王ノ神託ニ依テ最澄大師(諡名傳教)一實神道ヲ覺リテ人皇五十代 桓武帝ニ授ケ奉ル噴出記ニ曰ク延暦十年山王權現現レ神以ニ一實神道ニ授ケ最澄大師一最澄即以ニ此法ニ奉レ授ケ桓武天皇以來皇朝世々御相承天皇御即位必行ニ此法ニ云是也謂ユル一實トハ聲聞緣覺菩薩ノ三權乘ニ非ズ即法華經ニ所謂十方佛土中 唯有ニ一乘法ニ無二亦無レ三之義也是レ神道ト佛道ト二途ナシ元來本地垂迹ハ月ト影トノ如ク本迹不二ノ妙理ニ由ルコトヲ明セル也其後慈覺大師曰ク山王三聖出世化導者不レ庸ニ(後漢明帝)一宵之靈告ニ無レ假ニ王蔡(王遵祭情明帝ノ勅ヲ奉シテ天竺ニ使ヘス)萬古之懿歸ニ自出ニ三德秘藏之妙理以テ利ニ三毒(貪瞋痴也)迷倒之衆生ニ三業相應(生ノ身口意ト佛ノ三密ト相應スル也)精進也故名ニ清淨三輪山王ト云ヘリ因テ知ルベシ山王ハ三諦(空假中ノ境界)三觀(一心三觀)ヲ横豎ニ形リタル者ニシテ乃チ三諦即一ヲ表スルナルヲ(五大原說ノ理ノ註解ト對照スベシ)又智證大師曰ク大小比叡山王三所出世本懷專在下開ニ示悟入佛之知見ニ利益ニ益國土上所レ言佛之知見者灌頂與ニ大乘戒ニ也ト云々斯ノ如ク神佛ノ同躰ナルコト水波ノ相異ニシテ体同ジトナシ相傳シ來ツテ此神道ヲ 後水尾天皇ヨリ慈眼大師(天海僧正)之ヲ相承シ又徳川將軍家康公ニ授ケ公深ク信シテ没後ノ大事ヲ大師ニ託ス大師乃チ日光山ニ一實神道ヲ以テ祭祀シ東照大權現ト稱ス等是レ一ニハ最

初佛教弘通ノ便ヲ計リ二ニハ中世佛教利國ノ志ヨリ興セシ說ニシテ便チ佛教ノ會通法ナリ是ノ如クナレバ何レノ國ニ弘宣ストモ其國躰ヲ保護スル妙法ニシテ些カ損害ヲ與フルコトナキ平等門ノ妙義ト知ル可シ

問テ曰ク 神佛判然ノ朝旨ハ如何ン

答テ曰ク 該ニ事物經久スレバ必ズ弊害ヲ生ズト我神道モ本來正直ヲ大本トシテ拔除ヲ以テ罪穢ヲ淨メ清潔ノ法ヲ以テ治國利民ノ要教タリ然ルニ年淹キニ涉リテ清心稍々黒意ヲ生ジ漸ク戒除潔癖ノ弊ヲ生シテ甚タシキニ至リテハ萬民ノ厭苦スル處トナリヌ爾時ニ當ツテ佛教渡來シ染淨不二ノ玄義ヲ提唱シ葬祭ニ關シテ民ノ困難ヲ救ヘ大法ヲ僻陋ニ至ル迄流布セシメ上下ノ歸向ハ衆星ノ北辰ニ共フガ如シ尙本地垂迹ノ妙說ヲ拈出シテ未ダ神道ノ普及セザル所ニ神社佛閣ヲ創立シ別當社僧ヲ置ヒテ信心ヲ喚起シテ旺盛ヲ極ム故ニ神道ヲ弘ムト雖兩部ニシテ純粹ノ神道ハ萎靡シテ殆ント地ニ墜ントス此時ニ當ツテ古道維持ノ慷慨家奮起シテ佛教ノ國害ヲ唱ヘ神佛ノ判然ヲ鳴ラス爾リト雖元來僧家ノ創立セシ兩部ノ神社ハ神職ニ司掌セシムルコト容易ナラズ空シク扼腕シテ明治ニ到ル 皇政復古ノ機運ニ乘シテ神道復舊ノ有志者朝野ニ輩出セシニヤ明治元年三月神佛混淆ヲ禁ジ社僧別當ヲ停止スルノ制令煥發ス是レ如何ナル朝旨ナルヤ吾人ノ憶度ス可キ義ニ非ズト雖既往ノ情態ヨリ揣摩的ニ是ヲ評セバ一ニハ舊染ナル佛教ノ外ニ新ニ三條ノ教憲ヲ以テ國家的臣民ノ本道ヲ明示セシ爲ナリ二ニハ佛教徒ガ神道部

内ヲ侵掠メ驕奢ナルヲ挫折シテ懲戒セン爲也三ニハ歴史家が佛教ノ功ヲ掩へ過ヲ露ハス口實ヲ國体傷害ニ藉リ排斥セルニ職由セシナラント爾レドモ恟トニ大政維新匆忙ノ中神佛ノ教理ヲ分明ニシ實務ノ區別ヲ判然ニスルノ遑暇ナカリシ爲メ表面判然ニシテ内面混淆セル者猶多カリケレバ其當時ハ韓退之ノ佛骨ノ表ヲ愛讀シタル腐儒ノ語氣ヲ帶ビタル國學家排佛掩功的ノ不公平論ヲ珍味トシタル淺見ノ徒朝野ニ立チ顯ハレ神社ニ屬スル佛像經卷佛器ヲ破毀スルノ暴舉ニ出デタリ尙下流ノ無見識ノ者佛教排斥ノ朝旨ト誤解シテ三寶ヲ輕蔑スルニ至リシナリ

問テ曰ク 神佛混然ガ正說ナルヤ判然ガ實義ナルヤ

答テ曰ク 混然モ判然モ共ニ佛教ノ道理ニ背カズト爲ス何トナレバ佛教ノ平等門ヨリ論ズルトキハ上ミ人天ハ勿論下モ動植礦物ニ至ル迄毘盧ノ身土ニ非ルハナシ故ニ蘇長公ノ詩ニ溪聲便是廣長舌山色豈非清淨身ト然レバ我國ニ顯ハレタル(天神、地神、心神、天一神、大白神、雷神、河神、水神、山神、樹神、道神、岐神、道祖、產靈、保食神、稻魂、幸魂、靈、現人神、早魃、土公、雷公、電光、其他鬼、邪鬼、盧鬼、餓鬼、冤鬼、魑魅、魍魎、醜、天探女妖怪學ノ我國ノ諸神表也)諸神鬼魅類ニ至ルマテ苟モ色アル者香アル者皆佛ノ周徧身ニ外ナラズ彼レ異教ノ天帝モ諸神モ一切法界身ノ中ニ攝收ノ一體トシテ差別ノ相ナキガ佛教ノ平等門也故ニ混然モ佛法ニ背カザル也若シ差別門ニ入テ論ズルトキハ神佛ハ勿論一切萬物因緣果報ノ優劣ヨリシテ區別シ品

位歷然火ヲ見ルヨリ分明也夫レ神道ハ固ヨリ我國體ヲ維持スルノ因緣ヨリ建立セル道ナルガ故ニ神ノ陰陽和合ヨリシテ說ヲ起シ國土ヲ開拓シ神孫ヲ垂ル、ニ中シ君臣ノ名分ヲ明ニシテ天壤无究ノ國躰ヲ成立スルニ終ル是ヲ以テ知ル是レ則人界ノ教法ナルヲ佛教ハ元來自他ノ三惑ヲ斷盡セントスル因緣ヨリ生ゼシ法ナレバ因ニ四諦十二因緣六度等ノ道ヲ修行シテ四十九品ノ無明ヲ斷シ妙覺ノ位ヲ證得スルヲ果トスル者也爰ヲ以テ知ル是則聲聞緣覺菩薩佛等ノ賢聖ノ教法ナルコトヲ次ニ或人云ク神ハ五蘊世間ヲ構造シテ之ニ在マシ佛ハ覺了シテ涅槃ノ妙境ニ安住スル者也尙精神的差別ヲ建ツルトキハ造化ノ神ハ身受心法ニ於テ淨樂我常ノ四顛倒ヲ生メ五蘊世間ヲ造化セラレタルヤ昭々タリ其故如何菩薩ハ身ハ不淨ト觀ジ受ハ苦思ト觀シ心ハ無我ト觀ジ法ハ無常ト觀ズ爾ルニ神ハ陰陽ト分レ男女ノ身分ヲ貪愛シテ不潔ヲ清淨ト觀ジ(身ノ淨顛倒)又世界ヲ開造シ子孫ヲ垂レ國家守護ノ重任ヲ引受シテ苦思也ト觀ゼズ(受ノ樂顛倒)又心ハ無形故ニ住所ハ要セザレドモ心ニ我ヲ發シテ心ノ住所ヲ此土ニ設ケ(心ノ我顛倒)又世間ノ法ハ遷變無常ナレドモ常立常盤天地共無 究 等ト云フ(法ノ常顛倒)爾レドモ予ガ解了スル處ハ佛ハ悟道のニテ心受身法ハ淨ニ非ズ不淨ニ非ズ苦ニ非ズ不苦ニ非ズ我ニ非ズ無我ニ非ズ常ニ非ズ無常ニ非ズト觀達ス如此佛ノ無我平等ナルハ本性ニ悟入メ法界身ナルヲ覺了スレバ專ラ神ヲ四顛倒ト見ザル也依之當ニ混然モ判然モ教理ニ反セザル所以シテ知ルベシ夫佛教ノ理趣正ニ是ノ如シ爾レバ現時ハ神佛判然ノ時制ナルヲ

以テ止ムヲ得ズ古哲ノ平等說ニ背ヒテ差別門ニ入テ事理ヲ判明セザルヲ得ザル也尙
 ホ外教來ラバ亦タ外教ト判然ヲ唱ヘザルヲ得ザル所以ナリ是佛敎ハ殺活與奪擒縱自
 在ノ大法ナルカ故ニ彼天耶ノ教徒ガ獨一眞神ヲ固信シテ其他ノ神ハ悉ク僞神也ト批毀
 ノ我國神ヲ輕蔑シ國體ト衝突スルガ如キ狹隘ナル遠路ニ非ズ故ニ今日吾人ガ神佛判然
 ヲ唱フルモ若シ明日解禁ノ令行ハルレバ掌ヲ回ラス如ク其混一ヲ說キ而ノ佛敎ノ眞理
 ニ背馳スルヲナシ臨機應變國ノ爲ニ利用スルヲ得ル世界絶倫ノ活法タレバ國民ノ最尊
 ス可キ三寶トナスモ豈過賞ナランヤ

問テ曰 是ヨリ以下神佛判然ノ義ヲ列ネテ質問セント欲ス初メニ佛門ニテ偶像ヲ設ケ
 テ信仰スル理由ハ如何ン

答テ曰 佛家偶像ヲ設ルニ凡三義アリ一優填思慕ノ故ニ生佛感格ノ爲ニ法身體偏ノ故
 ナリ佛祖統紀曰按増一阿含經帝釋請佛舛切利天爲母說法優填王思慕以栴檀
 作如來像高五尺也波斯匿王聞之以紫磨金作像亦高五尺也此二像閻浮提始也ト是
 レ佛ヲ思慕スルノ念深キヨリ偶像ヲ造リシ緣起也今世君父等ノ寫眞ヲ永存ノ思慕ノ情
 ヲ慰スルガ如シ造像功德經有レ人能於我法未滅盡來造佛像者於彌勒初會皆得
 解脫當知此爲三十二相之因能令成佛ト又觀佛三昧經若有衆生造立形像種種
 供養是人後世必得念佛清淨三昧ト是レ皆衆生ト佛ト感應ノ利生ヲ得ルノ謂ヒ也大乗
 法數卷一梵語毘盧遮那華言徧一切處以眞如平等性相常然身土無碍故也ト然レバ五

輪(地水火)所成ノ物大日ノ躰性ニ非ルハナシ故ニ其物質ヲ探テ彫鑿圓ノ滿ノ相好ヲ製
 作スレバ即チ佛ノ實躰也豈偶像ト蔑視シテ敬意ヲ虧ク可ンヤ况ヤ利驗尠ナカラザルニ
 於テヲヤ

問テ曰ク 我國神ノ祭祀ニ奉幣ヲ神躰ト視テ敬拜スルヤ

答テ曰ク 耶蘇新敎ハ天帝ハ無形ナレバ神躰ヲ表シテ信ズ可ラズトシテ虚空ニ向ツテ
 崇拜スト云フ固ヨリ色心不二ノ眞理ヲ悟明セザルガ故ニ單空ヲ以テ神トナス爾レドモ
 空中ニ有ノ見ヲ發シテ神ヲ信認スル也豈ニ迷妄モ甚シカラズヤ我神道ハ一切宇宙間ニ
 現象スル者ヲ以テ神ト名ク故ニ今某ノ神ヲ祭祀セントスルニ先ダチ御玉代(木ヲ造リ
 之ニ神名ヲ書ス)ヲ以テ神ヲ寓セシム亦タ紙及絹又ハ金ヲ以テ(四條ノカキダレニツ
 ノ頭ヲ合シテ串ニ挾ム)和幣(神代記廿八)ヲ製作ノ神躰トナシ或ハ櫛ニカキタレヲ添
 ヘテ御玉串ト云フ是ハ即神躰ノ略式ナリ官國縣ヨリ奉幣スル處皆是ヲ神躰トシテ敬拜
 シテ祭祀スル也故ニ佛敎ノ偶像ヲ設クルト粗ボ相髣髴タル者ナリ委クハ延喜式ノ神名
 帳ニアリ往見

問テ曰 我神道ノ天堂地獄說如何ン

答テ曰ク 我神道ノ天堂ハ蓋シ高天原ニテ地獄ハ底根國ナラン所謂高天原トハ諸神ノ
 常住スル所ニシテカンヅマリヲ神集神留等ト書ケドモ集ルト云ヒハ他所ヨリ來集スル
 ノ義ナリ留ルト云ヘバ下界ニ降ラズシテ留在スルノ義也本居大氏ハ留ノ義ヲ可トシテ

神常在ノ義トナス(大板詞後釋ノ上二十七丁ノ意ヲトル)高トハ高遠ノ義天トハ廓然ノ義原トハ廣原ノ義ニシテ高天原ハ高遠廓然タルコト廣原ノ望ミ盡ス可ラザルガ如キ所ナリ而シテ天神ノ常在スル義ハ神典ニアレドモ蒼生ノ善報此所ニ上昇スルノ義ナシ底根(懸居ノ詞考云根ト底ト同ジキヲ一ツ云フハ文也)ハ詞後釋ニ根國底之國ハ即黃泉國也抑世ノ中ノ凶事ハ皆本黃泉國ヨリ起リ來ルコトナルヲ被禊ハ其罪穢ノ凶事ヲ本ノ黃泉ノ國へ還シ遣ル仕業也ト云々此國ニ須佐之男神ノ御女須勢理毘賣命在マシ又須佐之男ノ神ノ御未大國主神禍事ニテ黃泉ノ國へ參リ其御女ニ娶坐シテ顯國ノ罪穢ヲ流離失亡シメ玉フコトヲ主トルヨシヲ明セリ爾レバ罪穢ノ原因ハ黃泉ニ在リテ神ノ造作ニモ非ズ人ノ業力ニモナス非ズト爲ガ如シ故ニ天堂地獄構造ノ原因及ビ人間ノ作業ノ善惡ニ縁テ昇天受樂降地感苦ノ結果アル所以モ分明ナラズ玉鋒百首ニ顯ノ事ハ大皇幽事ハ大國主ノ神ノ隨意隨意ト後哲宜シク古典ヲ繙ヘテ精究ス可キ也

問テ曰ク 耶蘇ノ天堂地獄說如何ン

答テ曰ク 本題ハ辨斥魔教論ニ委曲也約翰第三章ニ曰ク耶蘇ヲ信ズル者ハ永世ヲ得耶蘇ヲ信ゼザル者ハ沈淪ヲ致スト去レバ永世ヲ得ル者ハ天堂ニ昇リテ善人トナリ沈淪スル者ハ地獄ニ墮テ罪人トナルト云フ意也又罪人ノ運命ハ天主ノ裁判ニ於テ全ク定メラル、也ト夫レ耶蘇ハ斯ノ如ク天堂地獄ヲ以テ詳ニ之ヲ示スト雖抑モ此ノ天堂地獄ハ何者ノ建立スル所ゾト其本源ヲ尋ルニ其ハ之レ人間業感ノ所造ニ非ズシテ天主上帝ノ預

定中ニアリテ已ニ建立シ置ク所ノ天堂地獄ナリ羅馬書第八章ニ曰天主豫シメ知ル所ノ者ハ則豫シメ之ヲ定ム云云乃至天堂地獄ハ豫シメ天主ノ定ムル所ナレバ人間悉ク皆其所作ノ善惡ニ應シテ天主ノ豫定ニ違ハズ天堂ニ登ル者モ天主ノ本意也地獄ニ墮ル者モ亦天主ノ本意也ト云ツベシト云ヘリ然レバ彼天帝ハ善人ヲ造リ惡人ヲ造リ天堂ヲ造リ地獄ヲ造リ其善人ハ天堂へ上セテ驩娛セシメ惡人ハ地獄ニ擠陷シテ刻苦セシメ以テ獨リ遊戯ヲナスモノ、如シ何トナレバ天帝ガ天堂地獄ヲ造作セザレバ人間ガ受苦愛樂ノ不平ノ境遇ナケレバ也寧ロ惡人ト地獄ヲ創造セザルノ勝レルニ如カザルベシ究竟スルニ惡人ノ原罪天主ニ歸スル所以ナルハ又造物說ノ不真理ニ原因スル所以シノ者ナリ

問テ曰ク 佛教ノ天堂地獄說ハ如何ン

答テ曰ク 佛教ノ天堂地獄ハ佛ノ造作ニ非ズ一切衆生ノ業感トナス長阿含經ニ漸々ニ下ニ生六欲諸天人趣ニ以テ惡業力ニ漸々下ニ生ニ餓鬼旁生地獄ニ後成先壞法爾如ノ斯ト觀佛三昧海經ニ化閻羅王ニ大聲告救癡人獄種汝在レ世時不孝ニ父母ニ邪見無道汝今生處名ニ阿鼻獄ニ如レ是大苦一日一夜如ニ人間六十小劫ニ如レ是壽命盡ニ一大劫ニ云々皆是唯心ノ所造ナリ天堂ハ婆羅門ノ大仙出家苦行シテ有漏ノ極善ノ果報ト禪定力ニ依テ欲界色界無色界ノ二十八天ヲ感出ノ精神ノ安着スル所トナス爾ルニ釋尊ハ無色界ナル識處有處無處非想非々想ノ四天ノ禪定ヲ得タル大仙ニ探薪汲水シテ給事シ其道ヲ討盡シ遂ニ是レ有

爲轉變ノ法ニシテ安心立命ノ地ニ非ズトナシ苦修練行端坐六年ニシテ終ニ菩提樹下ニ於テ出世間ノ大道ヲ開曉シ玉ヘリ此大道ヨリ透看スレバ固ヨリ地獄天堂ハ善惡黑白ノ果土地ノ差相アルヲ表示セル者ナリ夫レ本來一心ハ無相ニシテ相ヲ現シ眞覺ト妄想ト常ニ相伴フ者也爾レバ則天堂地獄ヲ無トセンカ將タ有トセンカ畢竟自己ノ心性ヲ悟明シテ而シテ後ニ正ニ證得スル所アラン耳(五大原ノ理ノ說參照)

問テ曰ク 西方極樂淨土ノ說ニ遠キアリ近キアリテ信難シ阿彌陀經ニハ過二十萬億佛土ニ有ニ世界ニ名爲ニ極樂ト說キ請觀音經ニハ去此不遠示シ觀無量壽經ニハ唯心彌陀已身淨土ト明シ玉フ是ノ如キ區々タル異說ハ末世ノ衆生ニ疑念ヲ懷カシメ西方淨土ハ勿論一切ノ佛教ヲ方便說トシテ信ゼザラシム小生法ノ爲ニ最患フル所也然レドモ佛ノ廣長舌ノ眞實言也ト云フトキハ其區々タル異說ニ却テ殊勝ノ義アリヤ如何ン

答テ曰ク 佛教ハ圓融ノ妙法ナリ人機ニ順ツテ差別シテ解説ス夫レ背機ノ說法ハ無益ナルコト喻ヘバ眼病ニ脚氣ノ治療ヲ施ス如ク其所益ナケレバ也法輪自在ニ轉用スルヲ活法トモ謂ツベシ而シテ表面反對裏面正合スルハ妙法タル所以ナラズヤ應ニ知ルベシ舍利弗ハ佛弟子ノ中聲聞ノ位ニシテ智慧第一也其智慧却テ佛位ニ進ムノ障礙ヲナスアリ且ラク西方十萬億佛土ヨリ遠キ(三千大千世界ヲ一佛ノ淨土トナス依テ十萬億佛土ノ遠キ所以ンヲ推知スベシ)彌陀ノ淨土ノ學校ニテ率行サスベキ必要アリテ機力相應ノ遠土ヲ指示シ玉ヘ又月蓋長者ハ蓋シ機字狹量ニシテ最遠ヲ信受スル機力ナク隨ツ

テ念慮モ散亂スル所邁キニアリ故ニ最近モ又饒益ナシ爰ヲ以テカ不遠不近ヲ撰ンデ去此不遠ヲ示ノ攝化シ玉ヘリ韋提希夫人ハ折指太子ノ暴惡ニ逼惱シ厭欣ノ念純一ナルガ故ニ自己ノ心身ニ約シテ唯心彌陀已身淨土ヲ觀念セシメテ化益シ玉ヒリ(觀經ニモ去此不遠ノ文アレドモ今ハ論便ニ從テ此偈ヲ舉グ)此等ノ妙義ハ庶師ノ會釋種々アル可シト雖予ガ機根ヨリ見解ヲ下ス所略斯ノ如シ此異說ノ一致スル所以ンハ如何ン曰ク現經疏ニ周昨偏讀无非佛界トアツテ平等ノ觀慧ニテ照セバ極樂ハ遠キニモ非ズ近キニモ非ズ内心ニ非ズ外境ニモ非ズ尙ホ現行即佛ノ眼ヲ展テ法界ノ眞景ヲ觀達スレバ色心相融シテ共ニ涯際ナク周徧セルガ故ニ全ク彼(遠方ノ極樂國)此(此土ノ娑婆)ノ標準ヲ立テ測量スベキ方隅モナシ依テ知ル或ハ遠ク或ハ近ク或ハ指方立相或ハ無方無相或ハ往相還相或ハ不來不去或ハ淨不淨或ハ苦樂或ハ凡聖ト衆生ノ迷悟利鈍ヲ利用シテ諸法ヲ立テ衆機ヲ攝化メ漏シ玉ハヌト佛ノ大智大悲ノ力不可思議ナル亦感艱ニ耐ヘザルナリ爾レドモ台宗ノ二百題ニ西方已心ノ問要アリテ己心ヲ離レザル西方ノ彌陀ヲ念ズ可キニ決セリ故ニ事理不二ヲ覺悟シテ奉行スベキコトトモナリ專西方ニ拘泥シ或ハ已心ニ一偏スルハ俱ニ佛ノ本意ニ背ケリ本來遠近内外ナキ法義ナレバ觀慧アル者ハ宜ク觀佛ス可シ(佛ノ相好ヲ觀ズ要覽ニアリ)散心ノ者ハ宜シク念佛ス可シ(佛ノ誓願ヲ信シテ佛名ヲ唱念スル也)而シテ平等ノ利益ヲ獲得センコト何ノ疑フ所カ有ラン即チ觀佛念佛ノ差別ヲ知ラント欲セバ淨土或問ヲ往見セヨ

問テ曰ク 阿彌陀ハ理佛ナリヤ事佛ナリヤ

答テ曰ク 蘆津實全師ハ曩キニ彌陀ノ實体ト云フ一書ヲ著述ノ初メニ法身ハ摩訶毘盧遮那佛報身ハ阿彌陀佛應身ハ釋迦牟尼佛也ト分別シ後ニ三身即一ノ義ヲ明シ而シテ釋迦如來ガ即阿彌陀佛也ト會釋シ而シテ之ヲ證スルニ法華經ニ據レリ壽量品ニ曰ク如來所演經典皆爲度脫衆生或說己身或說他身或示己身或示他事或示他事諸所言說皆實不虛ト是レ事佛ト判決セシ者也予ガ會通スル所ハ法藏比丘ガ十地ノ中欲愛住地ニ進ミ玉ヒシトキ一切衆生ノ爲ニ愛欲ヲ增長シ世自在王佛ヲ證人トシテ超世ノ悲願ヲ發シ曠劫ノ修因ニ報フテ佛果ヲ得タリト説クハ即チ事相ニシテ即理相ノ離レザル義アリ其故如何法藏ノ事行ハ無量壽ト云フ理性ニ契ヒ阿彌陀佛(無量壽覺ト譯ス)ト成リ玉フ名詮理性ノ義ニシテ即其佛德ヲ表彰スルノ實號ナリ須ク知ル可シ量リナキ壽トハ無始無終ノ心性ヲ云フモノニシテ即チ吾人ノ本性ナリ迷ガ故ニ生死ノ娑婆ニ來テ本性ニ遠カルヲ以テ阿彌陀佛ノ本願ニ取籠リ本性ニ歸入センコトヲ觀念シ稱名スルコトヲ夫レ眞理斯ノ如クナレバ世間方便嫌ヘノ僻見者モ之ニ據テ信解ヲ開カザル可ラズ尙ホ漫リニ佛教ヲ忌ム者ハ彌陀ノ本願ニ依ラズシテ己レガ妄念ヲ如何ンガ斷ゼントス夫レ妄念ハ苦海沈淪ノ根元ナリ豈正念ヲ以テ妄念ヲ斷除スルノ方便ナクシテ可ナラシヤ

問テ曰ク 先キニ耶蘇ヲ客觀的神ノ奴隸教ト云フ而シテ今佛教ガ客觀的西方ノ彌陀ヲ

尊信スルハ亦佛ノ奴隸教タル反駁ヲ免カレズ如何ン

答テ曰ク 耶蘇ノ一派ユニテリヤンハ三位(第一位ノ天主ト第二位ノ神子耶蘇ト第三位ノ天主ヨリモ天主ヨリモ第二位ノ耶蘇)一體ヲ説クト云フト雖靈魂ヲ賦與スル者ハ天主ト耶蘇ニシテ而シテ人間ガ天主ト耶蘇ニ靈魂ヲ賦與スト許ス能ハズ爾レバ神人一體ト云フコトヲ得可ラズ矧ンヤ人間ガ萬物創造ナスヲ得ザルニ於テヤ茲ヲ以テ徹頭徹尾神ノ奴隸タルヲ免レズトナス我佛教ノ如キハ一切衆生三身(法身報身應身)即一ヲ許ス而シテ淨土門ノ客觀的ハ了ニ主觀的ニ歸スルノ妙法也重障ノ凡夫ガ彌陀ノ本願ヲ信シ往生シテ佛ト同體ニ成ルコトヲ期スル善巧方便ノ教理ナルガ故ニ觀經曰諸佛如來是法界身入一切衆生心想中是故汝等心想佛時是心即是三十二相八十隨形好是心作佛是心是佛諸佛正徧知海從心想生ト恠ニ惟レバ佛ト凡夫ト一體ニナルコト念想ニ在ルコトヲ明シテ佛ヲ觀想シ實號ヲ唱念シテ彌陀同體ヲ願求セシムル淨土門ナルヲ以テ決シテ佛ノ奴隸教ニハ非ル也爾ルヲ神ノ奴隸教ト同視スルハ菽麥ヲ甄別セザル者ニ伍センノミ

問テ曰ク 曩キニ川井清丸氏ハ神儒佛ノ三道ヲ以テ日本國教大道ト稱シ乃チ大道社ヲ設ケテ上下連袂和氣雍々トシテ此大道ニ徇祥ス可キコトヲ指導セリ然ルニ今ヤ内地開放シテ萬邦ノ宗教來朝シ公認教ト爲テ内外新故ノ差別ナク同等ノ教權ヲ執リ我大道ヲ濶歩スルニ到レリ此時ニ臨ンデヤ各宗相軋轢シ相悖戾セルハ聖經ヲ宗トスル道德社會

ノ爲ス可キ業ニ非ズ必ズ爲ス可キ業ニ非ルヲ知ルト雖若シ些カ人欲ノ私ヲ挾サム者有
 ランニハ衝突セズト保ス可ラズ爾ラバ則豫シメ諸教ノ線路ヲ區畫シ各自行通ニ支障ナ
 キ様指道標ヲ建設スルニ如カザルヲ信ズル也乞フ是ニ付テ説アラバ之ヲ示セ
 答テ曰ク 前陳ノ諸説ハ皆諸道ノ分岐ニ對スル指道榜示ナラザルハナシ若シ今神佛ノ
 分岐ヲ論明セザレバ神佛混同ノ舊夢覺メズジテ佛道ガ神路ニ侵入シ神路ガ佛道ニ亂入
 シ彌相鹵掠シ相軋轢セン異教此レニ相倣フテ巧ミニ我神佛ノ線路ニ闖入シ蹂躪ノ文旨
 无識ノ曹ヲ舌車ニ乗セテ魔窟ニ誘陷セン諺ニ云ハズヤ兩虎相爭フトキハ一狗其隙ニ乘
 ズト豈ニ鑑戒セザルベケンヤ爰ヲ以テ自今己後兩道ノ分岐ヲ明示セル枝折无クンバ非
 ルベシ依テ質問ニ應シテ今政彙教彙ノ二種ヲ分別解説ス可シ謂ユル初メニ政彙トハ陽
 然佛敎ノ線路ニ神道及ビ異敎ノ濫入シ亦神敎ノ線路ニ佛敎及ビ異敎ノ濫入シテ已ニ衝
 突セルヲ制止スルニ供スベキ也但シ政彙ハ深ク敎理ヲ究メテ製作セル者ニ非ザルガ故
 ニ陰然巧ミニ混入シ來ル者ヲ制止スルノ用具タラズト知ル可シ敎彙ハ時俗ノ輿論ニ關
 セズ自己ノ眞道ヲ探究シ置キ陰然異敎ノ侵入スルヲ抑制スル爲ニ供スル者也ト知ル可
 キ也是レニ又事理ノ二彙アリ後段ニ説ク可シ夫レ政彙ハ形迹的ノ構造ナレバ无形的精
 神ニ對シテハ心思自由信敎自由ヲ許スナリ苦シ自由ト自由ト衝突シテ安寧秩序ヲ紊ル
 者アルトキハ己ニ形迹ニ顯ハレタルヲ以テ其自由ヲ剝奪シテ其分岐ヲ公明ニ指道セザ
 ルヲ得ザル也明治維新ノ當初時人ノ心思歸向スル所請求スル所ニ順テ政彙ノ標示セル

所ノ神佛分岐ハ即別當社僧ヲ禁ジ社寺境内ノ混祭雜祀其他路傍ノ神佛ノ建物ヲ各社寺
 ニ配付セシメ佛敎徒ガ本朝ノ人ヲ權現亦ハ佛菩薩ト祭リシ者モ日本人ナレバ凡テ神社
 トナセシハ皆當時ノ臣民ノ心思自由權ヨリ請願シテ革正セシメシ者ナルガ故ニ敎理ヨ
 リ云フトキハ當ヲ失シタル者モ少ナカラズ爰ヲ以テ政彙モ公明正大ニ其分岐ヲ標示ス
 ル場合ニハ敎彙ニ從テ指導セザル可ラズ今吾人が回復ヲ望ムニ非レドモ維新ノ當初時
 人ノ心思ノミニ任セテ敎理ニ關セズ指導セシ例一二三止ラズ今其例ヲ擧グレバ
 鎌足公ハ代々神事ヲ主リタル中臣氏ナレトモ其嘗テ疾ムニ當リ百濟ノ尼法明ガ維摩詰
 經ヲ誦シテ其疾ヒ愈ヒシヨリ愈三寶ヲ尊信シ年々維摩會ヲ起シ名僧ヲ請ジ死期ニ臨ミ
 剃髮シ大和國多武峯ニ佛葬セラルト(史海五卷ノ意)爾ルニ今ハ神式ヲ以テ祭祀ス譽田
 天皇ハ 欽明帝ノ御宇ニ肥後ノ國菱形ノ池ニ現ハレ我ハ人皇十六代譽田ノ八幡麿ナリ
 ト宣ヘ亦タ聖武帝ノ御宇ニ詫宣シテ曰ク得レ道來不動法性樂入正道ニ垂ニ權迹ニ皆得レ解ニ
 脱苦衆生ニ故號ニ八幡大菩薩ト云ヘリ謂ユル幡ノ製ハ八正道四神足ヲ表セル者ニシテ
 八正道四神足トハ天台四敎義ニ正見正思惟正語正業正精進正念正定正命ト欲念進慧ノ
 四如意足ト云フト斯ノ如キ詫宣アルニモ係ハラズ今ハ神社ト爲ス 崇徳上皇ハ讚州
 ニ遷流セラレ玉ヒシヨリ法華行者ト成リ玉ヒ遂ニ佛家ガ金毘羅大權現ト祭祀シ奉ル爾
 ルニ今ハ神社ト爲ス楠正成公ハ建武三年尊氏追討ノトキ湊川ニ赴カントスルヤ其地香
 嚴寺ノ明極和尚ヲ訪ヘ其嶮峻ナル毒手ニ遇フテ向上ノ關捩ヲ透徹シ以テ潔ク忠死セリ

(正成問曰生死交謝ノ時如何和尚答曰兩頭俱截斷一劍倚天塞正成曰落處作麼生和尚震一唱「言語同斷心行處滅之所」正成起立三拜通身汗流和尚曰備徹矣正成曰若不回來見三和尚安得超出向上關捩從今世々不失針芥云々)是ノ如ク佛門ニ入テ安心法ヲ得タル者ナレドモ今ハ湊川神社トナル徳川家康公ハ日課トシテ彌陀ノ寶號ヲ唱念スルコト六萬遍(徳川家康遺狀四十八條ニアリ)故ニ人呼ンデ念佛將軍ト云フ慈眼大師將軍ノ遺託ニヨリ一實神道ヲ以テ晃嶺ニ東照大權現ト祭ル爾ルニ神社トナル常州安波大明神ハ常陸坊海存也今ハ神社トナル明僧心越ノ念持佛ナル白衣觀音ヲ今ハ子育神社トナル其堂(水戸義公那珂郡東臯山ニ建立ス)ヲモ社殿トナス或ハ馬頭觀音ヲ駒形神社トナシ大極天ヲ大國主ノ神トナス等枚擧ニ暇アラズ已上ノ諸靈ハ皆佛緣深厚ノ者ニシテ其精神ハ永劫不退佛果ヲ證得シ居ラル、者也是ラノ緣由アル者ヲモ精究セズ神社トナシタルハ教理ヨリミレバ失當ナレドモ政事ヨリミレバ決シテ然ラズ制ハ時ニ隨フ可キ者ニシテ且ツ政事ハ民心ノ反射ナレバナリ爰ヲ以テ將來異教侵入威ヲ逞フスル時機ニハ從來ノ如キ政彙ヲノミ專用セバ内道ヲ維持スルコト甚ハダ難キヲ知ル可シ今日賽詣セシ平安奠都一千五百年祭ニ於ルモ桓武帝ノ睿信ヲ傾ケ玉ヒシ傳教大師ガ仁王金光明法華ノ三部妙典ヲ書寫シテ京地ニ埋メ結果安鎮法ヲ修シ京坊ヲ僧伽梨ニ像ドリ九條ニ畫セシ等實ニ平安奠定ニ就テハ大師ノ盡力セラレシコト史上ニ昭々タリ然レドモ一朝皇政一新神佛判然ノ制令ヲ廢佛的ト誤解セシ以來今日ニ至ル迄國人ガ佛教ヲ待遇ス

ルコト冷淡ニシテ(西洋形象的ノ文物輸入ノ影響モ大也)單ニ神式ノミヲ以テ祭典ヲ舉行セラル是レ平安奠都ノ紀念祭トシテハ歴史ニ徵明セバ必ず缺典ナラザル可ラズ尤モ吾人ガ昔時ノ如キ神佛混然ヲ望ムニ非レバ斯ル場合ニハ教彙ヲ以テ之ヲ指導シ其祭典ヲ二種ニ分チ甲ハ神式乙ハ佛式トシテ之ヲ雙行ヒ先皇ノ睿旨ト大師ノ衷情ヲ追想シ其恩德ニ答ヘ以テ祭祀シ奉ラバ其功德モ廣大ニシテ其本懷ニ叶ヘ奉ラント信ズル也總テ天下ノ趨勢ニ任セ神事佛事等ヲ形象的ニノミ行ハレ精神的ニ行ハレザルハ遺憾トスル所也何トナレバ亦斯ノ如ク古史ト事實ノ相違セルヲ行ハレタランニハ將來鄉村ノ恒例小祭等ハ外教ノ儀式ト混祭シ或ハ古例廢レテ洋風ノミ盛ナルニ至ラン實ニ人情輕轉シテ事物變遷ノ過カナル世潮ニ逆フテ古道ヲ維持センコト甚ダ容易ナラザル也只古來ノ教理ト歴史トニ因テ教彙ヲ製作シ政彙ト雙用シテ之ヲ維持スルニ在ランノミ而シテ无形心思の陰然陽然諸宗ノ混道シテ衝突スルヲ豫防スルコト天下ノ爲ニ人民ノ企圖ス可キ要點ニ非ズヤ今日教彙ノ指導セル要例ハ則チ佛教入朝以前ニ在テ神道ノ發起セシ事業及ビ爾來純粹ノ神道旨義ヲ以テ發起セル事業ニハ佛教及ビ異教ガ同義同化等ノ種々ノ名ヲ附シテ干涉セントスルモ決シテ之ヲ許サズ祈禱配札布教ニ到ル迄祖承典據ナキ者ハ之ヲ行ハシメズ各自專門ヲ以テ駢立セシム等コレナリ若シ此分岐ニ於テ明カニ標示セザレバ彼ノ蓮門教會天理教會ノ如キ非神非佛ノ妖教顯ハレテ明治ノ政彙ヲ目撃セズ剪劣ナル歌詠ヲ唱ヘ擊鼓彈絃亂舞シテ神佛ノ大道ヲ橫行シ殊更ニ野蠻風ヲ披露

シテ國家ノ體面ヲ愧カシムルニ到ル尙異教ガ奸黠ニシテ神佛ノ岐路ニ侵入シテ亦非神非佛非耶ノ妖怪ナル所業ヲ爲ストキハ只々自他ノ妨障ヲナスノミナラズ社會ヲ傷害セ
ルコト稱量ス可ラズ爰ヲ以テ今異教ノ濫入ヲ未萌ニ防グノ着手トシテ神佛ノ分岐ヲ明
示セル爲ニ教葉ノ中ヨリ事理ノ二葉ヲ撰出ス初メニ理葉ヲ明サバ神道ハ皇國歴史の
教法ナルガ故ニ外國ニ全通スルヲ得ス佛道ハ普通のノ教法ナルガ故ニ内外ニ弘通スル
ヲ得神道ハ純潔ヲ旨トシ佛道ハ染淨不二ヲ宗トス神道ハ詫宣ヲ以テ斷行シ佛道ハ自證
ヲ以テ行法トナス神道ハ穢除ヲ以テ罪穢ヲ淨シテ佛道ハ懺悔ヲ以テ罪障ヲ滅ス神道ハ
人鬼ヲ崇拜セズ佛道ハ靈位ノ増進ヲ祈ル神道ハ攘災招福ヲ旨トシ佛道ハ誘善利生ヲ旨
トス神道ハ現在ヲ貴ビ佛道ハ未來ヲ重ンズ世風吉事ヲ神道ニ屬セシメ國俗凶事ヲ佛道
ニ訖セシム此ノ如キ理葉ハ稱計ス可ラズ次ニ事ノ葉トハ神道ハ我國家教ナレトモ之ヲ
應用セバ世界ヲシテ化益スル効力无カル可シヤ夫レ君臣ノ道祖兒ノ睦妹脊ノ中兄弟ノ
愛朋友ノ義ハ儒ノ謂ユル五倫ニシテ神惟ナル玉銜ノ道ナリ豈只ニ佛教ノミ世界教
ナラント云フテ之ヲ邦外ニ施サントスルモ已ニ外人ハ凡ソ倫理學ヲ修メアルガ故ニ肯
テ珍重セザル可シ是レハ全ク國家教ナレバ國家的ノ教育ニ專用ス可キナリ故ニ或ル神
道家曰ク我神道ハ我國ノ專有物ニシテ外國輸出ノ賣物ニ非ズト亦某學士曰ク我神教イ
カニ修飾スルモ現時内外ノ人心ヲ總攬スル程ノ實力ヲ有タシムルヲ能ハザル可シト云
々已ニ格ノ孝謙帝神護二年七月ノ詔ニ攘災招福必憑二國冥敬神尊佛清淨爲先ト

桓武帝ノ詔ニ(延曆二十五年正月)攘災殖福佛教尤勝誘善利生無如斯道ト見
ヘタリ蓋神道ハ教導ヲ主ラズ故ニ誘善利生ノ旨ナシ只神ヲ祭リ攘災招福ノ穢ヲ爲スノ
ミ是レ佛教ト並ビ行ハレテ相戾ラザル所以ンナリ是ヲ以テ神佛分岐第一ノ事葉トナス
夫レ神道ノ開祖タル天照大神御躬天ノ挾田長田ヲ耕耘シテ其秋穫ヲ以テ祭事ヲ舉行シ
天之香來山ニ桑樹ヲ培植シテ養蠶ヲカメ神衣ヲ織立玉ヲ爾ルニ弟神須佐男尊ハ其清潔
ナル齋庭ニ放尿シ或ハ其織殿ニ斑駟ヲ逆刺シテ投入ス大神之ヲ汚穢トシテ祭事行ハレ
ス其暴行ニ堪ヘスシテ天ノ巖戸ニ閉居シ玉フト云フ亦紀一書ニ諸尊冊尊ノ殞殞ノ所ヨ
リ返リ當滌去吾身濁穢則往至筑紫日向小戸橋之青木原而穢除焉ト云フ則神道ハ
一切ノ汚穢ヲ避ケテ清潔ニセルコトヲ宗トセルコト明白也中ン就ク死穢ヲ忌避スルコ
ト甚ダシキ者ナリ爾ルニ今ノ神道家(縣社己下ノ神道教導職ヲ指ス)ハ時制ノ許ス限
リニ於テ古道ニ背ヘテ不潔ヲ避クルコトヲセス唱導シテ曰ク日本人ハ日本風ノ神葬ヲ
爲ス可シ等ト倍々佛教ノ檀徒ヲ改宗セシメテ葬儀ニ關ス蓋シ營利的乎排佛的乎古道ヲ
眷ミズシテ夫レ何ゾ破廉耻ノ甚ダシキヤ佛教ノ大意ハ淨ヲ不淨トシ不淨ヲ淨トスル妄
見ヲ破シ本來ノ眞性ハ無始己來不垢不淨ナリト明示シテ佛在世以來道路ノ屍骸ヲ埋葬
シテ慰慰ニ冥福ヲ祈ルコトヲ本意トナセリ是レ眞性ヲ微觀シテ本來染淨ノ不二ヲ達悟
スルガ故ニ潔癖ノ天神ニ近事スルモ汚穢物ニ觸接スルモ敢テ心理ニ厭フ所ナシ斯ク祖
承ノ法ヲ確信スルコソ教家ノ本色ナレ是ノ故ニ神佛分岐第二ノ事葉トナス往昔ヲ回顧

スルニ我國ニ於テハ何事ヲ爲サントスルニモ先ツ神託ヲ承ケテ後ニ之ヲ決行スルヲ常途トナシタリ中世佛教極盛ニ及ンデ此事漸ク絶ヘテ行ハレサリシガ今ノ時世ニ暨ンテ天理教徒ガ之ヲ復古セシメ大和ノ甘露台ニ神託ヲ聞クト云フ故ニ今人云ヘラク神道ハ悲母ノ如ク我國襁褓ノ時ニ能ク之ヲ教養セリ爾來今日ニ及ンデ我國ハ幾千年間成長シテ稍壯大ニ及ベリ己ニ悲母ノ膝上ニ置ク可ラズ宜シク東西南洋ノ學校ニ入レテ完然ノ智徳ヲ兼備セシメズンバアラズ斯、ル時運ニ神託ヲ以テ身ノ進退ヲ決セントハ甚ダ迂也魯也見ヨ今ヤ感情時代ヲ經過シテ智力時世ニ推遷レリ宜ク今人ハ舊夢ヲ攪破シ因果必然ノ真理ヲ自證シテ安心起行スベキニ非ズヤト是ヲ以テ神佛分岐第三ノ事案トナス我國太古ハ罪穢ヲ祓除セル法ヲ以テ天下ヲ治ム故ニ祭政一致ト云フ古ハ人心淳朴ニシテ其宜キヲ得タリシナル可シ爾ルニ稍々世ノ開クルニ隨ヒ人機奸惡ニナリ人民互ニ祓除ヲ行ヘ其弊害多カリシ也紀ノ孝德帝大化三月甲申ノ詔ニ有下被レ役ニ邊畔ニ民事畢還レ郷之日忽然得レ疾臥ニ死路頭ニ於テ是路頭之家乃謂之曰何故使下死人於上余路ニ因留ニ死者友伴ニ強使ニ祓除ニ由レ之兄雖下臥ニ死上於路ニ其弟不レ收者多(其弊一也)復有三百姓溺死於河ニ逢者乃謂之曰何故於レ我使レ遇ニ溺人ニ因留ニ溺者友伴ニ強使ニ祓除ニ由レ是兄雖溺死上於河ニ其弟不レ救者多(其弊二也)復有被レ役之民路頭炊レ飯於レ是路頭之家乃謂之曰何故任レ情炊ニ飯余路ニ強使ニ祓除ニ(其弊三也)復有三百姓ニ就レ他借レ飯炊レ飯其飯觸レ物而覆於レ是甌主乃使ニ祓除ニ(其弊四也)如是等ニ類愚俗所レ染今悉除斷ト爾レ

ハ此祓除法ハ今代ノ違註罪ニシテ其贖金ヲ人民相互ニ課徴セシ者也爾リ而シテ祓除ノ贖物ヲ強索スル陋習ハ千二百年前迄行ハレ私事ノ旅行困難ニシテ公役ノ外ハ郡郷ノ往來杜絶セシ景迹ナリシト云フ當時ニ當ツテ佛教渡來シ八福田(佛法、僧、父母、師僧、貧窮、疾病、畜生、等)爲メニ廣路ノ義井建造橋梁治平險隘孝養父母)ノ善根ヲ修セシメシカバ舊染ヲ一掃一恭敬三寶給事病人救濟貧窮設無遮會等ヲ修ス)ノ善根ヲ修セシメシカバ舊染ヲ一掃一洗シテ人民ノ患ヲ斷ジ國家ノ盛ンヲ觀ルニ至リシトゾ佛教ハ罪原衆生ノ惡業煩惱ニ起因スルヲ悟了スルガ故ニ四正勤(一ニハ未ダ生ゼザル惡ハ生ゼザラシム二ニハ己ニ生四ニハ已ニ生ゼシ善ハ增長)ヲ修セシメ而シテ自ラ懺悔滅レ罪修レ善聚レ福トナス是レ神佛分岐第四ノ事案トス神道ニテハ亡魂ヲ神ト祭テ敬ヘル例古書ニ嘗テナシ則天照大神皇孫尊ニ詔ノ曰ク此寶鏡ヲ見マサンコト吾ヲ見ルガ如クセヨト依テ八咫ノ寶鏡ヲ伊勢ニ祭リテ太廟ト唱フ是レ神慮ヲ寶鏡ニ留メ玉ヒシナレバ則真實ノ神也實ハ太神ノ遺骸ヲ祭リシニハ非ズ次ニ皇孫尊ハ日向ノ可愛山ノ陵也彥火々出見尊ハ日向高屋山ノ陵也葺不合尊ハ日向ノ吾平山ノ陵也神武天皇ハ大和國畝傍山ノ陵也綏靖帝以後歷代ノ天子ヲ神社トシテ祭祀シタル例ナシ皆陵ニ埋葬シ奉リシ也陵トハ鄭重ニ殯殮スル法ナリ今神佛耶混葬ノ時故之ニ簡シテ國齋ト云フ則亡魂ヲ神トシテ地中ニ祭祀スルノ意義ニハ非ズ一天萬乘ノ天子スラ神祭ニ非ズ爾ルヲ今日人民ガ神官ニ依頼シテ神葬ヲナシ神トナル様ニ意得ラレシハ自ラ佛法ニ化轉セラレシ者ニシテ神道ヲ努メ知ラザル曹ノ謬

安也夫レ佛道ハ法身毘盧遮那佛ノ體性ハ法界ニ周徧シテ凡下ノ心身ト本來一體ナリ迷フ故ニ佛位ニ遠カルノ迷妄ヲ生ズ故ニ大日ノ密法ニ依テ凡夫ノ色心共ニ悟リノ佛體トナス所以也是レ人鬼ヲシテ佛ト成シ崇拜スル者ナルガ故ニ神佛分岐第五ノ事彙トス國神ナル大國主神ハ天神天照大神ノ勅詔ヲ奉シ天孫ノ尊ニ國ヲ讓リ顯政ヲ委ネ黃泉國ニ遷リ幽政ヲ主リ玉ヲ推考スルニ天神國神ノ權位ニ差等アリ且ツ顯國幽界ノ禍福ニ相異アルコト知了セラレ若シ爾ラハ現在ハ權威尊キ天孫ノ下ニ奉仕シ未來ハ權威天孫ヨリ卑キ國神ニ支配セラレトナス乃チ禍事ハ死ヲ第一トナスコト昭然タリ爾ルニ佛敎ハ現世ヲ娑婆ノ苦界トナシ未來ハ淨土ノ樂刹ニ往生ストナシ阿土ノ本源ニ歸入ストナシ本覺ノ佛ト同體ニ成ルト唱フ遺教經曰汝等比丘當下一心勤求上出道一切世間動不動法皆是敗壞不安之相ト是ヲ以テ神佛分岐第六ノ事彙トス井上圓了(文學博士)曰ク神佛判然論ハ今更云フ迄モナキコトニシテ維新ノ初メ我政府既ニ之ヲ實行シタルコトナレドモ余ガ傍觀スル所ニヨルニ未ダ判然シタルモ未ダ十分ヲ盡スニ至ラズ故ニ余ハ十分判然センコトヲ望ム也今其所以ヲ述ルニ維新以後ノ判然ハ神社佛閣ヲ別チ神官僧侶ヲ分チテ社寺互ニ混合セザル様ニ規則ヲ定メタルノミ是レ法律上ノ判然ト云フ可キモ未ダ實務上ノ判然ニ非ズ余ハ我邦固有ノ宗教ハ神佛二道也ト信ズルモノ也然ルニ神道ハ宗教ニ非ズト論ズル者アレバ余ハ強テ之ヲ宗教トスルニ非レドモ其敎タル我邦固有ノ道ナレバ之ヲ佛敎ト並存シテ互ニ一致和合スルコト必要也ト信ズル者也之ヲシテ一致

和合セシムルニハ法律上ノ制限ノミナラズ其實務本業ニ至ル迄判然相分レテ互ニ混同セザル様ニスルコト必要也ト信ズル者也若シ此二者ヲシテ同一ノ業務ヲ執ラシムルトキハ自然ノ勢ヒ互ニ争ヒ互ニ相排シ不和ヲ其間ニ生ズルニ至ルベキハ必然也余案ズルニ我邦ノ史上今ヲ距ルコト一千餘年前既ニ神佛調和論ヲ唱ヘシモノ有テ其後此二素相和シ相合シテ我國中世ノ文明ヲ化成シ國體モ之ニ依テ立チ民俗モ之ニ依テ起リ數百年ノ久キ相傳ヘテ今日ニ至レリ王政維新以前神佛混合シタルハ全ク此調和ノ影響結果ナラザルハナシ而シテ其混合ハ唯外形上ノ法律ニ止マリ實際上ノ職務上ニ至リテハ却テ今日ヨリ判然シタル者ノ如シ其間幸ニ神佛二者ノ相争ハザルコトヲ得タルハ其判然分業スル所アリシニ由ル然ルニ今日ニ在テハ一方ニハ判然シタル所アルモ他ノ一方ニハ判然セザリシ所アルヲ以テ或ハ却テ不和ヲ生ズルノ原因トナレリ余ハ其不和ヲ防ガンガ爲ニハ今日判然セザル所ノ者ハ昔日ノ如ク判然セシメンコトヲ望ム也昔日ハ人事ヲ兩分シテ吉事ハ神ニ歸シ凶事ハ佛ニ托シ生前ハ神ノ保護ヲ祈リ死後ハ佛ノ救助ヲ乞ヒ産婚ハ神官ノ任ズル所トシ葬祭ハ僧侶ノ任スル所トナセリ故ヲ以テ神佛判然其業ヲ分チ互ニ相争ハザルコトヲ得タリ蓋シ吉凶禍福ハ人生ノ免カレザル處ニシテ産婚葬祭ハ人事ノ缺ク可ラザル者也果シテ然ル所以ヲ知ルトキハ其式ヲ制定シテ神佛二道ヲシテ各其受持ヲ分タシメザル可ラズ云々(以上四明餘霞ニアリ)實ニ所論ノ如ク政事のノ判然ハ半ヤ行ハレタルモ實業ノ判然ナキガ爲ニ余ガ郷里ノ隣村(水戸烈公ノ神佛ニ干

涉セラレシ餘弊ノ爲メナル輕躁者信教自由ノ時機ニ乘ジ吾人ハ日本人故神葬祭ヲ行フ可シトテ葬祭ハ神道ノ本意ナルヤ否ヤノ道統モ探求セズシテ祖先累世ノ香華院ヨ浪リニ離檀シテ其寺ノ宗意安心モ更ニ得知ラズ高慢顔ヲナシテ云ク我ハ神祭ナリ抹香臭キ佛葬ハ甚ダ忌ハシキ者也ト唱ヘ同機ヲ求メ寺院ノ威信ヲ傷フ故ニ神佛反目瞋睨セザルコト能ハザルニ到ル是レ國家ノ爲ニ憂ヘズンバアル可ラザル所也爾ラハ速ニ神佛ノ實務ヲ復舊シテ産婚ノ吉事ハ神道之ヲ司リ葬祭ノ凶事ハ佛道之ヲ宰リ衝突ノ根元ヲ斷チ能ク一致シテ吾國ノ古儀ヲ維持シ内地開放五族比隣ニ及ビ外教ノ出產洗禮式結婚指環授與式及ビ葬祭式ヲ防禦シテ人民ヲシテ一國獨立ノ志操ヲ奮起セシメ國躰國風ヲ維持セシムルコト寔ニ神佛當路者ノ緊急要務ナラズヤ是ヲ以テ神佛分岐第七ノ事彙トス以上ノ事理ノ教榮ハ全ク神佛新線路ノ分岐ヲ指導シテ神佛徒ノ乗ゼル汽車ノ衝突ヲ豫防シ各自目的地ノ高天原ヤ十方淨土ニ神速ニ臻達スルコトヲ得セシメン爲ニ製作セラル者也若シ是等ノコトヲ等閑ニシテ標示セザルトキハ將來神佛耶ノ線路混濫シテ軌轢衝突水火ノ諍鬪劇甚ナラント想像セラル嗟我レ國ノ爲法ノ爲ニ焦慮措ク能ハザル所以ン茲ニアリ貴子能ク之ヲ察セヨ

問テ曰ク 神道ノ祭儀及ビ佛教ノ法式等ニ付キ未ダ了解セザル者多シ之ヲ氏子檀信徒及ビ雜僧等ニ明示シ置カザレバ自然儀式ノミ行ヘ信心以テ必ラズ舉行ス可キ事トモ思ハザルニ至リ剩サヘ萬邦混住シテ外國ノ祭典ノミ行ハレ我が古風ヲ滅却スルニ至ラン

爾ラバ今日ヨリ之レガ爲ニ信佛徒ガ現行ノ祭儀法式ノ大意ヲ聽聞シ置キ未ダ學知セザル曹ニ周ク沙汰ス可キ必要ヲ感ズ先ヅ我國ノ大祭祀日及ビ神祭ニ關スル緣由ヲ問フノ順序トシテ初メニ四方拜ノ大意ヲ問フ

答テ曰ク 此式ハ一月一日 天皇親ラ天地四方山陵ヲ拜シ天下ノ攘災增福ヲ念ジ寶祚无究ヲ祈リ玉フ也亦此日ハ朝拜トテ群臣禮服ヲ被着シテ 天皇ヲ拜賀シ聖恩ヲ謝シ奉ルナリ是レ君臣ノ禮兩全シテ千古萬世天地ト共ニ變易ナキハ萬國無比ノ美風ナリ國民普ク皇上ノ恩澤ヲ報謝シ奉ラント欲シテ人民一般旭章ヲ揚ゲテ祝意ヲ表旌ス可キ也

問フ 元始祭ハ如何ン

答フ 此式ハ一月三日新年ノ祭トシテ 天子親祭シ玉フ處也衆民モ村郷ノ氏神(或ハ縣社等)ニ詣デ、新年ノ慶賀ヲ表シ日章ヲ揚テ祝壽ス可シ

問フ 改始ハ如何ン

答フ 同四日大政官ヲ始メ諸省府縣ニ至ル迄開廳ノ式アリ

問フ 新年宴會ハ如何ン

答フ 奏任官以上ハ五日判任官以下ハ六日 天皇群臣百官ニ酒ヲ給ヘテ祝宴ノ式ヲ行フ也

問フ

陸軍始メ海軍始メハ如何ン

答フ 陸軍始メハ同八日ニテ陸軍ノ操練ノ式アリ海軍始メハ同九日ニテ海軍ノ操練ノ

式ヲ行フ也

問フ 孝明天皇祭ハ如何シ

答フ 同三十日先帝崩御シ玉ヒシ日也實ニ今上ノ聖德ニヨリ明治ノ隆盛ヲ成セシト雖併ラ先帝皇政一新ノ當初睿慮ヲ惱マシ天下億兆ヲ愛護シ玉フノ餘澤ニ非ルハナシ國民治ク之ヲ回想シ敬ミ畏ミ以テ祭祀ノ衷情ヲ盡スベシ

問フ 紀元節ハ如何シ

答フ 二月十一日也我國ノ古昔鴻荒草昧ノ時蠢爾タル醜類未ダ皇化ニ霑ハズ睚眦跳踉天物ヲ暴殄ス此時ニ當リ神武天皇神聖ノ烈ヲ承ケ東征ノ略ヲ奮ヒ數年ナラズシテ妖邪ヲ掃蕩シ丕業ヲ恢廓シ廼チ武ヲ偃ベ教ヲ敷キ黎元ヲ撫育シ遂ニ人皇ノ祖ト爲ル其即位ノ初メ祭祀ヲ謹ミ政理ヲ察シ有能ヲ擧グ有功ヲ賞シ三器ヲ奉安シテ萬世ノ基ヒヲ開キ玉フ盛德稱揚シ奉ルニ暇ナシ即チ皇齡五十一歳ノ時和州橿原ノ宮ニ即位シ玉ヒシハ辛酉年二月十一日ナレバ毎歲本日貴賤ノ撰ビナク相集リ天皇ノ冒艱ヲ恭察シ奉リ大勳ヲ尊ミ擊壤鼓腹ノ皇恩ニ報答シ各自ノ本職ヲ恪守シテ國家萬歳ヲ祈リ旭章ヲ揚ゲテ祝意ヲ表シ奉ル可ナリ

問フ 神武天皇ノ例祭ハ如何シ

答フ 例祭ハ四月三日ナリ當日ハ天皇天下ヲ統治シ玉フコト七十六年寶壽一百二十七歳ニシテ橿原宮ニ登霞シ玉ヒリ依テ臣民タル者ハ天皇ノ恩德ヲ仰キ畝傍山ノ御陵ヲ遙

拜シ丹誠ヲ抽ンシ鴻恩ニ報答シ奉リ旭旗ヲ揚ゲテ國家萬歳ヲ祝賀スル也
問フ 神嘗祭ハ如何シ

答フ 此祭ハ九月十七日也往古皇太神嘉穀ヲ殖サセ玉ヒシヨリ其百穀ノ種類天下ニ繁衍シ億兆今日生命ヲ養フヲ得ル者太神宮ノ恩賚ニ非ルハナシ爰ヲ以テ此日ハ新稻ヲ皇太神宮ニ獻供シ辱クモ 天皇萬民ノ爲ニ太神ノ德澤ヲ奉謝スルノ日ナレバ臣民ハ新穀ノ豐熟ヲ喜ビ神恩ヲ謝シ奉ルベシ若シ人民ニシテ報本ノ志ナク徒食スレバ禽獸ニ何ゾ簡バン但シ神嘗祭ハ專ラ太神宮及ビ万神ニ新穀ヲ供養スルノ義ニシテ人ノ嘗味スルニハ非ルナリ

問フ 天長節ハ如何シ

答フ 此祝日ハ十一月三日也此日ハ權臣ガ中世已降生セル弊染ヲ洗滌シ王道ノ荆棘ヲ艾除シ宏圖ノ不振ヲ轉瞬ノ間ニ挽回シ黎民ノ陋習ヲ救ヒ文化ノ域ニ趨進セシメ中世ノ鴻業ヲ開キ玉ヘ日本ノ威武ヲ世界ニ輝耀セシメ玉ヒシ叡聖文武ノ 今上皇帝御降誕ノ吉日ナレバ當日ハ縑素臣民タル者ハ聖算ノ疆リナク天長地久皇運不退ナランコトヲ祈リ奉ル可キ也而シテ日章ヲ掲ゲテ慶賀ノ意ヲ表彰ス可シ

問フ 新嘗祭ハ如何シ

答フ 十一月二十三日上御躬ヲ今年ノ初稻ヲ天神ニ奉獻シ次ニ天下ノ諸神ヲ祭祀スルヲ以テ天下ノ群庶ハ此義ヲ知り當日氏神(縣鄉村社)ニ詣シテ或ハ新穀ヲ拜嘗シ祝悅

ノ誠實ヲ表シ天恩ノ萬一ヲ報シ奉ル可シ但シ新嘗祭ハ諸神ニ供シ君民俱ニ拜嘗スルヲ得ルノ義也

因ニ云フ新嘗祭ハ天照大神ヲ祭ルニ非ス是レ單ニ天神ヲ祭ル古式也如何トナレバ神代卷ニ素盞鳴尊見ニ天照大神新嘗一時則陰放ニ尿於新宮云云是レ天照大神自新嘗祭ヲ行ハセ玉ヒシ者ナリ而シテ九月神嘗十一月ハ新嘗ト分別シタルハ迺チ天武天皇五年ナリ

問フ 大祓ハ如何ン

答フ 六月三十日ト十二月三十一日ニ之ヲ行フ此日ハ百官群臣萬民ニ至ル迄過チ犯セ_ル罪穢_レヲ祓除シテ清潔ニセラルル事也巳犯ノ罪ヲ祓除シ未犯ハ罪ヲ造ラジト氏神(縣鄉村社)ニ詣テテ祈誓ス是レナリ

因ニ古事紀ノ意ヲ取テ釋セバ諸尊夜見ノ穢_レヲ清メントシテ筑紫ノ橘ノ小門ニ於テ穢服ヲ脱却シ玉フヲ祓除ト云フ而シテ御身ヲ海潮ニ浸ノ洗滌シ玉フヲ身滌ト云フ此尊ノ自ラ穢物ヲ放棄セシト須佐之男命ノ罪ヲ他ヨリ責メ贖物ヲ出サセ放逐シケルト同義ナレハ此二神ノ事緣ヲ合シテ祓身滌ノ法トス而シテ人世ニ至リテモ之ヲ行ヘル也天武天皇ノ紀ニ五年八月詔シテ曰ク四方爲ニ大解除云云本居宣長曰ク祓ノ中ニ殊ニ大祓ト云フ名ハ古書トモニ此事ノ出タル例ヲ以テ考ルニ一人ノ祓ニ非ズ廣ク諸人ノ數ナルガ故ニ大トハ云也ト又曰ク近世ノ神道者ノ所爲ヲ見ルニ法師ノ佛ニ事ユル

所爲ヲ羨ヤミ倣フ者多シ其中ニ此大祓ノ祝詞ヲ讀ムコトモ彼佛ノ經隨羅尼ヲ讀ム如ク神前ニ向ヒテ讀ミ或ハ數百遍モ讀ミ或ハ五千度一萬度ノ祓杯ト云フ是ヲ讀ムヲ祓修行ト云フ又祓ト云フ物ヲ此詞ノコトト誤解シ某ノ祓某ノ祓トテ自作ノ詞ヲ讀ムハ後人ノ漢風ニ倣ヒシ也此詞トハ祓ノ業ナル身滌ヲナシ贖物ヲ出シ其由ヲ天神ニ告グル詞ナレバ其祓除ノ業ヲナサズシテ此詞ノミ讀マンハ神ヲ欺キ奉ルニ似タリ云々(大祓ノ詞後釋ノ意ヲ撮)實ニ本居大氏ノ如キハ古道ニ明達シ古風維存ニ熱誠ヲ注キ佛敎ニ混濫セル神道社流ヲ彈呵セシ者也近世ノ神道者反省セズンバアル可ラズ

問フ 大嘗會ハ如何ン

答テ曰ク 古ハ新嘗祭ヲモ大嘗ト云ヒシトゾ爾ルニ令曰凡天皇即位惣祭ニ天神地祇ト又凡大嘗ハ每世一年國祠ニ行事トアリテ便チ天子一代一回ノ大祭ナリ新嘗ト混亂スルヲ以テ連年ノ祭ヲ新嘗トナス大嘗會ハ神祇宮ニ悠紀主基ノ兩神殿ヲ新造セラレ天子天之羽衣ヲ被着シテ親祭アリソハ二條良基公ノ假名ノ文和大嘗會記ニアリ

今上ハ明治四年十一月ニ之ヲ舉行シ玉ヒシト聞ク歷世ノ天皇御一代一度ノ大祭日ナレバ臣民殊ニ祝意ヲ表彰ス可キ所以也夫レ日本臣民タルモノハ我ガ祭政一致ノ國風ヲ辨ヘ政事家ハ殊ニ是等ノ祭日ヲ恪守ノ上行ヘバ下倣フノ義ヲ存スルニ在リ別シテハ神官ナル者ハ古風維存ヲ旨トシ中世已來ノ佛敎ニ摸倣シ或ハ外教坏ニ準擬ノ更ニ新式ヲ設クルカ如キコトアルコト勿レ古道維存ノ志乏キ輩ハ將來西洋諸派ノ教義ニ混淆シ

我國ノ優美ナル古俗ヲ亡滅スルニ至ラン而シテ國民タル者大祭祀日ノ義ヲ辨ヘザレバ
祭儀ヲ忽諸ニ附シ或ハ祝志ヲ表セザル如ニシテ經久シ終ニ異邦ノ祭儀ノミ行ハレ純粹
ナル國祭ノ世ニ見難キニ到ランコト必セリ故ニ杞憂ニ耐ヘズシテ老婆心以テ嗚子ヲ歷
スルノ資助ニ贊スルノミ

問テ曰ク 先キニ神道ハ亡魂ヲ神祭セシ例古典ニ見ヘスト聞ク然レトモ神名帳等ニア
ル社殿ハ國神即チ古代ノ神人ヲ祭祀セル者ノ如シ如何ン

答テ曰ク 土佐香美郡ニ天人穗別神社アリ謂ユル別トハ造別ノ義ニシテ紀ノ景行帝ノ
條ニ當_テ今之時_ニ謂_フ諸國之別_者即_チ其別土苗裔焉トアルニテ概シテ神社ハ往古ノ國縣ノ
政事堂ニシテ天神ヲ祭祀セル者ナルガ故ニ死亡者ヲ祭祀セシニ非ルコトヲ知ル可キ也
便我國ハ祭政一致ノ國躰ナリケレバ政事堂(漢ニ之ヲ廟堂ト云フ)ニ天神ヲ祭リ年々
產物製物ヲ貢獻セシメ罪穢アル者ニハ購物ヲ徵納セシメシ者ナリ常陸風土記ニ鹿島郡
ノ鐵礦ヲ鹿島ノ社領トシテ探掘ヲ禁止セシコトアリ爾レバ則神社ハ皆神代ニ國土ヲ開
拓セシ人ノ創建シタル政事堂ナルコト分明ナリ之ヲ以テ見レハ神名帳ノ諸神社ノ起原
ハ氷釋スルト同時ニ神道ニ亡者ヲ神トシテ祭リシ例ナキヲ知ルニ足ランカシ
問テ曰ク 今日引證ニ依リ神道者流ガ死亡者ヲ神トシ祭ルノ義ハ古道ニ背キ本色ニ非
ルコトヲ了解シタレバ更ニ進ンデ聽聞セント欲スルハ佛道ニテ我國ノ葬儀ニ關セシ原
由ナリ如何ン

答テ曰ク 齋儀ハ(殯殮及林葬)蓋シ人皇ノ初ヨリ第三十四代推古天皇ニ到ル迄行フ
處ノ古禮也然ルニ十六代應神天皇ニ到リ傍ラ儒教ノ式ヲ雜ユル者アリ又三十代欽明天
皇ノ御宇ニ佛敎來リ混淆シテ統一ナラザルコト有テ禮法大ニ紊ル三十四代推古天皇之
ヲ憂ヒ宜ク神ニ問フテ之ヲ格ス可シト大臣群臣ヲ將ヘ三輪ノ廟前ニテ大祭ノ詞ヲ設ク
時ニ大神巫ニ詫シテ告テ曰ク葬禮亡奠ハ諸神ノ忌ム所也神巫是ニ觸レバ三年其神坐ニ
向ハズ上古ハ人ナシ之ヲ行フトキハ神訣ル神ハ殘穢ヲ悦バズ今ハ僧ナル者アリ神悅ン
デ之ニ宛ツ儒宗ノ禮ハ吾ガ齋元ニ非ズ其業吾ニ非ルニ若シ之ニ任セテ行ハシメバ後ニ
至テ必ズ牛鹿ヲ用ヘテ神威ヲ廢セン今ヤ天皇其法ヲ定メント欲セバ尊卑ノ禮式ハ聖皇
ノ禮ノ如クシ其他ノ行フ處ハ非法莫法宜ク僧尼ニ任スベシ僧尼ハ無爲ノ客也更ニ汚穢
ニ着セズ任ジテ應ニ執行スベシ自今以後改メ行フ可ラズ(下略)ト云々 天皇詫宣ニ依
テ令ヲ下シ法ヲ定ム又令ヲ下シ法ヲ定メシ後天皇深ク考ヘ詔シテ曰ク神代ハ崩薨少シ
死ノ憂ヲシラズ故ニ其禮_{イタカ}傷_{ラズ}儒ノ禮儀ハ死ノ憂ヲ知テ鬼ノ報ヲ知ラズ食供ニ憂ヲ
盡サズ釋典ハ忌儀ニ合ス故ニ國器ノ膳儀永ク釋教ニ歸セント又曰ク奠供古ハ牲膳也今
ハ齋食佛ニ依リ神ニ憑ル等ト云ヘリ此推古ノ詔ハ國史ノ本紀ニ出タリ通考スルニ我ガ
神代ニハ人少ク死者稀レナレバ時人死ノ憂ヒ深カラザリシ爲メ殯殮ノ禮モ眞誠ト云フ
可ラズ(今世ノ神祭ニ音樂ヲ用ヘテ靈魂ヲ慰ムト唱ヘテ憂ヲ盡サズ)儒法ハ憂惑ノ情
ヲ盡スヲ教ユレドモ人鬼ノ果報ハ如何ナル物ト云フニ至リテハ其說嘗テナシ論語ニ孔

子ノ曰ク未ダ生ヲ知ラズ焉ゾ死ヲ知ラントモ亦タ喪ハモラハチキヤン與イタメコ易ヒシロ寧イタメコ戚ヒシロ（古ハ親ノ喪ニ對シテ作法多シ其作法ヲ能ク習ヘ修メテ施主ノ行儀ニ叶フ）ト有テ盡理究竟ノ談ニ非ズ剩サヘ牛鹿ノ奠ヨリハ哀傷ノヤルセナキガ本意也トノ義供ハ喪ノ禮ニ相叶ハサルニ於テヲヤ其故如何ン人界ノ死憂ヲ知テ畜趣ノ死哀ヲ知ラズ亡者ノ追福ノ時ニ際シテ殺生ノ罪ヲ造リ精靈ノ勝果ヲ祈ラザル所以ン是也佛教ハ精靈ノ爲ニ善根ヲ營ミ妙覺位ニ引導シ其法式眞理ニ適ヒ圓備セザルハナシ故ニ先皇之ヲ撰探シ天下ニ令ヲ下シテ行ハシメ玉フ叡裁萬世誰レカ遵守セザランヤ

問フ 葬法ノ功德勝劣如何ン
 答フ 天竺ニ四種ノ葬法アリ一水葬謂ク江河ニ投シテ飼コ魚イサ龍リウニ火葬謂ク積ツキ薪シ焚ヤク之ヲ是ヲ荼毘トモ開維トモ云フ三土葬謂ク岸邊埋テ速カニ朽ルヲ取ル四林葬謂ク寒林ニハ（墓所ナリ）拾置テ諸ノ禽獸ヲ飼フ（行事抄並要覽）吾朝ハ古ハ林葬或ハ土葬ナラン人皇三十七代孝德帝勅ヲ下シテ貴賤ノ葬法ヲ定メラレタリ庶人不レ得レ殯カ葬カ地カヲ一レ所ニセヨ處々ニ埋テ勿レ穢ト之レナリ葬法功德ノ勝劣ノ義ハ水火土ノ三葬ノ上ニ立ツ謂ク土葬ハ形骸ヲ全カラシメン爲也哀情ノ甚キ爲ニナス處也火葬ハ骨子ヲ親類ニ分布シ或ハ保存ノ爲ニナス處也釋迦如來之ヲ棟探シ玉ヒリ水葬ハ身肉ヲ魚類ニ施サン爲ナリ故ニ經ノ中ニモ三葬ノ中ニハ土葬ヲ下品ノ功德トシ火葬ヲ中品ノ功德トシ水葬ヲ上品ノ功德トセリ（四葬ノ中林葬モ是レニ同ジ）然レトモ今日ヨリ以來人員繁殖ノ時ニ洎ンデハ水葬

モ間接ニ人間社會ニ害ヲ與フ可シ惡疫傳染ノ時ハ土葬モ直接ニ人生ヲ毒スルガ故ニ火葬ヲ取ルニ在リ尙ヲ墓地ノ爲ニ収獲ノ之アル地ヲモ耕ヤスコト尠ナカラザレバ自今吾人ガ望ム處ハ衛生的經濟的ノ上ニ道德上ノ葬法ヲ行フ者之也即チ精靈ノ爲ニ福田ニ善苗ヲ殖種シ君師父母ノ遺骸ヲ保存シ神佛ノ如ク永ク香華燈明ヲ供ゼン爲ニ茶毘法ヲ擇テ世ニ普ク行ハシメンヲ欲ス是レ佛意ニ合シ且ツ今ノ世ニ適シテ最上ノ葬法ナレバ也

問フ 死人ニ對シ引導ノ功德アリヤ如何ン
 答ス 退耕錄ニ葬式無益法事吊勤ノ二問題ヲ掲ゲテ辨シテ曰ク臣トシテハ其君ニ奉セザルハナク親トシテ其子ヲ愛サマルハナシ苟トニ其君ニ奉ジ其親ヲ慕ヒ其子ヲ愛スルノ至誠自然ニ出ルハ皆人ノ情也誰カ其親ヲ葬ルコト禽獸ノ如クナルヲ欲センヤ誰レカ其君ヲ祭ルコト禮ナキヲ欲センヤ故ニ聖賢禮ヲ制スル皆已ムヲ得ザルニ出テタリ至誠善ヲ盡スハ是皆臣子ノ至誠ナリ葬ルニ禽獸ヲ以テシ祭ルニ禽獸ヲ以テスルハ聖賢皆忍ビザル所也且ク聖賢ノ人ヲシテ禽獸ニ異ラシメントスルノ意深シ矣生之ニ事フルニ敬ヲ以テシ死之ニ事フルニ哭泣ヲ以テシ遠キヲ追ヒ終リヲ慎ミ之ヲ祭ルコト在スガ如シ豈ニ至誠ニ非ズヤ然ルニ儒ハ急ニ民ヲ當世ニ治メント欲ス只一世ニ在ル也佛ハ人ノ生死ニ輪廻スルヲ救ハント欲ス則宜ク法ノ爲メニ人ヲ教ベシ修正精誠當ニ因緣業果其生死前後際ニ在ルヲ指スベキ也ト云云是ヲ以テ引導法追吊法ノ要アル所以ン知ル可キ也

夫レ死體ト雖自身ト同血脈ニシテ親子トナル宿縁厚シ能略ニナス可ラズ況ンヤ死骸ハ
 六大ノ法身也六大无碍阿土ノ本源ニ歸セシムルノ法式大意ナクンバ非ズ心識ガ四大ヲ
 集メテ且ラク之ヲ利用ス心色ノ關係密セリ今假リニ分離ヲ示スト雖モ執愛ノ妄念餘
 殘ナキ能ハズ宜シク慙懃ニ引導シテ色(遺骸)心(亡魂)共ニ毘盧ノ本性ニ歸セシムル
 ヲ要ス可キ也豈只ニ死躰ニ對シテ引導スルハ無益也ト皮相見ヲ以テ論ジ去ルヲ得ンヤ
 夫レ福田纂要卷ノ十二云ハスヤ魂ニ三種ノ魂神アリ魄ニ七種ノ魄神アリト所言三種
 ノ魂神トハ一胎先業魂神識二幽精轉魂神識三相靈現魂神識也七種ノ魄神トハ一雀陰魄
 神識二天賊魄神識三非毒魄神識四尸塔魄神識五自死肺魄神識六除穢魄神識七体尸魄神
 識也謂ク三魂神ハ第八阿闍耶識ニ於テ性相ヲ分別シテ心性ハ法報應ノ三身トシ心相ハ
 三魂トス亦第七轉識ニ於テ性相ヲ分別シテ性ヲ七等分トシ相ヲ七魄トス亦云ク魂ハ心
 法ノ靈也魄ハ色法ノ精也今佛家ハ魂魄ヲ合シテ精靈ト云フ解シテ云ク人間ニハ靈アリ
 精アリ草木等ニハ靈ナク精ノミアリ即發芽開花結實等ハ精氣ナリ枯死スルハ精氣ノ稍
 ヲ去リシ也而シテ人死セルハ靈ノ去リシ也而シテ躰ニ精氣ノ些カ殘リアリテ更ニ物心
 因縁和合シテ再ビ生物トナル是ラノ幽理ヲ觀照シテ善法ヲ修シ精靈ニ熏習セル惡業ノ
 結縛ヲ解カント欲スルハ最モ心宗家ノ本懐トスル處ナラスヤ爾ルニ佛門ノ中ニ現在ノ
 引導ヲ貴ンデ未來即死後ノ引導ヲ卑シムアリト云フ是レ亦淺膚ノ見ヨリ起ル所ナリ須
 ラク知ル可シ精靈ハ永劫不滅ニシテ三世ニ涉テ邊際ナキガ故ニ過去ノ精靈ヲ追吊シ現

在ニ引導シ未來ノ佛道増進ヲ指導シ色心不二ノ理趣ヲ悟明シ死躰ヲ加持シテ阿土ノ本
 源ニ還ラシムルノ妙法ナルヲ是ヲ以テ予ハ佛教ハ三世引導ヲ要ス可キノ理アリト斷言
 スル者ナリ

問フ 僧ヲ請シテ引導スルノ義如何ン

答フ 毗那耶律ニ云送葬必當可令能者誦無常經并伽陀爲其咒願上ト智度論十曰
 大愛道比丘尼涅槃佛自在前敬香爐引導ト是レ引導ノ本說ナリ(大愛道比丘尼
 ハ釋迦如來ノ姨母ニシテ梵ニ摩訶波闍提ト云フ佛ヲ養育シ玉ヒシ方也)

問フ 父母ノ棺ヲ昇クベキ義ハ如何ン

答フ 俗父母ノ棺ヲ荷フ是レ佛勅ヲ恪守スル也淨飯王泥洹經曰淨飯王命終シ玉フトキ
 七寶ノ棺ヲ作ル其時阿難ト羅睺羅ト棺ノ後ニ立テ佛ト難陀ト前ニ在リ佛言ク若シ當來
 ノ衆生ニ暴惡ノ者アリテ父母ノ棺ヲ擊グズシテ其深恩ニ背クコトアラント佛自ラ御父
 淨飯王ノ棺ヲ擊グ玉フ爾時大千世界六種ニ震動ス四天王乃佛ニ代リテ擊グ佛香爐ヲ執
 テ棺前ニ立テ引導シ玉ヒシトゾ

問フ 送葬幡天蓋ノ義ハ如何ン

答フ 天蓋ヲ捧ゲ幡ヲ擎グルハ莊嚴ノ器具也若シ得益ヲ尋ルニ釋氏要覽ニ云ク七七ノ
 齋日ニハ僧ヲ招ギテ白紙ノ幡ヲ剪ラシム考之正法念經據ルニ十七種ノ中有アリ(極善
 ハ淨土ニ極惡ノ者ハ地獄ニ一彈指ノ頃ニ往生ス極善ナ)而ルニ死スル時若シ生天ノモ
 ラズ極惡ナラザル者中有即チ餓鬼畜生人天等ニ生ズ

ノハ中有ヲ觀ルニ白晝ノ垂ル、如キ物ヲ觀ル其人ノ識神手ヲ擧テ攬レバ即チ天ノ中有
身トナル故ニ今依レ之七七日ニ白紙幡白練幡ヲ以テ亡者ニ示ス甚ダ正法念經ノ旨ニ合
ヘリト云ヘリ上今ノ幡モ本之レニ據ルカ大莊嚴論十四初瞿曇彌尼涅槃ノ義出ツ是レハ
幡華ノ莊嚴ノコト見ヘタリ

問フ 亡者ニ水ヲ供ズル義如何ン

答フ 冥土ノ衆生ハ心地乾ク者也故ニ水ヲ供養スルヲ要ス今亡靈心地乾クト雖法水ヲ
以テ濕ストキハ菩提ノ芽ヲ生ズ又タ死後墓所ノ手向水モ同ジ意得ニテ供ズ可キ也

問フ 死者ニ經衣ヲ着セシメ血脉及ビ六道錢ヲ帶セシメ杖履等ヲ以テ旅行ノ狀ヲナサ
シムル義如何ン

答フ 大寶樓閣經上十二葉曰若 讀若 誦大寶樓閣陀羅尼ヲ誦ス也若受持若 佩身上ニ

若 書衣中ニ至決定當得三不退轉無上菩提ト是等ノ經說ニ據テ亡者ノ衣ニ直言ヲ書ノ
被着セシメ證大菩提ヲ祈ルナリ亦亡者ヲ剃髮セシメテ三歸五戒ヲ授ケ佛弟子トナス今
ノ印信血脉ハ是レ佛祖相承ノ印璽ニシテ琰王モ尙貴ブ處也故ニ之ヲ帶セシム杖履等ハ
穢土ヲ去テ淨土ニ往生スルノ義ヲ表ス亦六道錢ハ是レ漢土ノ俗法ニ習フ者ニシテ漢ニ
ハ昏寓錢ト名ク亡者ノ路用ニ備フル意也事物紀原曰漢葬者有二昏寓錢謂下昏晚埋ニ錢於
壙中爲死者之用ト是漢土ノ古俗ニシテ佛教渡來已前ニ行ハレ後漢已來僧家之ニ乘
シテ六道錢ト改ム其意ハ六道能化ノ地藏尊ニ供養スル賽錢ノ義也爾カルニ今人批毀シ

テ云ク日本ノ國民四千万ト假定シテ其ノ百分ノ二八十万人死亡五百人ニ對シテ十人
ノ死者トナス）スト豫算シ一死者ニ對シ六厘宛（現今厘以下ノ通用貨ナキガ故ニ）埋
沒セシムトセハ一年ノ費消高无慮四千八百圓也試ミニ將來ニ向テ多年之ヲ計算セバ其
費耗ノ莫大誰カ吃驚セサラン若人青砥藤綱ガ滑河ノ沈錢ヲ裙拾セシメシ古史ヲ閱メ以
テ此六道錢ノ埋沒費額ヲ算勘セバ焉ンゾ天下ノ經濟上看過スルヲ得ンヤ夫レ死者ニ財
貨ヲ與ヒテ何ノ所益カアラン速カニ此舊弊ヲ斷除センヲ企圖セザル可ンヤト此論一
理アリ然レトモ六道能化主ニ供養スル義ハ殊勝ノ善根ナリ天下ニ信心ヲ教ユルノ功德
アリ此事法理性ニ合フカ故ニ冥益ナシト云可ラズ斯、ル美俗ハ漫リニ全廢ス可カラズ
尤モ天下ノ經濟上ニ及ボス義ニ對シハ自今宜ク供米ヲ以テ其賽錢ニ代用シテ善良ノ古
俗ヲ維持スルニ在リト信ズ尙ホ希クハ篤志者アツテ一郡ニ一字ノ地藏院ヲ設ケ村々ヨ
リ此六道錢ヲ蒐集シテ其地藏尊ニ供養シ群靈ニ回向ヲスルモ功德莫大ナラント欲ス是
レ一舉二利ノ說ナラスヤ

問フ 四十九餅ノ表示ハ如何ン

答フ 福田纂要ニ曰ク四十九餅ハ表ス人間四十八大骨五躰五輪ト謂ク亡魂七七日過レ
バ中有ヨリ他界ニ託生スル時ナルガ故ニ此餅ヲ以テ精靈ガ來生ニ受ル身躰ノ大骨ヲ佑
補シ健全ノ福報ヲ感得セシメン爲ニ供養スル所以ン也夫レ五躰ハ五輪ニテ成就スル者
ナリ故ニ曰ハ中虛ニシテ風大空大也鍋ハ金大（地大ナリ）ニシテ之ヲ蒸ハ火大也之ニ

水ヲ用ルハ水大也地水火風空ノ五輪合成シテ一味平等ノ餅トナリ信心ヲ加ヘテ六大无碍ノ德ヲ彰ハシ鑿字所成ノ塔婆トナス誠ニ以レバ諸佛モ衆生モ其依身等シク五体五輪ヲ出デズ斯ノ如キ深義ヲ表示セル者ナルガ故ニ吾本朝ニ流傳由來久シ之ヲ辨知シ之ヲ遵行スルトキハ功德校量ス可ラザル者也

問フ 四十九院ハ如何ン

答フ 是レ兜率昇天ノ縁ニ備フル者也是レ經軌ニ之レ無シト雖古來古德ノ表相口訣ヲ傳フ所也即中央ハ彌勒ノ住院四方ニ各有二十二院合四十九院ナリ凡ソ人ニ四十八ノ大骨アリ即之ヲ四十八院ト表示シ五輪五体ヲ彌勒法相院ト表ス彌陀ハ象レ之建ニ四十八願ニ彌勒表レ之立ニ四十九院ト又深秘ノ傳アリト云フ(眞俗佛事編ノ意ヲ取ル)

問フ 六地藏ノ名號及ビ種字ノ義如何ン

答フ 預天賀トハ地藏尊ノ本願ニヨリ天衆ガ退没ノ苦患免除ニ到リシヲ慶賀ス其天衆ノ慶賀ニ預ルガ改ニ名ク即左ニ如意珠ヲ持チ右手ハ說法印ヲ結ビテ諸天ヲ度ス種字ハ瓦賀字ニシテ因業ノ義ナリ瓦ニ列ノ音アリ不生ノ義ニシテ不可得ノ謂ヒナリ即チ因緣業果列字門ニ入レバ本有ニシテ不可得ト悟達スレバ因業ノ苦患ヲ免除スルヲ得ル義ナリ放光王トハ悲智圓滿ノ光明ヲ放ツテ衆生ノ闇迷ヲ照破シ拔濟シ玉フ即王トハ自在ノ義也種字ハ〇〇伊字ナリ隨應自在ノ義ニシテ轉禍爲福自在ノ義也左手ニ錫杖ヲ持チ右手ニ與願師ノ印ヲ結ビテ雨ヲ降ラシテ五穀成熟ヲ守リ玉フ金剛願トハ金剛ノ如キ堅固ノ誓

願ヲ發シテ上求下化シ玉フ義種字ハ〇〇伊引也一切ノ法災禍不可得ノ義ニシテ因緣ヨリ災禍アリ災禍ノ原因本有不可得ヲ悟リタル謂ナリ左手ニ琰魔幢ヲ持シ右手ハ成辨ノ印ヲ結ビテ地獄ノ苦衆ヲ度ス金剛寶トハ不可壞ノ摩尼寶珠ヲ持シ右ハ甘露ノ印ヲ結ビテ餓鬼道ヲ度ス種字ハ〇伊字也伊字門ハ一切ノ根本ノ義ニシテ即大悲ノ萬行ヲ根本トシテ列字門ニ歸入スルノ義也金剛幢ハ魔軍摧伏ノ義ナリ左ニ金剛幢ヲ持シ右ニ施無畏ノ印ヲ結ビテ修羅道ヲ度ス種字ハ正字ニシテ正字ヲ牀トシ死字ヲ點トス正字ハ火大ノ種字也死字ハ涅槃點也生死ノ世ノ妄染ヲ燒盡シテ涅槃ニ證入スルノ義也金剛悲トハ一切衆生ノ拔苦ノ爲ニハ如何ナル苦行モ全フセント云フ堅固ナル慈悲心アルノ義ナリ左ニ錫杖ヲ持シ右ニ引接ノ印ヲ結ビテ畜生道ヲ度ス種字ハ正字ニシテ離塵垢ノ義亦正字ハ列ノ初音也列字ハ本不生ノ義ナルガ故ニ塵垢モ一心ノ智火ニテ燒ケバ淨白灰ト變シテ本來淨穢不二ノ列字本不生ノ理ヲ彰ハスナリ斯ノ如ク地藏尊ハ六道ノ迷衢ニ示現シテ一切亡者ノ引導ヲ行願トナシ玉フ故ニ葬儀ノ道途ニ勸請シ奉ル所以ン也此菩薩ハ普現色身三昧ニ入テ无邊身ヲ現シ玉フ元享釋書ニ周州ノ玉祖神官惟高累代神職ナレドモ佛法ヲ信ジ地藏尊ヲ唱念シテ長徳四年蓋焉逝去シ曠野ニ于テ六地藏ニ值遇シ救護セラレ三日ヲ經テ蘇甦シ六地藏ヲ刻ミ一字ニ安シ唱念シテ七十餘歲ニテ往生セシ事縁アリ實ニ靈驗測リナシ信ズ可シ尊ム可シ

問フ 十三佛ノ名號及ビ種字ノ義並ニ年忌吊ヒニ之ヲ配當シテ塔婆ニ書寫スル義如何

答フ 年忌ニ本尊ヲ立ルハ下學集ニ只十三佛十王ノ配當ヲ作セシノミニシテ本據アルニ非ズ然レドモ聖德太子禮記ノ祭統ノ篇ニ據リ數セズ疏カラズノ中位ヲ以テ上下ノ年忌ヲ定メ玉フニ付蓋シ其當時ノ僧家が年忌ノ本尊ヲ撰定セシ者ナル可シ爾レバ則精靈佛菩薩ニ結縁ノ爲ニ設ケシ者ナレバ其旨ヲ承ケテ永ク信用ス可シ次ニ十三佛ノ種字名號ヲ畧解セン

謂ユル不動トハ心性寂靜ニ名ケ奉リシ者ニシテ即無相ノ法身虛空ト體ヲ同フシテ法界ニ周徧セリ衆生ヲ愍念スルガ故ニ金剛部ニ明王ノ體ヲ示現シ尊信スル曹ノ心想ノ中ニ住シテ所求圓滿セシメ玉フ也種字ノ義ハ慈悲救護ノ義ニシテ不動咒ノ末ニアル故ニ其咒ヲ慈救咒ト云フ因業不可得ノ義ヲ體トシ不生ノ行ノ義ヲ傍點トシ大空三昧ノ義ヲ上點トス謂ク善惡ノ業ハ因縁ヨリ生ヅタルニ非ズ本來不生ニシテ亦滅スルコトナシ其業因ヲ討究スルニ畢竟不可得也是レ列字本不生ノ大覺ノ相也故ニ悉曇書ニ列カ一體ヲ明シ列カ字ニ列カノ音ヲ呼ブト多シ列カ字因業ハ風大(動轉)列カ字不生ハ地大(不動)即因業ノ果ニ赴カズノ直チニ本不生ニ悟入スレバ動モ即不動也又煩惱(動)即菩提(不動)生死(動)即涅槃(不動)等ノ深義ヲ包含セリ列カ字ハ本不生ノ列カ字ニ三昧行點ヲ加フ即是レ不生ノ行(動)點又三昧(不動)點ナリ本不生ノ三昧ニ入レバ諸行悉ク不生故ニ不行ニシテ而モ行ズ故ニ寂靜ト云フ(行ヲ息メテ寂ナルニハ非ズ行シテ而モ

寂也寂ニシテ而モ動ズ)上ノ大空點ハ吾我ヲ空シテ本尊ト衆生ト一體ナル三昧身ヲ示ス也其身色青黑(列カ字ハ風大色ハ黑也)妙高山ニ安坐ス(列カ字ハ地大也靜所ノ義)等ノ深秘ノ釋茲ニ盡ス可ラズ尙之五輪十界ノ法相ヲ具スル所以ンハ本體毘盧遮那佛ノ周徧身ナレバナリ

釋迦トハ姓也牟尼ハ名也俱ニ梵語此ニ能仁寂嘿ト譯ス能仁トハ仁ノ道ニ能達スルノ義寂嘿トハ三業(身口意ノ三)常ニ靜カナル義也其姓ハ利他ノ義其號ハ自利ノ義即自利々他圓滿ノ名ニシテ是レ娑婆世界ノ法王也釋尊ノ種字ハ花也即列カノ二字合成ナリ謂ク列カ字ハ三寶鈔ニ翻シテ有ト爲ス有トハ有爲有漏ノ義ニシテ三有(欲界色界無色界也)ノ迷境ヲ云フ花字ハ生死涅槃等ノ界畔ノ義也即生死ノ界ヲ出テ涅槃ノ境ニ入ルノ義ナリ再說セバ有爲生死ノ迷衆ヲ引導シテ無爲涅槃ノ覺域ニ入ラシムルノ義アルガ故ニ佛教徒ハ涅槃ニ入ルヲ宗トス可キ也法華藥艸喻品ニ曰破有法王出三現世間ト謂ユル法王トハ釋迦如來也

文殊トハ具ニハ文殊師利也圓覺經疏ノ一云此云三妙首ト亦云三妙吉祥ト註維摩ニ云秦言ニ妙德ニ經曰己曾成佛名曰龍種尊ト是レ過去久遠劫ノ昔ノ大導師三世諸佛ノ覺母一切有情ノ智父也涅槃經ニ曰十方世界有佛无佛國大乘所流演皆是文殊力也(智慧力也)種字ハ義也本體ノ列カ字ハ大智勝ノ義ニシテ自利也智慧也文殊也列カノ聲ニ列カノ韻アリ故ニ本不生ノ義アリ上ノ空點ハ人法二空ノ義ナリ所謂人空トハ五陰ノ假和合ノ肉身ヲ實ノ

人體ト執ズルヲ人我ト云ヘ色心ノ諸法ハ因縁ニテ生ズルヲ實ニ其體性アリト執ズルヲ法我ト云フ此人我ヲ空シテ灰身滅智偏空ヲ了ルヲ人空ト云ヘカノ因縁生諸法ノ我執ヲ皆空ト了スルヲ法空ト云フ是レニ大小二乗ノ異見アリ小乗ノ法空ハ大乘ニ望ムレバ亦復人空ノ所攝ナリ(要覽ノ意) 文殊菩薩ハ最勝ノ大空慧ヲ以テ自利利他スル所以ヲ通考ス可シ

普賢ハ梵ニ摩訶薩陀或ハ三曼跋陀ト云フ德利周徧ヲ普ト名ケ仁悲慧悟ヲ賢ト云フ悲華經曰我行要諸菩薩ニ勝ル可シト佛言是因縁ヲ以テ今改ニ汝字ニ名ニ普賢ト矣仁王般若經陀羅尼ノ釋曰金剛薩埵無因德不圓滿故曰大普賢十地通曰普賢行願地勝十地故加大ト即身成佛義冠註曰毘盧遮那徧一切處(普ノ義也) 最妙善(賢ノ義也)佛身曰普賢ト亦金剛頂經曰本有金剛界普賢如來文種字ハ列字ヲ體トス即チ本不生ニシテ亦不滅ノ義也故ニ即身成佛義ノ冠註ニ曰曰金剛薩埵者無始無終本有常住佛身故ト上ノ空點ハ真空ノ菩提道ニシテ煩惱業苦チ真空ニスルノ義也

地藏トハ菩提心因ノ大地ニ功德无量ノ如意寶藏ヲ建立シテ維持スルノ義也此菩薩ハ過去久遠劫ノ昔ニ於テ婆羅門家ノ聖女也キ(父ハ尸羅善現母ハ悅帝利)母ノ獄苦ヲ救ハシガ爲ニ覺華定自在王如來ノ塔寺ニ詣シテ出家發願シ本願ニ縁テ普現色身三昧ヲ得テ六道衆生ヲ濟度シ玉フ(地藏本願經ノ意ヲ撮略ス)地藏本願經見聞利益品ニ世尊偈曰吾觀地藏威神力恒河沙劫說難盡見聞瞻禮一念間利益人天無量事文ト種字ハ凡

字也即チ菩提ノ眞因ノ義此菩提心因ノ如意寶珠ヲ持セバ一切ノ事業如意滿足ナラスト云フコトナシ故ニ大日經ノ第七ニ淨菩提心如意寶滿世出世勝希有ト云ヘリ彌勒トハ姓也阿逸多ハ名也阿彌陀經疏鈔云彌勒此云慈氏阿逸多此云無能勝文謂ユル母胎ニ在テ慈心アリ故ニ氏ヲ以テ名ケ又過去生ニ大慈如來ニ值ヒテ慈氏ノ號ニ同フセント誓願シテ即慈心三昧ヲ得又弗沙佛ノ時常ニ慈定ヲ習フ故ニ思益經曰若衆生見者即得慈心三昧(三昧トハ調直定及ヒ正心行所等ト譯ス)悲華經曰慈氏發願スラク於刀兵劫中三世出興志ニ曰ク入ニ未法五千一百年乃至刀兵災起擁護衆生故ニ小經引文卷二曰慈隆即世(現世ノ義也)悲臻後劫(未來永劫)至極之慈超出凡小故無能勝ト名クトナリ種字ハ弘ナリ弘ニ二字合成ナリ弘ノ字相ハ乘也此三昧地(正心行所)平等心能運載凡夫心速至本尊位也義字ハ弘字ニ列韻アリテ本不生ニ歸ス即チ一切乘不可得義トナル即三乘五乘ノ人モ弘字門ニ入レバ即身成佛スルノ義也弘字門ハ一切法譬喻不可得ノ義也三密鈔解曰諸法已生起則災禍吉祥因果善惡等相待立若相待則可譬類是名譬喻若入弘字悟譬喻本有即因果善惡待而不對是爲譬喻不可得義文若待對スレバ逼惱アリ故ニ相待逼惱ノ諸法乘ノ人ヲ運載シテ絶待無逼惱ノ弘字門ニ歸入セシムル義ナリ

藥師トハ因ニ十二大願ヲ發シテ能ク一切衆生ノ身心ノ衆病ヲ瘥シ安樂ナラシメ玉フ功德ニ名ク藥師經偈曰我此名號一經其耳衆病悉除心安樂ト矣リ種字ハ弘ナリ弘

體トシテヲ摩多(點ト譯ス)トスハ大日經疏曰婆字門一切法一切有不可得故ト謂ユル有トハ三有(欲界色界無色界也)也法トハ五蘊(色、受、想、行、識、也)ナリ畢竟三有五陰ノ法界ハ本有ニシテ厭欣スルニ不可得也トノ義也三密鈔曰婆者名ニ能破ニ能破ニ能破怒痴(三毒)故ニト次ニ之字門ハ一切法自在不可得義故ト解シテ曰ク列字門ニ入レバ得モナク不得モナシ是レ自在不可得ノ義也法華經曰我爲法王於法自在也ト依テ知ル藥王善逝ハ一切衆生ノ身心ノ病根ヲ痊ス法王ナレハ五蘊世間ノ魔軍ヲ摧破シ三有病患ヲ療シテ健全ノ佛體ヲ發得セシムルコト自在ナルコトヲ觀音トハ梵ニ阿縛盧枳多伊濕伐羅唐ニハ觀自在ト翻ズ文句ニ婆婁吉低稅茲ニ觀世音ト譯ス謂ク大慈大悲ノ眼根ヲ展ベテ一切世界苦衆生ヲ觀見シ玉ヒ圓通ノ耳根ヲ以テ苦惱ノ音聲ヲ聽採シ普門ニ示現シテ自在ニ振濟シ玉フノ名號也妙華科註ニ觀ト者折空體空次第圓融ノ四種ノ觀ノ中圓觀ト爲シ世ト者有爲世(聲聞)無爲世(緣覺)二邊世(菩薩)不思議世(佛界)ノ四種ノ世ノ中ニ佛ノ不思議世ト爲シ音トハ十界ノ機ナリトス簡言セバ佛界ト衆世界ト圓カニ觀シテ生佛不二ノ佛知見ヲ開キ(自利)又衆生ニモ悟ラシムル(利他)義ナリ普門品偈曰悲觀及慈觀(利他)廣大智慧觀(自利)等ト以テ其名義ヲ知ル可キ也往生要集曰彌陀正法滅後觀世音成等正覺號ニ普光功德山王如來ト云々種字ハ凡ナリ三密鈔曰眞俗二諦不可得義一切法諦實義凡ノ觀音也衆生同體也大悲本故凡ハ蓮華部ニシテ主ニ大悲ト云ヘリ光明眞言觀誦門曰自勝論六諦數論二十五諦小乘四諦三乘二諦一乘三諦

有空中本不生一實諦皆并吞此一字云ヘリ

勢至トハ梵ニハ摩訶那鉢此ニ大勢至ト云フ註維摩曰有大勢力也以大神力飛到十方所至之國六反振動惡趣休息ト又首楞嚴ニ我本因地以念佛心入無生忍今於此界攝念佛人歸於淨土ト謂ユル神通ノ勢力ヲ以テ十方世界ニ至リ不可思議ノ功德ヲ施スノ名號ナリ種字ハ筏也即チ凡字ヲ體トシ涅槃ノ字ヲ點トス謂ユル凡字ハ蓮華部大悲願行利他ノ義之ニ依テ勢至ハ觀音ト悲智一雙ノ菩薩ナルコトヲ知ル可シ三密鈔ニ曰ク涅槃點者一切法遠離不可得故ト分段(衆生ノ生死)變易(菩薩ノ生死)ノ法界ヲ遠離シテ涅槃ノ境ニ入ルニ畢竟生死即涅槃ニシテ不可得ノ義ト悟リタル義亦曰凡字名爲涅槃由覺悟諸法本不生故二種執着(煩惱所知ノ二障)皆遠離證得法界清淨文即チ種字ニテ其佛菩薩ノ性相ヲ知ルヲ得ル者也深ク觀察ス可シ阿彌陀トハ佛說阿彌陀經疏鈔ニ曰阿此云無彌隨此云量言佛功德不可究盡故云無量如經(阿彌陀經ナリ)壽命光明是無量中姑舉三事攝餘事ト亦曰無量有二義一者衆多无有數量二者廣大无有限量功德無量者若配三大則佛是體大(周徧ノ體ナル故ニ)无量壽是相大无量光是用大(照サハル所ナキ故ニ)ナリ從來阿彌陀ヲ無量壽ト唱ヒ來レハ蓋シ佛ノ相好ヲノミ舉テ餘ノ功德ヲ攝セシ所以也稱理セバ無量壽トハ無始無修ノ心性ヲ云フ生死ヲ實認シテ苦悶スル衆生ノ歸命ス可キ所也便チ歸命スレバ分段變易ノ生死ノ妄想ヲ轉シテ不生不滅ノ涅槃妙心ヲ具足スレバ也故ニ釋尊

一切衆生ヲシテ歸命無量壽覺ノ持名及ビ觀念ヲ勸發シ玉ヘリ約事スレバ法藏比丘久遠劫ノ昔世自在王佛ノ所ニテ四十八ノ弘願ヲ立テ玉ヘ兆載永劫ノ修行ニ報ヒ十劫ノ昔ニ正覺ヲ成シ西方ノ安養世界ヲ建立シテ專念有緣ヲ濟度シ玉ウトナリ種字ハ然ナリカ
 了(イ)ハ四字合成ナリ本体ノ義字ハ因不可得ノ義ニシテ一切諸法ノ因ヲ追求スルニ一法
 モ能生ナク所生ナシ會ラズ本不生ニノ亦不滅ヲ知ラン是レカノ韻ニ自ラ列字ニ入ル列
 字即不生ノ義ナルガ故也了(イ)ハ了ノ半躰也了(イ)ノ約音羅也也亦羅ノ反音哩トナル哩字ハ塵
 垢不可得ノ義ニノ執ズレバ菩提涅槃モ皆心性ノ塵垢也無執ナレバ生死煩惱モ元來不生
 ノ義ニシテ法性ノ具德也ト知リ塵垢不可得ヲ了ス列字ハ災禍不可得ニシテ亦自在ノ義
 ナリ災禍ハ諸法轉動シテ生ズ若シ列字門ニ入レバ生而不生ト悟ル則災禍ガ即吉祥功德
 ナリ是レ災禍不可得ニシテ進止自在ノ義アリ列字ハ遠離不可得ノ義ニシテ煩惱所知ノ
 二障ノ執着世界ヲ遠離シテ涅槃ノ清淨地ニ歸スルノ義ナリ總釋セバ衆生ノ業因ヲ亡氓
 シ煩惱ノ塵垢ヲ清淨ニシ娑婆ノ災禍ヲ遠離セシメテ清淨涅槃ノ極樂國ニ往生セシメ三
 明六道自在ヲ得セシメ淨穢兩土ニ來往(往相還相)遊戲セシムル悲願ヲ成就シタル阿彌
 陀ノ大覺王タル義此種字ニ含藏ス宜シク沈思シテ玩索ス可キ所也
 阿閃トハ此ニ不動ト翻ズ法身ノ本覺ニ無始以來ノ發心ノ形アリ(本覺始覺不二ノ義)其
 發心堅固ナルコト大地ノ如ク不動也故ニ即身成佛義ノ冠註ニ大圓鏡智發心ハ堅固不
 動如大地トナリ蓋シ是レ佛部ノ不動ニシテ金剛部ノ不動ト差別スルガ爲メニ是レ

ハ漢譯セザルナリ淨名經曰有國名妙喜佛名無動ト是レ阿閃佛也種字ハ然ナリ如
 意輪觀門義註秘訣曰氣字一切諸法了義不可得文ト氣字ハ列(總)カ(有或ハ中)了(空)
 了(中或ハ有)四字合成而自宗三諦包此一字三諦一心中心具故又列因行果三字ハ
 因行果ノ三義アリテ心ニ具フル所ノ功德ナルガ故ニ斯義ヲ以テ了義即覺了ト爲ル也又
 識大ノ種字也故ニ具覺了德也又云ク因緣生ノ業因不可得ト悟リテ(列ノ義)諸行ヲ
 損滅シ(了字ノ義)人法二我ヲ亡シテ凡聖不二(了ノ義)ノ發心地ニ住シ(列ノ地大)
 動カザル(阿閃ノ義)ノ義此種字ニ包含セリ
 大日トハ摩訶毘盧遮那如來ノ智光ノ徧ク照ラセルヲ日輪ノ暗冥ヲ照破スルニ喩フ然レ
 ドモ日輪ニハ陰陽側影アリテ徧照ナラズ未以テ比喻トスルニ足ラズ亦識大無ケレバ温
 熱及ヒ光明ヲモ分別ス可ラス之ヲ分別スルノ本覺ノ心性ハ固ヨリ側影等ナク日光ヨリ
 透明徹照普周廣大ナル義ヲ以ノ故ニ大日ト名ク種字ハ然ナリ一切法離言說ノ了字ヲ躰
 トシ吾我不可得ノ了字ヲ上點トス若シ諸法本不生ナルトキハ即是レ諸ノ因緣ヲ離ル是
 ノ故ニ言語同斷ナリ若シ法是レ作相ナラバ則宣說ス可シ无作ナレバ則言語同斷ナリ若
 シ虚空ノ相是レ有相ナラバ則宣說ス可シ諸法如虚空ノ相モ亦復无相ナルヲ以テ言語同
 斷ナリ乃至今一切ノ法一切ノ相ヲ離ル故ニ表示ス可ラズ人ニ授ク可ラズ是故ニ言語同
 斷ナリ亦タ理性本來我ト彼ト一躰ニシテ自他ノ相ナシ畢竟事理不二ノ法身也是ヲ吾我
 不可得トナス是レ大日ノ性相ヲ彰セリ

虚空藏トハ虚空ノ如キ限量ナキ庫藏ヨリ出世間ノ萬法ヲ雨ラジテ一切衆生ノ希願ヲ満
足セシメ玉フ徳躰ニ名ク經ニ福威智滿虚空藏ト謂フ福ト威ト智トヲ虚空ノ如キ心藏ニ
充實セシメタル名號ナリ種字ハ^{ダラ}也施與不可得ノ^{ダラ}字ヲ躰トシ塵垢不可得ノ^ラ字ヲ下
點トナシ涅槃ノ^ラ字ヲ傍點トス謂ク一切衆生ニ世間有漏ノ福威智ノ塵垢ヲ消除シテ出
世間無漏ノ福威智ノ寶ヲ虚空同量ノ菩薩ノ心藏ヲ排ヒテ普ク施與シ任運ニ不生不滅ノ
圓覺場ニ(涅槃ナリ)臨マシムルノ義ナリ

以上十三佛ノ名號及ビ種字ノ義ハ無量ノ玄義アリト雖此ニ細釋スルノ追暇ナキヲ以テ
茲ニ淺略ノ解ヲ施セル也假設ヘバ大海ノ一滴ヲ掬シテ童蒙ニ初メテ其滋味ヲ知ラシム
ルニ均シ識者宜シク諒恕シテ淺解略釋ノ法罪ヲ論ズル勿ンバ幸甚

問テ云ク 予嘗テ葬儀ニ會シ法要準備ノ爲ニ來レル僧ト問答スラク夫レ葬法ノ事理ヲ
知テ之ヲ行フト知ラズシテ行フト其功德(他ノ爲ニナルヲ功ト云ヘ自ノ爲ニナルヲ徳
ト云フ)ニ於テ勝劣アリヤ答フ能ク知テ行フニ及カザル可シト亦問フ六角塔婆ノ表示
功德及ビ其表裏ニ書寫セル梵文ノ法理ハ必ラズ希有ノ妙義ナラント想像ス如何ン答フ
未タ傳習セズト云フテ報顔ニシテ緘黙ス予失望シテ喟然トシテ云ク輓近ノ僧家ハ斯ノ
如ク儀式的ニシテ法ノ事理ニ暗ク檀徒ハ墨守的ニシテ妄信ニ流レ縑素俱ニ其勝功德ヲ
被ムルコト能ハズト歎ジタリキ居士是等ノ時態ヲ觀察シテ吾人ノ爲ニ謂ユル六角塔婆
ノ表示及ビ功德ヲ解説シ玉ヘ

答テ云ク 願フニ佛法我國ニ流傳ノ當初ハ僧家舉テ時人ニ對シ一切ノ法事功德ヲ説明
シ指導シ就レ中建塔ノ修繕ハ懇到ニ勸發セラレタルヤ明カ也爾來幾多ノ星霜ヲ經テ僧
俗共ニ頗ル其法理ヲ忘却シ其儀式ノミ慣行スルニ至リシ者ナリ若シ今ニシテ之ヲ回復
セザレバ内外宗教ノ對峙セル時機ニ臨ンデハ異教ノ誹鋒我カ法城ヲ毀損シテ檀信ヲ占
領シ吊祭ハ全ク新築宗派ノ掌裡ニ歸セン豈ニ舊來ノ寺檀ノ爲ニ默止スルヲ得ンヤ所以
ハ何ン彼レ開宗ノ初期ナレバ洋風ノ吊祭ヲ誘説スルヤ珍奇トシテ歸信スル者多カレバ
也爾レバ則佛門ハ此秋ニ際シ當ニ難僧及ヒ啞羊僧ヲ獎勵シテ豫テ現行ノ法務ヲ研究セ
シメ且ツ之ヲ門外漢ニモ普及シテ外教ト比較的我カ法務ノ超勝セル功德ヲ確認セシメ異
邦人ヲモ我カ法要ヲ希願スルニ至ラシムルコト詮要ナラン夫レ時機ヲ鑑ミ眞法ヲ重ンジ
昔時ノ如ク葬祭佛教杯ト卑劣視シテ之ヲ忽諸ニ附シ先德ノ刻苦シテ維持シ來レル檀信
ヲ失フコトアルコト勿レ如斯緊要ノ所問ト感ズルガ故ニ淺陋ノ嘲ヲ省慮セズ越法罪ヲ
甘受シテ深秘ノ法義ニ略解ヲ施サント欲ス

夫レ六角塔ハ六道ノ罪惡ヲ消滅スルノ功德アリ見聞隨身鈔ニ云ク 四角率都婆滅ニ四惡
趣(地獄、餓鬼、畜生、修羅)業果、六角率都婆滅ニ六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人道、
天道)惡、導ニ六道衆生ニ八角率塔婆濟ニ八(地獄、餓鬼、畜生、長壽天、邊地、諸根不具、邪
見、不見佛也但有異說)處也ト是レ其證也亦タ建塔ノ法義ヲ辨知シテ建塔スルト否ト
ノ功德優劣ハ蓋之レ無キガ如クナリ如何トナレバ同鈔ニ云ク立ニ大道見人離ニ三惡道

二立河岸影流水海中魚類免畜生業三立山原觸風衆生皆得功德四立墓所先考妃得脫謂ユル河海ノ鱗貝ハ其法義ヲ辨ヘザルヤ明カニシテ而シテ平等ノ利益ヲ得ル所以ハ應ニ大日如來ノ三昧耶形法界塔婆ナルガ故也報恩經三佛言我往昔爲波羅捺王忍辱太子時爲父王治病挑眼目爲藥即死父王平愈本心乍歎爲我立蘇觀婆充菩提依此功德今日成佛丈夫建塔ノ功德廣大ナルコト以テ推知ス可キナリ次ニ五輪塔婆ハ密門雜抄云五解脫輪法ノ本有ヲ顯スト即圖示シテ曰ク



是レ圓塔トモ
ニ塔トモ云フ
離言說ナニト
モ云ヘヌ様ニ
ナリシ修生ノ
智ヲ顯ス



全抄ニ五輪塔婆ノ意得トシテ解シテ云ク諸法ハ定リシ形チ無シテ其德ヲ顯スニ自然ニ形ヲナスヲ五輪ト云フ凡ソ物ノ居ルハ即テ方分チ爲ス故也居リシ所ノ角ヲ去レバ也角ノナキモノハ物ニ隨フ故偏ニ見ユル所△三角也偏ナレドモ和シテドトモツカヌハ半月ナリ和シテ不諍即チ法ノ本有ニ住スルハ○圓形也此德色ニ在テハ地水火風空ノ五大ト名ケ心ニ在テハ五智ト名ケ故ニ一切ノ依正色心何レカ五輪ナラザル物ハナケレバ毘盧遮那遍一切處ノ德ヲ顯セバ大日ノ三摩耶形トナス也ト福田纂要云率都婆言ニ云一字所成如何答是顯ニ云字形而云具五字五輪故其圖ハ左ノ如シ



塔トハ梵語略言也具率塔婆トモ蘇偷婆トモ云フ此ニ譯シテ方墳(土ニテ四方角ニ高ク築クナリ)高顯(其形高ク顯ハレ衆目ニ觸ルガ故ニ名ク)ト云フ或ハ支提トモ云フ此ニ廟ト譯シ(廟ハ貌ナリ即是レ先祖ノ形貌アル所ナレバ也亦ハ佛ノ相貌ノ義也)亦ハ滅惡生善處ト譯ス(建塔者及ビ瞻仰者惡心ヲ滅シ善心ヲ生ズル處ノ義)

也一說ニ舍利アルヲ塔ト名ケ舍利ナキヲ支提ト名クト舍利トハ骨身也又抖擻婆ト云フ此ニ護讚ト譯ス(人ノ讚嘆シテ擁護スルノ義也)又浮圖トモ云フ此ニ聚相ト譯ス(佛ノ百福莊嚴ノ相ヲ聚集シタル義也)謂ユル五輪塔婆ハ五大五智五佛ト配當シテ大日如來ノ本有ノ德相ヲ聚集シ顯彰シタル者也此五輪ノ種字タル何カハ无量ノ深義アル中即心成佛義ノ冠註ノ表ニ已レノ意得ヲモ加ヘテ童蒙ノ便覽ニ供ス

種	字	何	カ	ラ	バ	ア
五	大	空	大	火	水	地
字	義	等	離	無	離	本
顯	色	青	黑	赤	白	黃
		虛空	因緣	塵垢	言說	不生

ナルガ故ニ衆生ヲ法空ニ導クハ即チ化身ノ佛也故ニ名字ヲ心月輪ニ置ケバ即チ自心本有ノ三身ヲ顯ス也然レバ則此一字ヲ觀誦スルニ即心成佛スルコト分明ナリ篤ク信シテ疑怪スルコト勿レ

其字ハ本不生ノ義也註シテ云ク阿ハ一切諸法ノ本源ナリ一切聲ノ母也形ニ約スレバ方形ニシテ圓三角半月團圓等ノ諸形ノ根本也地大ノ種字トシテハ一切能生ノ本也故ニ此字ヲ觀ズルトキハ即諸法ノ本源ニ通達スルガ故ニ一切ニ昧キコトナシ是ヲ名テ成佛トシ又ハ無覺無成ノ佛トス(是レ本然ノ佛ノ義也)

本字ハ我不可得ノ義也註シテ云ク人空ニ執ハ著我ノ心ナルガ故ニ一邊ニ拘礙シテ不自在也若本不生ヲ了知スルトキハ諸法皆同一相ニシテ平等也是ヲ我不可得ノ實義トス此字ハ一合相不可得ノ義也註ノ云ク凡夫ハ夫婦合シ陰陽合シ諸法ハ因縁合シテ生滅アリト見ル若本不生際ニ入りヌレバ諸法一槩ニ皆不生也此中ニ何ヲカ能合トシ何ヲカ所合トセン些シモ能所ナキヲ一合相不可得ノ實義トス若シ些カモ能所ニ迷ヒバ即是我人衆生壽者ニ著スル也

本字ハ言説不可得生死自在ノ義也註シテ曰ク言説不可得ノ本字ニ自在ノ受點ヲ加ヘタリ謂ク諸法本來有ニシテ始ノテ生ズルニ非レバ生トモ云可ラズ生ゼザル者亦滅スルノ理ナシ故ニ滅トモ云フ可ラズ生滅ノ法ノ上ニ人ハ世々常ニ人タリ畜生モ生々ニ恒ニ畜タリト計スルヲ常見ト云フ而シテ死シ了ツテ後復更ニ生ズルコトナシト計スルヲ斷見

ト云フ今諸法不生不滅ト悟ルガ故ニ斷ニモ非ズ常ニモ非ズ三世ニ生滅ナキ故ニ諸法平等一味本有ナリ山ハ山水ハ水ニシテ本有也諸法一一萬徳ヲ具ルガ故ニ善トモ惡トモ云フ可ラズ法爾ニシテ造作ヲ離ル、故ニ若シ名字ニ執滯スレバ生死海中ニ沈ミ煩惱ニ繋ガレ生滅有無ニ縛セラレ今言説不可得ヲ悟リ生死立住自由自在ヲ得是レヲ言説不可得ノ本字ニ自在ノ受點ヲ加ヘシ實義ナリトス

本字ハ塵垢不可得ノ本字ニ譬喩不可得ノ受點ヲ加ヘタリ註シテ云ク諸法本不生ニシテ生滅斷常等ノ戲論ヲ離ル、ガ故ニ自ラ生滅等ノ偏執モ咸ク亡ズモシ執ズルトキハ菩提涅槃モ皆塵垢ナリ無執ナレバ觸受慢モ元來不生ニシテ法性ノ具徳ナリ是レ本字ノ無塵垢ノ義此位ハ一實ノ法ニ譬喩ナシ若シ譬喩アラバ即是レ對比セラル、法ニシテ無常ナリ豈本有ノ金剛ノ法ナランヤ是レ本字ノ譬喩不可得ノ義ナリ是ヲ本字ノ實義トス

本字ハ遷變不可得ノ義ナリ註シテ云ク遷變トハ生滅無常ノ謂ナリ本不生ノ法ハ本有ナルガ故ニ生滅ナク常住ニシテ不變ナリ是レ本字ノ實義トス又梵語ニ云ク此ニ四ト翻ズ謂ク生老病死(人事)生住異滅(心事)春夏秋冬(天事)成住壞空(地事)等ノ四ツノ轉變ハ本字ノ相又梵語ノ云ク此ニハ輪ト云フ謂ク轉輪聖王所持ノ輪寶ハ金剛ノ成ズル所ナレバ自体堅固ニシテ破壊ス可ラズ是レ常住ノ本字ノ義ナリトス

本字ハ名字不可得ノ義ナリ註シテ云ク本不生ノ義ノ前ニハ一塵一法モ各ノ萬徳ヲ具足セリ故ニ善トモ惡トモ邪トモ迷悟トモ自他共因果トモ名稱ス可ラズ諸ノ名言ヲ離レテ

而カモ一切ノ名言ヲ離レズ是ヲ名字不可得ノ實義トス亦大空ノ義トス空ト不空ト畢竟無相ニノ而モ具一切相故ニ是ヲ大空三昧ト釋セリ(大疏)

又字ハ吾我不可得ノ義也註シテ云ク未ダ不生ノ義ヲ了セザル前ハ是非善惡ヲ分別シテ自他ノ異相ヲ存ズ若シ不生ノ理ニ契ヘバ諸法一槩ニ萬德ヲ具シテ何ヲカ他トシ何ヲカ自トセン自他別相ナキヲ吾我不可得ノ義ト云フ又又字モ大空ノ義也謂ク大虛空ノ中ニハ四方ノ異モナク自他彼此ノ差モナシ是レ則吾我不可得ノ義ニ同ジトナス所以ン也

又字ハ因不可得ノ義也註シテ云ク因種果實一體也故ニ因緣果報ノ業都テ不可得ノ義也此實義ノ底極ニ徹シヌレバ自ラ本不生際ニ入ルナリ原因ノ原因ヲ尋ネテ溯リ見ルニ一法モ能生ナシ無因ニシテ生ズト云ハハ外道ノ見老子ノ自然ニ生ズト云フモ同ク邪見也若シ空ヨリ生ズトスレバ五大外道中ノ空外道也(前ニ明ス處ノ空論師也)又生ズルニ非ズ本來空無ナルニ迷フテ生滅ヲ見ルト云ハハ是レ因果撥撫ノ斷空ノ大邪見也又最初ノ因緣ノミ本有ニシテ因緣以下ハ皆因緣生也ト云ハハ因緣ノ義諸法ノ邊際ヲ盡サルガ故ニ不了義說也(今ノ天耶教ハ此義ニ當ルガ故ニ不了義說也)夫レ佛法大宗タルヤ高思深求スルニ始メテ知ル一切諸法本有本具ニノ常住不變ナルコトヲ夫レ因緣生滅アリ有始無終等ト見ルハ皆無明ノ迷妄也喻ヘバ醉人ノ山岳ヲ運轉スルト見ルガ如シ實ニハ山岳ハ不動也夫レ動轉スルハ醉人ノ眼睛ノ動轉也是ノ如ク觀察スルハ自然ニ本不生際ニ入ル也便チ諸字門ノ中又字ハ別シテ又字(本不生ノ義)ニ親シキ義アルガ故ナリ

又字ハ我不可得ノ義也謂ク上ノ又字ニ同ジ若シ又字ヲ用ヒバ言說不可得ノ義ニノ上ノ本字ニ同ジ兩說ノ中ニハ即又字ヲ正トス此解說ハ上ノ又字吾我不可得ノ義ニテ盡セリ又字ハ施與不可得ノ義ナリ本不生ノ義ノ前ニハ何ヲカ取り何ヲカ施サン又又字自他共ニ不生ナリト知レバ施者受者皆平等ナリ斯ク觀察スルトキハ能施所施其ノ者モ皆本不生ナレバ不可得ナリ是ハ下半牀ノ又字ヲ點畫トシ又又字直讀シテ又ニ歸スル義ノ邊也若シ下又字ノ省ト見テ又又字重字トシ又又字倒反シテ又ニ歸スル義ニ約セバ又字ハ塵垢不可得ノ義上ノ又字ノ實義ニ準シテ解ス可シ

又字ハ我不可得ノ義也上ノ又字ニ同シ又大空ノ義大我自在ニシテ能ク一切ヲ攝收シテ亦一切處ニ遍ズルハ是レ大空ノ德ナリ餘ハ上說ニ準知セヨ

又字ハ諍論不可得ノ義也又字ニ根本不可得ノ義ヲ加ヘタリ註シテ曰ク本不生ノ前ニハ諸法同一相ナルヲ以テ自又字是トシ他ヲ非トスルコト無キガ故ニ諍論ス可キコトナシ又更ニ何ヲカ本トシ何ヲカ末トセン是ヲ又字ノ實義トス復次ニ又字ハ母ノ義ナリ(尼ヲバ母ト翻ズル也)是レ則根本ノ義又母女ハ其性柔和ナルガ故ニ諍論不可得ノ義也亦又字モ又大空ノ義ナリ(上ニ準シテ解了セヨ)故ニ又字ハ青ノ義是レ虛空ノ本色ニシテ即虛空ノ体ナリ

又字ハ(又字ハント呼ブハ下ノ又字ニ相續スルヲ以テ自然ニ空點ノ音ヲ生ズルナリ)第一義諦不可得ノ義ナリ顯ハ因緣生ノ事法也獨リ真如ノ理性ノミ因緣ヲ離レテ不生不滅

也諦實不謬也トス密ハ諸法皆本有ニ因縁ヲ離ルガ故ニ一塵一法皆六大ノ第一實際ニ住スト知ル豈理性ノミ第一ニシテ餘ノ事法ハ二三ニ落在スト云ハン故ニ知ヌ真如第一義諦モ亦復不可得ナル是ヲ列字本不生ノ眞勝義諦トスル也此眞勝義諦ニモ滯ラズシテ不可得也ト了達スルヲ以テ字ノ第一義不可得ノ實義トス而モ實ニハ列字即テ字ニシテ無二無別也又悉曇家ノ意ニ依テ聲字即實相義ヲ語ラバ列ハ根本喉内ノ音ビハ枝末唇内ノ聲也而ニ以テ字ニ自ラ列ノ韻アリ是レ本末皆一體ノ明証法爾隨本緣末不二ノ的据ナリ

列字ハ我執不可得ノ義ナリ是レマカニ合ノ字ナルヲ以テ上ノ字ヲバ點畫トシテマカニ倒反シテマカニ歸スル義ナリ若シ下ノ字ヲ點畫スルトキハマカニ直讀シテマカニ歸ス此邊ニ約セバ列字ハ施與不可得ノ義トナル初ノ我執不可得ノ義ハ凡夫外道ノ人我聲聞緣覺ノ五蘊ノ法我ヲ計スルハ皆本不生ヲ悟了セザルニ因ル若シ本不生際ニ入リヌレバ諸法平等ニシテ自他ノ異ナク何ヲ以テカ人我ヲ計セン豈人ハ假ニシテ法ハ實ト分別ヲ作ンヤ此列字門ニ入ルトキハ縱使涅槃ノ我ノ德モ猶是レ我執也何トナレバ事法ノ當體即チ眞實ナルヲ隱密ニシテ事法ハ假ニシテ眞ノ大我ニ非ズ理性ノミ實ニシテ自在ノ義也ト説クガ故也斯ノ如ク了知スルヲ我執不可得ノ義トス次ニ施與不可得トハ施者受者ナク事ト理トナク空ト有トナク大乘小乘ナク十界ナシ不取捨ヲ施與不可得ノ實義トス

列字ハ若シ下ノ字ヲ點畫トシ(悉曇第五ノ章ナリ)又マカニ直讀ノ反音ニ約セバ生不可得ノ義也若シ上ノ字ヲ點畫トシ及ビマカニ倒反スルトキハ言説不可得ノ義ナリ初ノ生不

可得ノ義トハ凡夫ハ胎卵濕化ノ四生實有ヲ計シ外道ハ梵天及ビ耶蘇説ノ天帝等ガ諸法ヲ生ズト計シ或ハ四季ノ時分能ク萬物ヲ生ズト計シ或ハ五大能ク物ヲ生ズト計シ或ハ自然ニ生ズト計ス二乘ハ色法極微ヨリ生起シ心法ハ一刹那ヲ本トスト立ツ法相大乘ハ第八識ノ中ニハ色心ノ種子アツテ此種子ヨリ各各ニ諸法ヲ生ズト立ツ性宗ニハ眞如全變ジテ諸法起生スト談ズ是等ハ皆法ノ實體ニ契ハズ實ニハ萬法皆本來自示トシテ常有也更ニ生ズル者ニ非ズ是則諸法生不可得ノ實義トス次ニ言説不可得ノ義トハ本字ノ下ニ既ニ明セリ今重説ニ及バザルベシ

列字ハ相不可得ノ義也凡ソ相ニ惣別ノ異アリ總相ハ無常ノ相。空相。無我ノ相等也別相トハ四大ノ異性六度ノ別相。世間。出世間等ノ諸相ヲ一一差別スルハ是レ列字ノ字相ニ迷情ノ執差ニ依ルナリ若シ列字ノ實義ヲ了セバ佛知見ヲ開ヘテ諸法各各ニ諸相ヲ輪具足ノ都テ欠減ナシ(天台曰ク一色一香無非中道ト云ヘルハ此義也)但シ相ニ隱顯アリ口ノ隅ヲ除ケバ也。列字ノ隅ヨリ隅ヲ見レバ△ナリ○チニツニ割カテバトナル三隅ヲ除ケバ◇トナル即圓三角半月圓形ノ四ツノ形ハ皆方形ノ中ニ具足セリ亦一尺六面平等ナルヲ一寸宛ニ折ルトキハ短キ物ノ中ニ長形アリ高サ一寸ト九寸トニ並ブレバ高下アリ又大小也凡ソ斯ノ如ク微細ニ檢尋スレバ方ノ一法ニ長短高下大小無量ノ形法爾トシテ具足セリ迷見ハ顯ノ方ノミヲ見ル達見ハ顯隱ノ萬形ヲ見ル亦萬形ノ多相アルニモ局ラズシテ執着セズ又一多相融シテ而モ各々建立ス各々建立スルト雖而モ恒ニ融攝セリ

空海四曼ノ相大ニ就テ輪圓不離ノ義ヲ釋シ玉フモ最澄ノ即空即假即中ノ圓頓ノ妙觀モ是ノ相不可得ノ實義ニ外ナラズト知ル可シ
 又字ハ勝義不可得ノ又字ト塵垢不可得ノ又字ト二合ノ字ナレバ真俗二諦不可得ノ義也註シテ曰ク本不生ノ心地ニハ第一義モ不可得也况ンヤ塵垢ノ俗諦ヲヤ俗諦ノ諸法スラ猶既ニ即レ事而真ナリ況ンヤ勝義諦豈眞實ナラザランヤ寧ゾ一法ヲ取り一法ヲ捨ツ可ンヤ是ヲ二諦不可得ノ實義トス
 又字ハ言說不可得ノ義上說ノ如シ
 又字ハ如々不可得ノ義ナリ又字ヲ二字重テ上ニ半牀ノ了字ヲ加フルコトハ謂ユルニツノ又字ハ如如ノ理ト如如ノ智トヲ云フ此理智ノ前ニハ煩惱塵垢ヲ留ルコトナシ故ニ離塵垢ノ又字ヲ加フルナリ
 又字ハ諸乘不可得ノ義ナリ註シテ云ク五乘トハ一ハ人乘五戒ヲ行ハシムルモ亦此類也二ハ天乘是三三界ノ別アリ欲界ノ六天八十善戒等ノ散善ニ依テ生ズ色界ノ諸天ニハ四禪定ノ力ニ因テ生ズ无色界ノ四空處ハ四空定ノ力ニ因テ生ズ老莊ハ虛无自然ノ道モ外道ノ空定ニ類ス三ニハ聲聞乘ナリ苦集滅道ノ四諦ヲ行シテ得度ス四ニハ緣覺乘ナリ十二因緣ヲ行シテ得度ス五ニハ菩薩乘ナリ謂ク六度滿行シテ佛果ヲ得ル也且ツ顯密ノ諸乘此ニ盡ス可ラズ彌々細分セバ無量乘也是ノ如ク多種也ト雖モ畢竟本不生不可得ノ秘密乘ナリ是ヲ又字ノ實字トス

又字ハ空假中三諦不可得ノ義ナリ又字ハ四字合成ナリ又字ハ又字ノ最初ノ横點ナリ又字ハ遮情ノ空ノ字又字ハ表德ノ有ノ義ナリ又字ハ因不可得ノ義也因不可得ハ本不生ノ義ナレバ是則空假中ノ中道也言猶中道ニ留マレバ中ナラズ其執ヲ破センガ爲ニ重テ遺拂シテ不可得ト云フ此位ヲ又字ノ實義トス又字ハ胎ノ大日ノ種字ニシテ本有ノ義原始ノ義此眞言ノ初ニ居ス又字ハ金ノ大日ノ種字ニシテ修生ノ義ナレバ究極ノ義ニシテ眞言ノ終リニアリ又字ハ出入ノ息ニシテ數息ハ眞言ノ觀誦ノ前方便ニシテ却テ眞言ノ本體ナリ是ノ密談ハ初心即極ノ玄旨方便即眞實ノ要門也又字ハ中道也因緣生ノ法ハ空ニシテ有也故ニ中道ト云ヒ又字ハ損減ニシテ空諦ナリ上ノ圓點又字ハ吾我ノ義ニシテ増益ノ邊ナレバ假諦ナリ此三諦ノ執ヲ拂フテ不可得ト云フハ又字ノ實義トナス此四字合成シテ一字トナスハ深秘ノ理趣アリテ言語名字ノ容易ニ盡ス能ハズ觀智モ此ニ達スレバ大日ト同覺ナル可レバ宜シク慮ヲ靜カニシ慧ヲ朗カニシテ悟了セント力ムルニアリ次ニ合字シテ釋セバ
 又トハ歸命ノ義ナリ謂ユル歸命トハ起心論疏上曰舉ニ無ニ命ニ以奉ニ無上尊ニ義亦還源義トハ衆生六根從ニ一心起而背ニ自源馳ニ趣六塵今舉ニ命根ニ摠攝六情還歸一心一心即一鉢三寶也ト諺解セバ迷ヒノ末ノ心ヲ悟リノ本ノ心ニ還ラシムル義ニシテ我本心ニ具スル佛ニ命根ヲ奉ルハ至誠歸憑ノ義也
 又水又ノ三字合シテ一句トスルトキハ不空ノ義ナリ正シク翻ズルトキハ無間ノ義ナリ

汗染ナキガ如シ即ハ第一義不可得ニ諸法ノ勿論引字ノ眞勝論義諦ニモ着セノ滯ラザル義也謂ユル引トハマヅ二字合成ニシテマヅト直讀スレバマヅニ歸シテ施與不可得ノ義トナリマヅノ倒反スレバ我執不可得ノ義トナル便チ諸法ニ對シテ我執不可得ヲ覺了スレバ眞諦ニモ亦執着セズ一法トシテ取ルヲ得ズ亦捨ルコトモ得ズ是ヲ以テ與フルモ受クルモ能ハザルヲ知ル是レ施與不可得ノ義ニシテ謂ユル蓮華ノ汚濁ニ生ズレドモ其性淨フシテ其汚濁ニ染ムコト无キノ義ヲ成ズル也

マノ二字合セバ光明ノ義也自心ノ本光ハ不生不滅ニシテ三世ニ常ニ照明ス(マノ字)又マノ字ハ水輪白色也是レ明靜ノ義ニシテ光明ノ根本ナリ火ノ本色ハ赤色也赤キハ明カニ似タレドモ却テ人目ヲ映蔽ス是却テ暗冥ノ義トナル即火中ニ水ヲ具スルガ故ニ照明ノ用アル也(マノ字)又輪王ハ三十二相(或ハ三十一相也)ヲ具足スレトモ光明ナシ爾ルニ佛相ハ圓滿ニシテ一光明アツテ相好分明ナルヲ以テ最勝也トス(マノ字)是ハ字義ヲ積ンテ句義ヲ成ズル也

マノ四字ヲ合スレバ轉ノ義易ノ義トナル謂ク此眞言ヲ觀誦スル功力ニ依テ罪業ヲ轉ズルコト易ク轉迷開悟スルコト易キ義也亦マノ字ハ眞俗二諦ノ義ナレバ俗ヲ轉シテ眞トスルコト易クマノ字ノ言說ハ能ク迷ヲ轉シテ悟トナスコト易シマノ字ハ塵垢(俗)如如(眞)是レ又眞俗二諦ナレバマノ字ノ義ト同ジマノ字ノ諸乘(人天乘聲聞乘緣覺乘ササ乘佛乘佛乘等ノ諸乘)ハ惡人ヲ轉シテ善トナシ凡人ヲ轉シテ聖人トスルコト易ク穢土ヲ轉

シテ淨土トナスコト易シ是レ字義句義相同フスル者也
マノ字ハ大日如來ノ不空大卵ノ心眞言ニシテ无量ノ深義アレトモ通途ノ說ヲ擧ゲテ之ヲ示サンマノ字ハ引カマノ四字合成ニシテマノ字ヲ本體トスルガ故ニ因ノ義能生ノ義アリ謂ユル因トハ菩提心ノ因也一切ノ如來菩提心ヲ發シテ能ク恒沙ノ功德ヲ生ズル義ナリ假令バ菩提心ハ牛ノ如ク萬行ハ車ノ如シ車萬斛ヲ載スレドモ牛ガ之ヲ曳カザレバ運搬シ難シ衆生千劫修鍊スレドモ菩提心ノ因缺ケヌレバ小果ヲモ得ル理ナシ况ヤ佛道ノ大果ヲヤ引字ノ三諦ノ義ハ分字尺ニ明セリ上ノマノ點ハ大空三昧也即チ菩提心ノ因種ヨリ大悲萬行ノ根芽莖葉ヲ生育シ終ニ菩提ノ大果實ヲ成熟ス是猶ホ世人ノ悲母其子ヲ愛護振育シテ成人セシムルガ如シ是ヲ擁護ノ義トスマノ字ハ風大ナリ自在ノ義アリ則チ君子ノ德ハ風ナリ民ノ德ハ草ナリ草ニ風ヲ尙フレバ則チ偃スノ義ナリ便チ佛ノ成道シテ魔怨ヲ風靡スルガ如シ亦マノ字ハ菩提心ノ幢ナリ猶大將軍ガ旗ヲ翻ヒシ威力自在ニシテ怨敵ヲ降伏スルガ如ク佛智自在力ニテ煩惱ノ妄賊ヲ退治スルガ故ニ是ヲ自在能破ノ義トナスマノ字ハ菩提心因ニシテ如意寶珠ナリ上ノ大空點ハ虛空藏ナリ無邊ノ虛空ヨリ世出世ノ如意寶珠ノ雨ヲ降ラシテ一切衆生ノ希願ヲ成滿セシムル是ヲ能滿願ノ義トスマノ字ハ風大ナリ一切有力中ノ王ナリ厚八億八萬由旬ノ水輪ト厚三億二萬由旬ノ金輪(世界)トヲ載セテ墜落セシメズ又マノ字ハ引カマノ聲アリテ金剛性也(地大)大力モ踐破ル能ハズ金剛薩埵ノ菩提心ハ大魔ノ力モ破壞セシム可ラズ是ヲ大力ノ義トスマノ字ハ一切諸法無因

(六)ノ光明佛相ノ義惡ヲ轉シテ善トナシ凡ヲ轉シテ聖ト爲シ穢土ヲ轉シテ淨土ト爲ス等甚ダ容易キハ列字門ニ無始ヨリ以來差相ナクシテ差相アレハナリ(又)ノ義易ノ義)是ノ如ク法身佛ノ大卵ヲ(又)ノ水ヲ大卵ノ義解説ノ便ニ隨フテ此ニ説ク也)我ガ本体(六大ノ本体)ニ捺スルトキハ即チ本覺ノ佛ヲ現シテ一切ノ希願頓ニ悉地成辨セザルコトナシ(又)字ノ五種ノ悉地ノ義)夫レ眞言ハ深秘ニシテ一字千理ヲ含メルガ故ニ固ヨリ輕翻淺解ス可ラザル者トス然ルニ予輕法ノ罪ヲ省リミズ淺略シテ三重ノ義釋ヲナス所以ンハ彌々貴子ヲシテ信解門ヲ開カシメ側ラ世間ノ童蒙ヲシテ我が法樓ニ登ルノ階梯ニ供セント欲スル者ナリ

次ニ左右ノ方面ニ書寫スル諸行無常是生滅法生滅々已寂滅爲樂ノ四句ハ則チ涅槃經南本十三ノ偈文ナリ法華科註(一之下八丁)曰ク六道相性即是諸行二乘相性即是无常通教菩薩相性即是生滅法別教菩薩相性即是生滅々已佛界相性即是寂滅爲樂ト謂ユル六道ノ衆生ノ身相心性ハ遷リ流レ(行ノ義)或ハ有情トナリ(有機物ナリ)或ハ非情トナル(無機物ナリ)再陳セバ畜鬼トナリ人天等トナルヲ諸行ト云フ亦二乘ノ中聲聞ササハ迷ヒノ世間ヲ造ル見惑思惑ノ法ヲ破リ身ヲ灰ニシ(相也)智ヲ滅ス(性也)爾レドモ宿習ノ氣殘リアリテ生死ノ苦ヲ免カシズ亦二乘ノ中ノ緣覺ササハ生死ノ因緣ハ(相也)心ノ無明ガ因トナルヲ覺リテ(性也)因緣生ノ法ヲ滅スルコトヲ修行シ些カ習氣ヲ浸シ除ケドモ除キ盡サザル故遷變ヲ免レヌヲ無常ト云フ通教ノササハ六地以前ニ見惑ヲ破

シ六地ニテ全ク思惑ヲ斷盡シテ後身ヲ受ケザレドモ(正使盡キタルガ故也)誓ツテ習氣ヲ扶ケテ生レ或ハ塵沙無明ノ惑アリテ生滅アリ故ニ是レ生滅ノ法也ト云ヘル句義ニ當ル也別教ノササハ妙覺ノ位ニ入テ十二品ノ無明ヲ斷ズレドモ是レ圓教ノ第二行ノササノ智慧切ニシテ其上ノ無明ヲ破ル根機ハアラザル也(圓教ハ無明ヲ四十二品ト割テアレハ別教ノ妙覺位ヨリ尙無明ノ餘殘三十品アリト知ルベシ)故ニ此別教ノ妙覺佛ハ智斷(理也)未ダ究マラザル故何ツレカ修因ガ證果ニ移ルヲ變易ノ生死ト云フ爾レドモ界内ノ衆生ノ如ク身ニ大小ナク壽ニ長短ノ分限ナキ故生滅滅已ト云フ句義ニ當ル也圓教ノ佛界ハ十住十行十回向十地等覺妙覺ニテ四十二品ノ無明ヲ斷ジ盡シテ此上ニ顯ス可キ理モナク(諸法不生)此上ニ發ス可キ智ヲモナケレバ(般若不生)理智トモニ究ツテ法ノ本有ニ住スルガ故ニ不生ノ上ノ不生也是ヲ大涅槃ト名ク故ニ寂滅爲樂ト云フ句義ニ契當スル也以テ應ニ知ル可シ諸行無常等ノ四句ノ一偈ハ釋尊一代ノ教義ヲ包含シテ意味深長也輒スク解ス可ラズ然レドモ佛敎徒ノ要句ナルガ故ニ一應ノ說ヲナセシ耳重テ訓點通說ヲナサズ諸行ハ無常ニシテ是レ生滅ノ法ナレバ生滅ヲ滅シ已ラシメバ寂滅トナル是ヲ沙門(出家ノ通稱也)要覽ノ上ニ梵ニハ沙迦憊曩唐ニハ勤息ト言フ謂ク善品ヲ勤修シテ諸要ヲ息ルガ故ニ)ハ最勝ノ快樂トスル所也乃至未來ノ生是レ常トシテ樂シムハ其義然ラズ生ハ必ズ滅アル故ニ樂ニ非ズ若シ能ク未來ヲシテ生滅ノ法ニ應シテ生ヲ得ザラシムルヲ(不生不滅ニ即シテ生滅アルノ理ヲ證得スル也)乃チ樂ト

ハ圓形ヲ分テ成ル是レ二重ノ所生ノ故ニ兩點ヲ加フル也(□ヨリ○ヲ生ジ○ヨリ)ヲ
 生ゼル故ニ二重ノ所生ト云フ)次ニ倚字ニ唯一點ヲ加フ是レ空大ノ圓形(○)ハ半月
 上ニ三角ヲ累テ成ル故ニ二重所生ニ似タリ然レドモ三角方形ノ角ヨリ角(◇)カケテ
 二分(△)ニシタル一重ノ所生故ニ二重ノ所生ニ異ルヲ以テ紛レヌ爲ニ唯一ヲ加ヘル也
 (即身義冠註意)次ニ列之(列)ハ報身也大日經曰我覺本不生(出)過語言道(諸)過
 得(解)脫(遠)離於因緣(知)空等(虛)空(文)ト所謂一偈ハ大日經具緣真言品第二ニアリ我
 レトハ大日如來ノ自稱也覺ルトハ識大ニシテ(氣)字ノ義トス本不生ハ列ノ義語言道ハ
 ノ義諸過(ハ)ノ義離因緣ハ(カ)ノ義虛空ハ(何)ノ義也細說セバ列字本不生トハ法華ノ諸
 法住(法)位(世)間相常住也偈義ニ同ジ惟ミレバ諸法世間ハ無始無終ニシテ增減ナク變易
 ナク生佛ノ造作ニ非ズ如レ是佛々自証ノ法相ニシテ思量分別モ及バズ言語道モ斷ヘ果
 テタル處也彼耶蘇等ノ外道ガ造化等ノ妄言虛語ヲ作スハ大ナル過也亦生滅斷常去來一
 異等ノ戲論及妄染ノ塵垢ハ諸法實相(本不生義)ヲ知ラザルノ失チヨリ生ズ速カニ之
 ヲ離レ之ヲ止メザル可ラズ是ノ妄染ノ迷境ハ解脫セザル可ラズ亦法界ノ躰ハ因緣所生
 ナレバ自性ナシ自性ナキ處則本不生ノ理也此真理ヲ了スルトキハ因緣和合ノ始メモ生
 起ノ相ナク因緣離散ノ終モ滅盡ノ相モナシ是レ洵トニ世間相常住ノ覺リニシテ因緣ヲ
 遠離スルノ義也亦本不生ノ理ハ堅ニ三世ヲ貫キ橫ニ十方ヲ該ス世ノ虛空ノ自性清淨
 無邊無相無別ノ德ニ等シ生佛ノ依正一體相分別ス可ラズ其體法界周徧シテ邊際ナク染

淨ノ相ナク自性清淨ナリ是レ何列一體ノ義也此ノ如ク列ノ一字ニ餘ノ四字ハ轉釋スル
 ヲ常途トス是ヲ以テ應ニ知ル可シ今列ニハ菩提ノ空點ヲ加ヘズ以下ニ點ヲ加フコト
 ヲ約シテ再陳セバ(氣)字ノ大悲水ヲ注ヒテ一切ノ熱惱シ消除シ(列)字ノ大智火ヲ發シテ無
 明ヲ照破シ(氣)字ノ法性風ヲ起シテ菩提心因ヲ長養セシメ(何)字等空ノ大身ヲ證シテ(列)字
 ノ本土ニ泰住ス即チ(列)字(何)字五字輪大日ノ法身ヲ成スル義ナリ
 次ニ(列)字(何)字トハ應身也(是)レ(大)品(二)謂(ユ)ル(四)十二(字)ノ(最)初(ノ)字(母)ナリ華嚴ニ善知
 門(二)列(字)ハ(本)不生(ノ)義也(列)字ハ塵垢不可得ノ義(何)字ハ第一義不可得ノ義(氣)字ハ變遷不
 可得ノ義(何)字ハ名字不可得ノ義也謂ク(列)字ノ本宮ニ登リテ觀レバ(列)字塵垢煩惱ノ俗師門
 モ(何)字ハ第一義ノ眞諦門モ不可得也三密鈔ニ曰(何)字者一切法令無對ナリト是也亦(何)字
 ノ變遷無常モ不可得也即チ本不生ニシテ亦滅スルヲナケレバ也(何)字ノ名字モ亦復不可
 得也一塵一法トシテ萬德ヲ備ヘザルハナケレバ善惡邪正ト名分シテ取捨ス可ラズト
 云フ義也文殊五字經云受持此陀羅尼(即)入(一)切(平)等(二)速(得)成就(三)摩訶般若(一)纒(誦)一
 徧(如)持(一)切(八)萬(四)千(修)多(羅)藏(一)矣(リ)名(義)集(ノ)卷(ノ)十二(四)十二(字)門(ヲ)釋(ス)ル(コ)ト(具)
 サナリ其初ノ五字ハ此咒ナリ徃見以上六角塔ノ文義ハ深遠ニシテ予ガ解説ハ淺近也宜
 シク審察シテ秘妙ニ造レト云フ爾
 問フ 亡者ノ俗名ヲ改メテ法名ヲ與フル義如何ン

答フ 既ニ釋門ニ入り導師ノ爲ニ弟子ト成リ秘法ヲ授受スル故ニ須ク俗名ヲ改ム可キ條理アリ而シテ俗名ハ相生相對ノ吉凶ヲ考ヘテ名ク是レ現世ノ色身ヲ差別シ守ルノ義戒名法名等ト云フハ戒法ヲ受持シ法義ニ稱フヲ詮要トス是レ未來心靈ノ佛果菩提ノ爲ニ名ル者ナルガ故ニ亡者ヲ改名ス可キ義茲ニ在リ

問フ 名ハ是レ虛妄ノ法ニシテ實ナシ何ゾ之ヲ以テ道俗ヲ別タシヤ

答フ 唯識論ニ云名詮自性句詮差別一文既ニ百法ノ中十四不相應行（前ノ五大原ノヲ舉ク是レ心不相應ノ義即色法也）ノ一也何ゾ卒爾ニ虛妄ノ法ト云ハンヤ爾リ而シテ行ハ心所也即チ非色非心ノ義ナリ）ノ一也何ゾ卒爾ニ虛妄ノ法ト云ハンヤ爾リ而シテ法名ノ上下ニ新圓寂及ビ隱位等ト書スルハ新タニ圓寂（涅槃ノ義）ノ境ニ入り靈魂ノ位賢聖衆ニ同フシ畢リタル義也我國民ノ右衛門左衛門兵衛輔佐等ハ本來朝臣ノ名ナリ謂ユル朝廷ノ左右ノ門ヲ護衛シ兵ヲ以テ衛守シ 天皇ヲ佐輔シ奉ルノ義也爾レバ我國ノ美風トノ現在ニハ忠君愛國ノ名ヲ選ミ未來ハ奉佛修道ノ戒名ヲ詮ス可シ則チ心法ニ於テ六通自在ヲ得セシメ生々世々四大恩（衆生ノ父母ノ國王ノ三寶）ヲ報ゼシムルハ日本佛敎ノ神髓ナレバ必ズ信ジテ必ズ行フ可キ者也

問テ云ク 亡靈香華灯明飲食等ヲ供ズルニ之ヲ納受スル現象ナキガ爲メ世ニ其功德ノ有無ヲ疑フ者多シ此時ニ方テ無形の拜天ノ外教來リ局見ヲ以テ此有形死尸ニ諸供物ヲ爲スヲ嘲笑シ愚俗ヲ教唆シテ謗法ノ罪人ヲ造ラン請フ是ラノ曹ヲ救ハン爲ニ供物ノ本據及ビ功德並ニ三日ノ追齋七本塔婆供養等ノ本義ヲ説明セヨ

答テ云ク 靈供トハ精靈ニ供養スルノ義ニシテ屍體ニ供ズルニ非ズ則チ靈供ノ本據ハ蘇婆呼童子經ニ曰若欲食時先出鉢中飯一分爲五分一分準擬路行飢人來者即是

一分施ニ水中衆生一分施ニ陸地衆生一分施ニ亡世父母及餓鬼衆生（是レ靈供ノ本據也）第五分 足與不足 自食（以上）ト俱舍世間品頌疏曰健達縛者此云尋香中有食香名尋香 文ト是レ烹タル飯氣ノミヲ喰フ耳ノ義ニ非ズ一切ノ飲食ノ香ヲ喰フノ義ナリ夫レ食ニ四種アリ一段食（變壞スルヲ相トス迎即チ人畜ガ齧ミ喰フ也）二觸食（境觸ルハ相トス云フテ眼ニ色ヲ見耳ニ聲ヲ聞キ鼻ニテ香ヲ嗅キ身ニ觸レル也）三意思食（希望スルヲ相トス迎意中ニ思想スルヲ云フ）四識食（以上ノ三食スルトキ心識ノ食事トナル）是レ也現在ノ人畜等ハ物ヲ齧嚼ノ分々段々ニシテ食ヘトモ精靈ノ中陰ノ身ナレバ（四十九日間ノ中陰ト云フ陰ト世ノ身心ガ彼ノ世ノ身）存生中ノ如ク段食スル能ハス便チ香ヲ尋ネテ食トスル故ニ中心ニナル中間ノ身也）

有身ヲ尋香ト名ク謂ユル中有トハ死ヨリ生ニ至ル迄ノ間ニ中有生有本有死有ノ四種ノ相アリテ此中有身ハ七日ヲ限リ死シテ他界ニ生ズ（中有身ハ親ナクシテ化生スル也）（亦極善極惡中有ノ苦ナシト有テ善人ハ淨土惡人ハ地獄ニ落ッ）若シ初七日ノ間ニ未來ノ生緣ガ定マラザレバ第二七日滿ル日ニ死シテ亦三七日ノ中有身ヲ受ク此ノ如ク七日目毎ニ生死アリ七々四十九日ニ至テ凡ソ中有身ハ生緣定ツテ他界ニ生ズ是レハ通例ナリ（瑜伽

論ノ心ヲ取ル) 異例ニ至テハ生縁无定限ノ者アリ中有ニ數年迷ヒアリテ死靈ト成テ人ヲ惱スコト稀ニ有ル在リ故ニ梵網經曰ク若シ父母兄弟死亡之日應_レ招_キ法師_一講_ニ菩薩戒_一追福資_ニ其亡者_一得_レ生_ニ人天_一ト亦タ地藏本願經ニ曰ク若能更_ニ爲_ニ身死_一之後七七日内廣造_ニ衆善_一能_レ使_レ是_レ諸衆生永離_ニ惡趣_一生_ニ人天_一受_レ勝妙樂_ト斯ク佛ハ慇懃ニ追善回向ヲ教ヒ玉フ故ニ傳燈ノ法師ハ經軌ニヨリ三日追齋七七ノ供養一周忌三年忌等ノ年忌ノ追善ノ資糧ヲ以テ七世ノ父母師長ノ佛道増進ヲ祈リ山海ノ恩德ヲ報答シ皆共ニ淨土ニ往生シテ人界ノ至善至誠ノ道ヲ盡ス可キコトヲ指導シ玉ヒシナリ誰_レ信受奉行セザル可_レンヤ亦人世至孝ノ道此上ニ超勝スル者アル可_レラス若シ之ヲ忽諸ニセバ人界モ畜生界ナリ夫レ恂_ニ人世缺ク可_レラザル法義ニ非_ズヤ死後三日ノ齋ヲ俗ニ仕上ゲノ法事ト云フ是_レヲ要覽ニ見_レ王齋ト稱ス謂_{ユル}此齋ノ功德ニ依_テ亡靈ガ燭王(是ハ初七日ノ中ナレバ秦廣王ノ誤リナラン今ハ只古說ニ從_フ)ニ見_ヘテ罪ヲ免ル、義ナリ(法苑珠林ニ死後三日ノ齋ヲ勉_ル事迹アリ之ヲ略ス)七本塔ノ供養ハ初七日(不動秦廣)二七日(釋迦初江)三七日(文殊宋帝)四七日(普賢五官)五七日(地藏燭魔)六七日(彌勒變成)七七日(藥師太山)ト配當シテ亡者中有ノ中諸佛ト十王ニ結縁ノ爲_ニ法事ヲ營_ム前二十三佛ノ解ニ具ニセリ而シテ中有ノ身ハ上說ノ如ク香食スルヲ以テ少クモ四十九日間ハ奠香ノ煙ヲ絶_ヘザラシムルコト肝要ナリ已上ハ七本塔供養ノ義ナリ尙ホ百ヶ日(觀音平等)一周忌(勢至都市)三周忌(阿彌陀佛道轉輪)二十王ヲ配當セシナリ餘ハ次ニ詳ニセン

次ニ葬ハ佛ノ供養物也智度論三十曰須摩提菩薩見_ニ燃燈佛_一勝_レタル供養ノ具ナキ時賣_レ華女アルヲ見_テ五百金錢ヲ以_テ五莖ノ青蓮華ヲ買_フテ佛ヲ供養シ玉フト又華嚴ノ廻向品ニハ華ノ善根ヲ以_テ相好端嚴ヲ感_ズト説キ玉ヒリ是_レニ依_テ考ルニ華ヲ手向クルニ亡靈ガ自_ラ佛ヘ供_ズル物トモハ得_亦ハ施主ガ自_ラ佛ニ供_フ其功德ヲ回_ラシテ亡靈ノ相好端嚴ノ福報無盡ナラン爲_ニ向_ハセル義トモ心得_以テ獻供スルニアリ
 次ニ燈ハ過去世(二阿僧祇九十一劫)波塞奇ト云フ王アリ女ヲハ牟尼ト云フ阿梨密羅(此ニ云_ニ聖及_一)比丘ニ毎日酥油燒炷ノ具ヲ送_リ來世二阿僧祇九十一劫ニ於_テ當_ニ作佛スルヲ得_テ名ヲ釋迦牟尼ト曰_ハント記_ヲ受_ケ歡喜發心シテ化_ノ男子ト成_リ佛足ヲ禮_フ沙門ト爲_リ昔シ燈明布施セシニ由_テ斯_レヨリ已來無數劫ノ中天上人間ニ福ヲ受_ルト餘人ニ絶_今佛ト成_ルニ至_リシハ本此燈油供養ノ報ヒニ由_{ルト}(賢愚經ヲ撮略シテ眞俗佛事編ニアリ)亦佛弟子阿那律ハ過去九十一劫毘婆尸佛入涅槃ノ後盜賊ニテ塔中ニ入_リ物ヲ盜_マントシ佛前ノ燈明將_ニ滅_{ント}スルヲ箭ニテ灯眞ヲ挑_グ佛ノ威光ヲ見_テ身毛ヨダチ念_ズラク諸人實ヲ擲_チ佛ニ供_ジ福ヲ求_ム我_レ捧_グザレドモ何ゾ盜_{ント}忽_チ志ヲ改_メテ還_ル昔シ佛灯ヲ挑_ゲタル福ニ縁_テ斯_レヨリ九十一劫恒ニ善處ニ生_ジ今釋尊ニ值_フテ阿羅漢果ヲ得_衆人ノ中ニ天眼第一タリ(譬論經ノ撮略佛事編ニアリ)ト是_レ則佛ニ燈ヲ捧_ルハ愚痴ノ闇冥ヲ除_クノ事緣ナリ羅索經十九說_ニ燈眞言_一曰_ク如是眞言三遍加_ニ持灯明_一獻_ニ供_養之_持持法者觀_レ獨_ニ諸暗障_一ト是等ノ義ヲ通考スレバ靈前ニ灯明ヲ供

ズルハ精靈ニ智光圓明ノ徳ヲ具ヘシメント志願スル所以也亡魂之ヲ納受スルノ景狀
ナキハ隔生ノ故ニシテ靈供ハ回向觀念ノ肝要ナルコト福田集ニ論判アリ
問フテ曰ク 七七以後ノ年忌月忌命日精進日ノ説及ビ四年忌ヨリノ塔婆ノ本尊種字十
三佛ノ外ニ在リテ且ツ十王ノ外ニ王アリト亦各種字ノ下ニ書スルマヅノ二字及ビ裏書
ノ三三三ノ三字ヲ説明シ玉ヘ

答テ曰ク 福田集ニ善光寺ノ秘本ニ初七日ヨリ三年忌迄ニ十王ヲ配當シ七年忌ハ阿闍
如來祇園王(帝釋天) 十三年忌ハ大日如來蓮華王(大梵天王) 三十三年忌ハ虚空藏菩薩
慈恩王也ト云々十三佛ノ外ノ佛トハ大日如來ヲ分別シテ十三年忌ハ金剛界ニシテ
種字トシ十七年忌ハ胎藏界ニシテ三三三ノ種字トシ廿五年忌ヲ愛染明王トシテ三三三ノ種字ト
スル也即列テ三三三ノ三字也胎金ノ大旨密門雜章ニ曰ク胎ハ本有ノ功德ヲ佛ノ大悲ノ加持
ニ因テ出生スルコト胎中ノ形質父母ノ愛念ニ依テ增長スルガ如クナレバ胎藏界ト名ク
又タ悲生曼荼羅ト云フ也故ニ胎ハ本有ノ邊ヲ主意トスル也金ハ修生ノ智用ハ堅利ニシ
テ障トシテ破セザルコト无キコト金剛ノ難斷ノ物ヲ斷ズルカ如クニシア自利々他ノ功
徳ヲ普ク集テ具足セザルコトナケレバ金剛界ト名ク又嘉會曼荼羅ト云フ也故ニ金ハ修
用ノ邊ヲ正意トスル也ト次ニ三三三ノ字ハ智法身也言説不可得ノマヅ字ヲ本牀トシ譬喩不可得
ノ三三三ノ字ヲ下牀トシ修行涅槃ヲ傍點トシ大空ヲ上點トス三三三ノ字ハ理法身也列字本不生ヲ本
牀トシテ餘ノ點ハ三三三ノ字ト同ジ是レ一切ノ功德圓滿セル字相也(點畫ノ義ハ已ニ解セシ

者ト對照) 謂ユル列字ハ地大ニノ諸法本有ノ義表形ハ方ニシテ業用ハ持也マヅ字ハ水大
ニシテ諸法離言説ノ義表形ハ圓カニシテ業用ハ攝也便チ一切此地大ヨリ生ゼザルハナ
ク一切法妙ナラザルハナク方形ハ一切ヲ持シ圓形ハ一切ヲ攝シテ洩ラスナシ發心修行
菩提涅槃ノ性相ヲ圓攝具持シテ其本具ノ相一稱讚スルコト能ハザル深秘ノ義アリ請
ラクハ明師ニ親炙シテ奧秘ヲ聞クニアリ次ニ愛染明王ハ金剛部ニシテ一切衆生ヲ敬愛
擁護(三三三ノ義)スル爲ノ因業(列字本牀ノ義)ノ塵垢ニ染汚セル(和光同塵ノ義)ノ
尊號也種字ハ重ノ三三三ノ字也故ニ前ノ光明眞言ノ三三三ノ字義ト全ジ故ニ經曰此尊ノ瑜伽(三三三)
トハ此ニ相應ト翻ズ即チ明王ノ三密ト己レノ三密ト相應セシムルノ義)ヲ修スル者ハ
五種ノ悉地(前ニ説明セリ須ク對照スベシ)念ニ隨テ成ラズト云ヘリ種字即法身ナレバ
三三三ノ字即愛染明王ノ牀也ト解了ス可シ次ニ塔婆ノ種字ノ下ニ書スル所ノマヅノ字義ヲ明
サバ悉曇三密鈔ニ曰クマヅ字ハ施與不可得即不取(空也)不捨(有也)義有空不二也マヅ字
法界不可得義是則有空不二又不可得即不取(空也)不捨(有也)義有空不二也マヅ字
三三三ノ義ヲ明サバ一字頂輪王一切時處念誦成佛儀軌ノ文曰此毘盧遮那佛三字密言共一
字无量ト(此毘盧等ハ指ニ金輪佛頂)此尊智法身大日住(理日)之尊形故(共ニ一字ニシ
テ无量トハ此三字ニ、理智人、因行果、佛蓮金、身口意等ノ无量ノ三法ヲ含藏スルガ故也
以下無量ノ三法ノ義ヲ些カ摘舉セン
一三三ノ字ハ佛部也列(法)三(報)三(應)ノ三字合シテ一字ヲ成ズ即是レ三身ノ佛ナルガ故

精進日トハ謂ユル精進トハ六度ノ一ニテ懈怠ヲ策勵スル行也在家ハ平日妻子ノ恩愛ニ引カレ家務ニ追ハレ罪ヲ犯シ死亡セシ父母兄弟ノ爲ニ追善モ營ミ難シ故ニ先亡ノ忌日ニハ少惡小罪タリトモ犯サズ殺生ノ品タル魚肉ヲモ用ヘズ善根ヲ營マント欲スル日ヲ云フ

因云フ齋會精進ニ酒ヲ施スハ罪ナルベシ梵網經曰若自身手過ニ酒器與人飲酒者五百世中無レ手何况自飲酒云々此義如何ン答フ十住婆沙論ノ說ニ在家ハ施者得レ福受者不レ得レ福又曰檀婆羅密法悉滿ニ人願ニ在家菩薩以レ酒施者是則无レ罪ト此文義ヲ通考スレバ在家ハ施酒ヲ許スモ出家ノ上ニハ許サズ故ニ僧ノ佛事ニハ酒ヲ用ヒサルヲ如法トス可シ

正月トハ諱忍ノ梵網要解ニ正忌月ト云ヒル是也即意ヲ正クシテ雜事ヲ禁忌スルノ義也是レ命過日ヲ命日ト略セシト同揆ニシテ即正忌月ヲ略シテ正月ト云ヒシ者也命日ハ一日ニ關シテ下等人ノ勤ムル所也正月ハ一ヶ月間禁忌スル義ニノ中等ノ營ム所也君子有レ終身喪ノ義ヲ知テ終身善根ヲ修スル者ハ上等人ナリ可成の長日戒ヲ持テ善根ヲ營ミ祖先ノ無上菩提ヲ祈リ報恩ノ丹誠ヲ抽ンズルニアリ是レ論語ニ慎レ終追レ遠則民德歸ニ於厚ト云ヘル義ニシテ外典スラ猶此言アリ矧ンヤ内典ハ精神のナレバ無限ニ年忌ヲ吊祭スルノ方ヲ講ゼザランヤ佛祖統紀廿四云百日小祥(一周忌)大祥(三年忌)舉行ニ佛事ニ雖レ由ニ儒家喪制ニ而能修ニ釋門奉レ嚴之福(嚴トハ子カ父ヲ稱シテ家嚴ト云フ

此略也)可レ不信哉ト註シテ云ク百ケ日ハ禮記ニ卒哭ト云フ父母死セバ子ハ遺恩ヲ追慕シテ痛哭ス可シ若シ痛哭過ギルトキハ家業ヲ廢シテ追孝トナラザル故ニ痛哭ノ限リヲ定メ士ハ三ヶ月大夫ハ五ヶ月諸侯ハ七ヶ月ニテ痛哭シ卒ルヲ卒哭ト云フ今ハ其士ノ卒哭ニ倣フテ之ヲ百ケ日ノ追善トス(士ノ卒哭ハ三ヶ月即九十日ナル故大數ヲ採テ百ケ日トナスナリ)亦禮記ニ小祥忌大祥忌ヲ示セリ之ニ倣フテ小祥忌ヲ一周忌トシ大祥忌ヲ三年忌トナス故ニ統紀ニ三年忌迄儒家ノ喪制ニ由ルト云フ七年忌己下ハ我日本ニテ行ヒ初メシ也則聖德太子死貧(死貧トハ菩提ノ資糧ニ乏クシテ死後三惡道ニ迷フ)生貧(生貧トハ鰥寡孤獨廢疾等ノ貧困ヲ救フ爲ニ悲田院療病院施)ノ兩貧ヲ救フ可キ法ヲ立テ玉ヒシヨリ起レリ而シテ聖武帝桓武帝ノ兩朝ニ再興セラレ忌日追善等ノ法會普ク天下ニ行ハル、ニ到リシハ皆皇政我が正法ヲ輔ケテ弘通セシメシニ之レ由ル而シテ七年忌ヨリ三十三年忌ニ至ル迄ノ年忌ノ數ヲ定メシハ是レ地藏本願經ノ累七追善ノ式ニ則リシ者也之ヲ細釋セバ今此七年忌己下三十三年忌迄ハ第二重ノ累七追善トス便チ二重累七ノ表ヲ左ニ示サン

初	一	七	日	一ノ七	七七	七日	名ノ七數ノ七共ニ存ス
重	二	七	日	二ノ七	七年	忌	全斷
重	三	七	日	三ノ七	十三	年忌	數ノ七

累四七	日	累四ノ七	十七年忌	名ノ七
七五七	日	五ノ七	廿三年忌	數ノ七
六七七	日	六ノ七	廿七年忌	名ノ七
七七七	日	七ノ七	卅三年忌	數ノ七

上表ノ名ノ七トハ年數ハ七年ニ不足ナレドモ七ト云ヘル名サヘアレバ之ヲ一箇ノ七年忌トス是レ其多少ニ拘ハラズ只七ト云ヘル名ノミヲ取ルナリ次ニ數ノ七トハ其數ガ七ニ不足ナレバ七トセズ其數七ニ滿ルヲ以テ數ノ七年忌トス例セバ死亡ノ年ヨリ算メテ初メテ七年ニ當ル年ヲ數ノ七ト云ヘ又第二ノ七ケ年忌ニ當レル十三年目ヨリ起算ノ第七年忌ニ至レバ五年ニシテ七ケ年トスルニハ二年不足ナレドモ十七年ニハ七ト云ヘル數字ガアル故其數字ノ名ヲ取テ之ヲ第三ノ七年忌ト爲シタルガ如シ而シテ七ノ七ナル三十三年忌以上ハ即卅三年ヲ一箇ト數ヘテ七ニ至レバ二百三十一年ナレドモ二百五十回忌ヲ吊フ者ハ蓋大數ヲ取ルノ法ナル可シ其年間餘リ遠忌ナル故ニ厚志者ハ其中間ニ於テ數回追善ヲ營ム者アル也凡ソ上善ノ人ハ何程善ヲ積ムトモ倦怠ノ念ナシ論語ニ謂ユル食ハ不レ厭レ精膾不レ厭レ細ノ理リ也爾ルニ末法浮薄ノ人世ニ洎ンデハ年忌追善ヲ名聞ニ舉行シ或ハ慳吝ニ善根ノ志ニ非ズシテ單ニ親戚及ビ近隣ノ義理ヅクニ作者アリ是レ佛ノ事ニ訖シテ私事ヲ爲スモノニシテ法義ニ適ハザルガ故ニ些カモ父母及ビ祖靈ノ菩提ノ爲ニナラズ却テ財寶ヲ費耗シ光陰ヲ空消スル者ナレバ寧ロ營マザルコソ可ケ

レ望ムラクハ上説ノ法義ヲ辨知シ篤志以テ之ヲ勤修シ自他ノ勝益ヲ獲得セラレンコト

問テ曰ク世俗生前ニ戒名ヲ授カリ逆修ノ法ヲ受ケレバ三ケ年間ニハ必ズ死ストテ忌ミ嫌ヒリ果シテ然ル例證アリヤ之ニ就テ生存中ノ修善ノ功德ト没後ノ追福ノ利益ニ優劣アリヤ併セテ之ヲ示セ

答テ曰ク逆修ノ逆トハ豫ジメノ義ニシテ則存生中ノ修善ナリ隨願往生經曰(三種ノ功德ヲ校量セシ者也)未レ修時逆ニ修ニ二七日ニ燃燈續明懸ニ新幡蓋ニ請ニ召衆僧ニ轉ニ讀尊經ニ修ニ諸福業福多否答其福无量不可度量隨ニ心所願ニ獲ニ果報以上亦地藏本願經云命終後大小眷屬爲造ニ福利一切聖事七分之中乃六分功德生者自利ト爾ラバ則逆修ハ七分ノ功德ヲ全分ニ受クル所以也斯ル大功德アル善根ヲ營ミ爭カ定壽ヲ三年内ニ短縮スルノ惡果ヲ感ズル道理アラシク況ンヤ其證例ノアル由有ンヤ亦隨願往生經曰爲レ亡修福七分獲レ一ト有師釋シテ云ク是レ存生中ニ道法ヲ信ゼザルガ故ニ死シテ追善セラルモ其功德七分ノ一ノミヲ得ル義ナリト云フ然ラバ此經說ヲ諦信シテ宜ク逆修シテ全分ノ勝益ヲ蒙ムランコトヲ欣求ス可キ所以也尙ホ内外ノ宗教競争ノ今日ニハ各々檀信ヲシテ安心ヲ過マラザラシメン爲ニ謂ユル逆修善根ヲ勸誘スルコト最モ急務ナラシ

問テ曰ク 既ニ塔婆ノ翻譯名義ヲ諦聽セリ然レドモ六角塔ノ外ニ種々ノ塔形ヲ見ル依

テ諸塔婆ノ表事及ビ建塔ノ旨趣及ビ立破罪福ノ義證文ヲ擧ゲテ之ヲ示シ玉ヘ
 答テ曰ク 要覽ノ下云立塔ニ三意アリ一人ノ勝ヲ表シニ他ヲ信ヲ生ゼシム三報恩
 ノ爲也而シテ等級アリ若シ初果ハ一級二果ハ二級三果ハ三級四果ハ四級（四阿羅漢ノ
 前ニ略解ス）三界ヲ起ユルヲ表スル也辟支佛（因緣覺ノ菩薩ナリ）十一級未ダ無明ノ
 一支ヲ超ヘザルヲ表スルガ故ニ佛塔ハ十三級十二因緣ヲ超ユルコトヲ表スル故ニ若シ
 凡夫ノ比丘（梵語秦ニハ言乞士謂上於諸佛乞法資盜慧命下於施主乞食資益
 身色要覽）德行アル者ハ亦塔ヲ立ルコトヲ得即チ級無シト僧祇云持律ノ比丘法師營
 事ノ比丘ノ德望有ル者皆應ニ塔ヲ立ツベシト亦五百問云亡師ノ爲ニ塔ヲ立ルコトヲ得
 （凡僧ナリトモ師範ナレバ報恩ノ爲ニ其徒弟ハ塔ヲ立ツルヲ得ルト也）自物ヲ用ユルコ
 トヲ得師物ヲ用ユルコトヲ得ズト次ニ銘記アルハ今世ニ起ルニ非ズ按ズルニ佛本行集
 經曰迦葉佛滅度後波夢奈國王名吉利尸収舍利（私ニ曰迦葉佛ノ舍利即骨身）用ニ七
 寶造塔爲作銘記一名達舍婆陵迦ト又十二因緣經ニハ八種ノ人ノ爲ニ塔ヲ起ツルコ
 トヲ得ト一如來ニ菩薩三緣覺四羅漢五阿那含六斯陀含七須陀洹八轉王也此八種ノ塔ハ
 禮聖塔ニシテ賢聖ノ德ヲ敬禮スル爲ニ建立スル處也而シテ塔ノ頂キニ露槃（是レハ雨
 露ヲ凌グ盤ニシテ屋根笠ノ如シ）ヲ安ズ此露槃ノ數ノ多少ニ依テ賢聖ヲ分ツ也便チ輪
 王（國王ノ一也後分經ニ其轉輪王モ亦七寶モテ成）ハ一初果（阿羅漢也）ハ二二果ハ三三
 王（國王ノ一也後分經ニ其轉輪王モ亦七寶モテ成）ハ一初果（阿羅漢也）ハ二二果ハ三三

果四四果五緣覺六菩薩ハ七如來ハ八露槃ヲ安ゼヨト云フ而シテ八層已上ハ皆佛塔也
 此露槃ノ數ヲ一層二層或ハ一重二重或ハ己ニ說ケル乃至十三級等ト云フ是レハ前ニ謂
 ユル勝德ノ人ヲ表彰スル爲メ亦ハ瞻仰者ヲシテ信心ヲ生ゼシムル爲也是等ノ義ヲ考ル
 トキハ凡人ノ爲ニ塔ヲ建ツルノ義ナシ但シ現今普通人ノ建塔スルハ即墓標ニシテ人勝
 ヲ表スルニ非ズ生佛ノ爲ニ非ズ便チ君父等ノ上輩ノ爲ニ建ルハ報恩謝德ノ義ナリ妻子
 眷屬等ノ下輩ノ爲ニ設ルハ但墓標タルノ義ナリ故ニ無級塔也之ヲ石塔ト稱セルハ無級
 塔ト云フヨリ一班ニ名稱セシナル可シ中ノ就ク今時方形ノ石塔ヲ建テ、法名ノ上ニ列
 字ヲ彫刻セルハ蓋シ五輪塔ノ略ニシテ即チ地大ノミヲ建立スル者ナラン（列ノ地大ニ
 餘ノ水火風空ノ四大ヲ包攝スルガ故ナリ）何トナレバ中昔ノ石塔ニ五輪多カレバ也夫
 レ五輪塔婆ハ縷述セル如ク大日ノ法躰ヲ表彰セシ者ナレバ一基建立スレバ一佛ヲ造リ
 ニ基建立スレバ二佛ヲ造ルト同ジキ大功德アリ譬喻經曰造塔人有十種勝利一者不
 レ生ニ邊地國民中ニ者不レ受貧窮三者不レ得愚痴邪見身四者得十六大國王位五
 者得壽命長遠六者得金剛那夢延力七者得无比廣大福德八者蒙諸佛菩薩慈
 悲九者得三明六通八解脫十者生十方淨土成佛無數矣塔婆ノ偈ニ曰一見率都
 婆永離三惡道何况造立者必生安樂國矣建塔功德ヲ示セル文收擧ニ遑マアラズ斯
 ル大功德アル者ナレバ宜ク信心ヲ挺ンシテ建塔スルニ在リ然ルニ今人或ハ古哲ノ寶
 訓ヲ珍重セズ建塔ノ儀式ヲ守ラズ又ハ忘却シ亦ハ學知セズ即チ列字ヲ省キテ紋章ヲ

刊石シ靈位ノ法名ヲ傍面ニ隱シ俗ノ姓名ヲ正方ニ顯ハセル者頗ル多シ是レ皆法義ヲ輕
 シ己意(我慢心ナリ)ヲ重ンズルヨリ發ル而シテ勝利ヲ失フハ宛モ醍醐ヲ弃テ牛乳
 ヲ覓ノ摩尼ヲ擲ツテ魚珠ヲ拾フガ如シ豈ニ愚ナラズシテ何ゾヤ尙之石塔ヲ以テ力量ヲ
 試ミ或ハ倒シ或ハ碎キ或ハ年忌率都婆ヲ折リ或ハ之ヲ焚ク者アリ咸ク罪惡ノ業種ヲ殖
 ヘ災禍ノ果實ヲ喰フテ若死スル者ナリ溜洲最勝王經疏云ク大乘五逆如ニ薩遮尼乾子經
 說一者破壞塔婆焚燒經藏及以盜用三寶財物二者謗三乘法言非聖教障破留
 難隱蔽覆藏三者一切出家人若有戒破戒打罵呵責說過禁閉還俗馳使債調斷命四者殺父
 殺母出佛身血破和合僧殺阿羅漢五者謗無因果長夜常行二十不善行矣ト(佛乘小
 ノ五逆說ハ單ニシテ大乘ノ第四ノ一條ナリ大)夫レ率都婆ヲ破毀スル等ノ罪ハ出佛
 乘ノ五逆說ハ復ニシテ逆惡ノ無間業ヲ總舉ス身血ノ義ニ當リテ即無間獄ニ墜ルノ業因也全疏云以下背恩田(私ニ曰ク四大恩ヲ報
 ゼザル也)違中福田上(八福田ナリ善根ノ因種ヲ下シテ幸福ノ果實ヲ得ル法也)ノ故故
 名レ之爲逆(逆惡ノ義ニシテ順善ノ義ニ反ス)執此逆者身壞命終必定墮無間地獄
 一大劫中受無間苦故ニ名無間業矣爾レバ則上說ノ如ク率都婆ハ佛鉢ノ表示ナレバ
 之ヲ破壞スルハ佛身ヨリ血ヲ出スト全ジキ五逆罪ノ最モ重キ者ニシテ全ク無間ノ苦報
 ヲ速グ者ナレバ宜シク誠慎以テ堂塔ヲ尊重シ信心ヲ厚フシ建塔シテ巨益ヲ被ムランコ
 トヲ欲ス可キ也
 問テ曰ク 春秋ノ彼岸法會ハ其例ヲ外邦ニ採リシヤ本朝ハ何レノ頃ヨリ行ハレタルヤ

而シテ何ノ爲ニ設ケラレタル者ナルヤ元來彼岸ノ名ハ何ノ義ゾヤ詳細之ヲ列示シ玉ヘ
 答テ曰ク 彼岸佛事ノ名ハ日本ニテ撰ミ相營ミシ者ナリ其旨趣ニ至テハ蓋シ印度支那
 ノ說ヲ斟酌セシ者ノ如シ如何トナレバ春秋ノ中間ノ時節ヲ以テ佛事ヲ修シ善根ヲ作サ
 シムル說提謂經并ニ淨土三昧經(印度ノ說也)及ビ善導大師ノ觀經ノ釋(支那ノ說ナリ)
 ニ在リ今マ之ヲ列示セン謂ユル經說ニハ八王日ニ善ヲ修スルコトヲ教誨セリ此八王日
 ハ今ノ彼岸ノ說ニ相當セル也則チ八王日トハ彼經云立春春分立夏夏至立秋秋分立冬冬
 至是謂八王日是天地諸神陰陽交代時也當此日則梵天帝釋鎮臣三十二人司命司錄閻
 魔大王八王使者咸グ出テ四方ヲ巡見シ人民ノ善惡ヲ行ズルヲ校録ス地獄ノ主モ輔臣ヲ
 出シテ有罪者ヲ記サシム前齋日(十五日也)ト八王日トニハ過アレトモ福勝レタル者
 ニハ赦ルサル後齋日(二十日也)ニ至テハ必ス其犯罪及ビ其人ノ名ヲ錄シテ其壽ヲ減
 シ死日ヲ尅ム地獄ノ王此記錄ヲ承ケテ即チ獄鬼ヲ遣ハス而ルニ獄鬼无慈悲ニノ死日未
 レ到強惡ヲ造ラシメ(私ニ曰ク是レ衆生ノ逆惡心ヲ云フ)死ヲ催促スト云ヒリ此理由ヲ
 以テ一年ノ八王日ニハ修善セヨト教ヒ玉フ(私ニ云ク是レ此經說ハ理ヲ事ニ顯ハシタ
 善惡ノ理性)次ニ善導觀經ノ釋曰(觀經正宗分定善義卷之三三)念佛シテ西方往生ノ
 願行ナスニハ不取冬夏兩時春秋ノ二節ヲ取ル其故ハ仲春(二月)仲秋(八月)ハ正東
 ヲリ日出テ直西沒爾爾ニ彌陀佛國當直西日沒處故ニ彌陀ノ在所ヲ衆生ニ正ク指示
 シテ往生ノ願ヲ遂ゲシムト云ヘリ我が國ノ名德此等ノ義ニ據テ彼岸ノ節ヲ定メテ清淨

ノ妙業ヲ行ハシメシナリ次ニ我朝ニ創メテ行ハレシ時代ハ史上ニ見ヘサルヲ以テ證例
 シ難シト雖佐田介石上人ハ奈良ノ朝ノ時ヨリ始マリ其由來千歳ノ上ニ過ギタリト云フ
 (介石師證シテ云ク彌陀ヲ念ジ念佛スルコトハ其源南)奈良ノ朝ニ諸大寺ヲ創立シ佛教
 都ニ始マル永觀律師珍海筆南都三論宗ノ念佛者也) 奈良ノ朝ニ諸大寺ヲ創立シ佛教
 旺盛ナリシト雖未ダ天下ニ普ネカラズ故ニ南都ノ碩德請願シテ朝威ヲ以テ遍ク天下ニ
 弘通シ外邦ニ比類ナキ淨業ノ顯民ヲ造出セシメ玉フ次ニ何ノ爲ニ彼岸會ヲ設ケタルヤ
 ノ義ハ佛天ノ善法ヲ以テ津々浦々ノ愚夫愚婦ニ至ル迄ニ勸善懲惡ノ道理ヲ知ラシメン
 爲ニ熱カラズ寒カラズノ中節ヲ撰ミ賢愚不肖老幼男女悅喜ノ佛寺ニ參詣シ大法ヲ聽聞
 シ善根ヲ營ムニ便宜ナラシム實ニ在家ハ家業ヲ營ミ妻子ニ礙ラレ平日佛道修行モ成リ
 難キ所以ヲ洞察シ春秋二季穢業稍閑暇ノ時ヲ撰ミ福田ニ善苗ヲ殖ル處ノ美風ヲ起セシ
 ハ實ニ南都ノ碩德ノ遺志也而シテ言フモ畏キコト乍ラ 今上ノ聖代ニモ春秋ノ皇靈祭
 ノ期日ハ便チ春秋彼岸ノ中日ヲ以テ 先皇ノ尊靈ヲ祭リ修福ヲ營マセ玉フ(大陽曆ト
 大陰曆ト照合シテ知ル可シ) 然レバ則臣民タル者ハ厚ク之ヲ信ジ先ツ 皇靈ニ奠供シ
 次ニ己ノガ歷祖ニ供養シ惡業ハ勿論其意ヲ淨フシ佛寺ニ對シテ善根ヲ精營ス可キハ彼
 岸ノ要旨タリ此法會ヲ天下ニ流布セシメ玉フガ故ニ其當時ヨリ今日ニ至ル迄人能ク微
 善タリトモ行フニ至レリ此感化力ハ今人ノ力及バザル處ナレバ自他相共ニ此美風ヲ恪
 守シ永ク信行センコトヲ要ス可シ西方日沒正中等ノ義ハ全ク東洋ニテ立テタル說ナレ
 バ西洋ニ之ヲ施行センニハ其國々ニ於テ正中ヲ撰ムニ在リ何トナレバ其國ニ依テ方向

日沒寒暖ノ正中異同アレバ也尤モ是ノ說ニ就テハ第一ニ西方彌陀ノ居處ヲ疑フ者アラ
 ン然レドモ佛教ノ指方ハ本來方隅ナキ中ノ指方ナレバ一方ヲ指スハ遍法界ヲ指スナリ
 亦彌陀ノ佛體モ法界身ナレバ各國ニ於テ異別ニ指方立相シ時節ノ中正ヲ採ルモ法義ニ
 背クコトナシ佛事編卷五云佛法ハ中道ヲ崇ブ此時節ハ晝夜等分ニシテ無ニ長短ニ實中道
 ノ時也修ニ佛事ニ佳節也ト夫レ中ハ定相ナキヲ以テ其時處位ニ於テ中ヲ擇ンデ執ルニ防
 ゲナキヲ知了ス可シ次ニ彼岸ノ名義ハ本譬喻也佛法ノ常談ニ迷ヒノ深キヲ海ニ喩ヘ苦
 界ノ浮沈ヲ比ス而シテ煩惱生死ヲ此岸ト比シ涅槃常樂ヲ彼岸トナシ娑婆ヲ此岸トナ
 シ極樂ヲ彼岸トナシ此岸ニ在テハ凡下トナシ彼岸ニ到レバ極聖トナス故ニ此彼岸會ト
 ハ佛道ヲ修メ生死ノ迷海ヲ越ヘ安養世界ノ彼岸ヘ到ルノ集會ノ義トス尙ホ細釋セバ當
 日六波羅密ノ菩薩行ヲ修スルノ義ナリ謂ユル波羅密トハ梵語此ニ到彼岸ト翻譯ス(義
 ハ前ニ示ス) 六トハ施ト戒ト忍ト進ト禪ト智トノ法數ヲ云フ菩薩ノ聖衆ハ自ラ慳ト惡
 ト瞋ト怠ト亂ト痴トノ六弊アリテ眞理ヲ障弊スルヲ悟リ布施ヲ以テ慳貪ヲ對治シ持戒
 ヲ以テ逆惡ヲ對治シ忍辱ヲ以テ瞋恚ヲ對治シ精進ヲ以テ懈怠ヲ對治シ禪定ヲ以テ亂心
 ヲ對治シ智慧ヲ以テ愚癡ヲ對治シ而シテ自ラ施因ニテ富報ヲ得戒因ニテ善道ヲ得忍ハ
 端正進ハ神通禪ハ天ニ生ジ智ハ煩惱ヲ破スノ報果ヲ得玉フ也吾人ハ六弊ノ爲ニ心鏡ヲ
 暖昧ナラシメ之レアルガ故ニ之ヲ知レドモ決行スル能ハズ故ニ此報果ヲ得ル能ハザル
 也若シ發心シテ家財ヲ喜捨シ持レ戒遇レ辱 順忍忍己精進シ精進シ己ヲ得レ禪

知^レ理^ハ則^チ智^ハ相應^シテ佛^ヲ成^ゼンコト疑^フ處^ナシ(名義ノ四ノ義ヲ取^テ此ニ釋^ス)若^シ六^波羅密^ノ一^法ヲモ能^ク修^行スレバ其^一行^ニ餘^ノ五^行ヲ具^足シテ成^佛スルヲ得^ル也是^レヲ理^ノ六^波羅密^ノ義^ト云^フは大^乘ノ六^度ナリ小^乘ニハ事^ノ六^度滿^行三^阿僧^祇百^大劫^ヲ歷^テ成^佛スルノ說^{アリ}各自^ノ平^常機^根相^應ニ之^ヲ總^行ニ之^ヲ別^行シ彼^岸會^ニハ別^シテ精^進力^ヲ振^興シテ修^行ス可^キハ日^本佛^教信^徒ノ本^懷ナラヌヤ斯^ノ如^キ眞^理有^ツテ此^佛事^ヲ行^ヒ來^レル所^以ン也何^ンゾ只^老人^ニノミ委^ネテ壯^年ノ曹^ハ之^ヲ輕^忽ニ附^シ去^ツテ可^ナランヤ

問^フテ云^ク 世人^頗ル孟^蘭盆^法會^ノ緣^起及^ビ功^德ヲ知^ラズシテ七^月朔^日ヨリ十六^日迄ヲ表^盆ト唱^ヘ全^ク二十^日或^ハ廿^四日ヲ裏^盆ト唱^ヘ孟^蘭盆^ノ孟^蘭ヲ表^裏ノ義^ト解^シ居^ル者多^シ是^レ正^義ナリヤ此^法會^我ガ朝^ニ行^ハレシ肇^メハ何^レノ頃^ナリシヤ詳^説ヲ乞^フ答^テ曰^ク 孟^蘭盆^ハ是^レ佛^弟子^{(只}僧^家ノミナラズ佛^寺ノ檀^家ト云^フカラニ)ノ孝^ヲ申^ベ恩^ヲ報^ヒ苦^ヲ救^フノ要^法ナリ則^チ佛^弟子^ニ目^連(具^ニハ目^捷連^ト云^フ此^ニ菜^菽菽^氏ト云^フ上^古ノ仙^人常^ニ食^ニ菽^豆母^ハ是^レ彼^種也外^戚)尊^者ト云^フアリ神^通第一^ニシテ母^ノ招^提夫^人十^不善^行ノ現^報ニテ餓^鬼趣^ニ墮^在スルヲ觀^見シ傷^嗟ニ耐^ヘズ佛^ノ所^ニ詣^リ救^母ノ法^ヲ請^ヒ玉^ヲ爾^時佛^ハ招^提夫^人ノ慳^貪ノ業^因ニテ餓^鬼界^ニ墮^落セシコトヲ悟^リ玉^ヒ布^施供^養ノ善^根ヲ以^テ其^業苦^ヲ救^フノ妙^法ヲ授^ケ玉^フ孟^蘭盆^經曰^ク七^月十五^日僧^自恣^日當^爲七^世父^母及^現在^父母

厄^難中^者(此^文ハ通^ナリ別^ノハ現^在ノ親^ヲ保^安ス)具^ニ飲^食百^味五^果及^灌盆^器香油^挺燭^牀敷^臥具^盡世^甘美^以著^盆中(盆^會之^中)供^養十^方大^德衆^僧是^レ自^恣僧^日(七^月十五^日也)ノ供^養ノ勝^益アル以^所ナリ謂^ユル自^恣日^トハ一^夏九^十日ノ間^安居^ヲ修^行シ了^タル大^德ノ衆^僧此^日ノミ^ハ自^ラ恣^マニシテ練^行ヲ休^憩スルヲ許^サル故^ニ此^日ニ於^テ日^蓮尊^者ハ佛^慈教^ニ順^ヒ如^法ニ无^差平^等ノ齋^會ヲ營^ミ悲^母ノ苦^報ヲ救^ヒ玉^ヒ是^レ則^チ孟^蘭盆^ノ緣^起及^功德^ノ義^ナリトス次^ニ孟^蘭盆^ノ字^義ヲ明^サハ謂^フ孟^蘭ハ梵^語也此^ニハ救^倒懸^ト云^フ諺^解セハノタレカ、ルヲスクウ^ノ義^也而^シテ孟^トハ子^也皿^ノ履^ハ必^ス執^筆者^ノ誤^リ爾^{(要}覽^ノ意)盆^トハ此^方ノ器^ナリ要^覽ノ下^ニ古^師云^盆或^是鉢^但譯^時隨^俗稱^盆盆^之與^鉢皆^器故^也ト爾^レハ則^チ孟^蘭盆^トハ梵^漢雙^舉ノ目^也義^淨師^云ク孟^蘭者^西域^之語^此云^救倒^懸即^飢虛^危厄^苦謂^之倒^懸也盆^乃東^夏之^音此^則救^苦之^器ト云^ヘリ即^飢疲^レテ將^サニ危^ク死^ナントシテノダレカ、リ居^ル者^ヲ救^フ器^モノ也トノ義^ニシテ所^問ノ如^キ表^裏ノウ^ラノ義^ニ非^ル也夫^レ六^道輪^迴ノ吾^人ノ現^生ノ父^母及^ビ過^去七^世間^ノ父^母ノ餓^鬼趣^ヲ救^ハント憶^念スル孝^順心^ノ輩^ハ連^年七^月十五^日ニハ分^限相^應ノ淨^財ヲ三^寶ニ供^養シテ以^テ生^々雙^親ノ長^育慈^愛之^恩ヲ報^スルハ人^世子^孫タ^ル者^ノ缺^ク可^ラザル法^典ナリトス亦^タ受^食ノ僧^衆ハ先^ツ施^主ノ爲^ニ咒^願シ亡^者ノ爲^ニ回^向シ佛^ニ供^養シ了^ツテ自^ラ食^スルナリ斯^ク爲^シ得^ルハ此^日ノミ^他日^ニ通^ゼズ今^却テ寺^中ニ於^テ供^ヲ亡^人ニ設^クルハ蓋^シ誤^レルナリト要^覽ニ見^ヘタリ知^ラズンバアル可^カ

ラズ（七月十五日ハウラ盆ノ自恣僧供養ノ日ニシテ除）次ニ本朝孟蘭盆會ハ 齋明天
日ニ修行スルハ皆施餓鬼法ニシテ緣起ヲ異ニス）皇ノ御宇ニ初メテ行ハレタル也（田口卯吉氏元亨釋書ヨリ抜抄セラレシ表中ニ 齋明
天皇ノ御宇智通智達唐ニ赴キ相宗ヲ立弊三藏ヲ受ク川原寺ヲ建ツ鎌足疾ム 天皇百濟
ノ尼法明ヲシテ維摩經ヲ誦セシム疾ハ癒ユ是ヨリ維摩會起ル孟蘭盆會ヲ設ク仁王護國
經ヲ宮中ニ講ジ仁王會ヲ設クト）

問フテ云ク 所説ノ如クナレバ孟蘭盆會ハ一日ニシテ施餓鬼會ハ其定日ナク行フコト
ヲ得ル法ナリト其孟蘭盆ト異ナル緣起ハ如何ン

答テ云ク 眞俗佛事編（卷五）云吾門ノ徒ハ日々必ズ此法ヲ可レ修所レ獲福利果報不可
校量ト云ヘリ佛說救拔焰口餓鬼陀羅尼經（不空譯）曰阿難獨居ニ靜處ニ念ニ 所受法ニ其
夜三更己後ニ當テ焰口ト云餓鬼阿難ノ前ニ現ズ其形醜陋ニシテ身體枯瘦ニシテ口中ニ
火燃ヘ咽針ノ鋒ノ如シ頭髮蓬亂シ爪牙長利ニシテ可畏カリケルガ白ニ阿難ニ言却後三日
汝命盡テ餓鬼ノ中ニ生ント阿難聞レ之甚タ惶ル我何ナル方便ヲ爲ンカ斯ヲ脱ント問ヘ
バ餓鬼對テ曰汝若明日ニ百千恒沙數ノ餓鬼ト百千ノ婆羅門仙等ニ摩訶陀國ノ斛ニテ一
斛ノ飲食ヲ施コシ并ビニ爲レ我供養ニ實ニ此功力ヲ以テ汝モ壽ヲ増シ我モ亦離レ餓鬼
若シ生レ天申シケレバ阿難甚怖ロシク疾ニ至レ佛 所レ彼餓鬼ノ語レ我 コトヲ一佛ニ
告グ奉リケレバ佛告ニ阿難ニ勿レ怖 我 有ニ方便ニ諸餓鬼婆羅門仙等ニ種々ノ飲食ヲ施サ
シム可シ有ニ无量威德自在光明殊勝妙力云陀羅尼ニ此陀羅尼ヲ誦スレバ百千恒河沙數ノ

鬼及婆羅門仙等ニ上妙ノ飲食ヲ充足セシメ一ノ餓鬼ニ摩訶陀國ノ斛ヲ以テ七七斛ノ食ヲ
得セシムル也世尊重 言我前世婆羅門タリシトキ於ニ觀自在菩薩所及世間自在威德如來
所ニ此陀羅尼ヲ受故ニ從レ斯无量ノ餓鬼及諸仙等種々ノ飲食ヲ施シ諸餓鬼苦身ヲ脱シテ
天上ニ生ゼシム阿難汝今受持セバ福德壽命皆增長ヲ得ム爾時世尊即説ニ陀羅尼
此事緣ヨリ此法會世界ニ行ハル其功德ノ廣大無邊ナルコト經説ノ如シ（佛説ノ一心十
眞理ナリ爾ルニ世智辨聰ノ曹地獄餓鬼阿修羅天堂ハ斷ジテ無也）界ハ宇宙門ノ
ト批難ス嗚呼持戒破戒極善極惡中有等ノ因果ヲ知ラズ憫ム可シ）

問テ曰ク 每歲十夜トテ全國寺院ニテ十月十日ノ夕ヲ開關トシ十六日ノ朝ヲ結願ト定
メテ念佛回向ヲ修ス此緣起ヲ明示シ玉ヘ

答テ曰ク 永享ノ頃足利將軍義政ノ執權伊勢守貞經ノ子息兵庫頭貞國山城國東山眞如
堂ノ彌陀佛ヲ信ジ遂ニ世ノ無常ヲ觀シ出離生死ノ念ヲ發シ剃髮セントシテ眞如堂ニ參
籠シ殘更ノ頃夢現ニ一人ノ僧現ハレテ曰ク汝シ我レニ現當ノ誓願ヲカクルコト僞リナ
シヨツテ之ヲ示サン汝シ來世ハ超世ノ願ニ任セ今世ノコトハ尙ホ三日ヲ待ツベシト告
ゲケレバ其故イカニト問フニ「心ダニ立テシ誓ヒニ叶ヘナバ世ノ營ミハ兔ニモ角ニモ
ト一首ノ歌ヲ以テ答フ依之遁世ヲ斷念シ翌日兄貞經上意ニ違ヒ都ヲ忍ビ出デ吉野ニ隱
ル夫ヨリ貞國瑞夢ニ從ヒ三日ヲ經テ家督ヲ繼ギテ繁榮ス其母信元禪尼亦眞如堂ノ本尊
ヲ信ジ佛ニ面見セント願フ初メ白壁ノ如クニシテ尊容ヲ拜スル能ハズ依テ七日七夜通
夜念佛ノ滿七日ノ朝幻影ヲ拜シ更ニ三日三夜ヲ加ヘテ一心唱名セシカバ滿三日即チ十

日目ノ朝明カニ拜佛スルヲ得タリ爾來恒例トナスト明應四年土御門ノ院ノ勅ニ依テ鎌倉光明寺ノ觀譽上人禁中ニ彌陀經ヲ講ジ眞如堂ノ衆徒ヲ集メ自カラ導師ト爲リ規式ヲ始メラル 天皇觀信斜ナラズ爾後淨土宗ニモ十夜法要ヲ執行スベキ勅詔アリシト依テ普ク天下ニ行ハル无量壽經ノ中ニ此ニ於テ修善スル十日十夜ナレハ他方諸佛ノ國ニ於テ千歲修善ニ勝レリトアルヲ見レバ緣起全ク佛世ニ基因セシコト疑ナシ此ノ如キ殊勝ノ法要ナレバ自今彌々各宗各寺ニ此法會ヲ舉行セラレンコトヲ望ム也

問テ曰ク 我ガ神道ノ祭典ニカケノオアリ亦タ儒道ノ祭事ニ牛鹿ノ犠牲アリ尙ホ耶蘇教ニハ下等動物ハガツコント名ケテ殺シテ啖フモ罪報ナシ元來人間ノ食物トシテ神ノ造リタル者ナレバナリト説キ又近世ノ精理學上禽獸ノ肉ヲ以テ人間ノ血肉ヲ滋養ス可キ必要品ト爲ス剩サヘ江海山阪ノ漁獵ヲ以テ營業ト爲ス者アリテ需要者アリ供給者アリ爾ルニ佛教獨リ殺生ヲ嚴禁シ且ツ勸誘シテ放生會ヲ舉行ス故ニ佛教ヲ指シテ人世有害ノ宗教也ト云フ者アリ是等ノ曹ノ爲ニ放生會ノ緣起功德ヲ明示シ玉ヘ

答テ曰ク 人間現生ノ道ノミヲ教ヘル宗門我ハ因果ノ道理ヲ知ラザル外道ハ殺生ヲ敢テ禁遏セズ却テ漁獵法ヲ教ヘテ殺生セシム可キ也然ルニ佛教ノ如キハ三世因果ヲ説キ異體同心ヲ教ユル宗ナル故ニ殺生ヲ嚴禁セザルヲ得ザル所以ン也夫レ異體同心等トハ本來同一ノ心性ナレドモ三世ノ善惡因緣ニ依テ千體萬形ノ異果ヲ現ズルノ義也而シテ其一心ノ本性ヲ徹觀スル能ハザル曹ハ異體ヲ認メ我他彼此ノ見解ヲナシ我ガ生存ヲ重

ンシ他ノ無二ノ命ヲ輕ンシ無慘ニモ彼レヲ殺シテ此ノ身ヲ肥ヤスナリ若シ佛教ヲ學ンデ本來ノ心性ヲ悟明スレバ三界ハ我が有也其中ノ衆生ハ皆是レ吾子也ト云フ大悲發リ生洲ノ魚ヲ放チ籠鳥ヲ飛シテ歡喜雀躍シ去ルヲ視以テ無上ノ快樂トスルニ至ラン而シテ微虫細魚ト雖モ之ガ天壽ヲ短縮セシメ彼レヲ苦惱セシメシ惡因ハ我身ガ夭折スルノ惡果ヲ感ズト知ラレ放生シテ喜躍セシメシ善因ハ我身ノ長壽ノ福果ヲ得ルト知ラル、大智モ發リテ便チ智德圓滿ノ大聖トナル是レ人世ノ最尊ナル仁者故ニ世尊トモ佛トモ尊崇ス可キ者ナリ是等ノ正理ニ順ヒカヌル場合ニ於テ三淨ノ因ヲ許シ玉フ謂ユル三淨ノ肉トハ殺セル慘狀ヲ見ス殺サル、悲聲ヲ聞カス我が爲ニ殺セルニ非ルヲ食スル是也尙ホ國王ガ國賊及ビ外敵ヲ防禦スル爲ニ有道ノ軍ヲ擧ゲ感ハ漁獵ヲ以テ營業トシ國益ヲ計ル爲メニ殺業ヲ作サザル能ハザル場合ニ於テハ罪障消滅ノ爲ニ多少ノ淨財ヲ喜捨シテ放生會ヲ營ム可キコトヲ教ヘ玉フナリ(但シ常ニ殺生戒ヲ持チ肉食ヲ禁セサル人が慈悲ヲ以テ放生セバ其功德校量ス可ラザル也)抑モ神前ヤ廟前ニ犠牲トシテ供スルハ我嗜欲着レ味ニ非ルカ故ニ其罪輕カル可シト雖モ外教ガ説ノ如ク天帝ガ人間ノ食物トシテ造化セシ者也トシテ生類ヲ殺シ喰フコト野菜ノ如ク思フハ因果ノ正理ニ背ヒテ其重罪カル可キハ論ヲ俟タザル處也(是ヲ惡差別ノ教法ト云フ)次ニ放生ノ緣起ヲ明サバ是レ釋尊因位ニ行ヒ玉ヒシヲ濫觴トス其事金光明最勝王經ニ説キ玉ヒリ今之ヲ略シテ演ベン昔流水長者ト云フ有リ早魃ノ時野生池ト云ヘル大池ノ邊リヲ過ギリシトキ

池水涸盡シ十千ノ魚鱗悉ク死セントスル折シモ鳥獸池中ニ群入シテ其魚ヲ恣ニ噉噬スル慘狀ヲ觀テ長者忽チ慈心ヲ發シ徑チニ大王ノ所ニ至リ二十ノ大象ヲ借り大ヘナル革袋ニ水ヲ入レ其象ヲ以テ池ニ運ビ入レタレバ魚皆死難ヲ免カレタリ尙ホ長者ハ食ヲ煎テ施シ且ツ僧ヲ請シテ爲ニ法ヲ説カシメシニ僧ハ實勝如來ノ名號ヲ唱ヘテ聽聞セシメシ勝緣ニ依テ多クノ魚ハ畜趣ノ業盡テ命終ノ上ハ三十三天ニ生シテ大福報ヲ得タリト是則放生ノ緣起ナリ佛敎渡漢以來ハ漢土ニモ道俗俱ニ此法會ヲ盛シニ舉行シ中ン就ク天台ノ高祖智者大師ハ水性ヲ悲ムノミナラズ舟人ノ濫殞ヲ痛ミ濤潮縣巨三百餘里江溪簞梁(篇海云簞者海中取魚竹之以繩編之梁者同文錄云絕水取魚也)合六十三所ヲ衣物ヲ棄テ買收シ永捨成法池方舟江上講ニ流水品(最勝王經ノ品名也)又散梗糧爲ニ財法一施(和讚萩原抄摘記)天子ヘ奏シテ碑ヲ立テ殺生禁斷ノ場所トナス其法流ヲ酌ンテ慈雲懺主ハ天子ヘ奏シ西湖ヲ以テ放生池トセラル日本ニテハ人王四十四代元正天皇養老四年九月宇佐八幡ノ神刀ヲ仰ギ外寇ヲ討チ退ゾケシ時太神ノ詫宜ニ多クノ戰死者ノ爲ニ放生會ヲ執行セヨト有之シガ爲ニ肇メテ我天下ニ放生會行ハルニ到ル諦忍律師ノ云ク現今山城男山ノ放生大會ハ七十七代後三條院御宇ニ始レリ後醍醐天皇ノ時天下大ニ亂レテヨリ此法會中絶セリ(賀茂ノ葵祭ヲ北祭ト云ヘ八幡放生會ヲ南祭ト云)近キ頃延寶七年江戸ヨリ放生會ノ料祿若干ヲ御寄附アリテ先規ノ通り放生會再興アリ毎年八月十五日ノ早天ニ神輿山ヲ下リ宿院御旅所ニ至ル至リ畢リテ音樂ヲ奏シ

最勝王經ヲ讀誦ス此間ニ魚ヲ川ニ放チ鳥ヲ庭ニ放ツ其外終日品々ノ神事アリテ酉ノ刻ニ還幸ナリ翌十六日早天ニ又上院ノ僧衆悉ク山下ノ放生川ニ集リ施食等ノ法要ヲ修行シ諸魚ヲ此川ニ放チ諸鳥ヲ天ニ放ツ夥シキコト也ト云々放生作法ニ二式アリ強キ者ニハ酒水加持三歸戒持戒清淨印言ヲ結誦シ加持土砂ヲカケ念佛千反懺懺ニ回向シテ之ヲ放ツ弱キ者ニハ經陀羅尼念佛短クシテ之ヲ放チ而シテ後如法ニ回向ス是レ也斯ノ如キ殊勝ノ法會ナレバ當聖代ニ至リテモ遠州濱松ニ於テ

東宮皇太子殿下大龜ヲ放生シ玉ヒシ由欽承シ奉ル此外殊勝ノ法會朝野ニ行ハレ各宗ニ行ハレツ、有リ今此ニ枚舉スルニ遑マアラズ

問テ曰ク世ニ祈禱無驗ヲ唱ヘ神佛ノ冥加ナシ亦神佛ナシ未來ナシ而ノ哲學ニ身ヲ離レテ心ノ作用ナシト云フヨリ推シテ甲地ノ人ノ希願乙地ノ神意ニ感應セズ或ハ甲ノ修驗者ノ念力乙ノ病患者ニ感應スルノ理ナシト斷ズルアリ亦祈禱有驗ヲ唱フル者ハ古來ヨリ神佛ヲ祈念シテ感應セシ例尠ナカラズト云フ然レドモ予未ダ祈禱ノ奥意ヲ知ラズシテ彼外教ノ馬可傳ヲ閱ルニ曰ク三シモンノ岳母ガ熱病ヲ寢テルカラ或人ガスグニソノコトヲイエスニマヲシアゲルト三イエスハ行テソノ手ヲ取テ御起シナサルトスグニ熱ガ離レテ皆ノ給事ヲシマシタ三タガタ日ノイル時人々スベテノ病人ト鬼ニツカレタ者ヲイエスノトコロヘ連レテ來マシタ邑中ノ者ガ門前ニ集リマシタ三イエスハ様々ノ病ヲ患ツテヨル多ノ人々ヲ愈シマシタ亦多クノ鬼ヲ御逐出シナサレ云々ト是ヨリ以

下耶蘇ノ奇特ヲ彰ハサレタルコト列示セラレ其言行ハ本邦ニ謂ユル賣僧修驗者ノ如キ
 コトヲ枚舉セルヲ見ル若シ自今外教來リ盛ンニ之レヲ福音也ト唱ヘテ愚夫愚婦ヲ誘導
 セバ我が神佛ニ對シ祈禱無驗ヲ論スル曹ハ徑チニ彼宗ニ轉シテ一時迷信シテ我神佛二
 道ヲ破壞セン現今已ニ天理教ノ如キ淺劣ナル教法スラ愚人ヲ固結セシメ無上ノ有驗法
 ト妄信セシムレバ也此等ノ弊害ヲ豫防センニハ眞理の祈禱論無クンバ非ズ希クハ内
 外宗教ノ祈禱ノ眞妄利驗ノ有無ヲ判釋シ玉ヘ
 答テ曰ク 祈禱ノ無驗ヨリシテ神佛ナシ未來ナシト斷見ヲ發ス曹ヲ試驗スルニ會ラヌ
 ヤ一心ノ靈域ニ達セズ三世因果ノ正理ヲ信ゼズ苦修諫行ノ功モナク妄信的ノ固結若ク
 ハ眞佛の未練ノ者ナラザルハ無シ夫レ祈禱ノ言タル人間ノ祈望ニシテ除災招福ノ義
 也不惜身命底ノ熱誠ヲ以テ眞理の信心ニ非ズンバ烏ンゾ必然ノ滿願ヲ得ンヤ再陳セバ
 僥使眞理の信心ナルモ信心凝結セザレバ効驗ヲ見ルヲ得ズ亦タ信心堅固ナルモ妄想
 的ナレバ謂ユル非因計因ノ外道法ニシテ眞理ニ背クガ故ニ(無理ノ願望也)感應利
 生无カル可キ也謂ユル眞理の信心トハ(信心ニ客觀的ト主觀的ノ二義アリ佛教ハ主
 客不二ノ信心ヲ發ス也)如何ン曰ク一心ノ妙域ニ達シ三世因果ノ正理ヲ知ル是レ也之
 ヲ知リ之ニ達シ以テ如法ニ苦修練行シ自身ト本尊ト感應スルコト猶ヲ水月ノ如シ是ヲ
 三蜜相應ト云ヘ(佛ノ身密口密意密ト己レノ身口意三業相應スルノ義也)入我々入(佛
 ハ我レニ入り我レハ佛ニ入り一體无二トナル)ト云フ入我々入シ畢ツテ靈驗ヲ修生ス

是ヲ加持咒力ト云ヘ利益スト云フ古德ノ靈驗著シカリシハ此處ニ通達セシ上ノ現象也
 故ニ此ノ有驗ヲ必然的ト云フ近來天理教徒ノ凡俗ガ修証修行ナクシテ靈驗アリト喋々
 スルハ是レ遇合のナリ其故如何ン本體不眞理ヲ妄信スレバナリ何ンゾ必然ノ靈驗アラ
 シヤ爭テカ中人以上ノ信認ヲ博センヤ次ニ一心ノ妙域ニ達ストハ如何ン曰ク精神ノ色
 體ヲ離レテ作用ナシト云フ淺短ナル見解ヲ對破スルノ義也夫レ一心トハ已ニ五大原元
 說ニテ縷述セシ如ク无形ニシテ法界ニ周徧セルガ故ニ固ヨリ精神ノ色體ニ即スルノ離
 ル、ノ諸相ヲ遠離セリ而シテ三有ノ苦樂ヲ感知スルノ大元也故ニ達者ハ此己心ノ云ニ
 於テ能ク不測ノ自在ヲ得テ天地ヲシテ感動セシメ自他ヲシテ感格セシム是ヲ神通力ト
 云フ此自在ノ神通力ヲ得ント欲スルハ人間ノ天性的ナル者也(弘決二ニ云ク人者梵
 云フ人中ノ所作皆意思ヲ先トスレバ也ト妖怪哲學宗教學部門(百十八丁)ニ曰ク宗教
 心ノ本源ヲ明カニセント欲セバ理想論アリテ起ルヲ見ル抑モ理想論ハ物心實体ヲ開示
 セル高妙深遠ノ論ニシテ宗教心ノ由テ起ルヲ究明セル者也(中略)古今東西幾多
 ノ宗教アルモ又各宗教間ニ如何ナル異同アルモ又鬼神ノ處各々大ニ異ル所アルニモ
 係ハラズ皆理想ノ光景ニ接シテ生ジタル者ナルコト疑フ可カラズト夫レ各國宗教アリ
 各鬼神ヲ立テ信仰ヲ異ニスレドモ本ヨリ自己ノ心性ニ思想ヲ具シテ鬼神ヲ設ク之レニ
 歸信シテ神力自在ヲ得ント欲スルハ之レ人)若人自己ノ心性ハ不自在也ト斷見シテ自
 在心ヲ自棄スルハ精神無力ノ蠢々タル下等動物ニ近似セル者也心力強キ者ハ心法ヲ學
 ンデ終ニ佛道ヲ成ズル也即佛ハ人心ノ作用發達ノ極ニ到リ神力ヲ備ヘタル者也此一心
 ノ妙用ヲ證得シタル者ヲ一心ノ妙域ニ達スト云フ三世因果ノ正理ヲ知ルトハ如何ン曰

ク現世ノ禍福ハ過去世善惡ノ原因ガ報ヒ來テ結果ヲ彰ハセシ所以ナリ是レ因果必然ノ正理也而シテ災禍ヲ攘フテ祥福ヲ得ンニハ福業ヲ修シテ罪業ヲ償滅シ且ツ祈願スル處ノ福果ヲ得ル目的ヲ以テ善因緣ヲ積マザル可ラズ豈ニ徒ニ祈願シテ偶然ニ利驗ヲ得ル理アラシヤ故ニ佛門ハ祈禱ヲ轉業トモ滅罪トモ修法トモ修行トモ云フ夫レ三乘ノ菩薩ノ行法ハ皆衆生界ノ惡業ノ災禍ヲ斷除シテ佛界ノ祥福ヲ得ルノ祈禱ナル耳即チ五住二位ノ修行ノ階級ハ任運ニ凡夫ガ佛ニ相應スル迄ノ法ニシテ生佛一如ニ歸シ業縛解脫シ无碍自在力ヲ得ルノ法也斯ク三密相應セバ何ノ念願カ成ゼザランヤ古德ノ靈驗ヲ修生セシハ斯ノ如ク修德圓滿シテ現益ヲ示ス所以ナレバ凡智ヲ以テ靈驗有無ヲ漫リニ思議スルヲ得可ラズ若シ此真理的ノ佛心ヲ以テ如法ニ轉業ノ祈禱ヲナサバ假令盡ク轉業スルコト能ハザルモ轉重受輕重罪ヲ轉シテ輕罪トナシ重症ヲ轉シテ輕症トナシ幾分ノ利驗ヲ三世ノ裡ニ獲得スルヤ必然ナリ若シ斯、ル道理ナクシテ古來ヨリ聖明ナル朝廷ニ于テ徒ラニ奉幣使ヲ以テ諸神ヲ祭り或ハ諸山ニ勅願所ヲ設ケラレンヤ即廿七年ノ國役ニ際シテモ叡聖ノ天皇御躬ヲ太祖廟ニ之ヲ奉告シ戰勝ヲ祈願シ玉へ賢明ノ諸將佛ノ加被力ヲ祈リ玉ヒシ等ヲ洩レ承ハル若シ佛神斷無靈驗必無ノ理ナランニハ豈ニ此事アラシヤ抑モ此祈禱ニ現在の未來的アリ但シ未來ノ大福ヲ祈願シテ現世ノ幸福ヲモ得ルヲ譬へバ秋ノ嘉穀ヲ獲ンガ爲ニ精耕シテ良藁ヲ得ルガ如シトス亦現在ノ大福ヲ祈望シテ未來迄ノ幸福ヲ得ルヲ譬へバ今日ノ精勤明日ノ休暇ヲ得ルガ如シトス淨土門ハ

未來的ニシテ(往生安樂園ノ故ニ)日蓮宗ハ現世的也(即身成佛ノ故ニ)爾レドモ何レモ現當ノ巨益ヲ得ル者也何ントナレバ淨家ノ教義ニ念佛行者ハ現在ニ於テ不退轉ノ位ニ住スルノ利益アレハナリ亦タ孔子ガ丘ガ祈ルコト久シトノ曰へシハ現世的ノ祈禱也即チ彝倫ノ道ヲ脩メテ現世ノ安寧ヲ祈ラレシ所以也是ハ聖人故全ク言行一致セシヤ明カ也爾ルニ世間ニハ山師的ノ天理教ヤ三密不相應ノ賣僧ガ病人ニ香水ヤ腐水ヲ吞マシメ醫藥ニ勝ル効力アリト唱へ醫療ヲ妨ゲ或ハ祈禱ヲ勤メテ衛生ヲ怠リ神佛ヲ醫師ノ如ク膏藥ノ如ク仕切金取ノ如ク(富ヤ無盡ノ時ノ祈願)媒酌人ノ如ク(情人ノ縁組祈願ノ時)ニ想像シ非望ヲ請願ス尙之濡手ニ粟ノ邪慾ヲ祈願シテ利驗ナケレバ神佛ヲ罵倒シテ我が非ヲ省リミズ曰ク斯ク迄祈リテ驗シナシ是レ神佛ノ世ニ無キノ証也亦タ未來モナシ故ニ佛ニ誓ツテ未來ノ修善モ無益也或ハ日本ノ神佛ハ靈驗ナシ西洋ノ天帝ヲ頼ミテ福ヲ得ント轉々迷霧ヨリ迷霧ノ深キニ入テ遂ニ外教ノ妖雲ニ捲揚セラレ本心本性ヲ昧マシ三世因果ノ理ヲ知ラズシテ永劫魔窟ニ埋沒スルニ到ルハ祈禱ノ真理即チ佛家ノ轉業ノ行法ヲ知ラザルニ之レ由ル嗚呼嘿セントシテ嘿スルコト能ハザル所以シナラズヤ彼馬可傳ノ耶蘇ガ治病ノ利益ヲ施セシト云ヘルモ真理的ノ祈禱法ニ依テ利驗アリシニ非ズ全ク耶蘇ノ忘説ヲ迷信セル曹ガ感情的即チ心經作用ヨリ自ラ快愈ヲ覺ヒシ者ニ止マレリ何トナレバ耶蘇天帝ニ代ツテ罪ヲ赦ス也ト云フモ豈ニ罪報ハ人ノ赦シヲ得テ免カル、者ナランヤ已ニ敘述セシ如ク本ヨリ耶蘇教ハ因果ヲ撥撫セル不真理

ノ宗教ナレバ殆ンド天理教徒ガ不真理ニ憑テ祈禱ヲナシ所願満足スト漫リニ嘸々スル者ト一班ノミ豈齒牙ニカクルニ足ランヤ亦タ彼レ神秘的必然有驗ト云ハンモ我レハ彼ノ教法ノ不真理ヲ知ルガ故ニ遇合的ト云ハン中人己上誰レカ信憑ス可キ理趣ナランヤ夫レ醫藥ハ肉体ニ効アリ祈禱ハ心經病ニ驗アリ(賣僧山師ノ祈禱モ患者ノ信心厚キニ依テ其効アル可シ)中ン就ク佛門ノ祈禱ハ真理的轉業法ナレバ過去現世盡未來ノ罪業ヲ銷滅シテ身心安樂ナラシムル功驗アリテ心性病ノ厚理ヲ究メテ根治スルノ妙法タリ是レ亦世ノ藥力モ能ク及バザル所トス且ツ三密相應ノ祈願故ニ修驗者モ祈願主モ一ノ病ヲ愈サンニハ先ツ身ニハ醫療シ藥養シ運動シ神天ヲ禮拜シ口ニハ滋養シ眞言陀羅尼ヲ受持シ意ニハ佛力ヲ念ジ信心堅固ニ懺悔滅罪ノ祈念怠ルコト勿ラシメ亦一切ノ富饒ヲ祈ルモ己レノ身口意ヲ働カシテ佛天ノ身口意ノ冥護ト相應センコトヲ專念シ決シテ佛天ニノミ依頼シテ神手以テ財ヲ得藥リヲ禁ジテ祈リヲ專ト爲ス如キ迷妄ヲ執ズル勿レ亦修驗者ハ眞言陀羅尼(陀羅尼此ニ摠持ト云フ又遮持ト云フ惡ヲ持シ起サズ能ク善ヲ持シ能ク惡ヲ遮ルナリ)ヲ誦スルニモ世界ハ歡喜ノ益(爲人ハ生善ノ益)對治(對治ハ破惡ノ益)第一義(第一義ハ入理ノ益)ノ四悉檀(悉檀トハ一切平等ニ施スノ義法華陀羅尼品註ノ意ナリ)ヲ以テセヨトハ佛門古哲ノ口訣也利驗ヲ祈ル者知ラズンバ有ル可ラズ是レヲ佛門ノ祈禱辨トナス

問テ曰ク 九字護身法ノ意得及凡夫ノ印明ノ功力有無ノ義如何ン

答テ云ク 所問ノ印明ハ密法ニシテ阿遮梨直傳ナレバ加行ナキ者ニ説ク可ラズ茲ニ佛家ノ修法ハ皆真理ナルコトヲ明サン爲ニ略シテ單ニ其觀想ノミヲ説カン先ツ護身法ノ初メニ淨三業アリ觀念スラク一切ノ有情ハ本來清淨ナレドモ諸ノ客塵ノ爲ニ覆蔽セラレテ真理ヲ悟リ難シ是ノ故ニ此三密加持ヲ説ヘテ自他ヲシテ皆ナ清淨ナラシムト次ニ佛部三昧耶ハ一切如來ノ三十二相八十種好ヲ觀想シテ了々分明ナラシメ佛部ノ一切ノ聖衆皆來會シ修真言者ヲ加持シ護念シ速カニ身業清淨ナルコトヲ獲得セシメ罪障銷滅シテ福慧增長スト思惟ス次ニ蓮華部三昧耶ハ觀自在菩薩相好端嚴ニシテ并ニ無量ノ蓮華部ノ聖衆圍繞シ來ツテ行者ヲ加持シ語業清淨ヲ獲得シ言音威肅ニシテ人ヲシテ聞ンコトヲ樂ハシメ无礙辨才アツテ說法自在ナラシムト觀想ス次ニ金剛部三昧耶ハ金剛藏菩薩相好威光アツテ并ニ無量ノ執金剛ノ眷屬圍繞シ來ツテ行者ヲ加持シ意業清淨ナルコトヲ獲セシメ菩提心ヲ證シ三昧現前ノ速カニ解脫ヲ得ルト觀念ス次ニ被甲護身ハ大悲心ヲ發シテ一切有情ヲシテ願クハ皆大慈悲莊嚴ノ甲冑ヲ被テ速カニ諸ノ障難ヲ離レシメ世出世間ノ殊勝ノ成就ヲ證得セシメント觀念シ亦タ金剛ノ甲ヲ被ルガ故ニ諸魔モ障碍スルヲ得ズ惡人モ能ク便リヲ得ルコトナシ煩惱ノ賊モ犯ス能ハズ疾カニ无上正等菩提ヲ證セント決定ス是ヲ則護身法ノ觀念トス因ニ云フ (一) 体和尙忠義阿遮梨ニ印ヘズ頓テ訣別ノ後手ヲ擧ゲ音ヲ發シテ招請ノ狀ヲ示セバ則一休還リ來ル時ニ忠義示ノ云ク是レ召鉤ノ印明也故ニ汝還來セル也依テ當サニ知ル可シ我レ印明ヲ以テ佛ヲ奉請

シ感應利生アルコト亦復如此ト次ニ凡夫ノ印明ノ功力有無ノ義ハ佛事編ノ五ニ問フ凡夫ノ三密ハ意密全カラズ而ラバ凡夫ノ印明ハ功力少カラシカ答フ愚縛ノ凡夫ナレドモ不思議ノ法印力ナルヲ以テ一切ノ賢聖天龍八部一切ノ鬼神ハ此凡夫ノ印ヲ本尊ノ眞身ト見ル此故ニ護法善神近ツキ相助ケテ行者ノ所願ヲ満足セシムト云ヘリ今秘軌ノ明文ヲ出ス之ヲ讀ンデ憑シク印明ヲ結誦ス可シ慈氏修愈議法卷下曰此法若奉持者雖在凡夫未敢斷之煩惱以ニ法力ニ故隨ニ所作處等ニ彼聖力ニ驅ニ使諸賢聖及諸天龍八部一切鬼神皆不取違以ニ法印力不思議ニ故也又云印レ己印レ他皆成ニ本體ニ昧耶之身ニ雖ニ凡愚不見一切聖賢天龍八部諸鬼神及尾那夜迦皆見ニ本尊眞身ニ諸護法明王等爲レ此親近俱相助速得成就文次ニ九字ハ眞俗佛事編ニ曰ク元是レ道家入山ノ時ノ秘咒ニシテ六甲祕祝ト名ク晋ノ葛洪仙人入山ノ時臨兵闘者皆陳列前行ト誦セシムト世ニ流布セル九字ノ咒ノ八九ノ二字ハ在前也是レ何ニ據カヲ知ラズト云フ此咒ハ禍ヲ避ケ妖嬈ヲ必除スルノ驗アリ故ニ昔シノ密家ノ師斯レニ秘印ヲ加ヘテ功力ヲ増スト見ヘタリ亦世ニ流布セル九字ハ縱横ニ切ル勢ヒヲナス是レト同ク道書ニ縱横ノ法アリ然レドモ切ル勢ヒヲ爲サバ爾ガ故ニ別法トス引證シテ云ク趙氏拜命曆（居家必用ニ引レ之）曰事急不暇選日當作ニ縱横法（言心ハ願ヒアリテ急ニ出ルトキハ吉日ヲ選ビ難シ如此トキハ此法ヲナセトナリ）乃至念ズルコト七編畫地畢以ニ土塊一壓之便行勿ニ返願ト云々

問テ曰ク 四度ノ行法ハ如何ン

答テ曰ク 密門雜抄ニ十八道ノ行用ハ妙成就ノ記ト云ヘ胎ノ行用ハ虛心ノ記ト云フ金ノ行用ハ即心ノ記ト云フ護摩ノ行用ヲ不生ノ記ト云フ十八道トハ蘇悉地ノ略法ナリ蘇悉地ハ此ニ妙成就ト云フ三部五部ノ法ヲ金剛部ニ攝シ教令輪ノ威ニ依テ造ニ法ヲ成就スルコト世間ノ奉行ノ言フコトハ早々下ヘ通ズルガ如クナレバ妙成就ト云フ十八道トハ護身法ニ五ツ地結金剛墻道場觀普通供養送車輅奉請辟除從魔金剛網火院闕伽華座普供養此十八通リノ印アル故十八道ト云フ也道ハ通リト云フコト也（中略）金ハ无所不至ヲ大體トス无所不死ハ鑲字ノ形ナリ鑲ハ離言說ノ義ニテ一切ノ戲論妄想ヲ離レシ德ヲ彰セバ法ノ本有ニ稱フ智惠也六大ノ中ニハ五大ハ色ナリ理ナリ識大ハ心也智也此心智ノ德ヲ顯セバ金ノ行用ヲ即心記ト云フ也護摩ハ覽字智火ニ因テ无始ノ妄習ヲ燒キ盡シ令ニ永不生護摩ノ行用ヲ不生ノ記ト云フナリ

問テ曰ク 念珠ヲ摺ツテ祈ルハ如法ナラズト西山遺事ニ見ヘタリ然ルニ必ラズ摺テ鳴響ヲ出スハ如何ン

答テ曰ク 佛事編ニ曰ク古說ニ鳥羽僧正覺宥大法修行ノ時伴僧ニ修法ノ竟レルヲ知ラシメン逆行法ノ了リニ摺リシト也又一心精誠ヲ表セントノ摺ルトモ云ヘリ

問テ曰ク 柴手水及ビ浴ニ河水一并ニ灌頂ヲナス等ノ得益如何ン

答テ曰ク 高雄曼荼羅中ノ金剛香菩薩ハ花ヲ持シ玉ヲ花ハ香氣アルガ故也香ハ是レ清淨ノ義アリ天竺ニ塗香ヲ以テ身ヲ磨シテ清淨ニスル通規ニ效ヒ清花、木葉、柴艸、等ニ

テ手ヲ洗フ是ヲ凡テ柴手水ト云フ次ニ不動使者秘密法曰復次誦咒數滿己入江海大河深至頸面向東立每日念誦數滿三三洛又(洛又此十萬ト云フ即三十萬也)已心中所愛福田皆得滿願云々金剛童子軌云若城邑聚落有熱病可入水念誦七夜夜別誦眞言一千八百遍悉除ト云ヘリ是レ江水ニ浴ノ祈ル法ノ本據也次ニ守護國界經九(十丁)云若得灌頂者法王子灌頂不久當成千世爲輪王那由切帝釋切利天ノ王儼劫四王位(四王天也)無數世人王(乃至)轉生所受身得樂大名稱能脫諸病惱智慧決无疑文(私ニ云ク入神深秘ノ文ハ不克出)斯等ノ諸法ハ皆身心清淨ニシテ佛天ニ感應セシ爲ニ行フ所以ナリ

問テ曰ク 護符札守ハ何ノ理法ニ依テ製スルヤ是レニ多ク急々如律令或ハ梵字杯ヲ書キタル者アリ其義如何ン

答ヘ曰ク 護符ノ義ハ穢迹金剛法禁百變法門經曰ク穢迹金剛說此符已大衆同聲讚言善哉大力士汝能說是大妙之法爾時金剛白諸大衆當知我於此法流行之處我等大天當護此行法之人助成就ト云ヘリ此ノ經說ノ符ノ字ト護ノ字ハ護符ノ本據ニシテ祈禱ノ札及守護ノ符ハ本來不忘念ノ爲ニ製作セシヲ可知也亦有驗ノ祈禱者ノ加持スル物ニハ必ズ奇特ナシト云フ可ラズ宜シク之ヲ尊重シテ守袋ニ入レテ身ヲ離サズ臥處ニモ之ヲ置ク可シ淨不淨ヲ擇バズシテ可ナル引證アリ大寶樓閣經上(十二丁)云若佩身上若書衣中乃至及牆壁牌板乃至聞聲及觸手及影其身及轉觸餘人決定

當得不退轉无上菩提此文ノ牆壁牌板ト影其身トノ語ハ其本據ニシテ在家ニ配札シテ佛天ニ結緣セシメ若クハ信奉スル佛天ヲ忘レザラシメ遂ニ无上道ヲ得セシメントスルニアリ亦阿吒婆拘鬼神陀羅尼經曰此神咒應付賢德有智善人若不誦誦者應下以好紙書寫盛以練囊(是レ金襴ノフクロ也)著種種々香常持隨身文ト是レ守袋ノ本據ニシテ守袋ハ元ト身ニ着ル爲ニ製スル處ナリ今ヤ紙墨等ニ靈ナキヲ唱ヘテ配札守符ヲ受ケズ或ハ輕視シテ自ラ佛神加護ノ恩德ヲ忘却シテ我慢邪慢増上慢ヲ發シ自ラ災禍ヲ速ギ邪見ノ子孫ヲ儲ケテ其家系ヲ氓絶セシムルニ至ルハ豈憫然ニ堪フ可シヤ次ニ急々如律令トハ或俗說ニ祈願速滿ノ呪術ノ功アルニ喩フル也ト亦俗說ノミナラス大元帥儀軌ニ如持鬼病法云不須人語一行者但云急々云ヘリ是ヲ以テ書ス急字ハ三有不可得ノ不字ト塵垢不可得ノ不字ト増損不可得無染ノ不字ト清淨如虛空ノ不字ト四字合成ナリ三密鈔卷下謂三有ハ是レ破壞ス可キノ法也不字三有不可得ノ故ニ諸法常住ニ本不生ナルガ故ニ生滅斷常等ノ迷妄塵垢有ルコトナシ(不字)本淨無垢ハ即チ是レ無染ナリ(不字)點ノ義也損滅増益ハ皆ナ染汚ナルガ故ニ)無染汚ノ故ニ清淨ニシテ虛空ノ(空點ノ義即不字也)清淨ナルガ如シ等ノ眞理ナリ一字ニシテ萬法ノ功德ヲ攝ス是レ一字金輪佛頂ノ呪ナルヲ以テ功德無量ノ故ニ之ヲ書ス夫レ札守ノ尊重ナルコト以テ推知ス可キ耳

問テ曰ク 斷食木食ノ行ハ佛家ノ要法ナルヤ

答テ曰ク 斷食ハ自餓外道ノ行ナリ故ニ佛本行經ニ佛戒レ之曰若因斷食當得大福者其野獸等應得大福ト説キ玉ヒリ故ニ本意ニ非ズ然レドモ言家ノ意ハ修秘法一行者身不_レ清淨一不_レ成就是故斷食大小便利ノ不淨ヲ禦ノ爲ニスト次ニ木食ハ佛事編ニ經軌ノ中ニ未ダ之ヲ考ヘズト亦曰ク木食也迎一槃ニ清淨也トス可ラズ大元帥軌(上ノ十三葉)ニハ禁_レ食_ニ蘿蔔_一多羅菩薩軌ニハ禁_レ食_ニ茄子蘿蔔蓮根_一一字頂輪王(五ノ十一葉)ニハ菌子及油禁ゼリ如_レ斯類一不_レ暇_レ舉_レ不_レ可_レ不_レ知_レ尙_レ之法ハ時機ヲ觀察シテ施ス可キ者ナレバ近來衛生ヲ重_レズル時世ニ凡迷ノ曹ニイカニ信心凝結ノ爲也トモ漫リニ之ヲ許シ行ハシムルハ不可也ト信ズル也殊ニ佛ノ本意ニモ非レバナリ

問テ曰ク 日待、月待、星祭、庚申祭、及ビ每家三寶荒神、ヲ祭ル本據ヲ列示セヨ

答テ曰ク 正五九月ノ日待月待ハ本ト神道家ノ行ヘ始メシナリト舊記ニ依ルニ人皇五十二代 嵯峨天皇ノ御宇天照太神ノ御告ニ依テト部氏ノ 祖 春日大明神ヨリ二十七代ノ孫智治丸ト云フ社務ニ勅命アリテ王城ノ東山如意岳ニテ別火ヲ以テ日待ヲ爲サシム是ヨリシテ日待月待世ニ行ハル天照大神ハ日ノ神素盞男神ハ月ノ神ナレバ此兩神ヲ祀ルノ式也ト云フ爾レバ正五九ノ日待ハ神道家ノ執行ス可キ理由アリ亦密門ノ日月天ハ素曼茶羅ノ聖衆也印咒等モ經軌ニ詳カニシテ正五九ニ限ラズ日日ニ供養スルノ法也陀羅尼集經十二日_ニ是法印咒_ニ若有_レ受_レ持_レ此印_ニ誦_レ咒_ニ日日_ニ供_レ養_ニ天子_ニ者_ニ一切_ニ无_レ病_ニ若在_レ佛前_ニ爲_レ供養_ニ者_ニ諸佛歡喜_ニ月〇亦天子法印咒モ同ク出ツト是ヲ証トス可キ也次星祭

人羅計火ノ三星ニ當ル年ハ災難口舌アリ如來大悲ヲ以テ人世ノ爲ニ消除一切災難陀羅尼經ヲ説キ玉フ (蓋シ九曜星ハ梵土ノ古説也佛之ヲ看破セルガ) 此經曰我有_レ大吉祥真言一名破宿曜若能受持志心憶念其災自滅變禍爲福文ト若シ本命星ニ當ツテ精神爽快ナラザル曹ハ僧ヲ請シテ如法ニ供養シテ祀ル可シ次ニ庚申祭ハ本地青面金剛トシテ古ヨリ佛家祭_レ之云フ青面軌(集經ノ十)若患_ニ骨蒸_ニ伏運_ニ傳尸_ニ鬼氣_ニ病_ニ者_ニ誦_レ呪_ニ千遍_ニ其病即愈ト吾朝本尊ノ前ニ塞目塞口塞耳ノ三猿ヲ居クハ青面軌ニナシ愚案ズルニ是レ吾朝ノ好事ノ者庚申ノ申ノ縁ヨリ思ヒ付ケ孔子家語ノ三緘ノ故事ヲ取テ不_レ言_レ不_レ聞_レ不_レ見_レノ教ヲ垂_レモノ也(佛事編ニ具サ也)次ニ三寶荒神ヲ每家ニ祀ルノ本縁ハ役ノ行者ヨリ始マル災難口舌ハ荒神并ニ九萬八千眷屬ノ崇ナルコトヲ弘宣セシニ因ツテ每家之ヲ祀ル也大和國城上郡鷲峯山(此山天竺ノ鷲峯山ニ似タルガ故ニ名クト)竹林寺ノ記ニ曰人王四十一代 持統天皇ノ御宇役ノ行者感見スル處也首戴_ニ寶冠_ニ六臂_ニ具足_ニ右_ニ第一_ニ手_ニ獨_ニ鉗_ニ第二_ニ蓮華_ニ第三_ニ寶塔_ニ左_ニ第一_ニ鈴_ニ第二_ニ寶珠_ニ第三_ニ羯磨_ニ也告テ曰我是_ニ三寶_ニ禪護_ニ神_ニ而世呼_レ曰_ニ荒神_ニ者_ニ也我若_レ干_レ使者_ニアリ_ニ歸_レ敬_ニ三寶_ニ者_ニ守_レリ_ニ不_レ歸_レ者_ニ罰_レスト人皇四十五代 聖武帝ノ勅ヲ奉シテ良辨僧正鷲峯山ニ東大寺ノ落成ヲ祈リ荒神ヲ感見シ此像ヲ版ニ畫ヘテ傳_レ之此_レ時東大寺營造成ツテ其寺ノ東南ニ祠ヲ立ツ今ノ葛岡荒神之レ也其後弘法良辨ノ畫ケル神影ヲ木像ニ刻ンテ鷲峰山ニ安ズ竹林寺ノ荒神是_レ也或ハ曰ク此荒神ノ

法ハ臺密ノ所傳也ト佛事編ニ具サナリ亦荒神ハ不淨ヲ忌ム火ノ体清シ而シテ不淨ヲ除クヲ以テ在家竈ヲ以テ淨キ所トナス而シテ荒神ヲ以テ竈ノ神トナス爾ルニ維新神佛判然ノトキヨリ祈願切リハギ神道ノ掌ル處ト爲ル爾レドモ此荒神ノ縁起ヨリ論ズルトキハ勿論佛家ノ修法スベキ處也

問テ曰ク 疫神ヲ逐ヒ角大師ヲ門ニ帖スル本據如何ン

答テ曰ク 今ノ俗疫癘盛ノ時稿ニテ鬼形ヲ造リ送リ祓フ是戲レニ似テ古已有リ人皇四十二代文武帝慶雲二年天下大ヒニ疫病流行シテ人民大ニ苦シム 天皇憐ミ玉ヘ作ニ土牛大 儼シテ疫神邪氣ヲ除フ由レ之疫病止ト續日本記ニ見ヘタリ(除夜ノ儼ヘノ古例ニ依リ玉フ也) 次ニ角大師トハ是レ天台ノ高僧慈慧大僧正(元三大師トモ云フ)ノ像也日天ノ化身ニシテ嘗ヨリ道貌雄毅ナリ自ラ鏡ヲ把テ我形ヲ寫シ照シテ曰吾此像ヲ畫テ門戸ニ黏ルベシ必辟ニ邪魅アリシヨリ摸ニ印之人家ニ爭ヒ傳フト元亨釋書ニ見ヘタリ問テ曰ク 御闡ハ吾國俗ナルカ復佛敎ニ出タルカ

答フ 佛敎ニ出タリ然カモ品々アリ故ニ神策ノ一例ヲ示サン灌頂梵天神策經曰(コレハ策ノ闡ナリ) 梵天王白佛言人民心中ニ疑惑多フノ諸事ヲ決了セズ毎ニ苦惱ヲ受ク彼九十五種ノ外道ハ雜術アツテ疑ヲ決セシム今世尊ハ正覺先上ニシテ此法無シ願クハ聽許シ玉ハ佛ノ威神力ヲ承テ一百ノ偈頌ヲ説キ神策(神策ハミクジ也)ヲ爲ラント言シケレバ佛言善哉善哉梵天王汝未來五濁惡世ノ衆生ノ爲ニ慈悲ヲ以テ欲レ説佳也汝意

ニ隨テ演說セヨ於ス梵王佛ノ神策ヲ讀シ玉フヲ聞ヒテ歡喜踊躍シト經一百偈頌ヲ説ヒテ萬姓ニ示シテ疑ヒヲ決シ人ノ吉凶ヲ知ラシム(一百ノ偈ヲ經ニ列ス) 佛阿難ニ告玉ハク四輩ノ弟子若シ此ノ神策ノ法ヲ爲サント欲セバ竹ニ此偈ヲ書キ五色ノ彩アル囊ヲ作テ此ニ竹ヲ盛探出シテ吉凶ヲトフベシ其探取法ヲ説テ曰ハク探取ルゴトニ三度セヨ若尙審セバ七度マデシテ无レ疑(此經ハ佛說大灌頂神咒經ノ部ニ出テタリ)

問テ曰ク 上ニ御降誕ノ日ヲ祝スルヲ天長節ト云ヘ下亦誕生日ヲ賀スル者アリ而シテ佛家ニ釋尊ノ誕生會アリ爾ラバ世人一斑ノ祝賀スル處ハ誕辰ナリ此祝賀ニ對シテ佛法ニ利益アル念誦法アリヤ如何ン

答テ曰ク 金剛壽命陀羅尼念誦曰若能於三長齋月(正五九月也)或自本生日(誕生日也)作是供養能除災難增益壽命(乃至)一切賢聖擁護其人ト矣リ爾レバ僧家ハ此念誦法ヲ以テ世間諸賢衆ノ誕辰日ヲ供養シ壽命長久ヲ祈リ攝收シテ利益ヲ施サンコトヲ天下ニ發揮セルハ是レ亦タ今時ノ要法ナラズヤ

問テ曰ク 俗人ノ年壽二十五(計斗星ニ當ル)ト四十二(火曜星ニ當ル)ト厄年ト爲シテ災厄アルヲ惶然ルニ妖怪哲學ニハ之ヲ偶合的預期意向ト會シ究竟スル處肉體組織改革ノ時機トナス然レドモ容易ニ舊染ノ感情ヲ轉シ難キヲ察ス若シ佛敎ニ是ラノ迷徒ヲ利益スルノ法アリヤ

答テ曰ク 佛法ニテ世態ヲ照シ觀レバ各我が心意ヨリ迎ヒテ一切ノ禍福ヲ自受セザル

ハナシ依テ真理ノ宗教ニ歸憑シテ安樂ノ災厄ヲ禳フニ在リ夫レ人二十五四十二ノ厄年ニ當ラバ二月初午ノ日ニ觀音ニ詣テ、災厄ヲ祈禳ス可キコト眞俗佛事編ニ見ヘタリ其午ノ日ヲ採リシハ馬頭觀音ノ緣ナル可シ亦觀音ノ觀トハ空假中ノ三觀ナレバ厄年ヲ空ト觀ジテ一切ノ苦厄ヲ度シ玉フ也心經曰觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空一度一切苦厄矣世尊偈ニ曰ク於苦惱死厄能爲作依怙矣是レ觀音大悲ノ本誓也亦如意輪陀羅尼經曰能於一切勝福事業所求皆如意成就若有能受持者一切疾病種種災厄皆得除滅一文云々私ニ曰ク如意輪陀羅尼ハ即觀音ノ三摩地心ナリ故ニ陀羅尼ノ功力一切難厄ヲ消除ス可キコト念々ニ疑ヒヲ生ズルコト勿レ

問テ曰ク 己ニ現行ノ葬儀年忌會法禱ノ概略ヲ聽采シ終リタレバ以下三寶ノ器具ヲ問フノ順序トシテ先ツ佛具ノ中初メニ六金色ノ佛旗ノ表事ハ如何ン

答テ曰ク 四明餘霞云抑六金色佛旗ト云フハ佛人涅槃ノ時其佛身ヨリ發射シ玉ヘル六色ノ光明ニ像リ之ヲ製セシ最モ神聖ナル旗章ナリ而ノ六金色トハ則青黃赤白淡紅及ビ五種混色ニシテ孰レモ佛德ヲ表章セシ者トス涅槃經第一序品曰二月十五日臨涅槃時乃至爾時世尊於晨朝時從其面前放種種光其明雜色青黃赤白玻璃光遍照此三千大千佛之世界乃至十方亦復如此其中所有六趣衆生遇斯光者非苦煩惱一切消除ストアリ是レ六金色ノ根本出處ニシテ之ヲ拜スルニ人ニ依テ六色ヲ全拜スルアリ一色若クハ二色ヲ拜スルモアリ其六金色ヲ全拜シタル者ハ是レ道德ノ完然セシ者也ト云フ而

シテ最終ノ五種混色ニ至テハ經文ノ玻璃光ヲ以テ之ニ配シ所謂起信論筆削記ノ頗眠眼迦者此言水玉或言白珠ト說ケルモノニシテ無色ノ透明体水晶ノ如ク一種ノ色ヲ以テ表ス可ラズ而シテ其体己ニ透明ナルガ故ニ五色ヲ其儘透寫シテ第六ノ混色ヲナス者トス以テ六金色ノ典據アルヲ知ルニ足ル可シ現今世界各國ノ佛教徒ハ皆此六金色ヲ以テ旗章トナシ盛ンニ之ヲ用ユ我國ノ如キモ此旗章ノ神聖ナルヲ知リ之ヲ用ユルニ至レリ而シテ我國ニハ國旗トシテ日章アレドモ佛教徒トシテハ未タ一定シタル旗章ヲ有セズ依テ茲ニ此佛旗ヲ普ク內國ニ及ボシ佛教ノ祭日及ヒ各宗祖師開山ノ祭日等ニ掲ゲ將來益々以テ我邦人民ノ世尊慈光ノ下ニ在ルコトヲ表示センコトヲ期ス云々

問テ曰ク 斗帳卓圍、旛蓋、華鬘、瑤珞、等ノ佛前莊嚴具ノ本據如何ン

答テ曰ク 御斗帳ハ陀羅尼集第三般若軌ニ廿一種ノ供養物ヲ說中ニ第七ニハ寶帳ト云

ヘル即是也七俱胝準提陀羅尼經曰將像於精室(道場ナリ)秘密供養以帛覆像念誦時去覆帛(斗帳ナリ)瞻禮供養念誦畢却以帛覆慎勿令人見(今ノ世靈像ヲ秘佛トスル本說)是レ尊重ノ爲ニ製セル義ナリ次ニ卓圍トハ卓ヲ載セタル卓ヲ蓋セ圍ノ義ヲ以テ名ク俗ニ云フ打敷也菩提揚莊嚴陀羅尼經曰於是幢中有一師子座閣浮檀金ヲ以所成七寶莊嚴以種種天妙衣服敷其座上(今ノ世男女ノ衣ヲ捨テ、打敷ト裁縫ハ、尙ヲ)佛事編ニ示セリ次ニ旛ノ製ハ八正四神足ヲ表セリ則旛ヲ製シテ佛ニ供養スル功德ヲ明サハ隨願往生經云亡人ノ子孫爲之功德ヲナセバ七分之中得一若幡

ヲ作レバ難ニ八苦ニ其幡風ニ飄リ遂至成ニ微塵ノ風吹ク幡其福无量ナリ云云又要集ニハ
迦葉語阿難經ヲ引テ曰ク阿育王二十五年延壽故名續命神旛文釋迦譜ニ云ク阿育
造ル未タ成就セズシテ得病於斯造幡然レトモ自ラ掛法旛ヲ献ズルノ功德多シ信者
ル力无シ請僧懸ケサシム依テ又十二年ノ命ヲ延ブト法旛ヲ献ズルノ功德多シ信者
ハ宜シク如法ニ作シテ供養ス可シ次ニ蓋ハ佛像繪圖ノ五ニ日月燈ヲ引テ云ク蓋張巾也
天如倚蓋天竺熱故花蓋軒飾ヲ用ユト金藏經曰昔善化王ニ有子出家ノ成ニ獨覺入滅
後起塔其塔破壞セル時王修覆シ自寶蓋ヲ造テ施ス此福ヲ以テ百千世常ニ輪王トナル
經律異相云佛與諸比丘王舍城ヨリ毘舍離國ニ詣ル阿闍世王樓上ヨリ遙ニ見テ塵土ノ
佛身ヲ汚サンコトヲ恐レテ勅人五百ノ蓋ヲ上ツルト次ニ華鬘トハ西域ノ風俗貴賤男
女俱ニ蘇摩羅華ヲ多ク聯結シテ之ヲ貫キ或ハ頸或ハ身ヲ飾ル此ヲ華鬘ト云フ名義集ニ
云俱蘇摩此云華摩羅此云鬘苑師云一切華通名俱蘇摩別有二華一獨名俱蘇摩一此云
悅意其華大小如錢色甚鮮白衆多細葉圓集共成應法師云西域結鬘師多用蘇摩羅華行
列結之以為一條貫無問男子貴賤皆此以莊嚴或首或身以為飾好云々蘇悉地經三
曰若欲成就華鬘法者取閣底華一作鬘是レハ生華ヲ鬘ニ造ルノ言也爾ルニ今ノ世金
ヲ以テ造レルハ蓋シ之ヲ模造スルニ似タリ然レドモ守護國界經第九四丁ノ曼荼羅
ノ莊嚴ノ文ニ以三種々寶ニ用作華鬘而為莊嚴トアルニ依レハ生花ノミナラズ金ニテ
モ造ルナリ次ニ瑤瑤ハ名義集ニ云ク積由羅此云瑤瑤西域記云在頭曰瑤瑤在身曰瑤
ト是也已上ノ旛蓋華鬘等ハ本供養ノ物ナレドモ今ノ世莊嚴ノ具トスル也

問テ曰ク 壇ノ意得ハ如何ン

答テ曰ク 密門雜抄ニ云ク壇ハ曼荼羅ニテ本尊也梵ニハ曼荼羅此ニ輪圓具足ト翻ス物
ノソロウテカケメノナキコト也又聚集トモ發生トモ翻ゼリ部類聚集シ人ノ信ヲ發スル
ガ故ナリ義ヲ以テ壇ト云フ也壇トハ坦明也ト云テ土ヲ平坦ニシテ高クシヨク見ヘル様
ニ造リシヲ壇ト云フ也今堂内ニ木壇ヲ造ルハ鳥樞悉麼明王經中十五止雨法以紫壇
作壇ト云フコトアリ此レ其本説也都部要目ニハ四角ナルヲ地輪壇圓ナルヲ水輪壇三
角ナルヲ火輪壇半月形ナルヲ風輪壇ト説キ又タ土壇ヲ地壇トシ小キ木壇ヲ作リ何レノ
處ヘモ自由ニ持チ行クコト水ノ流ル、ガ如キヲ水壇トシ護摩壇ヲ火壇トシ隨處為本
尊ニ為風壇ト云フ

問テ曰ク 五股杵並ビニ三股獨股ノ表示及ビ之ヲ用ユル意得如何ン

答テ曰ク 全抄ニ云ク五股ハ切利天ノ四方ニ住シテ諸天ヲ守護スル堅手天ノ手ニ執ル
戰具也此レヲ以テ難斷ノ惑ヲ英斷スル金剛ノ智徳ヲ顯ス也中股ハ法界躰性智大日本地
自証不加方便眞直也四股ハ曲マリテ内ニ向ヘバ四智ハ四佛ニシテ大日本地自証ノ
智ヲ受テ加持方便ノ教化ヲ起スヲ顯ス也上下同シキハ生佛同ク五智ヲ具足スルヲ顯
スナリ把ル處ニ四層ノ八葉アルハ四波羅密十六大菩薩八供四攝ノ三十七尊ヲ顯スナリ
四角ニ四ノ寶珠アルハ四佛也真中ニ隱レテ大日ノ一珠アリト思フ可シ此レニテ三十七
尊ノ徳ヲ具足スルヲ顯ス也八葉ノ上ヲ繩ニテニツク、リシハ定慧ノ二法ヲ用テ莊嚴

スルコトヲ示スナリ四股ノ外ノ方ニ各一爪アリ是ハ獅子頭ニ作リシモアルナリ何ニモセヨ數八ツアレハ八識轉シテ四智心品トナルヲ示スナル可シ此レヲ掌中ニ持スルハ佛ノ金剛ノ德ニ住スルコトヲ顯スナリ三股ハ身口意ノ三密平等ヲ顯シ獨股ハ一相堅利ヲ表スルナリ故ニ物ヲ成就スルニハ五股ヲ用ヒ加持スルニハ三股ヲ用ヒ念誦ニハ獨股ヲ用ユル也

問テ曰ク 鈴ハ何ヲ表シ及ビ其用法ヲ問フ

答テ曰ク 鈴ハ金剛鈴菩薩ノ三摩耶形ナリ右持ニ五股ニ反掌示レ外共生ニ本ヨリ五智ヲ具足スルコトヲ示ス也三擲ノ上十地ノ位ニ超果スルコトヲ示スナリ左ノ手ニ取り腰ニ置テ而シテ後ニ之ヲ振ルハ左ハ三昧禪定ナリ腰ハ地大ナリ先ニ法界性ノ本地ノ定ニ住シ定ヲ出テ說法スル義ヲ示ス也金剛盤ハ衆生ノ八葉ノ肉團心也上ニ鈴杵ヲ置クハ三部及ビ自行化他ノ德ヲ具足スルコトヲ示スナリ(密門雜抄)

問テ曰ク 花瓶花皿佛供六種供具及櫛ヲ供ズルノ意得如何ン

答テ曰ク 佛像繪圖佛具部ニ花瓶ハ古之酒器今爲ニ花瓶ト(蓋シ飲酒戒ヲ受ケシ者始メテ之ヲ寄附セシ者カ)花皿佛供器ハ古食ノ肉器也今俗以供ニ佛食ニ又漆器ニモ有之ト(蓋シ殺生戒ヲ受ケシ者始メテ奉獻セシ者乎)六種供具ノ義ハ佛事編ニ曰ク華鬘塗香闍伽水燒香飯食燈明也此レ六波羅密ヲ表ス水ハ檀婆羅密貧苦ヲ潤スヲ以也塗香ハ戒波羅密也塗香ハ能ク垢ヲ清淨ニス戒ノ體淨能ク煩惱ノ垢ヲ治スルニ喩フ華ハ忍辱波羅密ニ

喩フ花ヲ見テ瞋ル者ナシ故ニ忍ニ喩フ食ハ禪波羅密也禪悅食ト云故也燈明ハ般若ニ喩フ智能ク明了ニ物ヲ照シテ緣ズルコト燈光ノ如シ燒香ハ精進ニ喩フ同斷也香ノ燃ルハ此レ勤メ不怠ニ喩フ(以上)櫛ヲ佛ニ供ズルハ本此木ノ實ハ天竺ヨリ來レリ本邦ヘハ鑑真和尚ノ請來ナリ其形天竺無熱池ノ青蓮華ニ似タリ故ニ此ヲ取テ佛ニ供ズト(供物義)

問フ 寶鏡ハ如何ン

答フ 陀羅尼集經第三般若軌ニ廿一種ノ供養物ニ第十八ニ寶鏡トアリ蓋シ佛ノ大圓鏡智ノ義ニシテ十界ノ相(善惡)ヲ明ラカニ照ラスノ義乎

問テ曰ク 世俗羅網及鈴ヲ神社ノ具ト思ヒ亦邊陲ニテハ樂器ヲ神道ノ祭式ニ用ユルヲ見テ神道ノ專用器械ト思ヒ即チ佛器ナラズト思フ者アリ果シテ然ルヤ如何ン

答テ曰ク 羅網ト鈴ハ本佛前ノ莊嚴ノ具也般若軌(集經)二十一種ノ供養物ニ第二十寶真珠網ト云ヘリ上生兜率經云時十方百千梵王各各持一梵天妙寶以爲寶鈴懸寶帳上(今ノ世鈴ヲ懸テ莊嚴トスル本據ト)時小梵王持一天衆寶以爲羅網(是レ羅網

リ尙又帝釋天ノ羅網)彌覆帳上ト是レ羅網ト鈴ノ本據トス次ニ神樂ト云フハ天照大神ノ窟戸ニ閉籠リ玉フキ天下常闇トナル八百萬ノ神愁ヒ神議リ玉ヒ音樂伴優ヲナシ大神ヲ慰メ奉リ窟戸ヨリ誘ヒ出シ奉レリ此時ハ神代ナレバ樂器ハ蓋シ無カリシ故ニヤ

神皇正統記ニモ樂器ノ名ナシ然レドモ是レニ縁テ今ノ神道家震旦傳來ノ樂器ヲ專用セラル、所以ン也尤モ震旦ノ樂器モ元ト月氏ニ始マリ震旦ニ傳ハリ或ハ之ニ摸造セシ者モ頗ル多カラシ（印度ノ有形無形ノ文明ハ支那ニ輸入セシ説アリ）何トナレバ佛説ノ經文中ニ音樂器具ノ語多ク散在スルヲ見レバナリ中ヅク法華隨喜ノ功德品ニ鐘鈴螺鼓聲琴瑟笙篳聲簫笛之音聲ト全方便品塔廟供養功德ノ中ニ若使下人作樂一擊一鼓吹三角具（私曰甫註ニ具者大螺）簫笛琴瑟笙篳琵琶饒銅鈸如是衆妙音盡持以供養ト此故ニ却テ佛家ハ之ヲ所用トスル義アルヲ知ル可シ（梧桐角、銅角、角子、笙篳等ノ圖佛像繪圖卷ノ五ニアリ）

問テ曰ク 所説ニテ樂器ハ佛具ナルコトヲ知レリ然トレモ此器具ハ供養法ノ用具ナル故今法具ノ中ニ攝入シテ説明ヲ請ハントス今精舍日用ノ梵器ナル鏡、鈸、法螺、磬、木魚、大鼓、梵鐘、打金等及梵唄曲節ノ濫觴音樂ノ功能ヲ問フ

答テ曰ク 鏡ハ事物起原ニ鏡モ鈸モ同屬ニシテ古ノ樂器也鈸會ニ鏡小鈸也（今ノ法事ニ用ルハ之レ也）軍法 卒長執鏡鈸ハ廣韻鈴鈸銅鈸南齊穆士素所造其圓數寸大者出於扶南高昌疎勒之國ト前引證ノ經文ニ據レバ印度古代ノ製作ノ如シ法螺ハ佛説法ノ音聲ノ標幟也（大日經疏十六五佛頂ノ中无量佛頂ノ三摩耶形ヲ珂貝トス珂貝ハ即螺也）法華經曰吹大法螺一擊大法鼓一演大法義トハ大乘法雄猛ヲ表ス又不空骨索經十八（世間成就品）曰若加持持螺一詣高望處大聲吹者四生衆生聞螺聲者滅諸重罪

捨受身己等生天上又次聞螺聲一往一生西方極樂國蓮華ニ化生スルノ文出ツ大悲經吹之諸天善神歡喜ノ影向シ玉ヲ故トス磬ハ佛前法要ニ先ツ磬ヲ鳴スコトハ本尊諸天ヲ警覺スル爲也梵語ノ健稚ヲ聲論ニ翻譯亦翻譯鐘而ルニ磬ト鐘トハ大ニ殊レリ故ニ古來ノ評（名義集）ニ考ルニ天竺ニ鐘アリテ磬ナシ故ニ此土ノ法事ノ鳴物ヲ何ニテモ健稚ノ翻名ニ當ル也故ニ五分律曰隨有瓦木銅鐵鳴者皆名健地ト木魚ハ昔印度ニ僧アリ師ノ教ヲ不受シテ大魚トナリ背ニ大木ヲ生シテ苦ムコト限リナシ或時師舟ニ乘リ海ヲ渡リシニ大魚恨ミヲナシ舟ヲ覆ヘサントス師ノ曰ク奚ゾ我ヲ害セントスルヤ大魚曰ク師前生ニ於テ我ニ教ルコト疎カ也故ニ如此苦ヲ受クル也夫故恨ヲ作スト也師曰ク我教ヘザルニ非ズ汝教ヲ受ケズ故ニ苦ヲ受ルト大魚埋ニ伏シテ乃チ教ヲ受ケテ死ス師即チ其背ノ大木ヲトリ魚ノ形ニ造リ之ヲ打ツ世ニ木魚ト云フ者是也（婆娑論ニ見ヘタリ）大鼓ハ昔釋迦靈鷲山ニテ説法ノ時件ト云牛來リ妨ゲヲナス目連頓テウシカト云フ虫ヲ件ガ五体ニ振りカケ玉ヘハ件ハ大ヘニ苦ミ我ニ佛果ヲ得セシメ玉ヒハ我命ヲ召シテ皮ヲ大鼓ニ張り時ヲ違ヒテ打玉フベシ六ヨリ五ツ四ツヨリ九ツ八ツ七ツ六ツト晝夜ヲ亂シ打玉フ可シ魔ハ時違フガ故ニ來ラズト佛即其如クシ玉フ是ヨリ三國ニ弘マルト（佛像繪圖卷ノ五出佛前鐘鼓之圖解）○梵鐘ハ付法藏傳曰昔安息王伐罽膩吒王兩陣交戰シテ罽膩吒王已ニ勝ツ安息王人ヲ殺スコト凡ソ九億ナリ厥後馬鳴菩薩ノ説法ヲ聽緣ニ由テ大地獄ヲ免レ生大海中千頭ノ魚トナル然ルニ劍輪廻リ注ヒテ其首ヲ斬斬レ

ハ復生ズ須臾ノ間ニ頭大海ニ填ツ其苦患无量也時ニ羅漢アリ之カ爲ニ健稚(梵鐘ナリ)ヲ打ツ聽レ之間ハ苦痛小息ム於レ斯王羅漢ニ長鳴タマヘト願フ依レ之長打ツニ七日過テ苦患盡ク息メリ此寺因ニ彼王ニ故ニ次第二相承シテ長打ニ健稚ニ至ニ於今日猶如レ本(經律異相ニハ千頭魚託ニ夢太子夫人令造鐘長ク打ツトモ云ヘリ)諸經要集云聞レ鐘臥シテ不起護塔ノ善神噴テ崇ヲ爲現在福薄來世ハ受ニ蛇身ニ故ニ聞レ鐘時ハ可レ謂レ偈曰洪鐘震響覺ニ群生ニ聲遍ニ十方无量土ニ合識群生普聞知被ニ除衆生長夜苦ニ若シ之ヲ唱フ能ハザル者ハ略シテ南无一切三寶ト唱フ可シ俱舍論曰爲ニ臨修令下生ニ善念ニ中死上打レ鐘鳴レ馨引ニ生善心ニ故ト亦惡龍鐘聲ヲ聞ヘテ瞋リヲ息ムルノ說西域記ノ一ニアリ之ヲ略ス惟ミルニ梵鐘鑄造ノ功德最勝ナリ若梵鐘ナキ寺院ニハ寺檀同心協力シテ之ヲ設ケテ其勝益ヲ得ンコトヲ欣フ可シ人一生ノ財寶豈ニ爲レ法幣惜ス可キ者ナランヤ俗ニ云フ打金ハ本來馨ナリ之ヲ「キン」ト音スルハ以ニ唐音ニ呼レ之ト實ハ可レ稱ニ銅鉢ニ也ト云々○梵唄曲節ノ濫觴ハ元ト印度ニシテ今代所傳ノ梵唄ノ曲節ハ魏武帝第四子陳思王曹子建ヨリ始マル佛道論衡云陳思王每ニ讀ニ佛經一以爲ニ至道之宗極ニ轉讀七聲昇降曲折ノ響ヲ製ス世ノ人咸法レ之當魚山ニ遊ブニ忽空中ニ梵天ノ響ヲ聞ケリ清颯哀婉ニシテ其聲動レ心而レドモ侍者ハ不レ得レ聞レ之陳思王深感シテ彌悟ニ法應ニ乃其聲節ヲ摹シテ梵唄並ニ文ヲ爲レリト音樂ノ功能ハ陀羅集經第五十一ニ明セリ曰散ニ其華香於諸佛會ニ種々作法屈曲聲韻稱讚圍繞禮拜及作ニ梵音鼓琴聲(是音樂ナリ)歌ニ咏唄ニ響種々聲徹而合ニ

天樂ニ助ニ成其音ニ自然感ニ動十方一切諸聖衆(乃至)一切菩薩聞ニ此音ニ皆起舞テ其歌者ヲ助ケ玉フ又其人臨ニ命終之時ニ一切菩薩來迎シテ直ニ入ニ佛會(乃至)一切諸天聞ニ是音ニ皆生ニ踊躍(乃至)地獄衆生聞ニ是音ニ皆具枷鎖一時ニ摧碎シ鑊湯鑪炭止レ沸停レ燒清涼快樂ナラン一切鬼神聞ニ是音ニ者皆發ニ菩提心離ニ鬼神身ニ生ニ人天ト云ヘリ亦大樹緊那羅(天ノ樂人)所問經曰爾時大樹緊那羅王己ガ所彈 瑠璃ノ琴閻浮檀金ヲ花葉トシテ莊嚴シ善淨業報ヲ以テ造レル琴ヲ以テ如來ノ前ニ調ベ餘八萬四千妓樂ヲ作其音ニ千大千世界ニ聞テ欲界諸天ノ音樂ヲ蔽隠ス所有諸山ノ叢林遍動如ニ人醉顛倒ニ不退位ノ菩薩ノ外一切ノ凡聖此レヲ聞テ各座ヨリ起テ無フ一切聲聞威儀ヲ失フテ如ニ小兒舞戲ニ爾時天冠菩薩語ニ聲聞迦葉等ニ汝諸大德己ニ煩惱ヲ離レテ得ニ八解脱ニ云何ンガ今各威儀ヲ失フテ如ニ小兒ナルゾト問ヒ玉ヘケレバ諸ノ聲聞答テ曰ク我於レ斯不レ得ニ自在ニ譬バ大風吹ニ樹木ニ樹木無レ力故ニ如レ所レ動爾時天冠菩薩言誰カ現ニ如レ是ヤ无上正眞菩提心不レ發故ナリ彼不退菩薩ノ威德勢力ヲ語ラバ琴聲威力皆說法音也ト告玉ヘバ八千菩薩得ニ无生忍ニ智度論卅九ニ曰ク問曰諸佛賢聖ハ離欲人ナラバ音樂歌舞ヲ不レ須何故ニカ妓樂ヲ供養スルヤ答曰諸佛於ニ一切法ニ无ニ所着ニ故須ルコトナケレドモ諸佛ハ衆生ヲ憐ミテ出レ世故ニ受レ之其供養者ニ隨レ願得レ福也ト亦昔希臘ノ樂人「オーヒユース」ガ樂ヲ奏セバ草木岩石河水迄モ動キシトカヤ「スヲエル」人ハ喇叭ヲ吹テエリスノ城ヲ攻メ落シ「トルコ帝アマラス」ハ一曲ノ音樂ニ感涙シテベルシヤ三萬ノ囚虜ヲ

敎シ孔子齊ニ在シテ樂ヲ聞キ三月肉ノ味ヲ知ラズ佐野ノ城主天德寺ガ琵琶法師ノ樂ヲ
 聞テ泣然膝ヲ濕フシタルガ如キハ皆是レ音樂ノ至誠也（餘霞ノ雜記）亦流川木啄ノ曲
 ヲ聞ヒテ樂ム者ト替女ノ絃歌ヲ聞ヒテ樂ム者ト心情ノ雅俗優劣天地ノ差アル爲ニ今學
 校ニ唱歌ヲ科スル以所ナリ固ヨリ俗ヲ轉シテ雅ニ入レシメン爲ニ古聖ハ雅樂ヲ作リ
 テ六藝ノ一トナシ佛家ハ人ヲシテ无上正眞ノ道ヲ得セシメン爲ニ音樂ヲ用ユ夫レ恂ト
 ニ感情ヲ動カス者ハ音律ナレバ今時ノ僧家ハ唱歌ヲ作り樂器ニ合セ或ヒハ世間ニ流布
 セル觀音大師等ノ御詠歌及ビ和讃ト稱スル者ノ音律ヲモ卑野ニ流レシメズ清雅ニ導カ
 ンタランニハ亦世俗ヲ高尚ナラシムルノ一助トモナラン
 問テ曰ク 僧家日用ノ道具一トシテ其緣由ナキハナシト聞ク今三衣袈裟、金襴衣、布
 衣及ビ紫衣素絹衣ノ起原、並ニ坐具、念珠、應量器、托鉢ノ錫杖、柱杖、拂子、如意、
 手爐、淨瓶、戒刀、水囊、扇子、等ノ說小生未ダ之ヲ見聞セズ請フ之ヲ列示シ玉ヘ
 答テ曰ク 出家沙門ノ道具ノ義中阿含經ニ云所畜ノ物ハ身ヲ資ケ道ヲ進ム可キ者即是
 レ善法ヲ增長スル之具ト菩薩戒經ニ云ク資生順道ノ具ト云フ意ハ道ノ爲ニ生ヲ資クル
 器具ノ義ナリ故ニ美麗ヲ好ミ或ハ餘長ヲ畜フルヲ得ズ故ニ通途ハ六物ヲ畜フ謂ユル六
 物トハ諸乘法數ニ、九條衣、七條衣、五條衣、濾水囊、應量器、隨坐具、トアリ多塞ノ
 國ニハ百一ノ物ヲ聽ルシテ其身ヲ助ケシムト集註ノ意初メニ三衣袈裟ノ義ヲ明サバ謂
 ユル衣トハ釋名曰服上ヲ曰衣衣依也所依以庇寒暑也左傳曰衣身之章也文子曰衣

足ニ以蓋形以禦風寒也西天出家者ノ衣律有ニ制度應法而作故曰法衣文謂ユル法衣
 ニ三種アリ一僧伽梨（即チ大衣ナリ）二鬱多羅僧（即チ七條ナリ）三安陀會（即チ五
 條也此則三衣也）慧上菩薩經云五條名ニ中著衣七條名ニ上衣大衣名ニ衆集時衣增輝記
 云三衣之名正シキ翻釋ナシ皆人ノ強テ之ニ名クルニ從フ也謂ク安陀會ヲ見ルニ五幅ア
 リ便チ喚ンテ五條ト作ス鬱多羅僧ヲ見ルニ七幅アリ便チ呼ンデ七條ト爲ス大衣ヲ見ル
 ニ條數多シ故ニ雜碎衣ト名クル也夫レ大衣ハ三衣ノ中ノ主最モ殊勝ト爲ス故ニ若シ用
 ニ從ツテ名クレバ王宮ニ入ル時聚落ニ入ル時ノ衣也七條ヲ中價衣ト名ク謂ク大衣ヨリ
 貴カラズ五條ヨリ賤シカラズ故ニ若シ用ニ從ツテ名クレバ入衆衣也五條ヲ下衣ト名ク
 謂ク七條ノ下ニ在ル故ニ若シ用ニ從テ名クレバ園中（園中トハ寺院也）行道雜作衣也
 雜阿含經云修四無量者（慈無量、悲無量、喜無量、捨無量）並剃除鬚髮服三法衣
 ト僧祇律云三衣者賢聖沙門之標幟也ト四分律云三世如來並着如是衣ト華嚴經曰爲
 捨離上二毒故ト戒壇經云五條斷貪身業也七條斷嗔口業也大衣斷痴心業也薩婆多論
 云ク伽梨（大衣）有三品自九條一十一條十三條名下品位皆兩長一短作十五條十七
 條十九條名ニ中品位皆三長一短作二十一條二十三條二十五條名ニ上品衣皆四長一短作
 （羯摩疏云所ニ以極ニ至廿五者爲三十五有一作三福出一義文）增輝記問七條何品攝答下品
 攝以二兩長一短作故ト謂ユル兩長一短等トハ兩幅ノ布ハ長クシテ一幅ノ布ハ短クスル
 ノ義也稻田畦畔ノ大小アルガ如シ增祇律ニ云ク佛住王舍城帝釋（天也）石窟前經行

見^ニ稻田畦畔分明^{カレチガサ}語^ニ阿難^コ言過去諸佛衣相如^レ是^レ從^レ今依^テ此作^ニ衣相^ト夫^レ田畦ハ水
 ヲ貯^ヘ嘉苗ヲ生長シテ以^テ人ノ形命ヲ養^フ者也法衣ノ田ハ四生^ノ胎卵濕化也即チ衆生
 ヲ云フ^ヲ潤益スルノ水ヲ以^{スレ}バ其^ニ三善ノ苗ヲ増シテ^ハ三惡趣ノ莠ヲ除去シ^テ以^テ
 法身ノ慧命ヲ養^フナリ^ハ增輝記ノ意ヲ撮ル^ル袈裟トハ法衣ノ統名ナリ謂^ユル袈裟トハ
 蓋^シ色ニ從^テ稱^フ彰^ハス也梵音ニ具^ニハ迦羅沙曳ト云フ此^ニハ不正色ト云フ俚語以^テ
 云ハハハツキリセヌ色ト云フ義也四分律ニ云ク一切上色ノ衣畜^{フル}コトヲ得^ズ當^ニ壞
 シテ迦沙色^ハハツキリセヌ色^ニ作^ルト律^ニ三^種ノ壞色アリ謂^ク青ト黒ト木蘭ト鈔^ニ
 云ク青ハ謂^ク銅青也黒ハ謂^ク雜泥ナリ木蘭ハ即チ樹皮ナリト又云一切ノ上色直チニ用^ユ
 ルコトヲ得^ズ並ヒニ須^ク染^テ迦沙色^ニ作^スメシト大集經ニハ袈裟ヲ離染服ト名クト云
 賢愚經ニハ出世服ト云^ヘ如^ク幻^ニ三昧經ニハ忍辱鎧ト名^ケ又蓮華衣ト名^ク等^ト是^ヲ袈裟
 ノ別名トス悲華經云佛於^ニ寶藏佛前^ニ發^ス願成^レ佛時袈裟有^ニ五^種功德^一入^ニ我^ガ法^中犯^ス重
 邪見等^於一^念中^ニ敬^心尊重^必於^ニ三^乘受^レ記^一二^天龍^人鬼^若能^敬此^袈裟^少分^即得^ニ三^乘
 乘^ニ不退^若有^ニ鬼神^諸人^得袈裟^乃至^四寸^一私^ニ曰^ケサ^ノキ^レ乞^フ者^アラ^バ施^ス可^シ
 飲食充足^四若^衆生^共相^違背^念袈裟^力尋^生悲^心五^若持^此少^分恭^敬尊^重常^得勝^他
 文袈裟ハ聖人ノ表式ニシテ斯^ノ如^キ功德^{アリ}故^ニ出家^ノ身^ニ袈裟^ヲ被^{タル}ヲ見^{ルト}キ
 ハ若^シ未^ダ沙門^ノ果^ヲ得^{ザル}曹^ガラ^ハ應^ニ八^法ヲ以^テ敬^重ス可^シ何等^ヲカ^ハ法^トナ^ス
 經曰應^レ起^テ塔^想寂滅^想慈悲^想如^レ佛^想慚愧^想令^レ我^來世^離貪^患痴^具沙門^想ト云^ヘ

リ次ニ五納衣^{今ノ僧自ヲ稱シテ弊衲ト云フ衲ハ蓋シ衲ノ誤リ歟}ノ名義ヲ列^テ十
 誦律云^一有^ニ施主^一衣^二無^ニ施主^一衣^三往還衣^{送葬墓林ニ到テ後脱レ衣施僧ナリ}四死
 人衣^五糞掃衣<sup>此自有^ニ五^種一道路棄衣^{脱厄衣}二糞掃處衣^{三河邊弃衣}四蟻穿破衣^五
 破碎衣^{又有^ニ五^種一火烧衣}二水漬衣^{三鼠咬衣}四午嚼衣^{五爛母棄衣}已^上衣^{天竺人諱}
 忌^故棄^レ之^以不^レ任^用義^同糞掃^故共^納成^レ衣^名糞掃衣也^{文智度論ニ云ク佛意弟子ヲ}
 シテ隨順^シ道行^ノ世^ノ樂^ヲ捨^テシメント欲^{スル}ガ故^ニ十二^頭陀^一但^タ三^衣ト糞掃衣ト
 塚間ト樹下ト露地ト阿蘭若ト隨坐ト乞食ト受食ト不食餘味ト不搏食ト坐不臥ト^ヲ讚
 ズ釋尊成道シテ初メテ度シタル五人ノ比丘^{アリ}佛ニ問^フ當^ニ何等^ノ衣^ヲ着^ス可^キヤト
 佛ノ言ク應^ニ納衣^ヲ着^スベシト是^ヲ以^テカ律宗ハ龜衣ヲ破ル又イマニ於^テ錫命ノ小乘ノ
 沙門モ能^ク之^ヲ守^{ルト}爾^ルニ我^ガ日本ノ僧ハ蠶衣金襴衣紫衣ヲ被^着シ而シテ自^ラ大乘
 ノ沙門ト云フ今布衣蠶衣ノ二論家ニ就^テ各其證文ヲ引^テ之^ヲ會通シテ明辨セン感通傳
 ニ曰ク南山道宣律師天人^ニ蠶衣^ヲ如^法ナルカト問ヒ玉フ^ニ天人ノ曰ク蠶衣ニハ殺生ノ
 咎^{アリ}焉^ゾ殺生ノ財^ヲ以^テ慈悲^ノ服^トセント告^ゲケリ於^レ是^道宣律師曰^智度論^ニ佛
 著^ニ羅布伽梨^トアルヲ以^テ見^レバ益々^龜布^ノ衣^ヲ以^テ如^法トス可^シ蠶衣ハ假令臥具ニ
 モ^不用^又西來^ノ梵僧^{天竺ノ僧ナリ}ヲ看^ルニ威著^ニ布^蠶僧^ニ問^ヘバ五天竺國ニ
 无^レ着^ニ蠶衣^ト云^ヘリ由^レ之^著章服儀^ニ蠶衣^ヲ制^シテ布衣^ヲ如^法トスト然^ルニ義淨三藏
 ノ說^{南海寄歸傳ノ二三ヨリ四マデ}ニ據^レバ今ノ蠶布ニ限^{ルト}スルハ返^ツテ小乘有</sup>

部ノ偏執ナリト誹リ蠶衣ヲ大乘ノ了義ニ叶ヘリトス義淨三藏ハ諸家ノ所崇然ラバ蠶衣ヲ非法トス可ラズ(已上資持記ノ取意)因ニ問フ金襴ノ袈裟モ義淨ノ開シ玉フ蠶衣ト同シ物ノ歟答フ按ズルニ同物ナレドモ亦料簡アル可シ金襴衣ハ果上ノ薩埵淨妙ノ莊嚴衣ナリ其證文ヲ出サバ不空罽索經廿九供養品諸天供養觀音雨不可說金縷ノ袈裟衣服海雲ト云ヘリ(金縷ノ袈裟ハ即チ金襴ノケサナリ)然レバ金襴衣ハ中ニモ最勝衣ナルヲ以テ尙大乘ノ了義トス可シ況ンヤ台密東密ハ初發心ニ漫荼羅ニ入テ受灌頂已得三果德果上莊嚴ノ衣ヲ受用スルコト尤モ叶ヘリ尙之日本佛教ハ各宗ノ大意皆大乘了義ナリ金襴衣被着ノ過失無カル可キヲ信ズ五百問經云三衣得用生絹作否答一切生物但不現身者得即律ノ中ニ遮シテ此ノ經ニハ開ス開遮ノ二法ハ宜ク料簡ス可キ處ナリ要覽ニ云ク佛阿難ニ告玉ハク衣ニ二種アリ謂ク可親ト不可親トナリ若シ好衣ヲ着テ其道心ヲ益ス此レ可親ナリ若シ道心ヲ損ス此レ不可親ナリ是故ニ或ハ好衣ニ從テ道ヲ得或ハ弊衣ニ從テ道ヲ得所悟心ニ在リ形服ニ拘ハラズト智度論ニ云ク佛言ク今日從リ若シ比丘有テ一心ニ涅槃ヲ求メ世間ヲ背捨スル者ニハ我レ價直十萬兩金ノ衣ヲ着百味ノ食ヲ食フコトヲ聽スト(漢文和譯)夫レ袈裟衣ハ解脫幢相ナリ世間出脫ノ心ナクシテ莊嚴法服ヲ着スルハ尤モ慚愧ス可キ也(亦福田ノ衣相ナリ化他ノ爲ニハ莊嚴ノ服ヲ受用スルモ可也自ラ奢侈ニシテ被着スルハ不可ナリ忤怛スベシ)故ニ自行ニハ布衣化他ニハ蠶衣ヲ被ル等各々自心ノ品位ヲ反省シ且ツ宗憲ノ許ス限リニ於テ法衣

ヲ受用ス可シ祖承ニ非ル者ヲ恣マニ製シテ俗服ヲ迷ハス勿レ次ニ紫衣ヲ賜フノ起元ヲ明サバ按唐書唐則天ノ朝ニ僧法朗等ノ九人有リテ大雲經ヲ重譯シ畢テ並ビニ紫ノ袈裟ト銀龜袋トヲ賜ハル此レ衣ヲ賜ハルノ始也自後ノ諸代皆此賜ヲ行フ大宋ノ太平興國ノ初ニ至テ四海ノ僧ヲ許ノ殿庭ニ入レ乞テ三學(戒定慧也)ヲ比ベ試ム開封府ニ下シ僧ヲ差シ經律論ノ義ヲ證ス十條(問題)全ク通ズレバ乃チ紫衣ヲ賜ハル號シテ手表僧ト爲スト(手カラ表ヲ進メ奏セシムルガ故ナリ)夫ヨリ以後手表ヲ須ヒズ選勅ヲ求ム之ヲ簾前紫ト云フ此レ最モ榮觀ナリ然ルニ此衣國恩ヲ以ノ故ニ着ルコトヲ得極メテ容易カラズト(僧史略取意)我朝ニ於テモ諸宗ノ高僧紫衣ヲ賜ヘシ例鮮ナカラス今ヤ之ヲ略ス次ニ素絹衣ノ起原ハ比叡山第十八代ノ座主良源慈惠大師應和ノ聖帝ヨリ紫ノ素絹衣ヲ賜ハリシヲ濫觴トス且ツ是レ本邦官僧ナル名稱ノ始ナリ元龜四年内供奉定珍ノ輯錄シタル古文中ヨリ拔萃シテ此レヲ證セン夫素絹衣着服之濫觴ハ天台貫主良源大僧正結芳契於應和之大帝揚佳名於村上之雲井恭被勅許之印文恭賜素絹衣之衣服總叡峯之美目別大師之名譽也其證出於大經其據表於刑法是天台宗賜衣之旨自門運啓又不動院裁許之論言也他家分絕云先規云今範誰仁違於王命何宗背於院宣濫混自他威儀恣着素絹之上衣乎ト云々是レ台家ノ僧侶正服トシテ着用セル所以ナリ次ニ坐具ハ梵ニ尼師壇ト云フ此ニ隨坐衣ト云フ根本毘奈耶ニ云ク尼師但那唐ニハ坐具ト云フ淨法師ノ注ニ文ニ坐具ト言フ此乃チ敷具坐臥

得皆佛制ハ本ト假ニ臥具ニ替ルヲ為ス恐クハ所損アリ餘用ニ擬セズト五分律云爲ニ
 護身護衣護僧牀褥故蓄坐具ト僧祇曰若在道行得長堂中坐安衣囊中至二本
 處當敷而坐律應量作長佛二揲手廣一揲手半(佛ノ一揲手ハ長ケ二尺四寸此)律ニ
 云ク更ニ増ス者ハ即チ四邊ニ向テ各益ス今ノ坐具ノ如シ四縁貼アルハ即チ象ナリ單
 作ヲ許サズ若新物ヲモテ作ラバ當ニ故キ物ヲ用ヘテ中ニ貼スベシ蓋シ其好キヲ壞レバ
 ナリ若シ自故物ナク又求ル處ナクンハ貼セザルモ過ナシ記ニ云ク佛先ツ左肩ノ上ニ安
 シテ衣ヲ鎮ルコトヲ許ス因テ外道アツテ一リノ比丘ニ問テ曰ク汝ガ肩ノ上ノ片布何トカ
 名クル而シテ何ノ用ニカスル比丘答テ曰ク尼師壇ト名ク是レ坐具ナリ又問フ汝ガ被ル
 所ノ衣ハ何トカ名クル而シテ何ノ功德カアル答フ忍辱衣ト云フ三寶ノ相ナリ上天魔ヲ
 制シ下外道ヲ降ス也又問フ此衣既ニ是ノ功德有テ貴ブ可シ豈ニ所坐之布ヲ以テ其上ニ
 居クコトヲ得ンヤ若シ汝自爲師何ンゾ教ヘザル若師教ヘバ此法尊ブ可キニ足ラズト依
 テ比丘佛ニ白ス佛因テ制シテ移シテ左臂ノ衣ノ下ニ安セシムト(衣ハ即三衣也此ヲ以
 ヲ得ザル)戒壇圖經ニ云尼師壇ハ塔ノ基アルガ如シ汝今受戒ス即チ身ハ是レ五分法
 身ノ塔ナリ良ニ五分法身戒ニ因テ生ズルニ由ルガ故ニト受戒ノ僧侶己身ヲ自重シテ尼
 師壇ヲ常用ス可シ次ニ念珠ヲ明スニ四義ヲ立ツベシ原因、表事、四種、功德、ナリ其原因
 ハ木槌經ニ云ク釋迦如來中天竺摩訶陀國靈鷲山ニ住シ玉ヲ時ニ難陀國波琉璃王使ヲ以
 テ言レ佛我が國ハ邊國ニシテ而モ少シ頻ニ兵亂起リ五穀貴ク疫病流行シテ人民困窮ス

是故ニ我レ安ンゼズ如來ノ法藏ハ甚深廣ナレバ修スルヲ得ズ唯願クハ世尊慈悲ヲ垂
 レテ法ノ肝要ヲ示シ玉ハト爾時佛言ク若シ煩惱業苦ヲ滅セント思ハハ木槌子一百顆ヲ
 串キ徹シテ常ニ其身ニ隨ヘ散亂ヲ息シテ至心ニ勃駄(佛也)達摩(法也)僧伽(僧也)ト唱
 ヘテ(即チ三歸ナリ)即一ツノ木槌子ヲ招ルベシ如(是)百遍千遍乃至百千萬返スベシ若
 シ二十萬返ニ滿ゼバ夜摩天宮ニ生ジ衣食自然ニシテ常ニ安樂ナラン若シ一萬返ニ滿セ
 バ百八煩惱ヲ斷除セント其使還テ王ニ言ス王大ニ歡喜シ遙カニ世尊ヲ頂禮シ即チ木槌
 子ノ數珠一千具ヲ作ラシメ六親等ニ與ヘテ善業ヲ勸導ス王常ニ誦念シテ軍旅ニ出レド
 モ廢置カズト(己上)是レ佛數珠ノ法ヲ説キ玉フ因縁也但シ是ハ佛ノ隨機ノ一緣ナリ實
 ニハ无始本有ノ法則ナリ何トナレバ曼荼羅尊ノ三昧耶形ニ數珠鬘アリ又準提佛母不空
 羂索十一面大悲千手觀音等ノ所持物ノ中ニモ數珠アルハ此レ皆法佛ハ法然ナル標幟ナ
 リ佛ノ新製ニハ非ズ天竺ノ事火外道ノ本尊トスル火大ノ持物ニモ亦數珠アリ此レヲハ
 佛出世已前ヨリアルヲナリ實ハ自然无作ノ法具ナリト知ル可シ次ニ表示ノ義ハ通途百
 八ノ珠ノ上ニ建ツ謂ク百八珠ハ兩方ニ各々五十四顆アリ此五十四者菩薩ノ十信(十信
 信、念、進、慧、定、不退)十住(十住トハ發心、治地、修行、生貴、具)十行(十行トハ歡喜、
 回向、護法、戒、願)十回向(十回向トハ救護一切衆生、淨、等一切佛、至一切處、
 无屈撓、无痴亂、善現、无)十地(十地トハ歡喜、離垢、發光、焰慧、難)ノ五十四
 量、難得、善法、眞實、四善根(四善根ハ第十ノ回)十地(十地トハ勝、現前、遠行、不動、善慧、法雲)ノ五十四
 量、難得、善法、眞實、四善根(四善根ハ第十ノ回)十地(十地トハ勝、現前、遠行、不動、善慧、法雲)ノ五十四

位ヲ表ハス一方ノ五十四ハ本有本具ノ位地一方ノ五十四ハ修生修驗ノ位地ナリ五十四顆一ニ圓滿ナルハ斷惡証理シテ一位一位ノ功德圓滿成就スル義ナリ次ニ諸ノ珠ヲ貫ク線ハ是レ觀音ナリ密教ノ意ハ眞言行者ヲ觀自在ト名ク故ニ心經秘鍵曰觀自在者能行人云ヘリ是レ則眞言行人其所觀ノ法ニ於テ觀達自在ナルヲ以テ名之今唯一條ノ線ヲ以テ諸ノ珠ヲ貫キ徹スコトハ一行者遍ク諸位ヲ歷ルコトヲ表ハス次ニ母珠ハ阿彌陀佛ナリ此佛ハ一切諸佛ノ菩提ヲ成就シ玉フ徳ヲ具フ故ニ即チ佛果ナリ數珠ヲ拈グルニ自餘ノ諸ノ珠ハ皆修行ノ位地ナルガ故ニ悉ク拈グリ越スト雖母珠ヲ越エザル所以ンハ佛果ヨリ上ニ位ナキガ故ニ越エベキ理ナケレバ也瑜伽念誦經ニ慎莫^{ホカスル}越過^{ホカスル}越法罪アリト云ヘルハ是レナリ又タ母珠ヨリ取テ還シテ拈グルハ佛果ヲ成就シテ後九界ノ身ヲ現ジテ衆生ヲ度スル義ナリ又母珠ノ下ニ一ノ小珠アルハ補處ノ弟子ナルベシ其下ノ十顆ノ記子ハ十波羅密^{通途ノ六度ニ方便ト願}復次ニ五十四顆ノ數珠ハ修證ノ五十四位ナリ四十二顆ノ數珠ハ十住十行十向十地等妙ノ四十二ナリ二十七顆ノ數珠ハ小乘ノ二十七賢聖^{學人ニ十八アリ信行、法行、信解、見得、自證、家々、一種子、向初果、得初果、向}アリ退、思、護、住、進、不動^{二果、得二果、向三果、得三果、中般、生般、行般、不行般、上流般、是也}无學ニ九不退、慧解脫、俱解脫也^{ヲ表ス二十一顆ハ本有ノ十地修證ノ十地及ビ佛果ヲ表ス}

一十四顆ハ地前ノ三十四心ノ大數ヲ取テ三トナシ^{見道ニ十六心アリ}是ニ十地ト佛果ヲ加フルナリ^{修道ニ十八心アリ}次ニ其四種トハ數珠ノ多少ニ依テ功德ノ勝劣アリ一

千八十珠アルヲ上品トス一百八珠ヲ最勝トス五十四珠ヲ中品トス二十七珠ヲ下類トス次ニ其功德トハ瑜伽念珠經ニ念誦ノ結緣ノ功德ヲ説テ云ク若クハ頂ノ^{イタクモト}髻ニ安ジ或ハ耳ニ掛ケ或ハ頸ノ上ニ安ジ或ハ臂ニ安セバ其人ノ所説ノ言論即チ念誦ト成テ三業ヲ淨ムト又云若シ髻ニ安セバ五逆罪ヲ滅ス若頸ニ安セバ四重ノ罪^{殺生、偷盜、邪淫、妄語}ヲ淨ム若シ手ニ持シ臂ニ安セバ能ク衆ノ罪ヲ滅スト^{已上}數珠功德經云若人法ニ依テ佛名陀羅尼ヲ念誦スルコト能ハズトモ但能ク菩提子ノ念珠ヲ手ニ持シ身ニ隨ヘバ行住坐臥ニ出ス處ノ言語マデモ彼ノ念佛シ咒ヲ誦スル功德ト同ジフシテ福ヲ獲ルコト無量ナラント^{已上}是レ亦結緣ノ功德ナリ但シ此レハ如法ニ加持シテ造レル念珠ノ事也今時市肆ニ賣買スル數珠ハ製モ法ニ契ハズ酒肉五辛ヲ喫ヒ姪欲等ノ穢^{スス}ニ造レル物ナレバ論ズルニ足ラズ一字頂輪王儀軌云珠ヲ敬フコト佛ノ如クシテ輕シク業觸スベカラズ何ントナレバ珠ニ由テ功德ヲ積ンデ速カニ成就ヲ得ルガ故ニ^{已上}已ニ經ニ頸ニ安ゼヨトアレドモ外道ノ髑髏ヲ繫ギ掛ケタルニ相似タルガ故ニ頸ニ掛ルコトヲ用非ズ又耳ニ安ゼヨト云ハ清淨ニ洗浴シタル時ノコトナリ常人ノ耳ハ垢穢多キ故ニ是亦須非ズ又髻ニ安ゼヨトハ直ニ安ニハ非ズ淨キ物ヲ以テ包ミ或ハ函ニ盛テ髻ノ中ニ藏ムル也今ハ唯臂ニ掛ケ手ニスルヲ通途トス去レドモ是又穢レタル手ヲ以テ執ル可ラズ淨水ヲ以テ手ヲ洗ヒ香ヲ塗テ數珠ヲ執ル可シ珠ヲ敬フコト佛ノ如クセヨト云經文ヲ信シ宜ク僧ハ勿論俗モ常ニ持シテ如法ニ念誦ヲ勤ム可シ人壽僅ニ六十年修福ノ日幾何カアル勉メ

ヨヤ次ニ應量器ハ梵ニ鉢多羅ト云フ此ニハ應器ト云フ今略シテ鉢ト云ナリ鉢トハ乃是
 レ三根(三乗ノ機根也)ノ人資身要急ノ物也佛二種ヲ用ユルコトヲ聽ルス謂ユル二種
 トハ瓦鉢ト鉢鐵ト也瓦鉢ハ佛孫婆白土村ニ住シ玉ヲ爾時ニ係婆天神佛ニ白サク過去ノ
 佛皆此處ノ瓦鉢ヲ受用スト佛乃チ比丘ニ瓦鉢ヲ受クルコトヲ聽シ玉ヲ鐵鉢ハ佛王舍城
 ニ住シテ諸房ニ行テ見ルニ一リノ比丘手ヲ枕トシテ臥スヲ認メ知テ問テ曰ク汝安樂ナ
 リヤ否ヤ答フ我ガ枕ニスル所ノ手鉢ヲ失ノ地ニ墮ス乃チ破ル故ニ樂シマズト佛ノ言ク
 鐵鉢ヲ蓄フルコトヲ聽シ玉ヲ鉢律ニ制アリ三品ノ量ヲ聽ス文多ケレバ茲ニ錄セズ
 四分律ニ云ク小鍵鉢ヲ大鍵鉢ニ入レ小鉢ヲ半鉢ニ入レ半鉢ヲ大鉢ニ入ルト又律ニ云ク
 鉢袋ヲ青色ニ作ルコトヲ聽ルスト今之ヲ鉢囊ト呼ブ
 次ニ托鉢ノ錫杖トハ毘那耶雜事ニ云ク比丘乞食シテ長者ノ房中ニ入りケレバ駭テ甚ダ
 譏リケル故ニ比丘白佛佛ノ言ク今ヨリ作聲家ニ入テ乞食セヨト是ヨリ家々ニ入テ乞
 フ聲アマリ喧シケレバ復譏ル者多シ佛聞テ聽サズ是レヨリ拳ヲ以テ控門乞ヘト如斯
 シケレバ人々尙驚キ何ガ故ゾ我門ヲ打破ルト呵リケリ於斯佛ノ言ク錫杖ヲ作リテ振
 ベシト此時始メテ錫杖ヲ教ヘテ作ランムト(事苑之ヲ引ク)佛事編ニアリ要覽ニ曰ク
 錫杖梵ニハ隙奔羅ト云フ此ニハ錫杖ト云フ振ル時錫ノ聲ヲ作スニ由ルガ故ニト十誦
 律云聲杖ト錫杖經云佛告比丘汝等應受持錫杖所以者何過去未來現在諸佛皆執ル
 ガ故ニ又名智杖(前ノ引証ナル毘那耶雜事ノ說ハ此經說ニ反シテ他ノ譏リノ緣ヨリ

ノ初メテ造リシト説クハ不審也)又名德杖彰顯智行功德本故聖人之表幟賢士之明
 記道法之幢迦葉白佛何名錫杖佛言錫者輕也倚是杖除煩惱出三界故錫明也
 得智明故錫醒也醒悟苦空故錫疏也謂持者與五欲疎斷故若二股六環是迦葉佛製
 若四股十二環是釋迦佛製(是ノ迦葉釋迦ノ二佛ハ過去ノ佛也此經大ニ訓釋名字ノ說表
 法持法ノ功德ヲ作ス文多ケレバ略ス)三千威儀經ニ曰ク錫ヲ持テ衆ニ入ルヲ得ズ日中
 ノ後復タ持ツヲ得ズ肩ニ擔フコトヲ得ズト五百問ニハ能ク惡虫毒獸ヲ警ル故ニト
 傳テニ聞ク印度ハ熱國ニシテ虫類獸屬多シト故ニ應用シテ之ヲ警ムル歟次ニ極杖ハ十
 誦律云佛聽善杖其積用鐵爲堅牢故斯蓋行李之善助也佛聽之有因緣一爲老
 瘦無力二爲病苦嬰身故ニト是レ也次ニ拂子ハ律云比丘山草虫佛聽作拂子ト僧
 祇云佛ハ線拂、列氈拂、甚拂、樹皮拂ヲ聽シ玉ヲ而シテ貓牛尾ヤ馬尾拂並ビニ金銀裝
 柄ノ如キ者ヲ制シ皆執ルコトヲ得ズトナス亦タ塵尾拂アリ今講師ノ執ル所也音義指歸
 ニ云ク名苑ニ曰ク鹿之大ヘナル者ヲ塵ト云フ群鹿之ニ隨フ皆鹿ノ往ク所ヲ看テ塵
 尾ノ轉ズル所ニ隨テ準ト爲ス今講者之ヲ執テ彼レニ象ドル蓋シ指塵スル所アルガ故ニ
 ト是レ凡僧ノ執ル能ハザル者ニヤ五百問ニ云ク比丘捉塵尾犯スニ墮ツト云ヘリ次ニ
 如意ハ梵ニ阿那律ト云フ秦ニハ如意ト云フ指歸云吉之爪杖也或骨角竹木刻作二人手
 指爪一柄可長三尺許或脊ニ痒有テ手ノ到ラザル所ニハ用ヘテ以テ搔抓ス人之意ノ

如シ故ニ如意ト曰フト是レハ如意ノ一種ニシテ此レ必ズ爪杖ナリ又曰ク嘗テ譯經ノ三藏通梵大師清沼、字學通慧大師雲勝ニ問フ皆云ク如意ノ制ハ蓋シ心ノ表ナリ故ニ菩薩皆之ヲ執ル狀チ雲葉ノ如シ又此方ノ篆書ノ心ノ字ノ如クナル故ニ若シ爪杖ニ局ラハ文殊ノ如キモ亦之ヲ執ル豈只搔痒ノミヲ欲センヤト又云ク今ノ講僧尙ホ之ヲ執ル多ク私ニ節文ヲ記ス辭ヲ柄ニ祝シテ忽忘ニ備ヘテ時手ニシテ目對ニ執ランコトヲ要ス人ノ意ノ如シ故ニ如意ト名ク俗官之手版忽忘ニ備ヘテ笏ト名ルガ若シト故ニ是レ亦一種ノ如意ナリ斯ニ因テ論ズルトキハ二ノ如意アリ蓋シ名同フシテ異ルナリ（以上要覽撮略）

次ニ手爐ハ法苑ニ云ク天人黃瓊ナル者過去ノ迦葉佛ノ持チ玉フ香爐ノ形チヲ説ク略ニ云ク前ニ十六ノ獅子白象アリ二獸（獅子白象）ノ頭ノ上ニ別ニ蓮華臺ヲ起テ以テ爐ト爲ス後ニ獅子ノ蹲踞スルアリ頂上ニ九龍アリテ金華ヲ繞リ承ク華ノ内ニ金臺ノ寶子アツテ香ヲ盛ル迦葉佛説法ノ時常ニ此ノ爐ヲ執ル比ゴロ今世ノ手爐ノ製ヲ觀ルニ少シク此古法ニ倣フ者アリト（已上）迦葉佛ノ香爐ノ表示ハ必ズ其深ノ法理ニ據ルモノナラシ後ノ學者之ヲ討究セヨ次ニ淨瓶ハ梵語ニ軍遲ト云ヘ此ニハ瓶ト云フ常ニ貯レ水隨身用テ以テ淨ムト是レニ二種アリ瓦製ハ淨用ニシテ銅鐵製ハ觸用トテ大小便ノ後ニ洗滌スル爲ニ用ユル者也（寄歸傳ノ意ヲ取ル）次ニ戒刀ハ僧史略ニ云ク戒刀ハ皆是レ道具按ズルニ律ニ許スハ月頭刀子衣ヲ割ル爲ニス今ノ比丘刀ヲ畜フルヲ戒ト名ルコトハ蓋シ佛ハ一切ノ草木ヲ斫截スルコトヲ許サズ鬼神ノ材ヲ壞ルガ故ニ草木スラ尙戒シム況

ンヤ其他ヲヤト故ニ戒刀ト云フ次ニ濾水囊ハ增輝記ニ云ク其狀ヲ觀ルニ輕少ナリト雖其功用ヲ察スルニ重大ナリ亦云ク生命ヲ護ランガ爲メナリ（水中ノ虫ノ命）即チ慈悲ノ意其レ此ニ在リ中華（支那ヲ指ス）ノ僧受持シ有ルコト鮮シ今律標ニ准シテ示シ或問ニ備フル耳根本百一羯磨ニ云ク水羅ニ五種アリ一ニハ方羅絹三尺或ハ二尺ヲ用ヘテ時ニ隨テ大小ニ作ル絹ハ須ラク細密ニシテ虫ヲ透サザル者ヲ用ユベシ若シ疎絹薄紗紵布ヲ用ル者ハ本ヨリ生ヲ護ルノ意ナシト今ノ學士顯微鏡ヲ以テ水ヲ見ルニ幾ント虫ナリト若シ暑熱ノ時ニハ其形体成長ス可シ佛ハ大悲ナルガ故ニ既ニ之ヲ觀察シテ濾水囊ヲ製シ虫ヲ濾過シテ之ヲ放生ス以テ僧具トス次ニ扇子ハ佛事編ニ云ク僧ノ執扇是レ禮儀ナリトス要覽云ク西天多執扇如三阿含經云一阿難ト羅云ト皆執扇侍佛優波離律藏ヲ結集スルトキ波斯匿王象牙ノ裝扇ヲ與ヘテ律ヲ誦セシム又云古高僧慧榮講經トキ扇ヲ執ル隨煬帝ハ高僧敬脫ニ大竹扇ノ闊三尺アルヲ賜フテ入禁中一經論ヲ講ゼシムト道具ハ律中ニ聽ス者ノ名式極テ多シ今ノ所用ニ非ル者モ亦多シ尙ホ今時ノ要具多カル可シト雖モ浩澣ニ涉ルヲ以テ餘ハ他日ヲ俟テ説明セン

問テ曰ク 小生初メテ三寶ノ器具事理具足シテ尊重ナルコト比倫ナキヲ知り得タリ此上ニ聽聞セント欲スルハ敬神崇佛ノ要旨ナリ上説ニテ略了解シタレドモ神佛兩道ハ我國民ノ輕々聞去ル可キ義ニ非ルヲ知ルガ故ニ更ニ重々ノ懇説ヲ煩ハサント欲スルナリ

答テ曰ク 夫レ日本ハ山陬、雖モ神社ナキハナク其里人トシテ氏子ナラザルハナシ亦
 タ僻邑ト雖モ佛寺ナキハナク其村民トシテ檀徒ナラザルハナシ而シテ釋門ハ常規ノ佛
 事ヲ勤メ社家ハ恒例ノ祭祀ヲ營ム斯ノ如ク顯然神社佛閣天下ニ駢立シ億兆ノ中一個ノ
 民トシテ神佛ノ二道ニ徜徉セザルハ無キ者ノ如シ故ニ一瞥シテ敬神崇佛國ト云フ爾ル
 ニ隱然今人ノ精神ニ入テ觀察スルニ豈ニ圖ランヤ此國ニ生レテ此國ツ神ノ何タルヲ知
 ラズ未來ヲ委ネテ其佛ノ何タルヲ辨ヘズ而シテ傲然慢然更ニ討究ノ意モナク敬崇ノ祭
 儀法式モ墨守的ニシテ畢竟腦髓ニ神ナク佛ナク眞理的ノ安心ナク未開ノ土人ト簡譯ナ
 キ者比々トシテ頗ル多シ此秋ニ當ツテヤ數派ノ外教千里ノ波濤ヲ跋渉シ來ツテ是等ノ
 愚夫愚婦ニ對シテ試問スラク汝ガ敬スル神ハ云何ン汝ガ信ズル佛ハ云何ント然ルニ些
 カ之ニ答フルヲ知ラザレバ彼ノ魔徒ハ此凡民ノ腦髓空虚ナルヲ徹觀シ熱心モテ注入的
 ニ説ヘテ云ハン汝知ラズヤ此宇宙萬物ハ天主ノ創造ナリ吾人ノ身心ハ即其天主ノ支配
 スル所ナリ汝等ガ眞ノ氏神ハ此天主也汝等天主ノ氏子ト成テ我ガ天主ヲ敬セザルヤ此
 天主ノ外ニ尊キ者一物モアルコトヲシ此天主ハ汝等ガ實ノ君父ナリ而モ此天主ハ全智
 全能アリテ賞罰ノ大主權者タリ汝等此天主ヲ敬セバ天主ハ汝等ヲ愛シテ天國ニ於テ無
 盡ノ快樂ヲ享ケシム可シ若シ不敬スレバ下界ニ於テ無間ノ重苦ヲ受ケシム可シ我ガ天
 主ハ嫉妬ノ神也我ヲ敬スル者ハ愛シ我ヲ愛セザル者ハ罰スル也ト誦詐百誕以テ耶蘇ノ
 福音也トシ吉凶禍福ヲ唱ヘ利ヲ啗ハシテ誘惑スルトキハ國家ノ觀念ナキ愚民ハ唯々諾

々之ニ從フ殆ト大人カ小童ニ珍菓ヲ與ヒテ欺惑スルガ如シ實ニ此宗教ノ如キハ和魂ヲ
 徂喪セシムル毒味アルナラズヤ此毒説ヲ飴ンズルハ畢竟腦髓空虚ナルニ之レ因ル此空
 腦ヲ看破ノ魔説ヲ注入シ魔鬼トナシ我日本帝國ノ元氣ヲ徂喪シ遂ニ國體ヲ破壊セシム
 ル也其故如何ン我國體ノ性質ハ彼レノ説ト反對スレバ也夫レ日本ノ天地ヲ開關セシハ
 實ニ我國ノ諸神也吾人ガ身心ヲ支配スル者ハ實ニ神孫ノ 天皇陛下ナリ氏神ハ全ク其
 町村ノ鎮守也吾人ガ歷祖ハ此氏子ナリ顯世ヲ守護シ玉フハ氏神ヲ始メトシテ天下ノ八
 百萬ノ神々ナリ此諸神ハ此本國ヲ開拓シ血統ヲ垂レ萬代不究ニ愛護セル尊極ノ神也此
 ノ如キ有縁ノ神ヲ譬後ニシテ惡ンゾ外邦妄想的ノ天魔波旬ニ歸向スルヲ得可ンヤ謂ユ
 ル天魔ヲ重ンジ我神孫ナル 天皇陛下ヲ輕ンジタルヨリ内村鑑造氏如キノ曹ハ和魂銳
 敏ナル國民ノ爲ニ擯斥セラレタリ何トナレバ吾人ノ心魂天主ノ支配スル所トセバ我國
 民ノ自主精神立タザレバ也亦獨立ノ勢力ヲモ奪ハレテ奴隸ト爲リ去レバ也若シ一切萬
 物ハ天主ノ所造トシテ眞實ノ君父トスルトキハ其信徒ノ眼裡ニ己レノ祖宗ナク君父ナ
 シ又彼ノ天主ナル者ハ嫉妬ノ神也トシテ我國民ニ此一神ヲ恐レ敬ハシムルニ至ラバ厥
 信徒意底ニ日本ノ萬神ナク伊勢ノ大廟ヲ首メトノ天トノ神社佛閣ヲ蹂躪セン斯ノ如ク
 我國體ト全然睽離スルガ故ニ彼レガ爲ニ我國民一人ヲ誘惑セラレバ一人ノ護國力ヲ
 ウシナウガ如シ若シ五分ノ一彼レガ爲ニ信徒ト爲リ去ラバ人間五體ノ中一臂ナキガ如
 ク或ハ一脚ナキガ如シ故ニ護國的ノ活動完全ヲ望ムモ得可ラザル也矧ンヤ人體要部ノ

頭腦ヲ占領セントシテ舌刀ヲ練磨シテ來ルニ於テチャ我國體ノ要塞ヲ保護スルハ應ニ國體組織ノ原動力タル神道家ノ責任ナラズヤ次ニ佛教ハ我國ニ千有四百餘載ノ經歷ヲ史上ニ有シテ我國家ヲ潤益シ上ハ 歷朝ノ信崇ヲ辱フシ下ハ萬民ノ福田トナリ祖先累代ノ精靈ヲ吊祭シ无上正眞ノ覺道ヲ指導シ來レリ彼ノ耶蘇ノ淺短ナル妄想教ト正反ニシテ即チ一心ヲ以テ萬法ノ本原トシ因果ヲ以テ十界ヲ分別シ四恩五戒十善等ノ大法ヲ以テ人天ノ要道ヲ明示ス尙ホ八萬四千ノ法門高廣ニシテ悉ク一切衆生ノ機根相應ニ歸入シテ安心立命スルヲ得セシムル要門ナリ其堂奧ノ深遠玄妙ナル世界絶倫也外教天魔ノ窺ヘ知ル可キ所ニ非ル也抑モ前述ノ魔說ニ反スル所以ンヲ明サバ佛教ハ霄壤間ノ萬象本有ナリト悟達ノ天主ノ創造說ヲ破リ(五大原對照)亦一心ハ本來無我ニシテ當體即我ナルヲ覺了シテ人々本具ノ大心ヲ養成シ自在ニ自主獨立スルヲ得セシムルハ佛教也即チ世尊ノ獅子吼セル天上天下唯我獨尊ノ義是レナリ以テ天主ガ人ノ身心ヲ支配スルノ妄說ヲ破ス可シ亦因果必然ノ道理ヲ説クガ故ニ是レ天主ガ賞罰ノ特權ヲ剝奪スルノ憲法ナリ亦平等差別ハ一法ニ具スル處ノ法相ナリ以テ嫉妬ノ神ノ頑冥ヲ說破ス可シ而シテ吾人ヲ生ム者ハ父母ナリ吾人ヲ養フハ衆生也(衣食住ハ皆盡ク衆生ノ類ヲ集テ成ス)吾人ヲ守ルハ國王ナリ吾人ヲ導ク者ハ三寶ナリ此四ツノ者ハ三世ニ涉ツテ無限ノ恩資アリ之ヲ報ヒン爲ニ四大恩ヲ説ク是ヲ以テ外教ノ天主ヲ眞實ノ君父トナシ現生ノ君父ヲ輕蔑スル邪法ヲ對破ス可シ亦一切ノ動植類ハ人間ノ爲ニ天主ノ造ル處トシ或ハ

天主ノ妄說ヲ無上ノ眞理ト迷執スル者ヲ對治ス可シ此他五戒十善等ノ道及ビ一切ノ諸法皆彼ノ妄說ヲ摧折スルノ妙法ナラサルハナシ故ニ我國躰ヲ害スル外教ヲ防禦スルノ眞理的ノ要具ナリ是ハ此レ神道外ニ佛教ガ獨得ノ長所ナリトス嘗テ佐田介石氏ノ云ヘルコトアリ壁ノ破レハ土ヲ以テ補フ可シ酒ノ二日醉ハ酒ヲ以テ愈ス可シト是レ佛教ヲ以テ諸ノ外教ヲ抗禦ス可シトノ妙喻ナリ嗚呼至言ナル哉今ヤ彼レ外教徒ガ博愛ヲ唱ヒ學校ヲ設ケテ貧民ノ子弟ヲ教育シ醫院ヲ設ケテ貧民ノ疾病者ニ施療スル等ハ我國人ヲ愛養スルガ如ニシテ其實ハ我國ノ元氣ヲ魔睡セシムル毒藥ノ販賣所ナリ嗟呼彼レ等ハ銳意吾人ガ愛護スル國體ヲ巧ミニ毒殺セント計畫シツ、アル者也豈ニ國民寒心シテ是レヲ避クルノ覺悟ナクシテ可ナランヤ是ヲ以テ情考フルトキハ古來ヨリ敬神崇佛ニ馴レテ今ヤ神佛道ノ大意ヲ忘却シタル曹ニ對シ故ヲニ敬神崇佛ヲ喝導スルノ必要ヲ感ゼリ抑モ予前說ニ於テ神佛判然ノ朝旨ニ基キ政事の判然ノ上ニ更ニ教理的ノ判然ヲ説カシテ爲メノ神道ヲ排斥セルニ似タルアリ爾ト雖是レ神道ヲ排斥セシニ非ズシテ或ル神道社流ガ我國ノ古風ニ背キ潔白ナル本色ヲ失ヘ君子ノ惡メル紫ノ朱ヲ奪フノ振舞ニテ本道ニ不潔トスル遠路ニ彷徨ス此等ノ曹ニ對シ專ラ諷諭セシ所以ナリ是レ亦徒ラニ平常ノ時好ンデ排斥ノ辨論ヲ作ス可シヤ上陳ノ如ク今日ハ異教暴威ヲ逞フシ耽々爪牙ヲ磨シ來テ我本領ヲ擱裂齒掠センズル非常ノ時機ニ臨ミタレハ默止ニ忍ビズ滿腔ノ熱血ヲ吐露セシ所以ン耳倘シ此秋ニ際シ因循姑息ニシテ弊執ヲ撤去セズ神佛ノ事務ヲ混淆シ

其教理ヲ紛雜セシメ有ラバ外教モ之ニ準擬シ事務ト教理ヲ牽強附會シ神佛ノ事務ヲ奪却セシメントシテ競爭軋轢シ滿天下ノ神官僧侶ノ實務ヲ妨害スルノミナラズシテ全國鹽列ノ神社佛閣ヲ輕蔑セシメント必セリ故ニ今日ヨリ其實況ヲ推想シ神佛外護ノ熱淚迸出シテ此要問ニ答フル處也固ヨリ我レ神州ノ人民ナレバ何ゾ神ニ薄ク佛ニ厚キ僻見ヲ有センヤ正ク朋友ノ信誼ヲ以テ難面ヲ犯シテ忠告セシ者ト諒恕セラレ可シ見ヨ我神佛ノ相親ミシテ遠ク民心ヲ相養ヒシテ久シク神德佛恩ヲ相施セシコト深キヲ此厚キ因縁ヲ相感ジテ各自ニ事務ヲ分擔シ陪々雍睦シ提携シテ護國利民ノ實ヲ擧ゲンコトヲ樂欲セザル可ラズ斯ノ如ク樂欲スルヲ眞ノ敬神崇佛家ト云フ若シ事務ヤ教理ヲ紛淆シ相妨障シ相反目セシムルハ神佛ノ本志ニ非ズ國家ノ爲ナラズ斯ノ如キ匪望ヲ懷ク者ヲ神佛ノ不敬者ト云フ予ハ謂ユル眞實ノ敬崇心ヲ發揮セシメン爲ニ左ニ神佛分擔及ビ擴張ノ要領ヲ摘示セントス初メニ神道家ノ擔任及ビ擴張ノ大綱ヲ擧グレバ

第一條 我國民ヲシテ故ラニ神道講社トナシ我國開關ノ諸神ヲ敬信セシメ以テ異教ノ神ヲ崇拜セシメザルコト(三條教憲ノ敬神ノ義ヲ貫徹セシムルノ意)

第二條 古道ヲ開通シ古風ヲ恪守シテ一國獨立ノ氣象ヲ養成スルコト(三條教憲ノ愛國ノ義ヲ貫徹セシムルノ意)

第三條 古例ノ祭祀ヲ盛ニスルニ止ラズ更ニ尙神典ヨリ時機ニ適スル神事ヲ發揮スルコト(本論ノ要旨)

次ニ佛教ノ擔任及ビ擴張ノ大綱ヲ擧グレバ

第一條 火急内國各宗ノ檀徒ニ普ク我眞理的ノ安心法ヲ授クル事

第二條 異教ノ檀徒我郡村ニ來住スルトキハ其宗意安心ヲ討究シ若シ不眞理ヲ信ズルトキハ大悲ヲ發シテ我眞道ヲ開示シテ悟入セシム可キコト

第三條 外教ノ教會開設ヲ防ガン爲ニハ今日ヨリ各宗ノ中管長制度ナル者モ別ニ變則ヲ制定シテ普ク末山若干ヲ合シテ教會ヲ開設シ檀徒ヲ會衆ト爲シテ法施ヲ行フ可キ事

以上神佛ノ擔任スル處ハ既ニ陣腐ニ屬セシ條項ナレドモ一條トシテ現行シ貫徹シアルヲ見ズ是レ今人ガ神ヲ敬スル誠ナク佛ヲ崇ムル信ナキガ故ナリト觀察ス故ニ當然ノ事ヲ擧ゲ故ニ敬崇ヲ勸メテ其振興ヲ望ム所以ナリ謂ユル神ノ第一條ニ對シテハ今人ガ篤ク我國ツ神ノ草昧開拓ノ大勳勞ヲ感ゼザルヨリ誠敬ノ念薄ク毎朝ノ神拜ヲ倦怠シ且ツ他神ヲ妄信スルニ至ルヲ以テ專ラ神道本義ニ據テ講社ヲ結ビ純粹ノ敬神ヲ教示スルニ在リト云フノミ其第二條ニ對シテハ古代ノ美風ヲ維持スルノ丹志ナキ故新規奇怪ノ天理教會等ヲ捏造シ之ヲ統一ノ神道ト唱ヘテ愚人ヲ誘惑スルニ至リ乃シヒ元來神道ニテ不潔トシタル葬祭ヲ擴張シ先皇ノ遺詔ニ悖戾シ親密ナル神佛ノ間ニ墻壁ヲ築カシム尤モ神道教導職ハ葬祭ヲ官許セラレタリト云フ可シト雖今ノ政事ハ心思自由ノ權利ヲ與フ故ニ神道ノ本義ニ適スルヤ否ニ關セズ裁可スル所也然レバ神道家ガ政律ノ許スカ

ギリニ於テ本來ノ純潔ナル神道ノ主旨ヲ捨テ自製ノ新道ヲ主張セントスルハ甚ハダ本分ニ背クニ非ズヤ然ルニ或ル神道家ガ云ク神道トハ神惟ノ道ナリ神惟トハ神意ノ隨意々々改新スルノ義アリテ吾人ガ新道ヲ建立スルモ即神慮ナレバ豈カ本義ニ背クコトアルコトナシト饒使ヒ新宗ヲ立テ弘通センモ古典ニ據リタル神道ニ非ルガ故ニ便チ宗教部内ニ投入シテ諸宗教派ノ論破スル所トナラン何ントナレバ今ノ世ニ賢聖ノ德ナキ凡夫ノ製作スル處ノ宗ナレバ也故ニ予ハ神道ヲバ神ノ無爲ノ德行ヲ以テ我國ノ道トナシタル義ト了解シ今人ノ自意の新道ヲ開通スルハ純正ノ神道ニ非ル可シト確信スルガ故ニ只管古道ノ維持ヲ神道ノ各管長ニ熱望シテ止マザル所以也(教理的ノ判然)其ノ三條ニ對シテハ現今外教徒内地開放ノ時機ニ乘ジテ神州ノ古道ヲ蹂躪スルノ趨勢ナレバ神道家ハ古代ノ美風ヲ隆興セシメ之ガ流毒ヲ豫防センコトヲ望ム所以ナリ謂ユル古代ノ美風ヲ興隆ストハ即諸冊二神ノ妹背ノ道ノ正キニ倣ヒ結婚ノ禮祭ヲ制定シテ外教ノ指環授與式ヲ防ギ出產氏神詣ノ古例ニ則リ其祝祭ヲ制定シテ外教ノ出產洗禮式ヲ防ギ亦正五九ノ日待月待ハ神道家ノ創業ナレバ之ヲ天下ニ普及シ且ツ連月三日(朔日十五日二十八日也)ノ鎮守參ノ古風ヲ盛大ニシテ攘災招福ヲ祈リ以テ外教ノ祈禱ヲ防グベシ此佗神典古例ヲ探レバ神佛並ビ行ハレテ相悖ラザル處ノ純正ノ祭事振興スルヲ得ベシ爾レバ敬神至誠ヲ以テ之ヲ探究シ之ヲ舉行シ國ヲ衛リ道ヲ保ツベキコト今日神道家ノ緊急要務ナラズヤ次ニ佛ノ第一條ニ對シテハ我國各宗ノ檀信徒ニ於テ已ガ檀那

寺ノ宗意ヲ知り信行スル者ハ日宗ト眞宗トノミ餘宗ハ自家ノ大意ヲ辨ヘタル者幾ント希レニシテ晨星モ管ナラザル可シ今ヤ内邦雜居ノ時機外教膨張ノ際ナレバ是ヲ防グノ準備トシテ第一着ニ各自ノ檀徒ニ普ク宗意安心ヲ授ケザル可ラズ若シ之ヲ忽諸ニ附シ去ラバ千丈ノ堤塘モ螻蟻ノ一穴ヨリ缺壞スルノ憂ヒ有ラン豈速ニ警戒セザル可ンヤ其第二條ニ對シテハ我佛敎ノ眞理ヲ以テ外教ノ妄安心ヲ破リ全世界ノ人ヲシテ眞理的ノ智德(妄想的ノ道徳ト反ス)ヲ圓備セシムルヲ要スル也近クハ四隣ノ異人ヨリシテ遠ク外邦ニ及ボス可ハ其順序ナリトス夫レ内國ノ法將ハ先ヅ法城嚴護ノ良策ヲ立テ法卒ヲ指揮スルノ宜キヲ得ザレバ本城本領ヲ占領セラレ、ノ虞ナシトセズ銳意此ニ注目セラレンコトヲ望ムナリ其第三條ニ對シテハ外教ノ教會ヲ布設セザル已前ニ於テ各宗普ク教會ヲ結成シ三ヶ寺以上ヲ一教會トシ其住職ヲ役員トナシ(會長會計布教師等也)其檀徒ヲ會衆トシ本山即教會本部ニ於テハ宗乘ノ講義錄及ビ說教演說集ヲ發行シ其支部ニ配布シテ有學無學辨才不辨才ニ係ハラズ僧侶タラン者ハ布教ニ從事スルコトヲ得ラル、便宜ヲ與ヘ且ツ宗學林ニ於テ完全ニ本科卒業シタル者ヲ巡教師トシテ年一二回以上巡化セシムレバ則外教ノ常在宣教師ト對峙シテ護法精進力ヲ角ヅルコトヲ得ベシ若シ今日モ從前ノ如ク單ニ本山撰拔ノ巡教師ノミヲ以テ外教ノ侵掠ヲ防禦スル事トセバ年一二回ノ巡教ナル故一日暖メテ十日冷カナラシムルノ古言ノ如ク其利益ナキノミナラズ彼ノ常在宣教師ノ感化力ニハ到底抗敵ス可ラザルヲ論チ待タズ是ヲ以テカ教會

支部ノ各寺住職ヲシテ教師補タラシメ會衆即チ檀徒ニ對シテ少クモ連月三日以上ノ布
 教演說講話ヲ勤メシムルノ方法ヲ施スニ在リ予ハ經驗上滿天下ノ法城ヲ嚴護スルノ良
 策ハ之ヲ措ヒテ佗ニ求ム可ラザルヲ斷言スル者也若シ是ヲシモ實施スルヲ好マズ或
 ハ實踐セザル僧侶ハ實ニ佛教ノ大難事變ノ今日ニ於テ一寺ニ住職セシメ其檀徒ノ能化
 主タルヲ許ス可ラザル者ナラズヤ其内外布教等ノ財源論ハ以下佛教前途ノ通塞ノ問題
 ニ讓ラン耳已上神佛ノ一大事業ノ成否如何ンハ全ク敬崇ノ厚薄ニ基因セルヲ以テ我カ
 神官僧侶ハ宜ク敬崇ノ信念ヲ深厚ナラシメ佛神ノ興業ニハ如何ナル艱難ヲモ耐忍シ鞠
 躬盡力シテ上ハ社寺保存ノ朝旨ヲ補翼シ四海靜平ニ帝室尊嚴ニ國家富強ニ同胞ノ福德
 ヲ増進シ社會ノ弊風ヲ矯正シ人天四聖(五倫五常ハ人ノ道十善禪定ハ天ノ道苦空ハ聲
 佛ノ道)ノ道ヲ開通シ内外ノ衆生ヲノ涅槃ノ樂域ニ遊バシメ我國ヲシテ高天ノ原トナシ
 我民ヲシテ清潔ナル神トナシ即神留リ在マス會敬國トナサシメント只管至心丹誠ヲ
 抽ジテ神佛ヲ敬崇スルヨリ成就セルコトヲ信メ疑フ可ラザル者也是レ全論ノ概要
 ヲ簡明センガ爲ニ辨解スル所ナレバ教相ニ謂ユル拈拾ノ教ナリ見聞ノ人以テ煩重ノ說
 トナス勿ランコトヲ乞フ

問テ云ク 末法澆季ノ魔風ハ佛ノ法燈ヲ吹ヒテ將サニ消滅ニ歸セシメントスル猛烈ノ
 勢ハ一年ニ加ハル者ノ如シ剩サヘ内地開放ノ時ニ際シ妖雲宇宙ヲ閉鎖シ法界ハ暗澹
 タル景狀ヲ呈セリ此秋ニ當ツテ顯正ノ玻璃障ヲ研磨シ三寶ノ燈光ヲ炳焉タラシメ妖雲

ノ冥際ヲ闢キテ以テ龍華三會ノ曉光ニ對照セシムル一大責任ハ夫レ惟釋門ノ寺檀ニア
 ラン耳其テ欽承ス眞諦ノ三寶ハ天然ノ性德ニシテ太虛ト均シク常住ニシテ起盡ノ相ア
 ルコトナリ俗諦ノ三寶ハ時世ノ風俗ニ隨テ遷變興廢ナキ能ハザルヲ爰ヲ以テ吾人ハ令
 法久住ノ籌策ヲ講明スルハ今日ノ時機ニ在ランコトヲ信認セリ依テ茲ニ佛教前途ノ通
 塞ヲ質問シテ將來天魔ノ將卒ナル排佛家ヲ化導スルノ資料ニ供セント欲ス是亦爲國爲
 法ノ熱誠ヨリ迸出セシ問題ナルヲ以テ實際ヲ照察シテ釋門ノ興廢ニ關スル原因結果ヲ
 詳說シ玉ハンコトヲ乞フ

答テ云ク 各自ノ心性ニ法身般若(智慧)解脱ノ三德アリ是ヲ眞諦ノ三寶ト名ク其三
 德ヲ形相ニ彰ハシテ佛像(法身ノ相)經卷(智法ノ相)僧衆(解脱ノ相)ト爲ス是ヲ俗諦ノ
 三寶ト名ク此俗諦ノ三寶ハ釋尊在世ニ創立シテ其當時威儀嚴正ニシテ眞諦ニ合ヘ最モ
 盛大ナリ釋尊入滅ヲ距ルコト漸ク遠シテ漸ク威儀壞亂シテ眞諦ニ背馳シ僧德修マラズ
 經卷ヲ拜セズ佛像ヲ尊マザルニ慨ンデ煩惱業苦ノ三道ニ轉タ迷入シ本性具德ノ三寶ヲ
 忘却シ世道頹敗ノ極ニ至ル是ヲ末法澆季ト云フ今ヤ末法ニ入テ幾ント一千年ナリ此時
 ニ方ツテ挽回ノ策ヲ立テ之ヲ維持スレバ更ニ各自本性ノ三德顯發ノ三寶住持ス爾ルト
 キハ衆ノ苦世界變ジテ安養國ト成ル若シ是ヲ世情ノ趨勢ニ任セタランニハ各自ハ性德
 ヲ失ヒ自煩惱業苦ニ身心ヲ纏縛シテ安樂世界變ジテ苦具土ト成ル怖トニ三寶ノ興廢ハ
 世界ノ消長ニ關ス故ニ今日住持ノ三寶稍々弊塵ニ埋没セルヲ探掘シテ能ク之ヲ洗滌シ

本來ノ光明ヲ炳耀セシメバ現在ノ國土ハ七寶莊嚴ノ淨刹ト化シ衆民ハ悉ク聖賢トナリ
 寶樹ノ華頻伽ノ聲ニ快樂ヲ極ムルニ至ラン否ナ真ノ文明世界ニ開化センコト疑ヒナシ
 之ニ因テ貴子ノ所問ノ通塞ノ二字ハ佛道開通ノ方法ヲ講明スルノ便宜ナルヲ以テ本論
 ノ骨子トナシ興隆法ニ順フヲ通トナシ衰廢方ニ順フヲ塞ト爲シ初メニ寺檀ノ名稱ヲ解
 釋シ其本分ヲ證明シ其盡ス處ヲ指示セントス
 夫レ今ノ寺ナル者ハ梵ニ僧伽藍摩ト云フ此ニハ衆園ト云フ五分律ニ云ク餅沙王佛世尊
 ノ爲ニ迦蘭陁竹園ヲ施スヲ始トス園トハ生殖ノ所也佛弟子之ニ居テ道本聖果ヲ生殖ス
 ルノ義ヲ取ルト云フ寺トハ漢土ニテ名クル處也釋名ニ曰ク寺ハ嗣ナリ謂ク事ヲ治ル者
 其内ニ相ヒ嗣續スレバ也故ニ天子ニ九寺アリト後漢ノ明帝永平十年丁卯佛法初テ至ル
 印度ノ二僧摩騰法蘭アリ白馬ヲ以テ經像ヲ馱セテ洛陽ニ届ル勅シテ鴻臚(鴻臚ハ即寶
 ヲ司ルノ寺也鴻臚ヲ傳フルノ義也)寺ニ於テ安置ス十一年戊辰ニ至テ勅シテ雍門ノ外
 ニ於テ別ニ寺ヲ建テ以テ白馬ヲ以テ名ト爲ス即チ漢土ノ佛寺ノ始メナリ次ニ人皇三十
 代 欽明天皇佛像經卷ヲ大臣蘇我稻目ニ賜フ稻目ハ向原ノ家ヲ喜捨シテ精舍(道行ヲ
 精練スル者ノ舍也)トナシ三尼ヲ置ヒテ三寶ヲ安ズ是レ日本佛寺ノ創メ也然レ者則チ
 寺トハ佛法僧ノ三寶ヲ安置スル所ニシテ是レヲ以テ真諦ノ三寶ヲ發揮シ檀信人人ノ心
 性ニ具ハル三德(法身般若解脱)ヲ指明シテ法身ノ佛果ニ到ルノ大道ヲ教示スルノ道
 場ナリ故ニ菩提所ト云フ菩提トハ真道ナリ(道トハ須臾モ離ル可ラザル義)三世ニ涉ツ

テ衆生ニ真道ヲ開示スル所ノ義也亦檀家ノ曹善根ノ秧苗ヲ殖種シテ三寶ノ加護ヲ享ケ
 三世ノ大福果ヲ聚メテ獲得スル所ナリ故ニ寺ヲ福田ト云フ檀家ノ精靈佛果菩提ヲ證得
 スル爲ニ三寶ヘ香華ヲ供養シ或ハ回向料ヲ奠供スル所ナリ故ニ香院華ト云フ是ノ如ク
 寺ノ名分ヲ明白ニセルハ寺ノ何ンタルヲ知ラシメ僧俗俱ニ内外ヨリ保護セシメント欲
 スル所以ナリ次ニ寺ニ本末アリ譬ヘバ本寺ハ人ノ頭ノ如ク末寺ハ人ノ手足ノ如シ亦
 本寺ハ心ノ如ク末寺ハ全體ノ如シ故ニ本末ノ身心一致セザレバ完全ノ活動ヲ爲ス可ラ
 ズ頭足亦タ分離シタランニハ死物ニシテ何ノ用ヲ作サンヤ方ニ今關邪顯正ノ實ヲ擧ゲザ
 ル可ラザル時機ナレバ盡ク同心一體ヲ望マザル可ラズ却說本寺ハ末寺ノ精神ト也末寺
 ノ身體ヲシテ臨機應變ニ使用シテ我が本領及ビ法城ヲ守護セザル可ラズ則一宗ノ中若
 シクハ頭部(本山)若クハ腹部(取締)若クハ手脚部(末山)ニ病傷アルヲ認メバ速カニ之
 ヲ療治シ健全ナラシメ活用ニ供ス可シ茲ニ佛教本末一體健全ノ身ヲ以テ實施實行ス可
 キ要點ヲ列舉スベシ先ツ布教ス可キ種類ハ一ニ院内感化策(徒弟及ビ近事女ノ子弟ニ
 院内ヲ清潔ニシ檀徒ニ對シテハ家)二ニ在家布教策(今時ハ弊習久クノ聽法ノ人容易
 庭教育ノ善鑑トナサンコトヲ要ス)三ニ在寺院ニ來ラズ殊ニ家業世務ニ
 覇絆セラレテ本意ニ非ズシテ來聽セザル者モ亦多シ爲ニ在家ニ親臨シ)三ニ海陸軍布
 テ說教法話ヲ勤ム亦タ世務ヲ防障セザラン爲ニハ夜會ヲ開クニ在リ)三ニ海陸軍布
 教策(砲彈ニ觸ル、ヤ骨碎ケ肉飛ビ靈魂宇宙ニ泣ク或ヒハ艦艦覆スルヤ轉瞬間ニ無
 數ノ兵馬滄海ニ沈沒シテ幽鬼黃壤ニ迷フ之レガ爲ニ安心法ヲ授ケ且ツ國家的ノ

義勇決心ヲ奮起) 四ニ海外弘教策 (海外ニ弘教センニハ其弘教セント欲スル外國ノ人セシム可キナリ) 子ヲ徒弟ニ貫ヒ受ケ我ガ佛學林ニ於テ修學セシメ之ヲ其本國ニ派遣ノ布教セシム而シテ日本僧其國ニ往キ布教ス) 五ニ外人來住者布教策 (我佛教ノ平等大悲ノ妙法ヲ以テ侵略的ノ交接心ヲ制) 六ニ檻獄懲役場布教策 (一ノ利慾ノ爲ニ罪業ヲ造リ現在政事のノ法律ニ於テ其罪業ヲ償フガ如クナレドモ心法ニ依ルトキハ罪惡ノ心ヲ改過セザレバ未來ノ苦果免レ難キ義ヲ示シテ之ヲ感化ス) 等ナリ此ノ布教ノ勢力ハ世間ノ胎内家庭社會ノ教育ヨリシテ出世間ノ教育ニ及ブナリ謂ユル胎内ノ教育ハ觀音大悲ノ二求兩願 (普門品ノ福德智慧ノ男子及ビ端正有相兩願) 德本衆人愛敬之女子ヲ授ケ玉フノ兩願也) 二據リ嗣子ヲ求メンガ爲ニ大悲ノ尊容ヲ恭敬シ供養スル信誠ヨリ善男善女ヲ生ムノ法理ト精理トヲ會通シテ之ヲ利潤ス可シ次ニ家庭教育ニハ四恩五戒十善ノ法ヲ國家的ニ橫説堅説ス可シ次ニ社會教育ニハ一心十界異跡同心ノ旨ヲ本躰トシテ倫理ヲ明ニシ道徳ヲ崇ム可シ出世間ノ教育ニ至テハ各宗專門ノ安心法ヲ施スト常ノ如シ是レ佛敎ハ學校教育外ニ於テ斯ノ如キ數種ノ教育ヲ負擔スルコトヲ知テ必要ノ經典ヲ學ビ德行ヲ修シ布教ヲ怠ル勿レ (布教方法ハ教會ニテ適切ニ之ヲ議定ス) 次ニ法務ハ宗祖忌開山忌及ビ檀家ノ法會ヲ盛ンニシ尙ホ國家的ニテ歷朝ノ天皇ノ尊儀ニ對シ戰亡ノ群靈ニ對シ年々法要ヲ慰勸ニ營ム等是レ也是レハ大本山等ハ己ニ恒例トシテ勤修スル所ナレトモ末山ハ未ダ勤修セザル者多シ故ニ予ハ治テ天下ノ末山ニ行ハシメンコトヲ欲スル也何

ントナレバ外教ハ此ノ如キ我ガ佛敎ノ缺點ヲ窺ヒ即チ外教徒ハ普ク此法會ヲ營ミ我國躰ニ同化セント假面ヲ被ムリテ我法門ヲ冷淡也ト批毀スルノ憂ヒアレバ也次ニ興學費布教費ノ財源ハ寺ノ地領ト僧ノ技能ト檀信施トヨリ涌出スル者ナルヤ勿論ナリ爾ルニ此財源ナル寺ノ地領。僧ノ技能。檀信ノ施。ニ弊害年久フシテ漏出ヲ防障スル者アリ之ヲ決開スルノ利鋤ハ本山ニ於テ之ヲ鍊磨シ官許ヲ得テ之ヲ末山ノ僧侶ニ授ケテ防障ヲ鋤去シ財源ノ流通ヲ宜クシテ本山ニ溯洄セシムルニ到ラシメザル可ラズ謂ユル利鋤トハ如何ン曰ク一ニハ寺地入附改良制二ニハ僧家相應ノ營業ヲ授クル制三ニハ檀信徒ヘ及ボス宗則ナリ謂ユル寺有地ハ元來ノ入附低廉ニシテ而モ檀徒之ヲ受作シ情實上改良シ難キノミナラズ滯納者モ頗ル多ク住職者之ヲ整理セントスレバ寺檀不和ヲ醸ス患ヒノアルアリ故ニ之ヲ改良スルニ二法アリ一ニハ檀家外エ入附クルコト二ニハ寺檀ノ關係ヲ離レテ地主小作ノ關係ト爲スコト是レ也亦檀家ハ寺財產ヘ關涉シ修堂料ニ詫シ之ヲ檀家ニテ借受ケ漸々利子ヲ滯納シ終ニ元金ヲ消耗セシムルアリ亦タ檀家集會ノ飲食料トナノ三寶物ヲ浪費ス等ノ弊害多シ故ニ之レガ制規ヲ立テ土地ノ賣買ニ對シテハ檀家關涉ノ權アリトスルモ其收穫ニ對シテハ決シテ關涉セシメザル様嚴制ス可シ次ニ住職者ハ貢金宗納修堂ノ義務アルヲ以テ寺有ノ收穫及ビ土地入レ附ノ權利ヲ有セシム可シ而シテ住職者ノ浪費ヲ防ガン爲ニハ管長ニ對シテ應分ノ盟約ヲ爲サシム可シ之ヲ寺有地ニ對スル改良制ノ議案トス二ニ僧家相應ノ營業ヲ授クル制トハ僧家ハ卑

劣ノ職業ヲ營ムコトヲ得ズ故ニ本山ニ於テ一定ノ營利的ノ職業ヲ立テ官許ヲ得テ末山ノ僧侶徒弟近事女及び子弟ニ之ヲ司ラシメ之ヲ營マシメテ其利潤幾分ヲ以テ諸般ノ宗費ニ充テシム(東京池ノ端ノ錦袋園ノ如キ賣藥)近來ハ末山ニノミ宗納及び諸稅諸費ヲ負擔セシムルヲ以テ僧家ハ漸々ニ疲弊シ扶宗護法ノ餘力ナク終ニ不道德ノ者ヲ輩出セシメテ佛教ノ体面ヲ辱カシムルニ到ル是レ元來出家修道ノ爲トシテ產業ニ從事セシメズ清貧ヲ旨トナサシメ或ハ檀施ノミニ依頼セシ習慣ヨリ近世ノ僧ハ何ノ功能技倆モナクシテ世營ヲ薄シシ位素餐スルヨリ世ニ衣桁飯袋天下ノ贅物ト迄見做サル、ニ至リ乃ヘ世間窘迫シテ檀施減少シ學費ナク布教費ナク世間ノ開進ニ後レ剩サヘ衣食ニ缺乏ヲ告ゲテ今日ノ活計ノミニ汲々スル者多シ爭テカ奮起メ爲國爲法ノ運動ヲ作スコト得ンヤ爾レバ則テ資生產業不違菩提ノ大乘說ニ據リ本山宜シク法ノ爲ニ末山ニ營業ヲ授クルニ及カザル可シ是レ一舉二利ノ說ナラズヤ三ニハ檀信徒ヘ及ホス宗則トハ檀信徒ノ名分ヲ有スル限リハ宗則ヲ以テ管理セザレバ却テ寺院ノ妨害ト成ル者アリ故ニ檀家ノ權利義務ヲ明カニシテ宗則ノ條項ニ於テ義務ノ多少ニ依テ權利ノ有無ヲ甄別ス一ニ修堂金並ニ護法金トシテ年々大本山及ビ檀那寺ニ若干ノ獻金ヲ爲ス者二ニ者葬祭年忌回向料ノミヲ布施スル者ノ三種ニ區別シ即大本山ト檀那寺ニ獻金スル檀徒ヲ大檀那ト稱シテ本末ニ於テ之ヲ優待及ビ褒賞ノ宗制ヲ立ツベシ次ニ己ノガ檀那寺ニノミ獻金スル者ヲ特別檀徒ト名ケ其寺

ニテ待遇ノ法則ヲ立ツベシ次ニ葬祭等ノミヲ依頼スル者ヲ通常檀那ト名ケ是レハ年々修堂及ビ護法ノ義務ナキヲ以テ教會支部ニ對シテ權利ナキ者トス就中寺院ニ格別ノ勤功モナクシテ種々ノ奸策ヲ廻ラシ寺院ニ損害ヲ被ムラシムル者ハ速ハ離檀ヲ命ゼシム現今既ニ暴惡ノ檀徒有テ寺院ニ小利ヲモナサズ大害ヲ被ムラシムル者尠ナカラズ尙ホ將來外教蔓延スルトキハ信心ヲ彼レニ運ビ是レガ檀籍ニ在テ是ノ寺僧ニ對シテ害意ヲ逞フスル者ナシトセズ是等ノ曹ヲ制伏スル爲メ宗則ヲ以テ權利義務ヲ甄別スルノ必要アリ是ラハ己ニ各宗ニ於テ制規ヲ立テタル如シト雖モ之ヲ活潑銳利ニ實行セザルトキハ何ソノ益カアラシヤ是等ノ改良法ヲ以テ寺院ノ財源ヲ確實ニシ之ヲ整理シ修堂費與學費布教費ニ充テントコトヲ計畫ス可シ些々タル貧道ノ衣鉢ノ料ヲ割ヘテ今日内外ニ向ツテ佛教ノ一大事業ヲ起サントスルハ到底貫徹セザル者ト信ズル也爾レバ本山ナル者末山ノ僧侶ニノミ宗費ヲ賦課シテ些サカノ金圓ヲ得テ以テ今日ノ經費トシテ足レリトスルハ實ニ消極的ニシテ大法ヲ衰滅ニ歸セシムル者也豈佛教ノ爲ニ惜マザルヲ得ンヤ予が見聞スルニ外教ハ宣教師ニ自家ノ書典ヲ發賣セシメテ巡教費トナシビル人ニ對シテハ裁縫等ニ從事セシメ信徒ニハ勸誘シテ宗費ヲ補ハシム等感化ノ至ラザル處ナシ是則今日ノ眞ノ宗教者ナリ眞ノ信教徒ノ本意ナラズヤ若シ然ラザレバ眞ノ宗教者ニ非ズ眞ノ檀信徒ニ非ズ其宗門中ニ置ヘテ害有テ益ナシ然レバ今日ノ我佛門ノ寺檀タル僧侶ハ宜ク外教徒ノ品行ヲ見テ己ノ不本意ナルヲ反省シ慙愧シ悔悟シ彼ニ倣ヘ身命財產ヲ法

ノ爲國ノ爲メ己レガ安心立命ノ爲ニ獻供スルニ吝カナラザル可シ此財施ヲ受ケンニハ
 本山ハ須ラク時機適切ノ宗則ヲ建テ末山ニ法ヲ施シ末山ハ之ヲ傳ヘテ檀家ニ施ス可シ
 則チ宗則宗意ノ法源ハ本山ニ在レバ也若其法ノ源流ヲ壅塞スル者アレバ速ニ利鋤ヲ以
 テシ本山ノ法源ヨリ滔々トシテ末山檀家ノ財田ニ信水ヲ流注シ淨財ノ結果ヲ收得シテ
 天魔降伏法城嚴護ノ資糧ト爲ス可シ否上陳ノ六種ノ布教費ヲ補充ス可シ是レ今日ノ本
 末寺院住職ノ神速ニ實施實行スベキ要法ナラズヤ
 次ニ檀家ノ名義ヲ釋セバ要覽ニ曰ク梵語ニハ陀那鉢底唐ニハ施主ト言フ今檀那ト稱ス
 ルコトハ陀ヲ訛シテ檀トナス鉢底ヲ去テ那ヲ留メタリト謂ユル施主トハ慳貪ノ意ナク
 他ノ富榮ヲ嫉妬スル意ナク鰥寡孤獨癡疾貧賤ノ苦ヲ救フノ慈悲心ヲ以テ財寶ヲ喜捨シ
 其功德ニテ大福果ヲ招グ者ヲ云フ故ニ思大乘論ニ云ク慳貪嫉妬及ビ貧窮下賤ノ
 苦ヲ破スル故ニ陀ト稱ス後ニ大富ヲ得及ビ能ク福德ノ資糧ヲ引ク故ニ那ト稱スト謂ユ
 ル福德ノ資糧トハ福智ヲ得ルノ資本ナリ福智ヲ得ンニハ善知識ノ法施ヲ受ケザル可ラ
 ズ謂ユル善知識ノ法施ヲ行フ道場ハ檀那寺也即チ己ノガ菩提所ヲ檀那寺ト稱スルハ法
 施ノ義ニ由ル檀家トハ檀那ノ家ノ約ニシテ財家ノ義也故ニ財施法施ハ寺檀ノ本分ナリ
 即チ一世ノ財寶ヲ以テ萬代ノ福智ノ珍寶ヲ買フ者也謂ユル一世ノ財寶トハ人間畢生ノ
 所有物ニシテ臨終ノ時ハ未來世ニ携提シ去ル能ハザル財物也只愛子愛孫ニ遺物トナス
 物ニシテ子孫之ヲ維存セザルモ管理スル能ハザル所ノ財ナル而已即チ未來世ノ爲ニハ

現生中ニ爲シ得ル限り財寶ヲ以テ善根ヲ營ミ即チ福智ノ珍寶ヲノミ具有シテ逝去スル
 者ナルコトハ如何ナル愚不肖ノ輩モ辨ヘ得ラルハ條理ナリ宗ノ司馬溫公ガ家訓ニ曰ク
 金ヲ積テ以テ子孫ニ遺ス子孫未ダ必ズシモ守ラズ書ヲ積ンテ以テ子孫ニ遺ス子孫未ダ
 必ズシモ讀マズ不^レ如陰德ヲ冥々ノ中ニ積ミ以テ子孫長久ノ計ヲ爲サンニハト其言富
 ル哉人世百歳ヲ以テ之ヲ大觀スレバ唯德ノ厚薄積善多寡ニ因テ禍福變遷榮枯盛衰掌ヲ
 反スガ如ク因果應報ノ理實ニ井然タルヲ見ル可キノミ爰ヲ以テ須ク知ル可シ來生ノ福
 智ヲ求メンニハ一世ノ財施ヲ吝惜ス可キ者ニ非ルコトヲ偕檀那ヲ亦タ檀越ト稱スルニ
 付キ二字俱ニ梵語トスルアリ又ハ檀ヲ梵語トシ越ヲ漢語ト爲スノ二義アリ名義集ニ謂
 ヲ越ルナリト乃チ施因ハ富果ヲ得ルガ故也(是ハ梵漢雙舉ノ義)次ニ義楚六帖云梵語ノ
 檀越ハ達^{ダツ}囉^ラナリ此ニ翻ズレバ財施ト云フ俱舍論ニ云ク檀者施也越者度也ト長水ノ楞嚴
 ノ義疏云檀越此^コ翻^ス施者(己上一證ハ共ニ梵語也)ト是レ繁重ノ嫌ヒアレドモ檀家ノ名
 分ヲスラ辨ヘザル者多ケレバ之レカ爲ニ茲ニ贅辨スルノミ己上解釋スルカ如ク檀家ノ
 名義タルヤ清淨心ヲ以テ財寶ヲ喜捨スルノ謂ヒ也即チ喜捨スル場所ヲ定メテ寺院ナルコ
 ス寺院ノ異名ヲ福田ト云フ善根ノ因種ヲ下シテ福果ヲ收得スルノ地所是即寺院ナルコ
 ト前説ノ如シ何ニガ故ニ福田ト云フ曰ク寺院ニハ佛法僧ノ三寶アリテ恭敬供養スレバ
 幸福ヲ受クルガ故ニ(三福田ノ中三寶ハ敬田也)問フ近來ノ無學無德ノ僧ヲ何ゾ三寶

ノ一ニ加フ可シヤ曰ク末法灯明記(七紙已下)ニ大集經ノ文ヲ引ヘテ澆末ノ世ニ佛灯ヲ傳フル者ヲ八重眞寶ノ一ニ加フルコトヲ明セリ譬ヘバ眞金ヲ无價ノ寶ト爲ス(品上等何程ト云フ價ヒノ積リノデキヌヲ无價ト云)若シ眞金ナキトキハ銀ヲ无價ノ寶ト爲ス(ニシテヘリ寶物ノ價ヒナキトハ即チ反對ノ義ナリ)銀ナキトキハ銅鑄白銀鉛錫ヲ无價ノ寶ト爲スガ如シ即是ノ如ク一切世間ニハ佛寶ガ无價ナリ若シ佛法ナケレバ縁覺ガ无上ナリ若シ縁覺ナケレバ羅漢ガ無上ナリ若シ羅漢无ケレバ餘ノ賢聖衆ヲ以テ无上トナス若シ餘ノ賢聖衆ガ无ケレバ得定ノ凡夫ヲ以テ无上ト爲ス若シ得定ノ凡夫ナケレバ淨持戒ノ比丘ヲ以テ无上トナス若シ淨持戒ナケレバ漏戒ノ比丘ヲ以テ無上トナス若シ漏戒ノ比丘ナケレバ鬚髮ヲ剃除シ身ニ袈裟ヲ着シタル名字ノ比丘ヲ无上ノ寶ト爲ス餘ノ九十五種ノ異道ニ比シテ見レバ最第一トナス應サニ世ノ供ヲ受ケテ物ノ福田トナル可シトアリ(袈裟ノ表相功德袈裟ヲ着セ)爾レバ則今日ノ名字ノ僧侶ト云ヘドモ天耶等ノ外教諸派ノ宣教師ヨリ尊キコトヲ知ル可シ何ントナレバ身ニ解脫服ヲ着シ口ニ佛ノ正法ヲ説キ心ニ正法ヲ念ズレバ也只行證ノ未熟ナル耳即チ行證ノナキハ末法萬年ノ時機ナレバナリ自今寺檀相俱ニ省悟シテ苟且ニモ本分ヲ盡サント欲セバ幾分ノ行道成ラザル可ラズ銳意觀念ヲ凝ラセバ何ンゾ亦證果ナシト斷言シテ修證ヲ廢棄ス可シヤ斯ノ如キ道理アルヲ以テ末世ノ凡僧ト雖トモ之ヲ能化ノ品位ニ置キ檀家ハ所化ノ位地ニ立テ財施ヲ以テ修學セシメ修學料ヲ出スヲ僧ノ爲トノミ思フ可ラズ其學ビ得タル法ヲ以

テ子孫迄ノ道ノ業リトナセバ也正法ヲ傳ヘシメハ功德ヲ得ルコト世ニ比倫ナカラシ
 豈ニ歸信セザランヤ尙ホ之ニ就テ佛教檀家ノ本分ヲ知ラシメン爲ニ其概要ヲ左ニ列示
 セン

一 佛教各宗ノ檀信徒ハ初メニ三歸戒ヲ檀那寺ヨリ受ケ一心ニ十方一切常住ノ三寶ヲ敬禮シ異教ノ鬼神ヲ敬拜ス可ラズ他教ノ鬼神ハ凡ソ虛妄分別ニシテ眞ノ安心所ニ非ルガ故ナリ

一 大日本帝國ノ諸神ハ本國開闢ノ神徳アリ歷朝ノ 天皇ハ萬世愛護ノ皇恩アリ故ニ報本反始ノ赤誠ヲ挺ンジ三寶ヲ敬禮スルト毫モ差等ノ念ヲ生ズルコト有ルコト勿レ正ニ妙經ノ常不輕菩薩ノ大行ヲ信ゼバ何物カ佛ナラザランヤ况ンヤ恩徳ノ高深不測ノ神皇ニ於テヲヤ

一 檀家總代ハ檀徒ヲ誘引シテ法苑教會ニ列リ各自本宗ノ宗意ヲ諦聽シ四恩ヲ報ジ五戒十戒ノ善法ヲ受持ス可シ

一 檀家總代ハ檀信ノ善鑑トナリ自ラ財施ヲ行ヘ他ヲシテ之ニ倣ハシメ修堂シ護法シ宗ノ爲ニハ不佞財産ノ誓ヘアルヲ本分トス可シ若シ然ラザレバ有名无實タル者ナリ

一 檀家ハ施財家ノ名分ナレバ寺院財産ニ關涉シ三寶物ヲ私用スルコト萬々有ル間敷キ義ナレドモ今時ハ往々其名分ヲ知ラズ不徳義ヲ願リミズ檀徒集會シテ飲食料等ニ浪費シ或ハ檀家ニシテ些カモ寺院守護ノ志ナク自ラ修堂等ノ勸財ノ來ルヲ厭ヒ強テ住職ノ

會計ヲ割キ之ヲ儲蓄セシメ或ハ只寺録ノミヲ費途ニ充テ、土木ヲ興シ寺借ヲ成シ寺有地ヲ賣却スルニ到ルモ之ガ補助金ヲ出サズノ以テ弘教ノ勢力ヲ沮喪セシム（日本ノ佛教ハ伽藍の宗教故之ガ修營ヲ爲ノ弘教ノ勢力ヲ減ズ）而シテ異教ノ目前ニ盛大ヲ極ルヲ觀テ敢テ慚憤ノ意ナク無住ニ乘ジテ寺ノ財産ヲ擅用スル等ノ暴行殆ント怨敵ノ魔教徒ニ超ヘタル檀徒アリ是レ財施家ニハ非ズシテ滅法家ナル者也豈檀徒ノ名ヲ以テ呼稱ス可キ者ナランヤ

一飽食暖衣逸居シテ教ヒナキ檀徒ノ中ニハ寺堂ノ何ンタルヲ知ラズ之ヲ政事の民事的集會飲食遊戯等ニ濫用シ三寶ノ尊嚴ヲ侵害シ歷朝ノ皇帝陛下ノ尊儀ニ對シ奉リ己レガ祖先累世ノ精靈ニ對シ不敬ヲナシ不忠不孝不義ノ罪人ナルヲ知ラザル者アリ此レ等ノ輩ハ敬神崇佛ノ國體ニ背ケル人民ニシテ外邦ノ野蠻人ト簡譯ナキ者也惡ンゾ國ニ對シ法ニ對シ猛省セザル可ンヤ宜シク尊皇奉佛ノ志念ヲ鞏固ニシ我國ヲシテ眞文明ノ名聲ヲ流シ外人ヲシテ感化歸向セシムルハ是レ則日本佛教徒及ビ檀信徒ノ本分ナリトス

叙々陳述セル如ク佛門ノ縑素ハ舉テ内部精神ヨリシテ外部宗則ヲ改良シ銳意之ヲ實踐シ三寶ヲ捧持シテ東洋ヨリ西洋ニ涉リ南極ヨリ北極ニ跨リ到ル處六金色ノ佛旗ヲ飄シテ天魔外道ヲ盡ク降伏シ佛德ノ光輝ヲシテ燦然トシテ宇宙ノ暗冥ヲ照破セシメ一切衆生ニハ大白道ニ上ツテ徜徉自在ナルヲ得セシム是レヲ佛教前途ノ開通ト云フ若シ上

說ニ膜離シテ佛教正眞ノ大道ヲ迷出シテ魔教邪妄ノ小達ニ彷徨シ己心ノ三寶ヲ忘失シ住持ノ三寶ヲ破却シ君ヲ忘レ國ヲ售リ親ヲ遺テ子ヲ噉ヒ（子ノ體ヲ賣テ己レノ身ヲ養フハ子ヲ食フ也）友ヲ害シ逆惡天ニ漫コル是レ末世刀兵劫ニ入りタル者ニシテ則佛教前途ノ壅塞ト云フ僉衆生ガ業力ノ現象ニシテ衆生ノ惡業煩惱增長ニ順ヘ正法滅シテ無道世界トナル無道世界ニハ君臣ノ道モ有ルコトナク君臣ノ道無キニ到リシヲ即我ガ國體ノ崩壞ト云フ嗟呼夫レ法ト國ト關係ノ緻密ナル斯ノ如シ爰ヲ以テカ愛國ノ君子ハ之ヲ徹看シ我佛教ノ四恩十善等ノ正法ヲ尊信シ之ヲ外護シ國體ノ永存ヲ欣求スル所以ナリ而シテ外教ノ人權同一社會主義ノ教理ハ我ガ君臣ノ道ヲ破滅シ國家主義ヲ氓絶セシムル邪法ナルヲ鑑照セルガ故ニ彼レヲ卑疑シテ忌避スル所以ナリ夫レ佛教ノ檀信徒タル者ハ是ヲ感憤シ爲レ君爲レ國子孫安寧ノ爲ニ興法ノ赤衷ヲ挺ンゼザル可ラザル所以ナリ此奮發力ハ即チ佛教前途開通ノ一着手ナリ佛門ノ縑素全力ヲ注ヘテ興法ニ着手シ玉ヘ予此ニ熱心ニシテ多年三寶ニ獻身的ノ運動ヲナスト雖奈何ニセン天下ノ趨勢滔々トシテ一髮ヲ以テ千斤ヲ引クガ如ク隻手ヲ以テ洪水ヲ防グニ似タリ希クバ敬神崇佛國ノ善男善女爲ニ一臂ヲ添ヘ玉ヘ豈袖手傍觀シテ獨恬熙ヲ婪ル秋ナラシヤ爾時居士ト書生ノ論談略圖圓シテ相嘿對スルヲ視ソナハシ教觀子ハ用紙鉛筆ヲ合套ニ収メ椅子ヲ離レ兩所ニ對シ感歎ニ感謝ノ情ヲ述ベ畢リテ云ク兩所ノ熱心ナル宗要問答徒ラニ聞去ニ堪ヘズ鈍筆ヲ呵シ速記殆ント一週間ニシテ己ニ七輯ヲ成セリ惟ミルニ現時緊急ノ問要

ニシテ是ヲ世ニ公ケニセバ應ニ滿天下ノ僧侶檀信ニ俾益尠少ナラザルヲ知ル依^テ之^ニ予
 衣鉢ノ料ヲ傾ケテ徑チニ印刷ニ附セント欲ス因テ本書ノ題號ハ如何ンカ目ケン敢テ之
 ヲ問フト居士隨喜ノ色ヲ顯ハシ對テ云ク本論ノ如キハ近世論師ノ精粕ニシテ世人普ク
 知ル所ナレバ俾益鮮カラント欲スレドモ後進ノ曹ニハ亦一向ニ俾補ナシトモ云フ可ラ
 ザレバ速カニ之ヲ流通シ玉フニアリ却說題號ハ神佛新線路ト目ケテ可ナランカ何トナ
 レバ此線路上ノ談論ニ基因スルガ故ニ則神佛二道ヲ線路ニ改メタル所以ンハ各自目的
 地ニ迅速臻達スルノ衆機ヲ發揮セルガ故ニ神佛耶ノ三列車ヲシテ一線路ニ轉進セシメ
 バ互ニ軋轢衝突ノ禍害ヲ受ケテ目的地ニ到達スルヲ得可ラズ故ニ是レ神佛耶ノ三道教
 然標示スルノ論書ナルガ故ニ此書目ニ皇國全通ノ四字ヲ冠ムラシム可シ則チ我國ハ敬
 神崇佛ノ國ニシテ神社佛閣巍然トシテ海内ニ普ク併立セルヲ以テ更ニ外教ノ線路ヲ敷
 設セントシテ我大線路ヲ破壊シ或ハ蹂躪セラレザランガ爲ノ故ニ若シ此論書ヲ電囑セ
 ン内外ノ曹ヲバ神佛氣車ノ乘客トシテ速カニ其目的地ニ通達セシムルノ旨義ヲ顯示ス
 ルノ便宜アルガ故ニ當サニ是ノ如ク命題ス可シト教觀子之ヲ聽採シ感嘆シテ云ク妙經
 ノ大白牛車ハ其疾キコト風ノ如シト有レトモ我レ未ダ實見セザル處也然ルニ今時ノ氣
 車ヲミルニ其速カナルヤ猶彈丸ノ飛カ如シ以テ譬論立題スレバ今人一瞥シテ既ニ其要
 領ヲ知ルノ便アリ戲呼適切ナル題號ナル哉ト讚歎歎マザルトキ汽笛聽官ノ鼓膜ヲ擊ツ
 テ新橋ノ歸着ヲ報ズルヤ千客靴ヲ接ヒ肩ヲ殺ギ車室ヲ出デ東西ニ訣別ス教觀子ハ彼居

士書生ヲ追躡シテ行クニ歟焉トシテ兩所ノ身影雲煙ノ如ク消失スルヲ視拍手シテ云ク
 憑虛鳥有ノ名義本ヨリ有ニ非ルノ法躰ノ稱謂ナリキ今論談竭キテ俄然隱身セシハ即チ
 其名稱ニ背カザル所乎ト圖ラス大聲ヲ發シテ唱ヘテ云ク南无十方一切常住三寶

神州元氣終

告 文

皇朕れ謹み 皇祖 皇宗の神靈に告げ白さく皇朕れ天壤無窮の宏謀に循ひ惟神の寶祚を承繼し舊圖を保持して敢て矢墮すること無し顧みるに世局の進運に膺り人文の發達に隨ひ宜く 皇祖 皇宗の遺訓を明徴にし典憲を成立し條章を昭示し内は以て子孫の率由する所と爲し外は以て臣民翼贊の道を廣め永遠に遵行せしめ益々國家の丕基を鞏回にし八洲民生の慶福を増進すへし茲に皇室典範及憲法を制定す惟ふに此れ皆 皇祖 皇宗の後裔に胎したまへる統治の洪範を紹述するに外ならず而して朕か躬に逮て時と俱に舉行することを得るは洵に 皇祖 皇宗及我か 皇考の威靈に倚藉するに由らざるは無し皇朕れ仰て 皇祖 皇宗及 皇考の神祐を禱り併せて朕か現在及將來の臣民に率先し此の憲章を履行して愆らさらむことを誓ふ庶幾くは 神靈此れを鑑みたまへ

憲法發布勅語

朕國家の隆昌と臣民の慶福とを以て中心の欣榮とし朕か祖宗に承くるの大權に依り現在及將來の臣民に對し此の不磨の大典を宣布す

惟ふに我か祖我か宗は我か臣民祖先の協力輔翼に倚り我か帝國を肇造し以て無窮に垂れたる此れ我か神聖なる祖宗の威徳と並に臣民の忠實勇武にして國を愛し公に殉ひ以て此の光

輝ある國史の成跡を貽したるなり朕我か臣民も即ち祖宗の忠良なる臣民の子孫なるを回想し其の朕か意を奉體し朕か事を獎勵し相與に和衷協同し益々我か帝國の光榮を中外に宣揚し祖宗の遺業を永久に鞏固ならしむるの希望を同くし此の負擔を分つに堪ふことを疑はざるなり

朕祖宗の遺烈を承け萬世一系の帝位を踐み朕か親愛する所の臣民は即ち朕か祖宗の惠撫慈養したまひし所の臣民なるを念ひ其康福を増進し其懿德良能を發達せしむることを願ひ又其の翼賛に依り與に俱に國家の進運を扶持せむことを望み乃ち明治十四年十月十四日詔命を履踐し茲に大憲を制定し朕か率由する所を示し朕か後嗣及臣民及臣民の子孫たる者を以て永遠に循行する所を知らしむ

國家統治の大權は朕か之を祖宗に承けて之を子孫に傳ふる所なり朕及朕か子孫は將來此の憲法の條章に依り之を行ふことを愆らざるへし朕は我か臣民の權利及財産の安全を貴重し及之を保護し此の憲法及法律の範圍内に於て其の享有を完全ならしむべきことを宣告す

帝國議會は明治廿三年を以て之を召集し議會開會の時を以て此憲法をして有効ならしむるの期とすへし將來若此の憲法の或る條章を改定するの必要ある時宜を見るに至らば朕及朕か繼統の子孫は發議の權を執り之を議會に付し議會は此の憲法に定めたる要件に依り之を

議決するの外朕か子孫及臣民は敢て之が紛更を試みることを得ざるへし朕か現在及將來の臣民は此の憲法に對し永遠に従順の義務を負ふへし

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- | | |
|-----------|---------|
| 内閣總理大臣 | 伯爵 黒田清隆 |
| 樞密院議長 | 伯爵 伊藤博文 |
| 外務大臣 | 伯爵 大隈重信 |
| 海軍大臣 | 伯爵 西郷從道 |
| 農商務大臣 | 伯爵 井上馨 |
| 司法大臣 | 伯爵 山田顯義 |
| 大藏大臣兼内務大臣 | 伯爵 松方正義 |
| 陸軍大臣 | 伯爵 大山巖 |
| 文部大臣 | 子爵 森有禮 |
| 逓信大臣 | 子爵 榎本武揚 |

大日本帝國憲法

第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國は萬世一系の天皇之を統治す
- 第二條 皇位は皇室典範の定むる所に依り皇男子孫之を繼承す
- 第三條 天皇は神聖にして侵すべからず
- 第四條 天皇は國の元首にして統治權を總攬し此の憲法の條規に依り之を行ふ
- 第五條 天皇は帝國議會の協贊を以て立法權を行ふ
- 第六條 天皇は法律を裁可し其公布及執行を命す
- 第七條 天皇は帝國議會を召集し其開會閉會停會及衆議院の解散を命す
- 第八條 天皇は公共の安全を保持し又は其災厄を避くる爲緊急の必要に由り帝國議會閉會の場合に於て法律に代るべき勅令を發す此の勅令は次の會期に於て帝國議會に提出すへし若議會に於て承諾せざるときは政府は將來に向て其の効力を失ふことを公布すへし
- 第九條 天皇は法律を施行する爲に又は公共の安寧秩序を保持し及臣民の幸福を増進する爲に必要な命令を發し又は發せしむ但し命令を以て法律を變更することを得ず
- 第十條 天皇は行政各部の官制及文武官の俸給を定め及文武官を任免す但し此の憲法又は他の法律に特例を掲けたるもの各其條項に依る
- 第十一條 天皇は陸海軍を統帥す

- 第十二條 天皇は陸海軍の編制及常備兵額を定む
- 第十三條 天皇は戰を宣し和を講し及諸般の條約を締結す
- 第十四條 天皇は戒嚴を宣告す戒嚴の要件及効力は法律を以て之を定む
- 第十五條 天皇は爵位勳章及其の他の榮典を授與す
- 第十六條 天皇は大赦特赦減刑及復權を命す
- 第十七條 攝政を置くは皇室典範の定むる所に依る攝政は天皇の名に於て大權を行ふ

第二章 臣民權利義務

- 第十八條 日本臣民たるの要件は法律の定むる所に依る
- 第十九條 日本臣民は法律命令の定むる所の資格に應し均く文武官に任せられ及其他の公務に就くことを得
- 第二十條 日本臣民は法律の定むる所に従ひ兵役の義務を有す
- 第二十一條 日本臣民は法律の定むる所に従ひ納税の義務を有す
- 第二十二條 日本臣民は法律の範圍内に於て居住及移轉の自由を有す
- 第二十三條 日本臣民は法律に依るに非らずして逮捕監禁審問處罰を受くることな
- 第二十四條 日本臣民は法律に定めたる裁判官の裁判を受くるの權を奪はるることな
- 第二十五條 日本臣民は法律に定めたる場合を除く外其の許諾なくして住所に侵入せられ及搜索せらるることな

第二十六條 日本臣民は法律に定めたる場合を除く外信書の秘密を侵さるゝことなし

第二十七條 日本臣民は其の所有權を侵さるゝことなし「公益の爲必要な處分は法律の定むる所に依る

第二十八條 日本臣民は安寧秩序を妨げず及臣民たるの義務に背かざる限に於て信教の自由を有す

第二十九條 日本臣民は法律の範圍内に於て言論著作印行集會及結社の自由を有す

第三十條 日本臣民は相當の敬禮を守り別に定むる所の規程に従ひ請願を爲すことを得

第三十一條 本章に掲げたる條規は戰時又は國家事變の場合に於て天皇大權の施行を妨ぐることをあし

第三十二條 本章に掲げたる條規は陸海軍の法令又は紀律に抵触せざるもの限り軍人に準行す

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會は貴族院衆議院の兩院を以て成立す

第三十四條 貴族院は貴族院令の定むる所に依り皇族華族及勅任せられたる議員を以て組織す

第三十五條 衆議院は選舉法の定むる所に依り公選せられたる議員を以て組織す

第三十六條 何人も同時に兩議院の議員たることを得ず

第三十七條 凡て法律は帝國議會の協賛を経るを要す

第三十八條 兩議院は政府の提出する法律案を議決し及各々法律案を提出することを得

第三十九條 兩議院の一に於て否決したる法律案は同會期中に於て再び提出することを得す

第四十條 兩議院は法律又は其の他の事件に付き各々其意見を政府に建議することを得但し其の採納を得ざるものは同會期中に於て再び建議することを得す

第四十一條 帝國議會は毎年之を召集す

第四十二條 帝國議會は三箇月を以て會期とす必要ある場合に於ては勅命を以て之を延長するをあるへし

第四十三條 臨時緊急の必要ある場合に於て常會の外臨時會を召集すへし「臨時會の會期を定むるは勅命に依る

第四十四條 帝國議會の開會閉會會期の延長及停會は兩院同時に之を行ふへし「衆議院解散を命せられたる時は貴族院は同時に停會せらるへし

第四十五條 衆議院解散を命せられたるときは勅命を以て新に議員を選擧せしめ解散の日より五箇月以内に之を召集すへし

第四十六條 兩議院ハ各々其の總議員三分の一以上出席するに非されは議事を開き議決を爲すことを得す

第四十七條 兩議院の議事は過半数を以て決す可否同數なるときは議長の決する所に依る

第四十八條 兩議院の會議は公開す但政府の要求又は其の院の決議に依り秘密會と爲すことを得

第四十九條 兩議院は各々天皇に上奏するを得

第五十條 兩議院は人民より呈出する請願書を受くるを得

第五十一條 兩議院は此の憲法及議院法に掲ぐるもの、外内部の整理に必要な諸規則を定むるを得

第五十二條 兩議院の議員は議院に於て發言したる意見及表決に付き院外に於て責を負ふことなし但し議員自ら其言論を演説刊行筆記又は其の他の方法を以て公布したるときは一般の法律に依り處分せらるへし

第五十三條 兩議院の議員は現行犯罪又は内亂外患に關する罪を除く外會期中其の院の許諾なくして逮捕せらるることなし

第五十四條 國務大臣及政府委員は何時たりとも各議院に出席し及發言することを得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣は天皇を輔弼し其責に任す凡て法律勅令其他國務に關る詔勅は國務大臣の副署を要す

第五十六條 樞密顧問は樞密院官制の定むる所に依り天皇の諮詢に應へ重要の國務を審議す

第五章 司法

第五十七條 司法權は天皇の名に於て法律に依り裁判所之を行ふ裁判所の構成は法律を以て之を定む

第五十八條 裁判官は法律に定めたる資格を具ふる者を以て之に任す裁判官は刑法の宣告又は懲戒の處分に由るの外其の職を免せらるることなし懲戒の條規は法律を以て之を定む

第五十九條 裁判の對審判決は之を公開す但し安寧秩序又は風俗を害するの虞あるときは法律に於り又は裁判所の決議を以て對審の公開を停むることを得

第六十條 特別裁判所の管轄に屬すべきものは別に法律を以て之を定む

第六十一條 行政官廳の違法處分に由り權利を傷害せられたりとするの訴訟にして別に法律を以て定めたる行政裁判所の裁判に屬すべきものは司法裁判所に於て受理するの限に在らず

第六章 會計

第六十二條 新に租税を課し及税率を變更するは法律を以て之を定むへし但し報償に屬する行政上の手数料及其の他の收納金は前項の限に在らず國債を起し及豫算に定めたるものを除く外國庫の負擔とあるべき契約を爲すは帝國議會の協賛を経へし

第六十三條 現行の租税は更に法律を以て之を改めざる限は舊に依り之を徵收す

第六十四條 國家の歳出歳入は毎年豫算を以て帝國議會の協賛を経へし」豫算の款項に超過し又は豫算の外に生じたる支出あるときは後日帝國議會の承諾を求むるを要す

第六十五條 豫算は前に衆議院に提出すへし

第六十六條 皇室經費は現在の定額に依り毎年國庫より之を支出し將來増額を要する場合を除く外帝國議會の協賛を要せず

第六十七條 憲法上の大權に基ける既定の歳出及法律の結果に由り又は法律上政府の義務に屬する歳出は政府の同意なくして帝國議會之を廢除し又は削減することを得ず

第六十八條 特別の須要に因り政府は豫め年限を定め繼續費として帝國議會の協賛を求むることを得

第六十九條 避くへからざる豫算の不足を補ふ爲めに又は豫算の外に生じたる必要の費用に充つる爲に豫備費を設くへし

第七十條 公共の安全を保持するか爲緊急の需用ある場合に於て内外の情形に因り政府は帝國議會を召集すること能はざるときは勅令に依り財政上必要の處分を爲すことを得

前項の場合に於ては次の會期に於て帝國議會に提出し其の承諾を求むるを要す

第七十一條 帝國議會は於て豫算を議定せず又は豫算成立に至らざる時は政府は前年度の豫算を施行すへし

第七十二條 國家の歳出歳入の決算は會計検査院之を検査確定し政府は其検査報告と俱し

之を帝國議會に提出すへし」會計検査院の組織及職權は法律を以て之を定む

第七章 補則

第七十三條 將來此の憲法の條項を改正するの必要あるときは勅命を以て議案を帝國議會の議に付すへし」此場合に於て兩議院は各々其の總員三分の二以上出席するに非されは議事を開くことを得ず出席議員三分の二以上の多數を得るに非されは改正の議決をなすことを得ず

第七十四條 皇室典範の改正は帝國議會の議を経るを要せず」皇室典範を以て此の憲法の條規を變更することを得ず

第七十五條 憲法及皇室典範は攝政を置くの間之を變更することを得ず

第七十六條 法律規則命令又は何等の名稱を用ゐたるに拘らず此の憲法に矛盾せざる現行の法令は總て遵由の効力を有す」歳出上政府の義務に係る現在の契約又は命令は總て第六十七條の例に由る

●法律第壹號

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第二款 町村住民及其權利義務

第三款 町村條例

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 町村行政

第一款 町村吏員の組織選任

第二款 町村吏員の職務權限

第三款 給料及給與

第四章 町村有財産の管理

第一款 町村有財産及町村稅

第二款 町村の歳出入豫算及決算

第五章 町村内各部の行政

第六章 町村組合

第七章 町村行政の監督

第八章 附則

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第一條 此法律の市制を施行する地を除き總て町村に施行するものとす

第二條 町村は法律上一個人と均く權利を有し義務を負擔し凡町村公共の事務は官の監督を受けて自ら之を處理するものとす

第三條 凡町村は從來の區域を存して之を變更せず但將來其變更を要することあるときは此法律に準據す可し

第四條 町村の廢置分合を要するときは關係ある市町村會及郡參事會の意見を聞き府縣參事會之を議決し内務大臣の許可を受く可し

町村境界の變更を要するときは關係ある町村會及地主の意見を聞き郡參事會之を議決す其數郡に涉り若くは市の境界に涉るものは府縣參事會之を議決す

町村の資力法律上の義務を負擔するに堪へず又は公益上の必要あるときは關係者の異議に拘はらず町村を合併し又は其境界を變更することあるへし

本條の處分に付其町村の財産處分を要するときは併せて之を議決すへし

第五條 町村の境界に關する爭論は郡參事會之を裁決す其數郡に涉り若くは市の境界に涉るものは府縣參事會之を裁決す其郡參事會の裁決に不服あるものは府縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

第二款 町村住民及其權利義務

第六條 凡町村内に住居を占むる者は總て其町村住民とす

凡町村住民たる者は此法律に従ひ公共の營造物并町村有財産を共用するの權利を有し及町村の負擔を分任するの義務を有するものとす但特に民法上の權利及義務を有する者あるときは此限を在らそ

第七條 凡帝國臣民にして公權を有する獨立の男子二年以來(一)町村の住民となり(二)其町村の負擔を分任し及(三)其町村内に於て地租を納め若くは直接國稅年額二圓以上を納むる者は其町村公民とす其公費を以て救助を受けたる後二年を経る者は此限に在らす但場合に依り町村會の議決を以て本條に定むる二箇年の制限を特免することを得此法律に於て獨立と稱するは滿二十五歳以上にして一戸を構へ且治産の禁を受けざる者を云ふ

第八條 凡町村公民は町村の選舉に參與し町村の名譽職に選舉せらるゝの權利あり又其名譽職を擔任するは町村公民の義務なりとす

左の理由あるに非されは名譽職を拒辭し又は任期中退職することを得す

- 一 疾病に罹り公務に堪へざる者
- 二 營業の爲めに常に其町村内に居ることを得ざる者
- 三 年齢滿六十歳以上の者
- 四 官職の爲に町村の公務を執ることを得ざる者

五 四年間無給にして町村吏員の職に任し爾後四年を経過せざる者及六年間町村議員の職に居り爾後六年を経過せざる者

六 其他町村會の議決に於て正當の理由ありと認むる者

前項の理由なくして名譽職を拒辭し又は任期中退職し若くは無任期の職務を少くも三年間擔當せず又は其職務を實際に執行せざる者は町村會の議決を以て三年以上六年以下其町村公民たるの權を停止し且同年期間其負擔す可き町村費の八分の一乃至四分一を増課することを得

前項町村會の議決に不服ある者は郡參事會に訴願し其郡參事會の議決に不服ある者は府縣參事會に訴願し其府縣參事會の議決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

第九條 町村公民たる者第七條に掲載する要件の一を失ふときは其公民たるの權を失ふものどす町村公民たる者公權停止中又は租稅滯納處分中は其公民たるの權を停止す家資分散若くは破産の宣告を受けたるときは復權の決定あるまで又公權剝奪若くは停止を附加す可き重罪輕罪の爲め公判に付せられたるときは其裁判の確定に至るまで亦同し陸海軍の現役に服する者は町村の公務に參與せざるものとす現役以外の兵役にある者にして戰時若くは時變に際し召集せられたる時も亦同し町村公民たる者に限りて任す可き職務に在る者にして本條第一項乃至第三項の場合に當るときは自ら解職するものとす職に就きたるか爲め公民たるの權を得へば職務に在る者

にして本條第二項第三項の場合に當るときも亦同し

前項の職務にある町村吏員にして公權剝奪若しくは停止を附加す可き重罪輕罪の爲め豫審に付せられたるときは監督官廳は其職を停止することを得

第三款 町村條例

第十條 町村の事務及町村住民の權利義務に關し此法律中に明文なく又は特例を設くることを許せる事項は各町村に於て特に條を設けて之を規定することを得

町村に於ては其町村の設置に係る營造物に關し規則を設くることを得

町村條例及規則は法律命令に抵觸することを得す且之を發行するときは地方慣行の公告式に依る可し

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員は其町村の選舉人其被選舉權ある者より之を選舉す其定員は其町村の人口に準し左の割合を以て之を定む但町村條例を以て特に之を増減することを得

- 一 人口千五百未満の町村に於ては 議員八人
- 一 人口千五百以上五千未満の町村に於ては 議員十二人
- 一 人口五千以上一萬未満の町村に於ては 議員十八人
- 一 人口一萬以上二萬未満の町村に於ては 議員二十四人

一 人口二萬以上の町村に於ては

議員三十人

第十二條 町村公民(第七條)は總て選舉權を有す但其公民權を停止せらるる者(第八條第

三項、第九條第二項)及第九條第三項の場合に當る者は此限に在らず

凡内國人にして公權を有し直接町村税を納むる者其額町村公民の最多く納税する者三名中の一人よりも多きときは第七條の要件に當らずと雖も選舉權を有す但公民權を停止せらるる者及第九條第三項の場合に當る者は此限に在らず

法律に従て設立したる會社其他法人にして前項の場合に當るきはも亦同し

第十三條 選舉人は分て二級と爲す

選舉人中直接町村税の納額多き者を合せて選舉人全員の納むる總額の半に當る可き者を一級とし爾餘の選舉人を二級とす

一級二級の間納税額兩級に跨る者あるときはは一級に入る可し又兩級の間と同額の納税者二名以上あるときは其町村内に住居する年數の多き者を以て一級に入る若し住居の年數に依り難きときは年齢を以てし年齢にも依り難きときは町村長抽籤を以て之を定む可し選舉人毎級各別に議員の半數を選舉す其被選舉人は同級内の者に限らず兩級に通して選舉せらるることを得

第十四條 特別の事情ありて前條の例に依り難き町村に於ては町村條例を以て別に選舉の特例を設くることを得

第十五條 選舉權を有する町村民(第十二條第一項)は總て被選舉權を有す
左に掲ぐる者は町村會議員たることを得ず

- 一 所屬府縣郡の官吏
- 二 有給の町村吏員
- 三 檢察官及警官吏
- 四 神官僧侶及其他諸宗教師
- 五 小學校教員

其他官吏にして當選し之に應せんとするときは所屬長官の許可を受く可し
代言人に非ずして他人の爲めに裁判所又は其他の官廳に對して事を辨するを以て業と爲
す者は議員に選舉せらるゝことを得ず

父子兄弟たるの縁故ある者は同時に町村會議員たることを得ず其同時に選舉せられたる
ときは投票の數に依て其多き者一人を當選とし若し同數なれば年長者を當選とす其時を
異にして選舉せられたる者は後者議員たることを得ず

町村長若くは助役との間父子兄弟たるの縁故ある者は之と同時に町村會議員たることを
得ず若し議員との間に其の縁故ある者町村長若くは助役に選舉せられ認可を受くるとき
は其縁故ある議員は其職を退くへし

第十六條 議員は名譽職とす其任期は六年とし毎三年各級に於て其半數を改選す若し各級

の議員二分し難きときは初回に於て多數の一半を解任せしむ初回に於て解任す可き者は
抽籤を以て之を定む

退任の議員は再選せらるゝことを得

第十七條 議員中關員あるときは毎三年定期改選の時より同時に補關選舉を行ふ可し若
し定員三分の一以上關員あるとき又は町村會町村長若くは郡長に於て臨時補關を必要と
認むるときは定期前と雖も其補關選舉を行ふ可し
補關議員は其前任者の殘任期間在職するものとす

定期改選及補關選舉とも前任者の選舉せられたる選舉等級に従て之か選舉を行ふ可し
第十八條 町村長は選舉を行ふ毎に其選舉前六十日を限り選舉原簿を製し各選舉人の資格
を記載し此原簿に據りて選舉人名簿を製す可し

選舉人名簿は七日間町村役場に於て之を關係者の縦覽に供す可し若し關係者に於て訴願
せんとすることあるときは同期限内之れを町村長に申立つ可し町村長は町村會の裁決
(第三十七條第一項)に依り名簿を修正す可きときは選舉前十日を限りて之に修正を加へ
て確定名簿とあり之に登録せられざる者は何人たりとも選舉に關することを得ず
本條に依り確定したる名簿は當選を辭し若くは選舉の無効とありたる場合に於て更に選
舉を爲すときも亦之を適用す

第十九條 選舉を執行するときには町村長は選舉の場所日時を定め及選舉す可き議員の數を

各級に分ち選舉前七日を限りて之を公告す可し

各級に於て選舉を行ふの順序は先づ二級の選舉を行ひ次に一級の選舉を行ふへし

第二十條 選舉係は名譽職とし町村長に於て臨時に選舉人中より二名若くは四名を選任し町村長若くは其代理者は其掛長となり選舉會を開閉し其會場の取締に任す

第二十一條 選舉開會中は選舉人の外何人たりとも選舉會場に入ることを得ず選舉人は選舉會場に於て協議又は勸誘を爲すことを得ず

第二十二條 選舉は投票を以て之を行ふ投票には被選舉人の氏名を記し封筒の上選舉人自ら掛長に差出す可し但選舉人の氏名は投票に記入することを得ず

選舉人投票を差出すときは自己の氏名及住所を掛長に申立て掛長は選舉人名簿に照して之を受け封筒の儘投票函に投入す可し但投票函は投票を終る迄之を開くことを得ず

第二十三條 投票に記載の人員其選舉す可き定數に過き又は不足あるも其投票を無効とせず其定數に過くるものは末尾に記載したる人名を順次に棄却す可し

左の投票は之を無効とす

- 一 人名を記載せず又は記載せる人名の讀み難きもの
- 二 被選舉人の何人たるを確認し難きもの
- 三 被選舉權なき人名を記載するもの
- 四 被選舉人氏名の外他事を記入するもの

投票の受理並効力に關する事項は選舉掛假に之を議決す可否同數なるときは掛員之を決す

第二十四條 選舉は選舉人自ら之を行ふ可し他人に託して投票を差出すことを許さず

第十二條第二項に依り選舉權を有する者は代人を出して選舉を行ふことを得若し其獨立の男子に非ざる者又は會社其他法人に係るときは必ず代人を以てす可し其代人は内國人にして公權を有する獨立の男子に限る但一人にして數人の代理を爲すことを得す且代人は委任狀を選舉掛に示して代理の證とす可し

第二十五條 町村の區域廣潤なるときは又は人口稠密なるときは町村會の議決に依り區畫を定めて選舉分會を設くることを得但特に二級選舉人のみ此分會を設くるも妨げなし

分會の選舉掛は町村長の選任したる代理者を以て其長とし第二十條の例に依る掛員二名若くは四名を選任す

選舉分會は於て爲したる投票は投票函の儘本會に集めて之を合算し總數を以て當選を定む

選舉分會は本會と同時に之を開く可し其他選舉の手續會場の取締等總て本會の例に依る

第二十六條 議員の選舉は有効投票の多數を得る者を以て當選とす投票の數相同きもの年長者を取り同年なるときは掛長自ら抽籤して其當選を定む

前任者の補闕と爲し其數相同きときは抽籤を以て其順序を定む

第二十七條 選舉掛は選舉録を製して選舉の顛末を記録し選舉を終りたる後之を朗讀し選舉人名簿其他關係書類を合綴して之に署名す可し

投票は之を選舉録に附屬し選舉を結了するに至る迄之を保存す可し

第二十八條 選舉を終りたる後選舉掛長は直に當選者に其當選の旨を告知し可し其當選を辭せんとする者の五日以内に之を町村長に申立つ可し

一人にして兩級の選舉に當りたるときは同期限内何れの選舉に應ず可きことを申立つ可し其期限内に之を申立てざる者は總て其選舉を辭する者となり第八條の處分を爲す可し

第二十九條 選舉人選舉の効力に關して訴願せんとするときは選舉の日より七日以内に之を町村長に申立つることを得(第三十七條第一項)

町村長は選舉を終りたる後之を郡長に報告し郡長に於て選舉の効力に關し異議あるときは訴願の有無に拘らず郡參事會に付して處分を行ふことを得

選舉の定規に違背することあるときは其選舉を取消し又被選舉人中其資格の要件を有せざる者あるときは其人の當選を取消し更に選舉を行はしむ可し

第三十條 當選者中其資格の要件を有せざる者あることを發見し又は就職後其要件を失ふ者あるときは其人の當選は効力を失ふものとす其要件の有無は町村會之を議決す

第三十一條 小町村に於ては郡參事會の議決を経町村條例の規定に依り町村會を設けず選

舉權を有する町村公民の總會を以て之に充つることを得

第二款 職務權限及處務規程

第三十二條 町村會は其町村を代表し此法律に準據して町村一切の事件并從前特に委任せられ又は將來法律勅令に依て委任せらるる事件を議決するものとす

第三十三條 町村會の議決す可き事件の概目左の如し

- 一 町村條例及規則を設け并改正する事
- 二 町村費を以て支辨す可き事業但第六十九條に掲ぐる事務は此限に在らず
- 三 歳入出豫算を定め豫算外の支出及豫算超過の支出を認定する事
- 四 決算報告を認定する事
- 五 法律勅令に定むるものを除くの外使用料、手数料、町村税及夫役現品の賦課徴收の法を定むる事
- 六 町村有不動産の賣買交換讓受讓渡并質入書入を爲す事
- 七 基本財産の處分に關する事
- 八 歳入出豫算を以て定るものを除くの外新に義務の負擔を爲し及權利の棄却を爲す事
- 九 町村有の財産及營造物の營理方法を定むる事
- 十 町村吏員の身元保證金を徴し並其金額を定むる事
- 十一 町村に係る訴訟及和解に關する事

第三十四條 町村會は法律勅令に依り其職權に屬する町村吏員の選舉を行ふ可し

第三十五條 町村會は町村の事務に關する書類及計算書を檢閲し町村長の報告を請求して事務の管理、議決の施行並收入支出の正否を監査するの職權を有す

町村會は町村の公益に關する事件に付意見書を監督官廳に差出すことを得

第三十六條 町村會は官廳の諮問あるときは意見を陳述す可し

第三十七條 町村住民及公民たる權利の有無、選舉權及被選舉權の有無、選舉人名簿の正否並其等級の當否、代理を以て執行する選舉權(第十二條第二項)及町村會議員選舉の効力(第二十九條)に關する訴願は町村會之を裁決す

町村會若くは町村長の裁決に不服ある者は郡參事會に訴願し其郡參事會の裁決に不服ある者は府縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

本條の事件に付ては町村長よりも亦訴願及訴訟を爲すことを得

本條の訴願及訴訟の爲めに其執行を停止することを得す但判決確定するに非されば更に撰擧を爲すことを得す

第三十八條 凡議員たる者は撰擧人の指示若くは委囑を受く可らざるものとす

第三十九條 町村會は町村長を以て其議長と若くは町村長故障あるときは其代理たる町村助役を以て之に充つ

第四十條 會議の事件議長及其父母兄弟若くは妻子の一身上に關することあるときは議長に故障あるものとして其代理者之に代る可し

議長代理者共に故障あるときは町村會は年長の議員を以て議長と爲すべし

第四十一條 町村長及助役は會議に列席して議事を辨明することを得

第四十二條 町村會は會議の必要ある毎に議長之を招集す若くは議員四分の一以上の請求あるときは必ず之を招集すへし其招集並會議の事件を告知するは急施を要する場合を除くの外少くも開會三日前たる可し但町村會の議決を以て豫め會議日を定むるも妨まじ

第四十三條 町村會は議員半数以上出席するに非らされは議決することを得す但同一の議事に付招集再回に至るも議員過半数に満たざるときは此限に在らず

第四十四條 町村會の議決は可否の多數に依り之を定む可否同數なるときは再議議決すべし若くは猶同數なるときは議長の可否する所に依る

第四十五條 議員は自己及其父母兄弟若くは妻子の一身上に關する事件に付ては町村會の議決に加はることを得す

議員の數此除名の爲めは減少して會議を開くの定數に滿さるときは郡參事會町村會に代て議決す

第四十六條 町村會に於て町村吏員の選舉を行ふときは其一名毎に匿名投票を以て之を爲し有効投票の過半数を得る者を以て當選とす若し過半数を得る者なきときは最多數を得

る者三名を取り之に就て更に投票せしむ若し最多數を得る者三名以上同數なるとは議長自ら抽籤して其二名を取り更に投票せしむ此再投票に於ても猶過半數を得る者なきときは抽籤を以て當選を定む其他は第二十二條、第二十三條、第二十四條、第一項を適用す

前項の選舉には町村會の議決を以て指名推選の法を用ふることを得

第四十七條 町村の會議は公開す但議長の意見を以て傍聽を禁することを得

第四十八條 議長は各議員に事務を分課し會議及選舉の事を總理し開會閉會並延會を命し議場の秩序を保持す若し傍聽者の公然贊成又は攘斥を表し又は喧擾を起す者あるときは議長は之を議場外に退出せしむることを得

第四十九條 町村會は書記をして議事録を製して其議決及選舉の顛末並出席議員の氏名を記録せしむ可し議事録は會議の末之を朗讀し議長及議員二名以上之に署名す可し

町村會の書記は議長之を選任す

第五十條 町村會は其會議細則を設く可し其細則に違背したる議員に科す可き過怠金二圓以下の罰則を設くることを得

第五十一條 第三十二條より第四十九條に至るの規定は之を町村總會に適用す

第三章 町村行政

第一款 町村吏員の組織選任

第五十二條 町村に町村長及町村助役各一名を置く可し但町村條例を以て助役の定員を増

加することを得

第五十三條 町村長及助役は町村會に於て其町村公民中年齡滿三十歳以上にして選舉權を有する者より之を選擧す

町村長及助役は第十五條第二項に掲載する職を兼ることを得す

父子兄弟たるの縁故ある者同時に町村長及助役の職に在ることを得す若し其縁故ある者助役の選舉に當るときは其當選を取消し其町村長の選舉に當りて認可を得るときは其縁故ある助役は其職を退く可し

第五十四條 町村長及助役の任期は四年とす

町村長及助役の選舉は第四十六條に依て行ふし但投票同數あるときは抽籤の法に依らず郡參事會之を決す可し

第五十五條 町村長及助役は名譽職とす但第五十六條の有給町村長及有給助役は此限に在らず

町村長は職務並扱の爲めに要する實費辦價の外勤務に相當する報酬を受くることを得助役にして行政事務の一部を分掌する場合(第七十第二項)に於ても亦同し

第五十六條 町村の情況に依り町村條例の規定を以て町村長に給料を給することを得又大なる町村に於ては町村條例の規定を以て助役一名を有給吏員と爲すことを得

有給町村長及有給助役は其町村公民たる者に限らず但當選に應し認可を得るときは其公

異なるの權を得

第五十七條 有給町村長及有給助役は三箇月前に申立つるときは隨時退職を求むことを得
此場合に於ては退職料を受くる權を失ふものとす

第五十八條 有給町村長及有給助役は他の有給職務を兼任し又は株式會社の社長及重役と
なることを得す其他の營業は郡長の認許を得るに非されは之を爲すことを得す

第五十九條 町村長及助役の選舉は府縣知事の認可を受く可し

第六十條 府縣知事前條の認可を與へるときは府縣參事會の意見を聞くことを要す若し
府縣參事會同意せざるも猶府縣知事に於て認可す可からすとすときは自己の責任を以
て之に認可を與へざることを得

府縣知事の不認可に對し町村長又は町村會に於て不服あるときは内務大臣に具申して認
可を請ふことを得

第六十一條 町村長及助役の選舉其認可を得るときは再選を爲す可し

再選舉に於て猶其認可を得るときは追て選舉を行ひ認可を得るに至るの間認可の權あ
る監督官廳は臨時に代理者を選任し又は町村費を以て官吏を派遣し町村長及助役の職務
を監掌せしむ可し

第六十二條 町村に収入役一名を置く収入役は町村長の推薦に依り町村會之を選任す
収入役は有給吏員と爲し其任期は四年とす

収入役は町村長及助役を兼ねることを得す其他第五十六條第二項第五十七條及第七十六
條を適用す

収入役の選任は郡長の認可を受く可し若し認可を與へるときは郡參事會の意見を聞く
ことを要す郡參事會之に同意せざるも猶郡長に於て認可す可からすと爲すときは自己の
責任を以て之に認可を與へざることを得其他第六十一條を適用す

郡長の不認可に對し町村長又は町村會に於て不服あるときは府縣知事に具申して認可を
請ふことを得

収入支出の寡少なる町村に於ては郡長の許可を得て町村長又は助役をして収入の事務を
兼掌せしむることを得

第六十三條 町村に書記其他必要の附屬員並使丁を置け相當の給料を給す其人員は町村會
の議決を以て之を定む但町村長に相當の書寫料を給與して書記の事務を委任することを
得

町村附屬員は町村長の推薦に依り町村會之を選任し使丁は町村長之を任用す

第六十四條 町村の區域廣潤なるとき又は人口稠密なるときは處務便宜の爲め町村長の議
決に依り之を數區に分ち每區區長及代理者各一名を置くことを得區長及其代理者は名譽
職とす

區長及其代理者は町村會に於て其町村の公民中選舉權を有する者より之れを選舉す區會

(第百十四條)を設くる區に於ては其區會に於て之を選舉す

第六十五條 町村は町村會の議決に依り臨時又は常設の委員を置くことを得其委員は名譽職とす

委員は町村會に於て町村會議員又は町村公民中選舉權を有する者より選舉し町村長又は其委任を受けたる助役を以て委員長とす

常設委員の組織に關しては町村條例を以て別段の規定を設くることを得

第六十六條 區長及委員には職務取扱の爲めに要する實費辨償の外町村會の議決に依り勤務に相當する報酬を給することを得

第六十七條 町村吏員は任期滿限の後再選せらるゝことを得

町村吏員及使丁は別段の規定又は規約あるものを除くの外隨時解職をすることを得

第二款 町村吏員の職務權限

第六十八條 町村長は其町村を統轄し其行政事務を擔任す

町村長の擔任する事務の概目左の如し

一 町村會の議事を準備し及其議決を執行する事若し町村會の議決其權限を超へ法律命令に背き又は公衆の利益を害すと認むるときは町村長は自己の意見に依り又は監督官廳の指揮に依り理由を示して議決の執行を停止し之を再議せしめ猶其議決を更めざるときは郡參事會の裁決を請ふ可し其權限を超え又は法律勅令に背くに依て議決

の執行を停止したる場合に於て府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

二 町村の設置に係る營造物を管理する事若し特に之か管理者あるときは其事務を監督する事

三 町村の歳入を管理し歳入出豫算表其他町村會の議決に依て定まりたる収入支出を命令し會計及出納を監視する事

四 町村の權利を保護し町村有の財産を管理する事

五 町村吏員及使丁を監督し懲戒處分を行事其懲戒處分は譴責及五圓以下の過怠金とす

六 町村の諸證書及公文書類を保管する事

七 外部に對して町村を代表し町村の名義を以て其訴訟並和解に關し又は他應若くは人民と商議する事

八 法律勅令に依り又は町村會の議決に従て使用料、手数料、町村税及夫役現品を賦課徴収する事

九 其他法律命令又は上司の指令に依て町村長に委任したる事務を處理する事

第六十九條 町村長は法律命令に従ひ左の事務を管掌す

一 司法警察補助官たるの職務及法律命令に依て其管理に屬する地方警察の事務但別に官署を設けて地方警察事務を管掌せしむるときは此限に在らず

二 浦役場の事務

三 國の行政並府縣郡の行政にして町村に屬する事務但別に吏員の設けあるときは此限に在らず

右三項中の事務は監督官廳の許可を得て之を助役に分掌せしむることを得
本條に掲載する事務を執行するか爲めに要する費用は町村の負擔とす

第七十條 町村助役は町村長の事務を補助す

町村長は町村會の同意を得て助役をして町村行政事務の一部を分掌せしむることを得
助役は町村長故障あるとき之を代理す助役數名あるときは上席者之を代理す可し

第七十一條 町村収入役は町村の收入を受領し其費用の支拂を爲し其他會計事務を掌る

第七十二條 書記は町村長に屬し庶務を分掌す

第七十三條 區長及其代理者は町村長の機關となり其指揮命令を受けて區内に關する町村長の事務を補助執行するものとす

第七十四條 委員(第六十五條)は町村行政事務の一部を分掌し又は營造物を監理し若くは監督し又は一時の委託を以て事務を處辦するものとす

委員長は委員の議決に加はるの權を有す助役を以て委員長と爲す場合に於ても町村長は
隨時委員會に出席して其委員長と爲り並其議決に加はるの權を有す
常設委員の職務權限に關しては町村條例を以て別段の規定を設くることを得

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員は此法律中別に規定あるものを除くの外職務取扱の爲めに要する實費の辨償を受くることを得

實業辨償額、報酬額及書記料の額(第六十三條第一項)は町村會之を議決す

第七十六條 有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁の給料額は町村會の議決以て之れを定む

町村會の議決を以て町村長及助役の給料額を定むるときは郡長の許可を受くることを要す郡長に於て之を許可す可からすと認むるときは郡參事會の議決に付して之を確定す

第七十七條 町村條例の規定を以て有給吏員の退隱料を設くることを得

第七十八條 有給吏員の給料、退隱料其他第七十五條に定むる給與に關して異議あるときは關係者の申立に依り郡參事會之を裁決す其郡參事會の裁決に不服ある者は府縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

第七十九條 退隱料を受くる者官職又は府縣郡市町村及公共組合の職務に就き給料を受くるときは其間之を停止し又は更に退隱料を受くるの權を得るとき其額舊退隱料と同額以上あるときは舊退隱料は之を廢止す

第八十條 給料、退隱料、報酬及辨償等は總て町村の負擔とす

第四章 町村有財産の管理

第一款 町村有財産及町村税

第八十一条 町村は其不動産、積立金穀等を以て基本財産と爲し之を維持するの義務あり臨時に収入したる金穀は基本財産に加入す可し但寄附金等寄附者其使用の目的を定むるものは此限にあらす

第八十二条 凡町村有財産は全町村の爲ニ之を管理し及共用せるものとす但特に民法上の権利を有する者あるときは此限にあらす

第八十三条 舊來の慣行に依り町村住民中特に其町村有の土地物件を使用する権利を有する者あるときは町村會の議決を経るに非されは其舊慣を改むることを得す

第八十四条 町村住民中特に其町村有の土地物件を使用する権利を得んとする者あるときはハ町村條例の規定に依り使用料若くは一時の加入金を徴收し又は使用料加入金を共に徴收して之を許可することを得但特に民法上使用の権利を有せる者は此限に在らす

第八十五条 使用権を有する者(第八十二条第八十四条)は使用の多寡に準して其土地物件に係る必要なる費用を分擔す可きものとす

第八十六条 町村會は町村の爲めに必要なる場合に於ては使用権(第八十三条、第八十四条)を取上げ又は制限することを得但特に民法上使用の権利を有する者は此限に在らす

第八十七条 町村有財産の賣却貸與又は建築工學及物品調達の請負は公けの入札に付す可し但臨時急施を要するとき及入札の價額其費用に比して得失相償はさるとき又は町村會

の認許を得るときは此限に在らす

第八十八条 町村は其必要なる支出及従前法律命令に依て賦課せられ又は將來法律勅令に依て賦課せらるゝ支出を負擔するの義務あり

町村は其財産より生ずる収入及使用料、手数料(第八十九条)並科料、過怠金其他法律勅令に依り町村に屬する収入を以て前項の支出に充て猶不足あるときは町村税(第九十条)及夫役現品(第一百一條)を賦課徴收することを得

第八十九条 町村は其所有物及營造物の使用に付又は特に數個人の爲めにする事業に付使用料又は手数料を徴收することを得

第九十条 町村税として賦課することを得可き目左の如し

- 一 國稅府縣稅の附加稅
- 二 直接又は間接の特別稅

附加稅は直接の國稅又は府縣稅に附加し均一の稅率を以て町村の全部より徴收するを常例とす

特別稅は附加稅の外別に町村限り稅目を起して課稅することを要するとき賦課徴收するものとす

第九十一条 此法律に規定せる條項を除くの外使用料、手数料(第八十九条)特別稅(第九十条)第一項(第二)及従前の町村費に關する細則は町村條例を以て之を規定す可し其條例に

は料料一圓九十五錢以下の罰則を設けることを得
料料は處し及之を徴収するは町村長之を掌る其處分に不服ある者は令狀交付後十四日以
内に司法裁判所に出訴することを得

第九十二條 三箇月以上町村内に滞在する者は其町村税を納むるものとす但其課税は滞在
の初に遡り徴収す可し

第九十三條 町村内に住居を構へる又は三箇月以上滞在することなしと雖も町村内に土地
家屋を所有し又は營業を爲す者(店舗を定めざる行商を除く)は其土地家屋營業若くは其
所得に對して賦課する町村税を納むるものとす其法人たるときも亦同一但郵便電信及官
設鐵道の業ハ此限に在らず

第九十四條 所得税に附加税を賦課し及町村に於て特別に所得税を賦課せんとするときは
納税者の町村外に於ける所有の土地家屋又は營業(店舗を定めざる行商を除く)より収入
する所得は之を控除す(さ)ものとす

第九十五條 數市町村に住居を構へ又は滞在する者に前條の町村税を賦課するときは其所
得を各市町村に平分し其一部分にのみ課税す可し但土地家屋又は營業より収入する所得
は此限に在らず

第九十六條 所得税法第三條に掲ぐる所得は町村税を免除す
第九十七條 左に掲ぐる物件は町村税を免除す

一 政府、府縣都市町村及公共組合に屬し直接の公用に供する土地營造物及家屋

二 社寺及官立公立の學校病院其他學藝、美術及慈善の用に供する土地、營造物及家屋

三 官有の山林又は荒蕪地但官有山林又は荒蕪地の利益に係る事業を起し内務大臣及大
藏大臣の許可を得て其費用を徴収するは此限に在らず

新開地及開墾地は町村條例に依り年月を限り免除することを得

第九十八條 前二條の外町村税を免除す可きものは別段の法律勅令に定むる所に従ふ皇族
に係る町村税の賦課は追て法律勅令を以て定むる迄現今の例に依る

第九十九條 數個人に於て専ら使用する所の營造物あるときは其修築及保存の費用は之を
其關係者に賦課す可し

町村内の一部に於て専ら使用する營造物あるときは其部内に住居し若くは滞在し又は土
地家屋を所有し營業(店舗を定めざる行商を除く)を爲す者に於て其修築及保存の費用を
負擔す可し但其一部の所有財産あるときは其收入を以て先づ其費用に充つ可し

第一百條 町村税は納税義務の起りたる翌月の初より免税理由の生したる月の終迄月割を以
て之を徴収す可し

會計年度中に於て納税義務消滅し又は變更するときは納税者より之を町村長に届出つ可
し其届出を爲したる月の終迄は従前の税を徴収することを得

第一百一條 町村公共の事業を起し又は公共の安寧を維持するか爲めに夫役及現品を以て納

税者に賦課することを得但學藝、美術及手工お關する勞役を課することを得す
夫役及現品は急迫の場合を除くの外直接町村税を準率と爲し且つ之を金額に算出して賦課す可し

夫役を課せられたる者は其便宜に従ひ本人自ら之を當り又は適當の代人を出すことを得
又急迫の場合を除くの外金額を以て之に代ふることを得

第二百二條 町村に於て徴収する使用料、手数料(第八十九條)町村税(第九十條)夫役に代ふる金圓(第一百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村の收入定期内に納めざるときは町村長は之を督促し猶之を完納せざるときは國稅忘納處分法に依り之を徴収す可し其督促を爲すには町村條例の規定に依り手数料を徴収することを得

納税者中無資力なる者あるときは町村長の意見を以て會計年度内に限り納税延期を許すことを得其年度を越ゆる場合に於ては町村會の議決に依る

本條に記載する徴収金の追徴、期滿得免及先取特權に付ては國稅に關する規則を適用す

第二百三條 地租の附加税は地租の納税者に賦課し其土地に對して賦課する町村税は其所有者又は使用者に賦課することを得

第二百四條 町村税の賦課に對する訴願は賦課令狀の交付後三箇月以内に之を町村長に申立つ可し此期限を経過するときは其年度内減税免稅及償還を請求するの權利を失ふものとす

第二百五條 町村税の賦課及町村の營造物、町村有の財産並其所得を使用する權利に關する

訴願は町村長之を裁決す但民法上の權利に係るものは此限に在らず

前項の裁決に不服ある者は郡參事會に訴願し其郡參事會の裁決に不服ある者は府縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

本條の訴願及訴訟の爲めに其處分の執行を停止することを得す

第二百六條 町村に於て公債を募集するは従前の公債元額を償還する爲め又は天災時變等已むを得ざる支出若くは町村永久の利益となる可き支出を要するに方り通常の歳入を増加するときは其町村住民の負擔し堪へざるの場合に限るものとす

町村會に於て公債募集の事を議決するときは併せて其募集方法、利息の定率及償還の方法を定む可し償還の初期は三年以内と爲し年々償還の歩合を定め募集の時より三十年以内に還了す可し

定額豫算内の支出を爲すか爲め必要なる一時の借入金は本條の例に依らず其年度内の收入を以て償還す可きものとす

第二款 町村の歳入出豫算及決算

第二百七條 町村長は每會計年度收入支出の豫知し得可き金額を見積り年度前二箇月を限り歳出入豫算表を調製す可し但町村の會計年度は政府の會計年度に同じ

内務大臣は省令を以て豫算表調製の式を定むることを得

第二百八條 豫算表は會計年度前町村會の議決を取り之を郡長に報告し並地方慣行の方式を

以て其要領を公告す可し
豫算表を町村會に提出するときは町村長は併せて其町村事務報告書及財産明細表を提出す可し

第九條 定額豫算外の費用又は豫算の不足あるときは町村會の認定を得て之を支出することを得
定額豫算中臨時の場合に支出するか爲めに豫備費を置き町村長は豫め町村會の認定を受けずして豫算外の費用又は豫算超過の費用に充つることを得但町村會の否決したる費途に充つることを得す

第十條 町村會に於て豫算表を議決したるときは町村長より其謄寫を以て之を収入役に交付す可し其豫算表中監督官廳若くは參事會の許可を受く可き事項あるときは(第二百十五條より第二百二十七條に至る)先其許可を受くべし

収入役は町村長(第六十八條第二項第三)又は監督官廳の命令あるに非されは支拂を爲すことを得す又収入役は町村長の命令を受くるも其出豫算表中に豫定なきか又は其命令第九條の規定に依らざるるときは支拂を爲すことを得す

前項の規定に背きたる支拂は總て収入役の責任に歸す
第十一條 町村の出納は毎月例日を定めて検査し及毎年少くも一回臨時検査を爲す可し
例月検査は町村長又は代理者之を爲し臨時検査は町村長又は其代理者の外町村會の互選

たる議員一名以上の立會を要す

第十二條 決算は會計年度の終より三箇月以内に之を結了し證書類を併せて収入役より之を町村長に提出し町村長は之を審査し意見を附して之を町村會の認定に付す可し第六十二條第五項の場合に於ては前例に依り町村長より直に之を町村會に提出す可し其町村會の認定を経たるときは町村長は之を郡長に報告す可し

第十三條 決算報告を爲すときは第四十條の例に準して議長代理者共に故障あるものとす

第五章 町村内各部の行政

第十四條 町村内の區(第六十四條)又は町村内の一部若くは合併町村(第四條)にして別に其區域を存して一區を爲すもの特別に財産を所有し若くは營造物を設け其一區限り特に其費用(第九十九條)を負擔するときは郡參事會は其町村會の意見を聞き條例を發行し財産及營造物に關する事務の爲め區會又は區總會を設くることを得其會議は町村會の例を選用することを得

第十五條 前條に記載する事務は町村の行政に關する規則に依り町村長之を管理す可し但區の出納及會計の事務は之を分別す可し

第六章 町村組合

第十六條 數町村の事務を共同處分する爲め其協議に依り監督官廳の許可を得て其町村

の組合を設けることを得
法律上の義務を負担するに堪ふ可き資力を有せざる町村にして他の町村と合併(第四條)するの協議整はす又は其事情に依り合併を不便と爲すときは郡参事會の議決を以て數町村の組合を設けしむることを得

第十七條 町村組合を設くるの協議を爲すときは第十六條第一項組合會議の組織、事務の管理方法並其費用の支辨方法を併せて規定す可し

前條第二項の場合に於ては其關係町村の協議を以て組合費用の分擔方等其他必要の事項を規定す可し若し其協議整はざるときは郡参事會に於て之を定む可し

第十八條 町村組合は監督官廳の許可を得るに非ざれば之を解くことを得ず

第七章 町村行政の監督

第十九條 町村の行政は第一次に於て郡長之を監督し第二次に於て府縣知事之を監督し第三次に於て内務大臣之を監督す但法律に指定したる場合に於て郡参事會及府縣参事會の參與するは別段なりとす

第二十條 此法律中別段の規定ある場合を除くの外凡町村の行政に關する郡長若しくは郡参事會の處分若しくは裁決に不服ある者は府縣知事若しくは府縣参事會に訴願し其府縣知事若しくは府縣参事會の裁決に不服ある者は内務大臣に訴願することを得

町村の行政に關する訴願は處分書若しくは裁決書を交付し又之を告知したる日より十四

日以内に其理由を具して之を提出す可し但此法律中別に期限を定むるものは此の限に在らず

此法律中に指定する場合に於て府縣知事若しくは府縣知事會の裁決に不服ありて行政裁判所より出訴せんとする者は裁決書を交付し又は之を告知したる日より二十一日以内に訴す可し

行政裁判所に出訴することを許したる場合に於ては内務大臣に訴願することを得ず

訴願及訴訟を提出するときは處分又は裁決の執行を停止す但此法律中別に規定あり又は當該官廳の意見に依り其停止の爲めに町村の公益に害ありと爲すときは此限に在らず

第二十一條 監督官廳は町村行政の法律命令に背戾せざるや其事務錯亂滯滞せるや否を監視す可し監督官廳は之が爲めに行政事務に關して報告を爲さしめ豫算及決算等の書類帳簿を徴し並實地に就て事務の現況を視察し出納を檢閲するの權を有す

第二十二條 町村又は其組合に於て法律勅令に依て負擔し又は當該官廳の職權に依て命令せる所の支出を定額豫算に載せず又は臨時之を承認せず又は實行せざるときは郡長は理由を示して其支出額を定額豫算表に加へ又は臨時支出せしむ可し

町村又は其組合に於て前項の處分に不服あるときは府縣参事會に訴願し其府縣参事會の裁決に不服あるときは行政裁判所に出訴することを得

第二十三條 凡町村會に於て議決す可き事件を議決せざるときは郡参事會代て之を議決

を可し

第二百二十四條 内務大臣は町村會を解散せしむることを得解散を命したる場合に於ては同時に三箇月以内更に議員を改選す可きことを命す可し但改選町村會の集會する迄は郡參事會町村會に代て一切の事件を議決す

第二百二十五條 左の事件に關する町村會の議決は内務大臣の許可を受くることを要す

- 一 町村條例を設け並改正する事
- 二 學藝、美術に關し又は歴史上貴重なる物品の賣却讓與質入書入交換若くは大なる變更を爲す事

前項第一の場合に於て人口一萬以上の町村に係るときは勅裁を経て之を許可す可し
第二百二十六條 左の事件に關する町村會の議決は内務大臣及大藏大臣の許可を受くることを要す

- 一 新に町村の負債を起し又は負債額を増加し及第六條第二項の例に違ふもの但償還期限三年以内のもの此限に在らず
- 二 町村特別税並使用料、手数料を新設し増額し又は變更する事
- 三 地租七分の一其他直接國稅百分の五十を超過する附加税を賦課する事
- 四 間接國稅に附加税を賦課する事
- 五 法律勅令の規定に依り官廳より補助する歩合金に對し支出金額を定むる事

第二百二十七條 左の事件に關する町村會の議決は郡參事會の許可を受くることを要す

- 一 町村の營造物に關する規則を設け並改正する事
 - 二 基本財産の處分に關する事(第八十一條)
 - 三 町村有不動産の賣却讓與並質入書入を爲す事
 - 四 各個人特に使用する町村有土地使用法の變更を爲す(第八十六條)
 - 五 各種の保證を與ふる事
 - 六 法律勅令に依て負擔する義務に非ずして向五箇年以上に亘り新に町村民に負擔を課する事
 - 七 均一の稅率に據らずして國稅府縣稅に附加税を賦課する(第九十條第二項)
 - 八 第九十九條に従ひ數個人又は町村内の一部に費用を賦課する事
 - 九 第一百一條の準率に據らずして夫役及現品を賦課する事
- 第二百二十八條 府縣知事郡長は町村長、助役、委員、區長其他町村吏員に對し懲戒處分を行ふことを得其懲戒處分は譴責及過怠金とす郡長の處分に係る過怠金は十圓以下府縣知事の處分に係るものは二十五圓以下とす
- 追て町村吏員の懲戒法を設くる迄は左の區別に従ひ官吏懲戒例を適用す可し
- 一 町村長の懲戒處分(第六十八條第二項第五)に不服ある者は郡長に訴願し其郡長の裁決に不服ある者は府縣知事に訴願し其府縣知事の其裁決に不服ある者は行政裁判所

に出訴することを得

二 郡長の懲戒處分に不服ある者は府縣知事に訴願し府縣知事の懲戒處分及其裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

三 本條第一項に掲載する町村吏員職務に違ふこと再三に及び又は其情狀重き者又は行狀を亂り廉耻を失ふ者、財産を浪費し其分を守らざる者又は職務擧らざる者は懲戒裁判を以て其職を解くことを得其隨時解職することを得可き者は(第六十七條)懲戒裁判を以てするの限に在らず

總て解職せられたる者は自己の所爲に非らずして職務を執るに堪へざるか爲め解職せられたる場合を除くの外退隱料を受くるの權を失ふものとす

四 懲戒裁判は郡長其審問を爲し郡參事會之を裁決す其裁決に不服ある者は參縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

監督官廳は懲戒裁判の裁決前吏員の停職を命じ並給料を停止することを得

第二百二十九條 町村吏員及使丁其職を盡さず又は權限を越へたる事あるか爲め町村に對して賠償す可きことあるときは郡參事會之を裁決す其裁決に不服ある者は裁決書を交付し又は之を告知したる日より七日以内に府縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得但訴願を爲したるときは郡參事會は假に其財産を差押ふることを得

第八章 附則

第二百三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所を開設する迄の間郡參事會の職務は郡長府縣參事會の職務は府縣知事、行政裁判所の職務は内閣に於て之を行ふ可し

第二百三十一條 此法律に依り初て議員を選擧するに付町村長及町村會の職務並町村條例を以て定む可き事項は郡長又は其指名する官吏に於て之を施行す可し

第二百三十二條 此法律は北海道、沖繩縣其他勅令を以て指定する島嶼に之を施行せず別に勅令を以て其制を定む

第二百三十三條 前條の外特別の事情ある地方に於ては町村會及町村長の具申又は郡參事會の具申に依り勅令を以て其法律中の條規を中止することある可し

第二百三十四條 社寺宗教の組合に關しては此法律を適用せず現行の例規及び其地の習慣に従ふ

第二百三十五條 此法律中に記載せる人口は最終の人口調査に依り現役軍人を除きたる數を云ふ

第二百三十六條 現行の租稅中此法律に於て直接稅又は間接稅とす可き類別は内務大臣及大藏大臣之を告示す

第二百三十七條 此法律は明治二十二年四月一日より地方の情況を裁酌し府縣知事の具申に依り内務大臣の指揮を以て之を施行す可し

に出訴することを得

二 郡長の懲戒處分に不服ある者は府縣知事に訴願し府縣知事の懲戒處分及其裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

三 本條第一項に掲載する町村吏員職務に違ふこと再三に及び又は其情狀重き者又は行狀を亂り廉耻を失ふ者、財産を浪費し其分を守らざる者又は職務擧らざる者は懲戒裁判を以て其職を解くことを得其隨時解職することを得可き者は(第六十七條)懲戒裁判を以てするの限に在らず

總て解職せられたる者は自己の所爲に非らずして職務を執るに堪へざるか爲め解職せられたる場合を除くの外退隱料を受くるの權を失ふものとす

四 懲戒裁判は郡長其審問を爲し郡參事會之を裁決す其裁決に不服ある者は參縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得

監督官廳は懲戒裁判の裁決前吏員の停職を命じ並給料を停止することを得

第二百二十九條 町村吏員及使丁其職を盡さず又は權限を越わたる事あるか爲め町村に對して賠償す可きことあるときは郡參事會之を裁決す其裁決に不服ある者は裁決書を交付し又は之を告知したる日より七日以内に府縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴することを得但訴願を爲したるときは郡參事會は假に其財産を差押ふることを得

第八章 附則

第三百十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所を開設する迄の間郡參事會の職務は郡長府縣參事會の職務は府縣知事、行政裁判所の職務は内閣に於て之を行ふ可し

第三百十一條 此法律に依り初て議員を選擧するに付町村長及町村會の職務並町村條例を以て定む可き事項は郡長又は其指名する官吏に於て之を施行す可し

第三百十二條 此法律は北海道、沖繩縣其他勅令を以て指定する島嶼に之を施行せず別に勅令を以て其制を定む

第三百十三條 前條の外特別の事情ある地方に於ては町村會及町村長の具申又は郡參事會の具申に依り勅令を以て其法律中の條規を中止することある可し

第三百十四條 社寺宗教の組合に關しては此法律を適用せず現行の例規及び其地の習慣に従ふ

第三百十五條 此法律中に記載せる人口は最終の人口調査に依り現役軍人を除きたる數を云ふ

第三百十六條 現行の租税中此法律に於て直接税又は間接税とす可き類別は内務大臣及大藏大臣之を告示す

第三百十七條 此法律は明治二十二年四月一日より地方の情況を裁酌し府縣知事の具申に依り内務大臣の指揮を以て之を施行す可し

第三百三十八條 明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律に抵觸する成規は此法律の日より總て之を廢止す
 第三百三十九條 內務大臣は此法律實行の責に任し之か爲必要なる命令及訓令を發布す可し

●登録税法

明治二十九年三月二十七日公布
 法律第二十七號

登録税法

- 第一條 登録税は本法の定むる所に依り賦課徴収す
- 第二條 地所、建物の登記を請ふときは左の區別に従ひ登録税を納むへし
- 一 買受人
 - 二 家督相續人 戸主の死亡、失踪、離縁、跡相續人共
但し相續の日より六十日を経過したるときは時價相當價格千分の十とす
 - 三 遺産相續人
時價相當價格千分の十
 - 四 贈與又は遺贈を受くる者
時價相當價格千分の二十
 - 一 賣買代價千分の二十
時價相當價格千分の五

第三條 船舶の登記を請ふときは左の區別に従ひ登録税を納むへし

- 五 質入人又は書入人 契約金額千分の五
 - 六 強制競賣の申立人 價格千分の五
 - 七 強制管理の申立人又は假差押、假處分の申請人 價格千分の三
 - 八 登記事件の取消又は變更を請ふ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有せる所有權を明確にする爲登記を請ふ者 時價相當價格千分の二
 - 六號及七號の場合に於て價格定まらざるものは時價相當價格に依る
- 第三條 船舶の登記を請ふときは左の區別に従ひ登録税を納むへし
- 一 買受人 賣買代價千分の十
 - 二 家督相續人 戸主の死亡、失踪、離縁、跡相續人共
但し相續の日より六十日を経過したるときは時價相當價格千分の五とす
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分の五
 - 四 贈與又は遺贈を受くる者 時價相當價格千分の十
 - 五 質入人又は書入人 契約金額千分の五
 - 六 強制競賣の申立人 價格千分の五
 - 七 假差押、假處分の申請人 價格千分の三
 - 八 登記事件の取消又は變更を請ふ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有せる所有權を明確にする爲登記を請ふ者 時價相當價格千分の一

六號及七號の場合に於て價格定まらざるものは時價相當價格に依る

第四條 船籍の登録を請ふ者は左の區別に従ひ登録税を納むへし

- 一 新規登録 (十五噸未満の船舶) 金五十錢
- 二 轉籍 (十五噸以上の船舶) 每十噸金五十錢
- 三 除籍 (十五噸未満の船舶) 每十噸金十錢
- 三 除籍 (十五噸以上の船舶) 金五錢
- 三 除籍 (十五噸以上の船舶) 每十噸金五錢
- 四 登録事項の変更 (十五噸以上の船舶) 每一件金十錢
- 一號、二號及三號の場合に於て十五噸以上の船舶を登録するとき十噸未満の噸數は十噸として計算す

第五條 土地臺帳に左の事項を登録するときは土地所有者は左の區別に従ひ登録税を納むへし

- 一 新規登録 地價千分の二十
- 二 地價の設定(復舊共) 地價千分の十
- 三 地價の修正 地價千分の十
- 四 開懸 地價千分の十
- 五 歛下年期付與 地價千分の十
- 六 地價据置年期付與 地價千分の十
- 七 歛下年期の繼年期付與 地價千分の十

- 八 新開免租年期の繼年期付與 地價千分の十
- 九 低價年期の付與 地價千分の十
- 十 段別の増減 地價千分の五
- 十一 分裂又は合併 地價千分の五

本條中地價未設定の土地は近傍類地地價の比準に依る

第六條 左の事項に付き登記を受くる商事會社に左の區別に従ひ登録税を納むへし

- 一 合名會社、合資會社設立 資金額千分の二
- 二 合名會社、合資會社資本増加 増加資本金額千分の二
- 三 合名會社、合資會社支店設置 會社資本金額萬分の二
- 四 株式會社設立 設立初度の拂込資本金額千分の三
- 五 株式會社設立後の資本金拂込 每拂込金額千分の三
- 六 株式會社支店設置 現在拂込資本金額萬分の三
- 七 登記事項の変更(資本の増加及拂込登記を除く)追加 每一件金三圓
- 八 解散 每一件金一圓

第七條 左の事項に付き辨護士名簿に登録を請ふ者は左の區別に従ひ登録税を納むへし

- 一 新規登録 金二十圓
- 二 登録換 金十圓
- 三 取消の請求 金一圓

第八條 左の事項を官簿に登録するときには醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工は左の區別に従ひ登録税を納むへし

一新規登録

醫師 金二十圓

獸醫 金十二圓

假開業醫師 金五圓

藥劑師 金十二圓

蹄鐵工 金五圓

假免許獸醫 金三圓

二 登録事項の變更

每一件金五十錢

第九條

左の事項を官簿に登録するときには海員は左の區別に従ひ登録税を納むへし

一新規登録

甲種船長 金十五圓

甲種二等運轉手 金六圓

甲種二等機關手 金十圓

乙種一等運轉手 金六圓

乙種一等機關手 金十圓

小形船機關手 金四圓

甲種一等運轉手 金十圓

甲種一等機關手 金十五圓

乙種船長 金十圓

乙種二等運轉手 金四圓

乙種二等機關手 金六圓

水先人 金二十圓

二 登録事項の變更

每一件金五十錢

第十條

版權の登録を請ふ者は左の區別に従ひ登録税を納むへし

一 普通の文書、圖書 一種毎に金五圓

二 冊號を追ひ順次出版する文書、圖書 一冊毎に金二十圓五十錢

三 雜誌の類 一冊毎に金五十錢

四 興行權を併有する脚本 一種毎に金五十圓

五 興行權を併有する樂譜 一種毎に金二十圓

六 寫眞 一版毎に金五圓

第十一條 特許に關し登録を受くる者は左の區別に従ひ登録税を納むへし

一新規登録

五年の特許 金二十圓

十五年の特許 金四十圓

二 賣與、讓與又ハ共有 每一件金十圓

三 書入契約 每一件金五圓

第十二條 意匠に關し登録を受くる者は左の區別に従ひ登録税を納むへし

一新規登録

三年の専用 物品一類毎に金三圓

五年の専用 物品一類毎に金五圓

七年の専用 物品一類毎に金七圓

十年の専用
 物品一類毎に金十圓
 物品一類毎に金二圓
 物品一類毎に金一圓

第十三條 商標に關し登録を受くる者は左の區別に従ひ登録税を納むべし
 一 新規並續用登録 商品一類毎に金二十圓
 商品一類毎に金十圓
 二 賣與、讓與又は共有

第十四條 礦業に關し左の事項を官簿に登錄するときは記名者は左の區別に従ひ登録税を納むべし

- 一 試掘 金五十圓
- 二 採掘 金百圓
- 三 試掘増區及増減區に係る訂正金二十五圓
- 四 採掘増區及増減區に係る訂正金五十圓
- 五 買受、讓受 金五十圓
- 六 採掘權書入又は試掘延期 金十五圓
- 七 減區に係る訂正 金五圓
- 八 鑛區の合併又は分割 金十圓
- 九 廢業 金五圓

第十五條 左の事項に付戸籍に登録するときは届出人は左の區別に従ひ登録税を納むべし

- 一 左に列記するもの 金一圓
 - 身分變換 復姓
 - 改名 家督相續
 - 廢戶主 廢嫡 分家 廢嫡者復立 相續人入籍
 - 離婚送籍 相續人送籍 私生子引受 絕家再興
- 二 左に列記するもの 金七十錢
 - 養子女入籍 結婚入籍 相續人離縁送籍 養子女離縁送籍
 - 轉籍 私生子引渡 戸内離婚 庶子私生子を嫡子となすもの
- 三 左に列記するもの 金五十錢
 - 戸籍訂正 戸内結婚 縁女入籍 結婚送籍 縁女送籍
 - 養子女送籍
- 四 左に列記するもの 金三十錢
 - 分家者復歸入籍 養子女離縁復籍 相續人離縁復籍 離婚復籍
 - 縁女離縁復籍
- 五 左に列記するもの 金二十錢
 - 出生 失踪者復歸 失踪者所在分明
- 六 左に列記するもの 金十錢

携帶者入籍 親族入籍

附籍者入籍

携帶者送籍

親族送籍

附籍者送籍

第十六條 國債證券の記名登録を請ふものは左の區別に従ひ登録税を納むべし

一 新規記名

額面金額千分の二

二 左に列記するもの

額面金額千分の一

記名變更 枚數變更

記名除却

第十七條 登録税は印紙を以て之を納むべし但勅令の定むる所に依り現金を以て之を徴收

することを得

第十八條 登録税は總て金一錢以上とす一錢未満の端數は一錢として之を計算す

第十九條 無資力にして左に掲ぐる者及窮民にして公の救助を受くる者は戸籍の登録税を

免除す

一 一定の職業なく臨時日雇等に依り生活する者

二 十三年未滿六十年以上にして一定の職業なき者

三 婦女子にして一定の職業なきか又は他人に雇使せらるる者

附 則

第二十條 本法は明治二十九年四月一日より施行す

第二十一條 現行法律命令の規定する登記料又は手数料等にして本法に規定する登録税と

重複するものは本法施行の日より之を廢止す ●本法中第十五條及第十九條ハ明治三十年四月一日ヨリ廢止セラル

●府縣制(二十三年五月十七日法律第三十五號)

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣の廢置分合及府縣境界の變更は法律を以て之を定む

府縣境界に當る郡市町村の境界を變更するときは府縣境界も亦自ら變更するものとす

本條の處分に付其財産處分を要するときは内務大臣之を定む但特に法律の規定あるものは此限に在らず

第二章 府縣會

第二條 府縣會は府縣内郡市に於て選舉したる議員を以て之を組織す

郡市に於て選舉すべき府縣會議員の定數は勅令を以て之を定む但各郡市をして少くとも一人の議員を選舉せしむべし

第三條 府縣會議員の選舉は市に在ては市會及市參事會會同し市長を會長とし郡に在ては郡會及郡參事會會同し郡長を會長とし左の規定に依り之を行ふべし但會長は投票に加はらざるものとす

一 投票は選舉人自ら會長の面前に於て之を投票函に投入し投票は匿名とす

二 左の投票は之を無効とす

一 記載せる人名の讀み難きもの 二 被選人の何人たるを確認し難きもの

府縣制

三 被選権なき人名を記載するもの 四 被選人氏名の外他の文字を記入するもの但爵位職業身分住所又は敬稱は此限に在らず
 本項一より三に至るの場合に於て票中他に列記の被選人に付ては仍其効ありとす
 三 有効投票の多数を得たる者を以て當選とす投票の數相同きものは年長者を取り年齢相同きときは會長自ら抽籤して其當選を定む
 第四條 府縣内市町村の公民中選舉權を有し其府縣に於て一年以來直接國稅十圓以上を納むる者は府縣會の被選権を有す
 住居を移したる爲市町村の公民權を失ひたる者其住居同府縣内に在り且他の要件を失はざるときは仍府縣會の被選権を有す
 其府縣會は警縣の官吏及有給吏員神官諸宗の僧侶又は教師は府縣會議員たることを得す前項の外の官吏にして當選し之に應せんとするときは本屬長官の許可を受くへし
 府縣會議員は衆議院議員と相兼ねることを得す
 第五條 府縣會議員は名譽職とす其任期は四年とし毎二年其半數を改選す若其員數二分し難きときは初會に於て多數の一半を解任せしむ初會に於て解任すへき者は府縣會議長府縣會に於て自ら抽籤して之を定む
 解任の議員は再選せらるゝことを得
 第六條 議員中闕員あるときは遅くとも六箇月以内に補闕選舉を行ふへし
 補闕議員は其前任者の殘任期間在職するものとす
 第七條 府縣會議員の選舉は府縣知事の告示に依り之を行ふへし其告示は遅くとも選舉の日より十四日前に之を發すへし

第八條 選舉を終り當選人の定まりたるときは郡長市長は直に當選人に通知し及府縣知事に報告すへし
 當選人其當選の通知を受けたる時は五日以内に其當選を承諾するや否を府縣知事に届出すへし
 一人にして數箇所の選舉に當りたるときは同期限内に何れの選舉に應すへきことを府縣知事に届出すへし
 前二項の届出を其期限内に爲さざるときは總て選舉を辭する者と視做すへし
 第九條 當選人其當選を辭し又は承諾の届出を爲さざるときは府縣知事は其郡市をして十日以内に更に選舉を行はしむへし
 第十條 當選人確定したるときは府縣知事は直に當選證書を付與し及管内に告示すへし
 第十一條 選舉人選舉の効力に關して訴願せんとするときは選舉の日より十四日以内に之を府縣知事に申立ることを得
 第十二條 當選人其當選の際資格の要件を有せざりしと發覺するときは其當選を無効とす
 當選人當選後資格の要件を失ふときは議員の職を失ふものとす
 第十三條 府縣會に於て其議員中議員の資格を有せざる者あることを發見するときは其議決を以て之を府縣知事に通知すへし
 第十四條 府縣會議員被選権の有無及選舉の効力は府縣參事會之を裁決す
 府縣參事會の裁決に不服なる者は行政裁判所に訴することを得
 第十五條 府縣會の議決すべき事件左の如し
 一 府縣の歳入出豫算を定むる事 二 決算報告を認定する事 三 府縣稅の賦課

徵收方法を定むる事 四 府縣有不動産の賣買交換讓渡讓受並に質入書入の事 五

歳入出豫算を以て定むるものを除く外新に義務の負擔を爲し及權利の棄却を爲す事

六 府縣有財産の管理及營造物の維持方法を定むる事

其他法律命令に依り府縣會の權限に屬する事項を議決す

第十六條 府縣會は其權限に屬する事件を府縣參事會に委任することを得

第十七條 府縣會は官廳の諮問あるときは意見を陳述すへし

府縣會は其府縣の全部又は一部の公益に關する事件に付府縣知事又は内務大臣に建議することを得

第十八條 府縣會議員は選舉人の指示若は委員を受くへからざるものとす

第十九條 府縣會は改選後の初會に於て議長及副議長各一名を互選すへし其任期は議員の任期に從ふ

議長副議長共に故障あるときは臨時議長を互選すへし

第二十條 府縣知事若は特に知事の委任を受けたる府縣の官吏若は吏員は府縣會の議事に參與することを得但議決に加はることを得ず

前項の列席者に於て發言を求むるときは議長は何時にても之を許すへし

第二十一條 府縣會は毎年一回秋季に於て通常會を開く通常會の會期は三十日以内とす其他必要あるときは其事件に限り七日以内を會期として臨時會を開くことを得

府縣會は府縣知事之を招集す其招集は開會の日より十四日前迄に告示すへし但急施を要する場合は此限に在らず

府縣會は府縣知事之を開閉す

第二十二條 府縣會は議員三分の一以上出席するに非されは會議を開き議決を爲すとを得ず

第二十三條 府縣會の議決は過半数に依る可否同數なるときは議長の決する所に依る

第二十四條 議員は自己及其父母兄弟若は妻子の一身上に關する事件に付ては會議の承諾を経るに非されは府縣會の議事に參與し及議決に加はることを得ず

第二十五條 府縣會に於て選舉を行ふときは第三條の規定に依るへし

第二十六條 府縣會の會議は公開す但左の場合に此限に在らず
一 府縣知事より傍聽禁止の要求を受けたるとき

二 議長又は議員五名以上の發議に由り傍聽禁止を可決したるとき

議長又は議員の發議は討論を用ゐずして其可否を決すへし

第二十七條 東京府京都府大阪府府會の職權に屬する事件にして専ら東京市京都市大阪市に關するものと専ら其他の部分に關するものとを分別することを要するものあるときは府會の議決に依り之を分別することを得

前項の分別に依り専ら東京市京都市大阪市に關するものは其郡部議員に於て其事件の議事に參與し及議決に加はることを得す其他の部分に關するものは市部議員に於て其事件の議事に參與し及議決に加はることを得す此場合に於ては郡部議員市部議員に於て各臨時議長を互選すへし此法律中東京府京都府大阪府府會の市部議員とあるは東京市京都市大阪府市會に於て選舉したる議員を云ふ郡部議員とあるは東京市京都市大阪府市會を除き其他の部分に於て選舉したる議員を云ふ

第二十八條 議長は議事の順序を定め會議及選舉の事を總理し其日の會議を開閉し並に延會し議場の秩序を保持す

第二十九條 議員は會議中無禮の語を用ゐ及他人の身上に涉り言論することを得ず

第三十條 會議中此法律若は議事規則に違ひ其他議場の秩序を紊る議員あるときは議長之を警戒し又は制止し又は發言を取消さしむ命に従はざるときは議長は當日の會議を終るまで發言を禁止し又は議場の外に退去せしむへし若強抗に涉る者あるときは警察官に命して之を退去せしむることを得

議場騷擾にして整理し難きときは議長は當日の會議を中止し又は之を閉つることを得
第三十一條 議員中議場の秩序を紊ること二回以上に及ぶ者あるときは議長又は議員の發議に依り議會の議決を以て七日以内其出席を停止することを得

第三十二條 會議の傍聽人公然可否を表し又は喧騒に涉り其他議事の妨害を爲す者あるときは議長は之を制止し若命に従はざるときは警察官に命して之を退場せしむることを得
傍聽席騷擾なるときは議長は總ての傍聽人を退場せしむることを得

第三十三條 府縣知事若は特に其委任を受けたる官吏若は吏員及議員は議場の秩序を紊り又は議場の妨害を爲す者あるときは議長は注意を喚起することを得
第三十四條 第三十二條に依り議長の命に應せしむる爲府縣知事東京府は警視總監は毎會期警察官に議場掛専務を命すへし

第三十五條 府縣會に書記を置き議長に隸屬して庶務を掌理せしむ
書記は議長之を選任す

第三十六條 府縣會は書記をして議事録を製し議決及選舉の顛末並に出席議員の氏名を記録せしむへし議事録は議長及議員二名以上之に署名すへし其議員は會議の前議會に於て豫め之を定め議事録中に其氏名を記載し置くへし

第三十七條 府縣會は議事規則及傍聽人取締規則を設け内務大臣の認可を受けて之を施行すへし

第三章 府縣參事會吏員及委員
第三十八條 府縣に府縣參事會を置き府縣知事高等官二名及名譽參事會員を以て之を組織す

府の名譽職參事會員は八名とす郡部議員に於て其議員中より四名を互選し市部議員に於て其議員中より四名を互選すへし

縣の名譽職參事會員は四名とす縣會に於て其議員中より之を互選すへし

第三十九條 府縣參事會員たる高等官は府縣廳に奉職の高等官中より内務大臣之を命す

第四十條 府縣參事會は府縣知事を以て議長とす議長故障ある時は高等官會員之を代理す

第四十一條 府縣會は毎通常會に於て名譽職參事會員の補充員府は八名縣は四名を互選し其名譽職參事會員の關員あるときは府縣知事に於て補充員中投票多數の順次に依り之を補充すへし但其既に補充したる者は前任者の任期中在職するものとす

第四十二條 名譽職參事會員の任期は議員の任期に従ふ但任期滿限の後と雖後任者就職の日まで在職するものとす

名譽職參事會員は補充員を以て其關員を補充し仍關員を生したる場合に於ては二箇月以内臨時其選舉を行ふへし

第四十三條 府縣參事會の職務權限左の如し

一 府縣會の權限に屬する事件にして其委任を受けたるものを議決する事

二 府縣會の權限に屬する事件にして臨時急施を要し府縣知事に於て府縣會を招集する

の暇なしと認むるときは府縣會に代て議決を爲す事
 三 府縣會の定めたる方法の範圍内に於て府縣有財産の管理又は營造物の維持に關し必要なる要件に付議決を爲す事
 四 府縣の費用を以て支辨する工事の次第順序其他必要なる事件に付議決を爲す事
 五 府縣知事及其他官廳の諮問に對し意見を述ふる事
 六 府縣知事より發する府縣會議案に付府縣知事に意見を述べ及會議に報告する事
 七 臨時必要あるときは府縣の出納を檢査する事
 其他法律命令に依り府縣參事會の權限に屬する事務を處理す
 第四十四條 府縣參事會は府縣知事之を招集す
 會員半數以上の請求あるときは府縣知事は府縣參事會を招集すへし
 第四十五條 府縣參事會の會議は傍聽を許さず
 第四十六條 府縣參事會は議長又は其代理者及名譽職會員半數以上出席するに非されは會議を開き議決を爲すことを得ず但第四十三條第二の議決を爲すときは高等官會員は其議決に加はらざるものとす
 府縣參事會の議決は過半數に依る可否同數なるときは議長の決する所に依る
 議決の事件は之を議事録に登記し議長及名譽職參事會員二名以上之に署名すへし
 第四十七條 府縣參事會員は自己及其父母兄弟若は妻子の一人身上に關する事件に付府縣參事會の議事に參與し及議決に加はることを得ず
 前項規定の爲出席の參事會員減少して前條第一項の數を得ざるときは府縣知事は補充員を以て臨時之に充て仍其數を得ざるときは府縣會議員にして該事件に關係なき者の内より臨時に指名し名譽職參事會員の不足を補充して第三十八條の定數に満たしむへし
 第四十八條 市制町村制の規定に依り府縣參事會の權限に屬する事件にして二府縣以上の郡市町村に交渉するものあるときは其府縣知事の具狀に依り内務大臣に於て其事件を管轄すへき府縣參事會を指定すへし
 第四十九條 東京府京都府大阪府參事會の職權に屬する事件にして専ら東京市京都市大阪市に關するものは其郡部名譽職參事會員に於て其事件の議事に參與し及議決に加はることを得ず其東京市京都市大阪市の市町村若は郡に關するものは市部名譽職參事會員に於て其事件の議事に參與し及議決に加はることを得ず
 此法律中東京府京都府大阪府會の市部名譽職參事會員とあるは市部議員に於て選舉したる名譽職參事會員を云ひ郡部名譽職參事會員とあるは郡部議員に於て選舉したる名譽職參事會員を云ふ
 第五十條 府縣知事は府縣會及府縣參事會の議決を施行し及府縣有財産及營造物を管理し並に府縣の費用を以て支辨する工事を執行す
 府縣に於て他人に對し義務を負擔すへき證書及委任狀には知事の外名譽職參事會員二名以上之に署名捺印すへし
 前項の文書中府縣會又は參事會の職權に屬する事件にして其議決を経たるものは總て其旨を記入すへし
 第五十一條 府縣會に於て名譽職參事會員を選舉せず又は參事會成立せず又は招集に應ぜざるときは參事會成立し又は招集に應ずる迄府縣知事は府縣參事會の權限に屬する事件を專決處分することを得

の暇なしと認むるときは府縣會に代て議決を爲す事
 三 府縣會の定めたる方法の範圍内に於て府縣有財産の管理又は營造物の維持に關し必要なる要件に付議決を爲す事
 四 府縣の費用を以て支辨する工事の次第順序其他必要なる事件に付議決を爲す事
 五 府縣知事及其他官廳の諮問に對し意見を述ふる事
 六 府縣知事より發する府縣會議案に付府縣知事に意見を述べ及會議に報告する事
 七 臨時必要あるときは府縣の出納を檢査する事
 其他法律命令に依り府縣參事會の權限に屬する事務を處理す
 第四十四條 府縣參事會は府縣知事之を招集す
 會員半數以上の請求あるときは府縣知事は府縣參事會を招集すへし
 第四十五條 府縣參事會の會議は傍聽を許さず
 第四十六條 府縣參事會は議長又は其代理者及名譽職會員半數以上出席するに非されは會議を開き議決を爲すことを得ず但第四十三條第二の議決を爲すときは高等官會員は其議決に加はらざるものとす
 府縣參事會の議決は過半數に依る可否同數なるときは議長の決する所に依る
 議決の事件は之を議事録に登記し議長及名譽職參事會員二名以上之に署名すへし
 第四十七條 府縣參事會員は自己及其父母兄弟若は妻子の一人身上に關する事件に付府縣參事會の議事に參與し及議決に加はることを得ず
 前項規定の爲出席の參事會員減少して前條第一項の數を得ざるときは府縣知事は補充員を以て臨時之に充て仍其數を得ざるときは府縣會議員にして該事件に關係なき者の内より臨時に指名し名譽職參事會員の不足を補充して第三十八條の定數に満たしむへし
 第四十八條 市制町村制の規定に依り府縣參事會の權限に屬する事件にして二府縣以上の郡市町村に交渉するものあるときは其府縣知事の具狀に依り内務大臣に於て其事件を管轄すへき府縣參事會を指定すへし
 第四十九條 東京府京都府大阪府參事會の職權に屬する事件にして専ら東京市京都市大阪市に關するものは其郡部名譽職參事會員に於て其事件の議事に參與し及議決に加はることを得ず其東京市京都市大阪市の市町村若は郡に關するものは市部名譽職參事會員に於て其事件の議事に參與し及議決に加はることを得ず
 此法律中東京府京都府大阪府會の市部名譽職參事會員とあるは市部議員に於て選舉したる名譽職參事會員を云ひ郡部名譽職參事會員とあるは郡部議員に於て選舉したる名譽職參事會員を云ふ
 第五十條 府縣知事は府縣會及府縣參事會の議決を施行し及府縣有財産及營造物を管理し並に府縣の費用を以て支辨する工事を執行す
 府縣に於て他人に對し義務を負擔すへき證書及委任狀には知事の外名譽職參事會員二名以上之に署名捺印すへし
 前項の文書中府縣會又は參事會の職權に屬する事件にして其議決を経たるものは總て其旨を記入すへし
 第五十一條 府縣會に於て名譽職參事會員を選舉せず又は參事會成立せず又は招集に應ぜざるときは參事會成立し又は招集に應ずる迄府縣知事は府縣參事會の權限に屬する事件を專決處分することを得

非常事變に際し府縣參事會を招集するの暇なく又は名譽職參事會員の出席半數以上に至らざるときは府縣知事は府縣參事會の權限に屬する事件を專決處分することを得

第五十二條 府縣知事は府縣會の議決に依り府縣の費用を以て府縣有財產又は營造物の管理若し土木工事に必要なる有給の府縣吏員を置くことを得但府縣吏員は府縣知事に於て之を任免監督す

府縣吏員の給料手當退還料等は府縣會の議決する所に依る其身元保證金を要するとき其金額を定むるも亦同し

第五十三條 府縣知事は府縣會の議決を経て臨時又は常設の委員を置き府縣事務の一部を調査せしめ又は府縣有財產及營造物の一部を管理せしむることを得其選舉又は選任の方法及任期は府縣會の議決する所に依る

第四章 府縣の會計

第五十四條 府縣有財產及營造物管理の費用府縣會府縣參事會及委員の費用府縣吏員の給料退還料其他諸給與及從來法律命令若し慣例に依り並に將來法律勅令に依り府縣の負擔と定むる事件の費用は府縣に於て之を支辨すへし

第五十五條 名譽職參事會員及委員には旅費滞在手當出務日當を給することを得府縣會議員には旅費及滞在手當に限り之を給することを得但滞在手當出務日當を併せ一日一圓五十錢を超ゆることを得す

第五十六條 府縣の支出は府縣稅其他府縣の收入を以て之に充つ

第五十七條 府縣稅目及其賦課徵收方法に關する規定は此法律に依り變更したるものを除くの外従前地方稅に關する規定に依る

第五十八條 府縣知事は府縣會の議決に依り内務大臣及大藏大臣の許可を受け其府縣の全部若し市制施行の地に家屋稅を賦課することを得但家屋稅賦課の地に於ては戶數割を賦課することを得す

第五十九條 府縣内に土地家屋を所有し又は店舗を定めて營業を爲す者は其土地家屋營業に對して賦課する府縣稅を納むるものとす其法人たるるときも亦同し但郵便電信及官設鐵道の業は此限に在らず

府縣内に一戸を構へ三箇月以上に及ぶ者は其戶數に對して府縣稅を納むるものとす但其課稅ハ一戸を構へたる初に遡り徵收すへし

第六十條 府縣稅の賦課に付ては納稅者か其府縣外に於て店舗を定めたる營業の收入を其標準に算入することを得す

第六十一條 府縣會は各市町村内に於て徵收する府縣稅賦課の細目に係る事項を關係市町村會の議決に付することを得

前項市町村會の議決は法律命令又は府縣會の議決に抵觸することを得す

市町村會に府縣會の指定したる期限内に其議決を爲さざるときは府縣參事會之を議決すへし

第六十二條 營業の狀況又は收入を標準として賦課する府縣稅に付ては府縣知事は府縣會の議決を経て賦課額調査の爲め府縣内都市に調査委員を置くことを得

第六十三條 府縣稅の免除は市町村稅免除の規定に依る

第六十四條 府縣會は府縣内郡市町村の土木工事又は府縣内の教育衛生勸業及慈善の事業若し營造物に對し補助金を與ふることを議決することを得

第六十五條 府縣會は家屋税又は戸數割の全部又は一部の代納として府縣の費用を以て支辨する事業に對し夫役又は現品を出すを許すことを議決することを得

第六十六條 府縣税は納税義務の起りたる翌月の初より免稅理由の生したる月の終迄月割を以て之を徵收すへし但日割を以て徵收するものは此限に在らず

納稅義務消滅し又は變更するときは納稅者より之を當該官廳に届出へし其届出を爲したる月の終迄は從前の税を徵收すへし

物件を目的とし納期を定めて一定の額を賦課する府縣税は其納期に於て納稅義務を負ふ者其額を納むへし

府縣税の前納に係るものは其義務の消滅し又は他人に移轉したる場合と雖之を還付せず但其義務の移轉を受けたる者は其前納期限の終迄納稅せざるものとす

第六十七條 府縣税は法律命令を以て別段の規定を設くるものを除くの外各市町村長に於て市町村税徵收の手續に依り之を徵收すへし

第六十八條 府縣税の賦課に對し錯誤あることを發見したる者は徵稅傳令書の交付後三箇月以内に之を其傳令書を發したる廳に申立る事を得但申立の爲其納稅を拒むことを得ず

第六十九條 前條の申立を爲したる後二十一日以内に其更正を得ざるるとき又は其更正を得るも之に不服なるときは十四日以内に郡參事會に訴願し郡參事會の裁決に不服なるときは其裁決書を交付し又は之を告知したる日より十四日以内に府縣參事會に訴願し府縣參事會の裁決に不服なるときは行政裁判所に出訴することを得但市に在ては府參事會に訴

願し府縣參事會の裁決に不服なるときは行政裁判所に出訴することを得

第七十條 府縣税の免稅若し納稅延期は特別の事情あるものに限り府縣知事に於て府縣參事會の議決を経て之を許すことを得

府縣税の滯納處分は國稅滯納處分法に依る

第七十一條 東京府京都府大阪府に在ては府の支出に充つへき府税を市部及郡部に分賦す其分賦の割合は府會に於て之を議決し内務大臣の認可を受けて施行すへし

前項市部の分賦額は市に於て之を市の豫算に編入し市税として徵收し其總額を府金庫に納むへし郡部の分賦額は此法律の規定に依り之を徵收す但市部議員は其徵收に關する議事に參與し及議決に加はらざるものとす此場合に於て若議長副議長市部議員なるときは郡部議員に於て臨時議長を互選すへし

第七十二條 市制施行の府縣に在ては郡廳舎建築修繕費郡吏員給料旅費及廳費は市を除き其他の部分のみをして其負擔に任せしむへし

前項の府縣に在ては其府縣の支出費目中市與其他の部分と利害の厚薄を異にし均一の負擔に任せしむることを得ざるものあるときは其費目に限り其一方の負擔を増加することを得但負擔の割合は府縣會に於て之を議決し内務大臣の許可を受くへし若之を許可すへからずと認むるときは内務大臣之を確定す

第一項の負擔に任せしめ及第二項に依り一方の負擔を増加するは賦課の稅率を増加するに止め其會計を異にすることを得ず但東京府京都府大阪府に在ては前條に依る

前項に依り稅率を増加すへき稅目は府縣會の議決する所に依る

第七十三條 府縣内の或る部分に對し特に利益ある土木事業を起すときは府縣會の議決に

依り該部分に對し通常府縣稅賦課の外其利益の厚薄に應し特に夫役現品を増課することを得

第七十四條 府縣は其舊債元額を償還する爲又は天災事變の爲己むを得ざる支出又は府縣の永久の利益と爲るべき支出を要するに方り通常の歳入を増加するときは府縣の負擔に堪へざるの場合に限り勅令の定むる所に依り府縣其の議決を以て府縣債を起す事を得
府縣債を起すの議決を爲す時は併せて起債の方法利息の定率及償還の方法を定むべし
府縣償還の初期は三年以内と爲し年々の償還歩合を定め起債の時より三十年以内に還すべし

歳入出豫算内の支出を爲すか爲必要なる一時の借入金にして其年度内の収入を以て償還すべきものは本條の例に依るの限に在らず但府縣參事會の議決を経ることを要す

第七十五條 府縣知事は毎年其翌年度に係る歳入豫算を調製すべし但府縣の會計年度は政府の會計年度に同じ

豫算は府縣會の議決に付するの前府縣參事會の審査に付すべし若府縣知事と府縣參事會と意見を異にするときは知事は參事會の意見を豫算に添へ府縣會に提出すべし追加又は臨時の豫算に付ても亦同じ

内務大臣は省令を以て豫算調製の式を定め並に費目流用に關する規定を設くることを得
第七十六條 豫算は毎年府縣會の議決を取り之を内務大臣に報告し並に府縣の公告式に依り其要領を告示すべし追加又は臨時の豫算を議決したる場合に於ても亦同じ

府縣の費用を以て支辨するの業にして數年を期し施行すべきもの又は數年を期して其費用を支出すべきものは府縣會の議決を以て其年期間各年度の支出額を定め繼續費と爲す

ことを得

豫算を府縣會に提出するときは府縣知事は併せて其府縣有財産表を提出すべし

第七十七條 歳入出豫算中に豫備費を設くべし豫備費は府縣知事に於て府縣參事會の議決を経て己むを得ざる豫算外の支出又は豫算超過の支出に充つることを得但府縣會の否決したる費途に充つることを得ず

第七十八條 府縣の収支命令は府縣知事之を發すべし

第七十九條 會計事務を管理する官吏は前條の命令あるに非されは支拂を爲すことを得ず及其命令あるも支出の豫算なきか又は豫備費支出及費目流用の規定に依らざるときは支拂を爲すことを得ず

第八十條 決算は會計事務を管理する官吏に於て會計年度後三箇月以内に之を府縣知事に提出し府縣知事は府縣參事會をして之を檢査せしめ次回の通常府縣會の認定に付すべし
決算報告書並に之に關する府縣會の議決は府縣知事より之を内務大臣に報告し並に決算は府縣の公告式に依り其要領を告示すべし

第五章 監督

第八十一條 府縣の行政は内務大臣之を監督す

第八十二條 府縣の行政に關する訴願は其事件の處分若は裁決を受けたる日より二十一日内に其理由を具して内務大臣に提出すべし

此法律に指定する場合に於て府縣知事の處分又は府縣參事會の裁決に不服ありて行政裁判所に出訴せんとする者は裁決を受けたる日より二十一日以内に出訴すべし
行政裁判所に出訴することを得べき場合に於ては内務大臣に訴願することを得ず

第八十三條 内務大臣は府縣行政の法律命令に背戻せざるや其事務錯亂滯滞せざるや否を監視すへし内務大臣は之か爲行政事務に關して報告を爲さしめ豫算及決算等の書類帳簿を徴し並に實地に就て事務の現況を視察し出納を檢閲するの權を有す

第八十四條 府縣會又は府縣參事會の議決公益を害すと認むるときは府縣知事は理由を示して議決の執行を停止し之を再議せしめ猶其議決を改めるときは直に内務大臣に具狀して指揮を請ふへし

府縣會又は府縣參事會の議決其權限を超え又は法律命令に背くと認むるときは府縣知事は其議決を取消すへし此場合に於て府縣知事の處分に不服なるときは行政裁判所に出訴することを得

第八十五條 府縣會又は府縣參事會に於て法律命令又は慣行に依て府縣の負擔に屬する行政上又は公益上必要の費用を否決し又は議決すと雖必要の給需を缺くときは府縣會事は内務大臣に具狀し其指揮を請ひ原案を執行することを得但内務大臣は原案金額を不相當と認むるときは原案金額以内にて於て適當の金額を定め指揮することを得

第八十六條 府縣會招集に應せず又は成立せざるときは府縣知事は内務大臣の指揮を請ひ處分することを得

前項の處分は次回の會議に於て之を報告すへし

第八十七條 府縣會又は府縣參事會に於て其議決すへき議案を議決せず又は府縣會に於て招集前正當の手續を以て告知せられたる議案を第二十一條第一項に定めたる期限内に議了せざる場合に於て其事緊急を要するときは府縣知事は内務大臣に具狀し其指揮を請ひ原案を執行することを得但其議決せず又は議了せざる議案歳入出豫算に係り内務大臣に

於て原案金額を不相當と認むるときは原案金額以内に於て適當の金額を定め指揮することを得

第八十八條 内務大臣は府縣歳入出豫算中不適當の支出と認むる費目あるときは之を削除し及其府縣の資力に比し不急の支出と認むる費目あるときは之を削除若は減殺することを得此場合に於ては收入科目に就き之に相當する收入額を減殺すへし

第八十九條 府縣會の解散は勅令を以てす此場合に於ては三箇月以内に議員を改選すへし前項解散の場合に於ては名譽職參事會員も亦解職するものとす

府縣會解散の後改選結了に至る迄の間急施を要する事件あるときは府縣知事は專決處分することを得

前項の處分は次回の會議に於て之を報告すへし

第九十條 左の事件に關する府縣會の議決は内務大臣及大藏大臣の認可を受くる事を要す

- 一 新に府縣債を起し又は其額を増加し若は償還の方法を變更する事
- 二 地租四分の一を超過する府縣税を土地に賦課する事
- 三 法律勅令の規定に依り官廳より下渡す歩合金に對し支出金額を定むる事
- 第九十一條 左の事件に關する府縣會の議決は内務大臣の認可を受くることを要す
- 一 府縣有不動産の賣却讓渡並に質入書入の事
- 二 第七十二條第二項に依り市若は其他の部分の負擔を増加する事
- 三 第七十三條に依り府縣會の或る部分に對し特に夫役現品を増加する事
- 四 第七十六條第二項に依り繼續費を定め及其年期限内に議決を變更する事

第九十二條 行政裁判所を開設する迄の間此法律に依り行政裁判所に屬する職務は現行の行政裁判手續に従ひ控訴院に於て之を行ふへし

第九十三條 市制町村制施行の爲定むる直接税の種類は此法律の施行に付ても亦之を適用す
市制町村制郡制及此法律施行の爲將來の諸税に付直接税と爲すへきものは内務大臣及大藏大臣之を告示すへし

第九十四條 此法律は郡制市制を施行したる各府縣に施行するものとす其施行の時期は府縣知事の具申に依り内務大臣之を定む

第九十五條 此法律施行の後は市制第二百二十二條第三に定むる附加税徴收の許可は東京市京都市大阪市に在ては地租七分の三、二五(二十八分の十三)其他の市に在ては其七分の一、五(十四分の三)を超過するものとす

第九十六條 府縣内に在る島嶼の其本地に對する關係に付ては勅令を以て特例を設く郡制を施行せざる島嶼より選出すへき府縣會議員の選舉に關しては別に勅令を以て其制を定む

第九十七條 明治十三年四月第十五號布告府縣會議規則明治十四年二月第八號布告區郡部會議規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則其他法律に牴觸する成規は此法律施行の府縣に於て其施行の時期より總て之を廢止す

第九十八條 内務大臣は此法律施行の責に任し之か爲必要なる勅令を發布すへし

●郡制(二十三年五月十七日法律第三十六號)

第一章 總則

第一條 郡の廢置分合及郡界の變更は法律を以て之を定む

郡界に當る市町村の境界を變更するときは郡界も亦自ら變更するものとす
第二條 郡内の町村を變して市と爲し若は市を變して郡内の町村と爲すは其市會町村會の申請に依り内務大臣之を定む

第三條 第一條第二條の處分に付其財產處分を要するときは府縣參事會之を議決すへし
但特に法律の規定あるものは此限に在らず

第二章 郡會
第四條 郡會は郡内町村に於て選舉したる議員及大地主に於て選舉したる議員を以て之を組織す

第五條 町村に於て選舉すへき郡會議員の數は毎町村各一名とす
郡會議員の數二十名以上に及ぶときは二十名を以て制限とす此場合に於て議員配當法は首として人口を標準とし郡會に於て議決し府縣知事の認可を受くへし

郡會議員の數十名に満たざるときは郡會の議決に依り府縣知事の認可を經其數を増して十名に至ることを得其配當法は首として人口を標準とし郡會に於て議決し府縣知事の認可を受くへし

本條議員配當法は郡内の町村數に増減ありたる場合の外初回は三年間爾後は十二年以上に至り町村の人口に著しき増減あるに非されは改正せざるものとす

第六條 一町村に於て一名以上の議員を選舉するは其町村會之を行ひ數町村に於て一名若

くは一名以上の議員を選挙するは其各町村員會同して之を行ふへし

第七條 町村組合にして組合會を設け其町村一切の事務を共同處分するものは第四條乃至第六條の規定に關しては之を一町村と同視し其組合會に於て議員選舉を行ふへし

第八條 大地主は町村に於て選舉すべき議員定數の外其定數の三分の一を互選するものとす若端數を生ずるときは之を棄却すへし

選舉を行ふことを得べき大地主にして其員數町村に於て選舉すべき議員定數の三分の一以下なるときは其大地主は選舉に依らずして郡會議員たるものとす但定期改選の期限内に於ては大地主の員數減して三分の一以下に至ると雖解散の爲改選する場合を除くの外は本項を適用するの限に在らず

第九條 大地主とは郡内に於て町村税の賦課を受くる所有地にして地價總計一萬圓以上を有する地主を云ふ

第十條 郡内町村公民にして町村會の選舉に參與することを得べき者及大地主中自ら選舉に加はることを得べき者は總て郡會の被選舉權を有す

住居を移したる爲町村の公民權を失ひたる者其住居同郡内に在り且他の要件を失はざるときは仍郡會の被選舉權を有す

左に掲ぐる者は選舉に係ると否とを問はず郡會議員たることを得ず

- 一 所屬府東京府は警視廳とも縣並に其郡の官吏
- 二 其郡の有給吏
- 三 神官及諸宗の僧侶又は教師
- 四 小學校教員

前項の外の官吏にして當選に應し又は第八條第二項の權利を行はんとするときには本屬長官の許可を受くへし

第十一條 大地主にして選舉權を有するは帝國臣民にして公權を有する男子に限る年齢二十歳未満の者及治産の禁を受けたる者は選舉權を有せざるものとす

大地主の選舉權は身代限處分中又は租稅滯納處分中又は公權の剝奪若は停止を附加すべき重罪の爲裁判上の訊問若は勾留中は之を停止す

本條の規定は選舉に依らずして郡會議員たる者にも適用す

第十二條 選舉權を有する大地主は代人を以て選舉を行ふことを得

陸海軍の現役に服する者は代人を以てするに非されは選舉を行ふことを得ず

代人は帝國臣民にして公權を有し町村制に定めたる獨立の男子に限る但一人にして數人の代理を爲すことを得す且代人は委任狀を以て代理の證とすへし

本條規定は第八條第二項の權利を行ふ場合にも適用するものとす但其代人は郡會に被選舉權を有する者にして郡會議員たらざる者に限る

第十三條 郡會議員は名譽職とす

町村に於て選舉したる議員の任期は六年とし毎三年其半數を改選す若其員數二分し難きときは初回に於て多數の一半を解任せしむ初回に於て解任すべき者は郡會議長郡會に於て自ら抽籤して之を定む大地主に於て撰舉したる議員の任期は三年とし毎三年其全數を改選す解任の議員は再選せらるゝことを得

第十四條 議員中副員あるときは遅くとも六箇月以内に補闕選舉を行ふへし

補闕議員は其前任者の殘任期間在職するものとす

第十五條 郡長は郡會議員改選前選舉權ある大地主の名簿を製し之に其資格を記載し其氏名を告示すへし

關係者に於て大地主名簿の正否に關し異議あるときは告示後二十一日以内に郡長に申立て其郡長の裁決に不服なる者は府縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服なる者は行政裁判所に出訴することを得

大地主名簿に登録せられざる者は選舉に參與し及第八條第二項に依り郡會議員たることを得ず大地主名簿は次の定期改選前に行ふべき補闕選舉にも亦適用するものとす但大地主の資格を失ひ又は選舉權の要件を失ひたる者は之を削除し其氏名を告示すへし其處分に對し異議あるときは本條第二項の例に依る

定期改選の期限内新に選舉權を得又は選舉に依らずして郡會議員たるの權利を得たる者は解散の爲改選する場合を除く外期限内に於て其名簿に登録せざるものとす
第十六條 郡會議員の選舉は郡長の告示に依り之を行ふへし其告示は遅くとも選舉の日より七日前に之を發すへし

第十七條 撰擧の順序は先づ町村之を行ひ次に大地主之を行ふへし
町村に於て行ふ撰擧は町村制第四十六條の規定に従ふへし但數町村會會同して行ふ撰擧は郡長又は郡長の指定する町村長を撰擧會長として之を行ふへし
大地主に於て行ふ撰擧は郡長を撰擧會長として之を行ふへし

第十八條 大地主に於て撰擧を行ふときは左の規定に依るへし
一 郡長は遅くとも撰擧の日より七日前撰擧人に招集狀を發し撰擧の場所日時を告知すへし
二 撰擧掛は撰擧會長に於て臨時に撰擧人中より撰任したる立會人二名若は四名及撰擧會長を以て之を組織す撰擧會長は撰擧會を開閉し其會場の取締に任す

三 選舉開會中は撰擧人の外何人たりとも撰擧會場に入ることを得ず
四 投票は撰擧人自ら撰擧會長の面前に於て之を投票函に投入す
五 投票は匿名とす
左の投票は之を無効とす

一 記載せる人名の読み難きもの 二 被撰人の何人たるを確認し難きもの 三 被撰權なき人名を記載するもの 四 被撰人氏名の外他の文字を記するもの 但爵位職業身分住所又は敬稱は此限に在らず
本項一より三に至るの場合に於て票中他に列記の被選人に付ては仍其効ありとす
投票の受理並に効力に關する事項は撰擧掛假に之を議決す可否同數なるときは撰擧會長之を決す

六 有効投票の多數を得たる者を以て當撰とす投票の數相同きものは年長者を取り年齢相同きときは撰擧會長自ら抽籤して其當選を定む
七 選舉掛は選舉録を製して選舉の顛末を記録し選舉を終りたる後之を朗讀して署名すへし

八 投票は選舉の効力確定する迄之を保存すへし
第十九條 選舉を終り當選人定まりたるときは町村會に於て行ふ選舉に在ては町村長數町村會會同して行ふ選舉及大地主に於て行ふ選舉に在ては選舉會長直に當選人に通知し町村長は之を郡長に報告すへし
當選人當選の通知を受けたるときは五日以内に其當選を承諾するや否を郡長に届出へし一人にして數箇所の選舉に當りたるときは同期限内に何れの選舉に應ずべきこと及選舉

に依らずして郡會議員たるべき大地主にして町村の選挙に當選したるときは其選挙に應ずること又は應ぜざることを同期限内に郡長に届出へし
前二項の届出を其期限内に爲さざるるときは選挙を辭する者と視做すへし
町村の選挙に應ずる大地主は第八條第二項の權利を有する者と雖二重に其權を行ふことを得ざるものとす

第二十條 議員の當選を辭し又は承諾の届出を爲さばは者あるときは郡長は七日以内に更に選挙を行ひ又は町村長に命じて更に選挙を行はしむへし

第二十一條 當選人確定したるときは郡長は直に當選證書を付與し及管内に告示すへし

第二十二條 選挙人選挙の効力に關して訴願せんとするときは選挙の日より十四日以内に之を郡長に申立つることを得

第二十三條 當選人其當撰の際資格の要件を有せざりしこと發覺するときは其當撰は無効とす

常撰人當撰後資格の要件を失ふときは議員の職を失ふものとす

第二十四條 郡會に於て其議員中議員の資格を有せざる者あることを發見するときは其議決を以て之を郡長に通知すへし

第二十五條 郡會議員被撰權の有無及撰擧の効力は郡參事會之を裁決す
郡參事會の裁決に不服ある者は府縣參事會に訴願し其府縣參事會の裁決に不服なる者は行政裁判所に訴願することを得

第二十六條 郡會の議決すべき事件左の如し
一 郡の歳入出豫算を定むる事 二 決算報告を認定する事 三 郡有不動産の賣買交

換讓渡讓受並に質入書入の事 四 歳入出豫算を以て定むるものを除く外新に義務の負擔を爲し及權利の棄却を爲す事 五 郡有財産の管理及營造物の維持方法を定むる事
其他法律命令に依り郡會の權限に屬する事項を議決す

第二十七條 郡會は其權限に屬する事件を郡參事會に委任することを得

第二十八條 郡會は官廳の諮問あるときは意見を陳述すへし

郡會は其郡の全部又は一部の公益に關する事件に付郡長又は府縣知事に建議する事を得

第二十九條 郡會議員は撰擧人の指示若は委嘱を受くべからざるものとす

第三十條 郡會は郡長を以て議長とす
郡會は改選後の初會に於て議長代理者一名を互選すへし
議長及議長代理者共に故障あるときは臨時議長代理を互選すへし

第三十一條 郡長若は特に郡長の委任を受けたる郡吏員は郡會の議事に參與することを得但議決に加はることを得す

前項の列席者に於て發言を求むるときは議長は何時にても之を許すへし

第三十二條 郡會は毎年一回通常會を開くべし其他必要あるときは其事件に限り臨時會を開くことを得

郡會は郡長之を招集す若議員三分の一以上に於て臨時の招集を請求するときは之を招集すへし
招集は開會の日より十四日前迄に告示すへし但急施を要する場合は此限に在らず
郡會は郡長之を開閉す

第三十三條 郡會は議員半數以上出席するに非ざれば會議を開き議決を爲すことを得す但

同一の議事に付開會再回に至るも議員其半數に満たざるときは此限に在らず

第三十四條 郡會の議決は過半數に依る可否同數なるときは議長の決する所に依る

第三十五條 議員は自己及其父母兄弟若は妻子の一人身上に關する事件に付ては會議の承諾を経るに非されは郡會の議事に參與し及議決に加はることを得ず

第三十六條 郡會に於て撰擧を行ふときは第十八條四より六に至る規定に依るへし

第三十七條 郡會の會議は公開す但左の場合には此限に在らず

一 郡長より傍聴禁止の要求を受けたるるとき 二 議長又は議員三名以上の發議に由り傍聴禁止を可決したるとき

議長又は議員の發議は討論を用ゐずして其可否を決すへし

第三十八條 議長は議事の順序を定め會議及選舉の事を總理し其日の會議を開閉し並に延會し議場の秩序を保持す

第三十九條 議員は會議中無禮の語を用ゐ及他人の身上に涉り言論することを得ず

第四十條 會議中此法律若は議事規則に違ひ其他議場の秩序を紊る議事あるときは議長は之を警戒し又は制止し又は發言を取消さしむ命に従はざるときは議長は當日の會議を終るまで發言を禁止し又は議場の外に退去せしむへし若強抗に涉る者あるときは警察官の處分を求むることを得

議場騷擾にして整理し難きときは議長は當日の會議を中止し又は之を閉つることを得

第四十一條 會議の傍聴人公然可否を表し又は喧騒に涉り其他議事の妨害を爲す者あるときは議長は之を制止し若命に従はざるときは之を退場せしめ必要なる場合に於ては警察官の處分を求むることを得

傍聴席騷擾なるときは議長は總ての傍聴人を退場せしむることを得

第四十二條 郡長若は特に其委任を受けたる吏員及議員は議場の秩序を紊り又は議場の妨害を爲す者あるときは議長の注意を喚起することを得

第四十三條 郡會に書記を置き議長に隸屬して庶務を掌理せしむ

書記は議長之を選任す但郡吏員をして之を兼しむることを得

第四十四條 郡會は書記をして議事録を製し議決及選舉の顛末並に出席議員の氏名を記録せしむへし議事録は議長及議員二名以上之に署名すへし其議員は會議の前郡會に於て豫め之を定め議事録中に其氏名を記載し置くへし

第四十五條 郡會は議事規則及傍聴人取締規則を設け府縣知事の認可を受けて之を施行すへし

第三章 郡參事會吏員及委員

第四十六條 郡に郡參事會を置き郡長及名譽職參事會會員四名を以て之を組織す

名譽職參事會會員中三名は郡會に於て其議員中より互選し一名は府縣知事に於て郡會議員

若は郡内町村の公民中より撰任すへし

第四十七條 郡參事會は郡長を以て議長とす議長故障あるときは會員に於て臨時代理を互撰すへし

第四十八條 郡會は毎通常會に於て郡會の互撰したる名譽職參事會會員の補充員三名を互撰

し其名譽職參事會會員の闕員あるときは郡長に於て補充員中投票多數の順次に依り之を補充すへし但其既に補充したる者は前任者の任期中在職するものとす

第四十九條 名譽職參事會會員の任期に従ふ但任期滿限の後と雖後任者就職の日迄在職する

ものとす

郡會の互撰したる名譽職參事會員は補充員を以て其闕員を補充し仍闕員を生したる場合に於ては二箇月以内に臨時其選舉を行ふへし

第五十條 郡參事會の職務權限左の如し

- 一 郡會の權限に屬する事件にして其委任を受たるものを議決する事
 - 二 郡會の權限に屬する事件にして臨時急施を要し郡長に於て郡會を招集するの暇なしと認るとき郡會に代て議決を爲す事
 - 三 郡會の定めたる方法の範圍内に於て郡有財産の管理又は營造物の維持に關し必要なる事件に付議決を爲す事
 - 四 郡の費用を以て支辯する工事の次第順序其他必要なる事件に付議決を爲す事
 - 五 郡長其他官廳の諮問に對し意見を述ふる事
 - 六 郡長より發する郡會議案に付郡長に意見を述べ及會議に報告する事
 - 七 臨時必要あるとき郡の出納を檢査する事
- 其他法律命令に依り郡參事會の權限に屬する事務を處理す
- 第五十一條 郡參事會は郡長之を招集す
- 會員半數以上の請求あるときは郡長は郡參事會を招集すへし
- 第五十二條 郡參事會の會議は傍聽を許さず
- 第五十三條 郡參事會は議長又は其代理者及會員半數以上出席するに非ざれば會議を開き議決を爲すことを得ず
- 郡參事會の議決は過半數に依る可否同數なるときは議長の決する所に依る

議決の事件は之を議事録に登記し議長及名譽職參事會員二名以上之に署名すへし

第五十四條 郡參事會員は自己及其父母兄弟若は妻子の一身上に關する事件に付郡參事會の議事に參與し及議決に加はることを得ず

前項の規定の爲出席の參事會員減少して前條第一項の數を得るときは郡長は補充員を以て臨時之に充て仍其數を得るときは郡會議員にして該事件に關係なき者の内より臨時指名し名譽職參事會員の不足を補充して第四十六條の定數に満たしむへし

第五十五條 町村制の規定に依り郡參事會の權限に屬する事件にして二郡以上の町村に交渉するものあるときは其郡長の具狀に依り府縣知事に於て其事件を管理すへし郡參事會を指定すへし二府縣以上の町村に交渉するものあるときは其府縣知事の具狀に依り内務大臣に於て之を指定すへし

第五十六條 郡長は郡會及郡參事會の議事を施行し及郡有の財産及營造物を管理し並に郡の費用を以て支辯する工事を執行す

郡に於て他人に對し義務を負擔すへし證書及委任狀には郡長の外名譽職參事會員二名以上之に署名捺印すへし

前項の文書中郡會又は參事會の權限に屬する事件にして其議決を経たるものは其旨を記入すへし

第五十七條 郡會に於て名譽職參事會員を選舉す又は參事會成立せし又は招集に應ぜざるときは參事會成立し又は招集に應ずる迄郡長は郡參事會の權限に屬する事件を專決處分することを得

非常事變に際し郡參事會を招集するの暇なく又は名譽職參事會員の出席半數以上に至ら

さるときは郡長は郡参事會の權限に屬する事件を専決處分することを得

本條の處分は次回の郡會會議に於て之を報告すへし

第五十八條 郡は府縣稅を以て支辨する郡吏員の外郡會の議決に依り郡の費用を以て郡有財產又は營造物の管理若は土木工事に必要なる有給郡吏員を置くことを得但其郡吏員は他の郡吏に準し府縣知事に於て之を任免監督す

前項郡吏員の給料手當退隱料等は郡會の議決する所に依る其身元保證金を要するとき其金額を定むるも亦同し

第五十九條 郡長は郡會の議決を経て臨時又は常設の委員を置き郡事務の一部を調査せしめ又は郡有財產及營造物の一部を管理せしむることを得

委員は郡會に於て之を選擧す其選擧の方法及任期は郡會の議決する所に依る委員は名譽職とす

第四章 郡の會計

第六十條 郡有財產及營造物管理の費用郡會郡参事會及委員の費用第五十八條の郡吏員の給料退隱料其他諸給與及法律勅令に依り郡の負擔と定むる事件の費用は其郡に於て之を支辨すへし

第六十一條 郡會議員名譽職参事會員及委員には旅費及日當を給することを得但日當は一日五十錢を超ゆるを得す

第六十二條 郡の支出に充つる費用は郡有財產より生ずる收入其他雜收入を以て充つるもの、外は郡内各町村に分賦す各村町賦分の割合は各町村前年度の直接國稅府縣稅の徵收額に據る

各町村分賦の額は各町村に於て之を町村の豫算に編入し町村稅として徵收し其總額を郡金庫に納むへし

第六十三條 郡内の或る部分に對し特に利益ある土木事業を起すときは郡會の議決に依り該部分の町村に對し通常分賦額の外其利益の厚薄に應し特に夫役現品を増課することを得

第六十四條 郡は天災地變の爲己むを得ざる支出又は其郡の永久の利益と爲るべき支出を要するに方り通常の歳入を増加するときは郡内町村の負擔に堪へざるの場合に限り勅令の定むる所に依り郡會の議決を以て郡債を起すことを得

郡債を起すの議決を爲すときは併せて起債の方法利息の定率及償還の方法を定むへし郡債償還の初期は三年以内と爲し年々の償還歩合を定め起債の時より三十年以内に還すへし

歳入出豫算内の支出を爲すか必要なる一時の借入金にして其年度内の收入を以て償還すへきものは本條の例に依るの限に在らず但郡参事會の議決を経ることを要す

第六十五條 郡長は毎年翌年度に係る歳入出豫算を調製すへし但郡の會計年度は政府の會計年度に同じ

豫算は郡會の議決に付するの前郡参事會の審査に付すへし若郡長と郡参事會と意見を異にするときは郡長は参事會の意見を豫算に添へ郡會に提出すへし追加又は臨時の豫算に付ても亦同し

第六十六條 豫算は毎年郡會の議決を取り之を府縣知事に報告し並に郡慣行の公告式に依り内務大臣は省令を以て豫算調製の式を定め並に費目流用に關する規定を設くることを得

り其要領を告示すへし追加又は臨時の豫算を議決したる場合に於ても亦同し
郡の費用を以て支辯する事業にして數年を期して施行すへきもの又は數年を期して其費
用を支出すへきものは郡會の議決を以て其年各年度の支出額を定め繼續費と爲すこ
とを得

豫算を郡會に提出するときは郡長は併せて其郡有財産表を提出すへし
第六十七條 歳入出豫算中に豫備費を設くへし豫備費は郡長に於て郡參事會の議決を経て
已む 得ざる豫算外の支出又は豫算超過の支出に充つることを得但郡會の否決したる費
途に充つることを得ず

第六十八條 郡の收支命令は郡長之を發すへし

第六十九條 會計事務を管理する郡役所會計吏は前條の命令あるに非されは支拂を爲すこ
とを得す其の命令あるも支出の豫算なきか又は豫備費支出及費目流用の規定に依らざる
ときは支拂を爲すことを得ず

第七十條 郡の出納は毎月例日を定めて検査し及毎年少くとも一回臨時検査を爲すへし檢
査は郡長又は其代理者之を爲し臨時検査には郡參事會員一名以上の立會を要す

第七十一條 決算は會計事務を管理する郡役所會計吏に於て會計年度後三箇月以内に之を
郡長に提出し郡長は郡參事會をして之を検査せしめ次回の通常郡會の認定に付すへし
決算報告書並に之に關する郡會の議決は郡長より之を府縣知事に報告し並に決算は郡慣
行の公告式に依り其要領を告示すへし

第五章 監督

第七十二條 郡の行政は第一次に於て府縣知事之を監督し第二次に於て内務大臣之を監督

す

第七十三條 此法律中別段の規定ある場合を除くの外郡の行政に關する府縣知事又は府縣
參事會の處分若は裁決に不服なる者は内務大臣に訴願することを得
郡の行政に關する訴願は其事件の處分若は裁決を受けたる日より十四日以内に其理由を
具して之を提出すへし

此法律に指定する場合に於て府縣知事の處分又は府縣參事會の裁決に不服ありて行政裁
判所に出訴せんとする者は裁決 受たる日より二十一日以内に出訴すへし
行政裁判所に出訴することを得へき場合に於ては内務大臣に訴願することを得ず

第七十四條 監督官廳は郡行政の法律命令に背戻せざるや其事務錯亂滯滞せざるや否を監
視すへし監督官廳は之が爲行政事務に關して報告を爲さしめ豫算及決算等の書類帳簿を
徴し並に實地に就て事務の現況を視察し出納を檢閲するの權を有す

第七十五條 郡會又は郡參事會の議決其權限を越え法律命令に背き又は公益を害すと認む
るときは郡長は自己の意見に依り又は監督官廳の指揮に依り理由を示して議決の執行を
停止し之を再議せしめ猶其議決を更めるときは直に府縣知事の裁決を請ふへし其權限
を越え又は法律命令に背くに依て議決の執行を停止したる場合に於て府縣知事の裁決に
不服なる者は行政裁判所に出訴することを得

第七十六條 郡會又は郡參事會に於て法律命令又は慣行に依て郡の負擔に屬する行政上又
は公益上必要の費用を否決し又は議決すと雖必要の給需を缺くときは郡長「府縣知事に
具狀し其指揮を請ひ原案を執行することを得但府縣知事は原案金額を不相當と認むると
きは原案金額以内に於て適當の金額を定め指揮することを得

第七十七條 郡會招集に應せず又は成立せざる時は郡長は府縣知事の指揮を請ひ處分することを得

前項の處分は次回の會議に於て之を報告すへし

第七十八條 郡會又は郡參事會に於て其議決すべき議案を議決せざる場合に於て其事緊急を要するときは郡長は府縣知事に具狀し其指揮を請ひ原案を執行することを得但其議決せざる議案歳入出豫算に係り府縣知事に於て原案金額を不相當と認むるときは原案金額以内に於て適當の金額を定め指揮することを得

第七十九條 府縣知事は郡の歳入出豫算中不適當の支出と認むる費目あるときは之を削除し及其郡の資力に比し不急の支出と認むる費目あるときは之を削除又は減殺することを得此場合に於ては收入科目中に就き之に相當する收入額を減殺すへし

第八十條 郡會は内務大臣之を解散せしむることを得此場合に於ては三箇月以内に之を改選すへし

前項解散の場合に於ては名譽職參事會員も亦解職するものとす

郡委員は郡會の解散に依り解職するの限に在らず但改選郡會の議決を以て之を改選することを得

郡會解散の後改撰結了に至る迄の間急施を要する事件あるときは郡長之を專決處分することを得

前項の處分は次回の會議に於て之を報告すへし

第八十一條 左の事件に關する郡會の議決は内務大臣及大藏大臣の認可を受くることを要す

一 新に郡債を起し又は其額を増加し若は償還の方法を變更する事

第八十二條 左の事件に關する郡會の議決は府縣知事の認可を受くることを要す

一 郡有不動産の賣却讓渡並に質入書入の事

二 第六十三條に依り郡内の或る部分に對し特に夫役品を増課する事

三 第六十六條第二項に依り繼續費を定め及其年期限内に議決を變更する事

第六章 附則

第八十三條 郡内總町村の共有に屬する財産及營造物は郡内總町村の聯合又は組合を以て設立せる小學校を除くの外此法律施行の日より郡の所有に歸し其權利義務とも同時に郡に移るものとす

第八十四條 府縣參事會及行政裁判所を開設する迄の間此法律に依り府縣參事會に屬する職務は府縣知事行政裁判所に屬する職務は現行の行政裁判手續に従ひ控訴院に於て之を行ふへし

第八十五條 島司を置ける島嶼に於ては別に勅令を以て其制を定む

第八十六條 此法律に依り始めて議員を選挙するに付郡會及郡參事會の職務は郡長に於て之を行ふへし

第八十七條 町村制施行の爲に定むる直接税の種類は此法律の施行に付ても亦適用す

第八十八條 此法律施行の後は町村制第二百二十六條第三に定むる附加税徴收の許可は地租七分の一、五、十四分の一三を超過するものとす

第八十九條 此法律は町村制を施行したる各府縣に施行するものとす其施行の時期は府縣知事の具申に依り内務大臣之を定む

第九十條 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法其他此法律に抵觸する成規は此法

律施行の地に於て其施行の時期より總て之を廢止す
第九十一條 内務大臣は此法律施行の責に任し之か爲必要なる命令を發布すへし

●營業税法 二十九年三月二十七日法律第三十三號
法律第三十三號

營業税法

第一條 左に掲ぐる營業を爲す者には營業税を課す

- | | | | | |
|----------|----------|----------|---------|---------|
| 一 物品販賣業 | 一 銀行業 | 一 保險業 | 一 金貸付業 | 一 物品貸付業 |
| 一 製造業 | 一 運送業 | 一 倉庫業 | 一 運河業 | 一 棧橋業 |
| 一 船渠業 | 一 船舶碇繋場業 | 一 貨物陸揚場業 | 一 土木請負業 | 一 勞力請負業 |
| 一 印刷業 | 一 寫眞業 | 一 席貸業 | 一 旅人宿業 | 一 料理店業 |
| 一 公ナル周旋業 | 一 代辨業 | 一 仲立業 | 一 仲買業 | |

第二條 營業税を課すへき物品販賣業は一定の店舗其他の營業場を設け物品の卸賣又は小賣を爲す者を謂ふ

左の諸業は前項に該當せざるも仍物品販賣業と見做す

- 一 一定の製造場なく職工を使役することなく原料を供給し工錢を支拂ひ物品を製造せしめて販賣する者
- 二 一定の製造場を設けず店頭に於て物品を製造し主として小賣を爲す者
- 三 牧場に非ざる場所に於て飼料を購求し家畜又は家禽を飼養し之を賣り又は鶏卵、牛乳等其の産物を販賣する者

四 魚介類を養殖して之を販賣する者

五 動植物其他普通に物品と稱せしものを販賣する者

一ヶ年の賣上金額千圓未滿の者には營業税を課せず

第四條の營業者其製造場區域内に於て製造品を販賣し及別に營業場を設け其の製造品の卸賣營業を爲すも物品販賣業とせず

第三條 營業税を課すへき金貸付業及物品貸付業は一定の店舗其他の營業場を設け貸付の業を營む者を謂ふ普通に物品と稱せざるもの、貸付を爲すも亦同し

資本金額五百圓未滿の者には營業税を課せず

第四條 營業税を課すへき製造業は一定の製造場を設け職工勞役者を使役して物品を製造し又は物品製造の一部を助成する者を謂ふ

瓦斯電氣の供給を爲す者及器物、器械の修理を爲し又は穀物を精白搗碎製し又は染物洗濯を爲す者は前項製造業と見做す

資本金額五百圓未滿の者又は職工勞役者を通して二人以上を使用せざる者には營業税を課せず

第五條 運賃又は手数料を受けて旅客貨物の運送を爲し又は其の取扱を爲す者を運送業として營業税を課す但し雇人二人以上を使用せざる者には營業税を課せず

第六條 倉庫を備へて貨物を預り倉敷料其他の名義を以て報酬を受くる者を倉庫業として營業税を課す

第七條 印刷業、寫眞業にして職工雇人を通して二人以上を使用せざる者及土木請負業、勞力請負業にして請負金額一ヶ年千圓未滿の者には營業税を課せず

なるときは重きを従ふ

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公なる周旋業、代辨業、仲立業、仲業買は各店舗其他の營業場毎に營業税を課す

前項に掲げざる營業にして店舗其他の營業場毎に營業税を課するときは其の資本を区分したるものは各別に營業税を課す其の資本を区分せざるものは合算して之を課す

第十六條 第十三條に依り届出へき課税標準は左の區別に従ひ之を計算す但し新に開業したる者は豫算を以て之を定む

一 賣上金、請負金及報償金は前年中の總額に依る但し前年中に開業したるものは豫算に依る

二 資本金及建物賃借価格は前年中の平均額に依る

三 従業者は前年に於ける最多数のときに依る

第十七條 營業者の申告したる資本金額を不相當と認むるときは政府は其の營業の收入金額を調査し相當の營業費を控除し其殘額の二十倍を以て資本金額を算定することを得

第十八條 建物賃借価格は店舗其他營業用の土地家屋の借料に相當するものとす但し住居に供するの其他直接に營業に使用せざるものあるも同一區域内にありて自己の所用に係るものは營業用として計算す

借家の場合に於ては何等の名義を用うるに拘らず土地、建物の賃借上借主より貸主に拂ふものを以て建物賃借価格を計算す借家に非ざる場合に於ては近傍借家の借料に照準して建物賃借価格を定む近傍に照準すべき借家なきときは其の土地、家屋の時價を各別に

算定し土地は其の百分の五、家屋は百分の十を以て其の賃借価格を定む無償の借家に付ても亦同し

營業者の申告したる賃借価格を不相當と認むるときは政府は前項の算定方法に依り其の賃借価格を定むることを得

第十九條 名義の何たるを問はず總て營業に従事する者は従業者として之を計算す但し營業者の家族を除く

第二十條 營業税は年額を二分し其の年五月、十一月を以て納期とす但し廢業するとき未納の税金は即納とす

第二十一條 新に營業を開始する者は開業の翌年より其の營業税を徵收す

左に掲ぐる營業を開始する者は開業の翌年より尙三ヶ年間其の營業税を徵收せず但し此の税法施行以前より營業する者にして其の開業の翌年より三ヶ年に滿たるときは本項に準據することを得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繋場業

第二十二條 同一の場所に於て六ヶ月以内に前の營業者同一の營業を開始する者は其の日より營業税を徵收す

第二十三條 營業を繼續し又は營業繼續と認むべき事實あるときは納期に於て現に營業する者より營業税を徵收す

第二十四條 營業者廢業するときはその廢業の月迄營業税を徵收す但し他に其營業を繼續する者あるときは前條に依る

第二十五條 第二十二條及第二十三條の場合に於て前の營業者第二十一條の期間内にある

ときは其の期間は後の營業者に及ぶものとす

第二十六條 政府に於て營業者の申告を不相當と認め資本金額又は建物賃貸價格を算定したるときは之を營業者に通知すへし

第二十七條 前條の算定に對し異議あるときは通知を受けたる日より二十日以内に申立て再審査を求むることを得但し此の場合に於て政府は税金の徵收を猶豫せず

第二十八條 第三項の建物賃貸價格算定に付異議の申立ありたるときは評價人を定め之を評價せしむ評價一致せざるときは其の平均を以て之を定む

評價人は四人とし二人は政府より之を命じ二人は土地建物所在市町村長之を評定す但し費用は本人の負擔とす

前項町村長の職務は特別市制を施行する市に於ては區長、市制町村制を施行せざる地方に於ては戸長、沖繩縣に於ては役所長之を行ふ

第二十九條 左の場合に於ては營業者は政府に其の由を申立つることを得
一 課税の標準たる資本金額、賣上金額、請負金額、報價金額又は建物賃貸價格半額以上を減したるとき

二 課税の標準たる營業者の人員届出人員二分の一以下に減したるとき

第三十條 政府は前條の申立に由り營業者の狀況に照し營業税を減額するの必要ありと認むるときは翌年一月迄税金の徵收を猶豫することを得

第三十一條 政府は第二十九條の申出に對し翌年一月に於て課税標準を査覈し左の場合に該當するもをあるときは税金を減額することを得
一 課税の標準たる上賣金額、請負金額、報價金額は前々年中の總額資本金額、建物賃

貸價格は前々年中の平均額の半額に達せざるとき
二 課税の標準たる從業者の人員其の最多數のときに於て届出人員の二分の一に達せざるとき

課税標準の課税最低限以下に減したる場合に依ても仍其の割合を以て税金を徵收す

第三十二條 第一條に掲ぐる營業者は貨物の仕入、賣上、受入、貸付、廻送從業者の人員及營業に關する金錢の出納を明にする爲帳簿を備へ營業上一切の事實を記載すへし

第三十三條 收入官吏は營業に關する帳簿物件を検査し又は營業者に尋問することを得

第三十四條 第十三條の届出を爲さず若し虚偽の届出を爲し又は故意を以て第三十二條の帳簿の記載を怠り若し虚偽の記載を爲したる者は一圓以上一圓九十五錢以下の料料に處す其の脱税したる者は脱税金額三倍の罰金又は料料に處す

第三十五條 此の税法を犯したる者には刑法の不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發の例を用ゐず

第三十六條 府縣は此の税法に依り納税義務を有する營業者に對し本税十分の二以内の附加税を課することを得此の附加税の外府縣税又は地方税を課することを得す

第三十七條 此の税法は明治三十年一月一日より施行す

第三十八條 明治二十九年度に屬する府縣税又は地方税は第三十六條の規定に依るの限に

あらず
明治二十九年度に屬する府縣税又は地方税の賦課を受けたる業体に對する此の税法の營業税は明治三十年に限り年額四分の三を徵收す

第三十九條 第二十條五月の納めは明治三十年に限り七月とす

●葉煙草專賣法

- 第一條 政府は葉煙草の專賣權を有す
- 第二條 葉煙草は政府之を納收し總て定價を以て之を賣渡すへし
何人を問はず政府より買受けたる葉煙草に非されは之を賣買することを得ず
- 第三條 葉煙草を耕作する者は乾燥の後總て其の葉煙草を政府に納付すへし之を他に讓渡し又は消費することを得ず
- 第四條 葉煙草を耕作したる者葉煙草を納付するときは政府は之に對し賠償金を交付すへし
- 葉煙草の賠償金は政府之を定め豫め公示すへし其の品位等級は鑑定人をして之を鑑定せしむ若此の鑑定に不服あるときは更に鑑定を求むることを得
- 第五條 葉煙草を耕作せむとする者は毎年四月三十日迄に政府に其の段別を届出へし
- 第六條 葉煙草は政府に届出てたる土地に非されは耕作することを得ず
- 第七條 葉煙草耕作者の變更したるときは其の耕作を繼承したる者より其の旨政府に届出へし
- 第八條 煙草製造を業とする者及葉煙草賣買を業とする者は葉煙草を耕作することを得ず
- 第九條 葉煙草を耕作する者は葉煙草收穫の前及葉煙草乾燥を了りたる後政府に届出て検査を受くへし
- 第十條 葉煙草を耕作する者は葉煙草の乾燥を了りたる後翌年三月三十一日迄に政府の指

定したる場所に之を納付すへし此の期限を過ぎ葉煙草を貯藏せむとするときは政府の認許を受くへし

- 第十一條 葉煙草を耕作する者は葉煙草を買受けることを得ず又自己の耕作せざる葉煙草を貯藏することを得ず但し當該官吏の承認を受け標本として買受くるは此の限に在らず
- 第十二條 輸出に供する葉煙草は政府の認許を受くるときは之を政府に納付せしめて他に賣渡することを得
- 第十三條 前條の葉煙草は政府の保管に付すへし
- 第十四條 政府に於て保管する葉煙草は其の保管證を以て賣買することを得
- 第十五條 政府に於て保管する葉煙草は保管後一ヶ年以内に輸出せざるときは政府は之を收納し第四條に依り賠償金を交付すへし
- 第十六條 政府に於て保管したる葉煙草は輸出の際之を輸出者に交付すへし
- 第十七條 保管者は運搬の爲に生したる費用は保管證所有者の負擔とす
- 第十八條 政府は何人の所屬を問はず葉煙草耕作地及貯藏所其の他所在の場所を檢查することあるへし此の場合に於て當該官吏は葉煙草所在場所又は葉煙草の所在を認むる場所に立入又は監督上必要の處分を爲すことを得る其の運送中にあるものは其の所在に就き之を検査を爲すことを得
- 第十九條 政府は各地方便宜の地に葉煙草取扱所を設け葉煙草の收納及賣渡を取扱はしむ
- 第二十條 耕作の届出を爲さずして葉煙草を耕作したる者又は届出を爲さざる土地に葉煙草を耕作したる者は三圓以上三十圓以下の罰金に處し仍其の葉煙草を沒收す
- 第二十一條 葉煙草を耕作する者政府に納付すべき葉煙草を他に讓渡又は消費したるとき

は十圓以上百圓以下の罰金に處す但し其の犯罪に係る葉煙草の現存するときは何人の所有を問はず政府は之を收納し第四條に準じて其の賠償金を交付すへし

第二十二條 葉煙草を耕作する者葉煙草を買受け又は自己の耕作せざる葉煙草を貯藏し又は政府の認許を受けずして翌年三月三十一日を過ぎ葉煙草を貯藏したるときは三圓以上三十圓以下の罰金に處す但し犯罪に係る葉煙草の現存するときは其の收納及賠償金の交付は前條但書を適用す

第二十三條 葉煙草耕作者變更のとき其の繼承の届出を爲さざる者は一圓以上一圓九十五錢以下の科料に處す

第二十四條 葉煙草耕作の收穫を始むる前又は葉煙草の乾燥を了りたる後之か届出を爲さざる者は二圓以上二十圓以下の罰金に處す

第二十五條 政府に對し又は當該官吏の尋問に對し事實の申告を詐り若は之を怠りたる者は三圓以上三十圓以下の罰金に處す

第二十六條 葉煙草の檢査に際し當該官吏の職務執行を拒み又は之を忌避し又は之に支障を加へたる者は二圓以上二十圓以下の罰金に處す其の刑法に正條あるものは刑法に依る

第二十七條 本法を犯したる者は刑法の不論罪及減輕、再犯加重數罪俱發の例を用ゐず但し刑法第七十五條第一項の場合には此の限に在らず

第二十八條 葉煙草を耕作する者は其の代理人、家族、同居者、雇人にして其の業務に關し本條を犯したるときは自己の指揮に出でざるの故を以て本法の處罰を免ることを得ず

附則 第二十九條 本法は明治三十一年一月一日より施行す

第三十條 遠隔の島嶼にして内地と一般の狀勢を異にするものあるときは其の地方に對し勅令を以て本法を施行せざることを指定することを得

本法を施行せざる地方より本法施行地に葉煙草を輸入することを得ず

第三十一條 明治三十一年勅令第二十號煙草稅則は本法施行の日より廢止す但し煙草製造營業者に於て本法施行前より持越たる葉煙草を以て製造したる煙草に關しては仍明治二十一年勅令第二十號煙草稅則を適用す

第三十二條 本法施行の際煙草仲買人又は葉煙草耕作者の所持する葉煙草は政府に納付すへし但し納付に關する規程は命令を以て之を定む

明治二十一年勅令第二十號煙草稅則中第六條及第七條を刪除し第二十三條を左の通改正す營業免許を受けずして煙草營業を爲したる者は十圓以上百圓以下の罰金に處し仍は其煙草及器械を沒收す第十五條又は第十六條第二項を犯したる者亦同し

附則 此法律は明治三十一年一月一日より施行す

●酒類稅率改正法律

明治二十九年勅令第六十一號中酒類及ひ稅率を左の通り改正す

第一種	清酒、	白酒、	味淋、	一石に付金七圓
第二種	濁酒、			一石に付金六圓
第三種	燒酒、	酒精、		一石に付金八圓
附則				

此法律は明治二十九年十月一日より施行す

●醬油税則 明治二十一年六月勅令四十七號

第一條 醬油(溜を併稱す)製造の營業を爲さんとする者は管廳に願出製造場一ヶ所毎に免許鑑札を受くへし但製造人十六歳未満の幼年者及瘋癲白痴又は瘡啞とあるときは後見人を立つへし

第二條 醬油製造人は左の營業税及造石税を納むへし

營業税 製造場一ヶ所に付一ヶ年 金五圓

造石税 溜は製成一石に付 金一圓

酒油は諸味一石に付 金一圓

第三條 營業税は一ヶ年二期に分ち前半年分は其年一月三十一日限後半年分は同七月三十一日限之を納むへし但新に營業を爲す者は免許鑑札を受くるとき其半年分の營業税を納むへし

第四條 造石税は左の期限に従ひ之を納むへし但廢業する者は其節之を納むへし

第一期 五月三十一日限 一月一日より四月三十日までの間査定済石數に係る税額

第二期 九月三十日限 五月一日より八月三十一日までの間査定済石數に係る税額

第三期 翌年一月三十一日限 九月一日より十二月三十一日までの間査定済石數に係る税額

第五條 醬油は之を製成する前に溜は之を製成したる後十日以内に管廳に申出造石數の査定を受くへし

造石數査定済の醬油と査定未済の醬油とを混和したるときは其總石數に就き更に査定を受くへし

第六條 醬油製造人廢業の際査定未済の醬油を所持するときは管廳に申出造石數の査定を受け其造石税を納むへし但其醬油を同業者に賣渡讓渡す場合に限り管廳に申出検査を受け置き其買受讓受人に於て第五條の査定を受け及第四條の期限に従ひ造石税を納むることを得

製造場二ヶ所以上に於て醬油製造を爲す者其一ヶ所以上を廢し査定未済の醬油を他の製造場に移すときは管廳に申出検査を受くへし

第七條 免許鑑札は貸借賣買讓渡讓受を爲すことを得ず

第八條 醬油製造人は同業者に非ざる者に醬油を製造する爲に製造場を貸渡すことを得ず

第九條 醬油製造人は製造場に關し修繕等己を得ざる事故に因り管廳に届出たる後に非ざれば造石數査定済の醬油を其製造所に移すことを得ず

第十條 醬油製造人は造石數査定済の醬油を賣渡讓渡又は自用することを得ず但第六條但書の場合に在らず

第十一條 造石税の査定を経たる醬油其造石税納期内に天災又は避くへからざる事故に因り廢業に屬したるときは直に管廳に申出検査を受け該造石税の免除を請ふことを得

第十二條 醬油製造人は營業に係る要領を帳簿に記載すへし

第十三條 外國に輸出する醬油は輸出の節税關の検査を受置き輸入港税關の陸揚免狀若くは其他證書と爲るへし書類に該港在留の我國領事の捺印を受け之を輸出港の税關に差出し造石税の下戻を請求することを得其下戻の歩合は大藏大臣の定むる所に依るへし

但造石税の下戻を受けたる醬油を本邦に輸入する時は其金額を輸入港税關に還納すへし
第十四條 醬油製造人の製造する醬油は他の依託を受け又は自家用料に供するものと雖も
總て此稅則に従ふへし

醬油製造人は製造場外に於て自家用料の醬油を製造する事を得ず

第十五條 醬油請賣を爲す者は自家用料の醬油を製造することを得ず其同居者亦同し

第十六條 自家用料の爲め製造したる醬油は之を賣渡すことを得ず

第十七條 醬油製造人の製造場倉庫其他の場所醬油仕込高並仕込に屬する原品及營業に關
する帳簿は當該官吏之を檢査することあるへし但當該官吏は其證票を携帶すへし

第十八條 當該官吏に於て此稅則に關し犯罪ありと認知し又は思料するときは其場所に立
入り證憑取調の處分を爲すことを得但當該官吏は其證憑を携帶すへし

第十九條 免許鑑札を受けずして醬油製造營業を爲したる者は五圓以上五十圓以下の罰金
に處し仍ほ其醬油及容器製造器械を沒收す

第二十條 醬油製造人にして醬油を隠蔽したるものは其石數に相當する造石税三倍の罰金
に處し仍ほ其犯罪に係る醬油及容器を沒收す

第二十一條 第五條第六條の査定を受けたる者第八條第九條第十五條第十六條を犯したる
者及捕税を謀る爲め帳簿記載を詐りたる者は三圓以上三十圓以下の罰金に處し第十五條
を犯したる者は仍ほ其犯罪に係る醬油及容器製造器械を沒收す

第二十二條 第七條を犯したる者第六條の檢査を受けたる者及帳簿の記載を怠りたる者は
二圓以上二十圓以下の罰金に處す

第二十條 醬油製造人にして醬油を隠蔽したるものは其石數に相當する造石税三倍の罰金
に處し仍ほ其犯罪に係る醬油及容器を沒收す

第二十一條 第五條第六條の査定を受けたる者第八條第九條第十五條第十六條を犯したる
者及捕税を謀る爲め帳簿記載を詐りたる者は三圓以上三十圓以下の罰金に處し第十五條
を犯したる者は仍ほ其犯罪に係る醬油及容器製造器械を沒收す

第二十二條 第七條を犯したる者第六條の檢査を受けたる者及帳簿の記載を怠りたる者は
二圓以上二十圓以下の罰金に處す

第二十三條 此稅則を犯し沒收すべき物品にして既に之を賣渡讓渡又は消糜したるときは
其代金を追徴す

第二十四條 此稅則を犯したる者には刑法の減輕再犯加重數罪俱發の例を用ひす

第二十五條 醬油製造人の家族雇人にして此稅則を犯したるときは其製造人を處罰す

醬油製造人十六歳未滿の幼年者及癩癩白痴又は瘡啞にして此稅則を犯したるときは其後
見人を處罰す

第二十六條 此稅則施行の細則は大藏大臣之を定む

第二十七條 此稅則は明治二十一年九月一日より施行す

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島には當分此稅則を施行せず但此
稅則施行の地に輸送する醬油を製造する者は此稅則に従ふへし

第二十九條 此稅則施行以前に免許を受けたる醬油製造人にして第一條但書に該當する者
は後見人を立て三ヶ月以内に管廳に届出へし

●狩獵法 (法律第二十號)

第一章 獵具獵法

第一條 此法律に於て狩獵と稱するは銃器、各種の網、放鷹、網繩又は撲を以て鳥獸を捕
獲するを謂ふ

前項各獵具の種類及制限は農商務大臣の定むる所に依る

第二條 爆發物、据銃若は危險ある罟及陷阱を以て鳥獸を捕獲することを得ず

前項の外の獵具獵法にして第一條に掲げざるものに就ては地方長官（東ノ府下は警視總監以下做之）は農商務大臣の認可を経（便宜取締規則を設くることを得

第三條 日出前、日没後又は市街、人家稠密の場所、衆人群集の場所に於て若は銃丸の遠すへき虞ある建物、船舶、汽車に向て銃獵を爲すことを得ず

第四條 左に掲ぐる場所に於て銃獵を爲すことを得ず

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札ある場所
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地
- 七 柵、柵、圍障又は作物植付ある他人の所有地及免許を受たる他人

の共同狩獵地但し所有者又は管理人の承諾を得たるときは此限に在らず

第五條 地方長官は土地所有者の出願又は其他の理由に因り必要と認むる場合に於ては禁獵制札を建つることを得

第二章 狩獵免許

第六條 狩獵を爲さむと欲する者は地方長官に願出て免許を受くへし但し柵、柵、圍障ある所有地内に於て銃器を使用せずして銃獵を爲す者は此の限に在らず

第二十一條の處罰を受けたる者は滿一箇年を経過せされは再び免許を受くことを得ず

第七條 從來地方の慣行に依り一定の区域内に共同狩獵を爲す者は地方長官を経由して農商務大臣に願出て免許を受くることを得但し其出願に關する規則は農商務大臣之を定む

第八條 免許を分ちて甲乙の二種とす

甲種免許は銃器を使用せずして銃獵を爲す者に下付し乙種免許は銃器を使用して銃獵を爲す者に下付するものとす

第九條 免許を受くる者は左の區別に従ひ免許税を納むへし

一等	所得税十五圓以上若は地租二百圓以上納むる者	甲種	金五圓
二等	所得税三圓以上若は地租四十圓以上納むる者又は一等に相當する者の家族	甲種	金十圓
		乙種	金一圓五十錢
三等	一等二等以外の者	甲種	金三圓
		乙種	金五十錢
		乙種	金一圓

第十條 甲種免許の有効期限は十月十五日より滿一ケ年とし乙種免許の有効期限は十月十五日より翌年四月十五日までとす

地方長官は土地の状況に因り農商務大臣の認可を経て前項の期限を三十日以内に伸縮することを得

第十一條 免許の使用は本人に限るものとす但し助手を要する獵法にありては免許を有せざる者を同伴することを得

第十二條 獵者は出獵の際免許を携帯すへし

警察官、憲兵、森林官及市町村長は獵者の免許を検査することを得

前項の場合に於て獵者は免許の検査を拒むことを得ず

第十三條 免許を亡失したるときは其の地の所轄警察官署及當初之を下付したる官廳に届出すへし

免許を亡失し若くは毀損したるときは其の再度又は書換を請求することを得

第十四條 十六歳未滿の者は乙種免許を受ることを得ず

第十五條 免許は其効力を失ひたる日より三十日以内に當初之を下付したる官廳に返納す

第十六條 遊歩規程の制限ある外國人にして狩獵免許を受くる者は甲種金五圓乙種金十圓の免許税を納め規程内に限り狩獵することを得若其規程外に於て狩獵したるときは該免狀は爾後無効たるものとす

第三章 鳥獸保護

第十七條 保護を必要とする鳥獸を捕獲し又は之を販賣することを禁す但し捕獲の禁止以前に於て捕獲したる鳥獸は其の禁止又は停止の日より二週間以内に於て販賣するは此の限に在らず
飼養に係る保護鳥獸は前項期日後と雖も農商務大臣定むる所の規則に依り販賣することを得

捕獲を禁止し又は停止すべき保護鳥獸の種類及制限は農商務大臣之を定む

第十八條 捕獲を禁する鳥類の卵又は雛を取り若は之を販賣することを禁す

第十九條 捕獲を禁する鳥獸と雖も學術研究其の他の特別の理由に因り捕獲を要するとき
は地方長官は特に其の許可を與ふることを得
有害鳥獸を驅除する爲め必要と認むる場合に於ても亦同し

第四章 罰則

第二十條 第六條第一項に違背して狩獵を爲し又は第十四條に違背して乙種免許を受けたる者は三圓以上三十圓以下の罰金に處し第九條に違背して免狀を受たる者は七圓以上七十圓以下の罰金に處す

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六に違背したる者は五圓以上五十

圓以下の罰金に處す前項の處罰を受けたる者の免狀は其の効力を失ふものとす

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條に違背したる者は二圓以上廿圓以下の罰金に處す但し第四條第七に付ては土地所有者又は管理人の告訴を待て處断す

第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條に違背したる者は一圓以上一圓九十五錢以下の科料に處す

附則

第二十四條 狩獵に關する従前の規則は此法律施行の日より廢止す

此の法律施行以前設定の免許を受けたる獵區は其免許期限間効力を有するものとす

第二十五條 此の法律施行以前免狀を受けたる者は更に免狀の下付を要せず引續き狩獵を爲すことを得

郵便條例摘要

○書狀 目方貳匁迄貳錢以上二匁毎に二錢を増し貼用すへし

○書籍類見本品 目方三拾匁迄二錢以上三十匁毎に二錢を増すへし但書籍は壹個目方三百匁見本及雛形は壹個目方百匁迄を限りとす○官報及新聞雜誌類 目方十六匁迄五厘以上十六匁毎に五厘を増へし壹個目方三百匁を超ゆ可からず○二號又は二個以上を一束として差出すときは十六匁に一錢宛を貼用すへし

○書留手數料 郵便物壹個に付六錢

○別配達料 東京大阪京都は十錢其他郵便局ある地は六錢郵便局なき地は十八町以内六錢

以上十八町毎に六錢を増すへし
 ○郵便物の大きさは曲尺にて長さ壹尺二寸巾八寸厚五寸を限りとす
 ○郵便物未納税不足税之あるときは届け先より其二倍を納めしむへし
 ○届け先に於て未納税不足税を納めず其郵便物を受取らざるときは差出人に戻し其三倍を納めしむへし
 ○官衙へ宛未納税の郵便物は直ちに差出人へ差戻しのこと

●小包郵便法摘要

第一條 小包郵便料は小包郵便物の重量及其差立郵便局より配達局迄の里程に従ひ別表に依り之を徴收す
 第二條 郵便局市外に送達する小包郵便物は其重量に従ひ別に左の郵便料を加徴す小包郵便物一個重量六百匁迄二錢、一貫匁迄四錢、一貫五百匁迄六錢
 第三條 小包郵便の容量及重量は左の制限を超過することを得ず
 容積は長二尺、幅二尺、厚二尺(各曲尺)重量は一貫五百匁
 第四條 小包郵便物の登記価格は金百五拾圓を超過することを得ず
 第五條 價格登記小包郵便物の保険料は登記金額壹圓迄金七錢とし壹圓以上は壹圓迄毎に金壹錢を加ふ
 第六條 通常小包郵便物の損害に對しては重量百匁に付金十錢の割合を以て之を賠償し其一部分の損害に對しては此制限内に於て其損害の多少に従ひ之を賠償す
 第七條 價格登記小包郵便物の損害に對しては其登記金額迄之を賠償し其一部分の損害に

對しては登記金額内に於て其損害の多少に従ひ之を賠償す

小包郵便料

量目	里程		
	十里迄	百里迄	百里以外
二百匁迄	五錢	八錢	十六錢
四百匁迄	七錢	十二錢	二十四錢
六百匁迄	九錢	十六錢	三十二錢
八百匁迄	十一錢	二十錢	四十錢
一貫匁迄	十三錢	二十四錢	四十八錢
一貫二百五十匁迄	十五錢	二十八錢	五十六錢
一貫五百匁迄	十七錢	三十二錢	六十四錢

小包郵便物の重量は壹個壹貫五百匁を過ぐることを得ず又容積は長、巾、厚各曲尺二尺迄とす然れども巾及び厚各五寸以内のもの長三尺を限り差出すことを得保險料は登記金額一圓迄七錢とし一圓以上は一圓を加ふる毎に壹錢増

●電信條例摘要

○全國電信料 一音信十五錢 片假名十字を一音信とす以上十字を加ふる毎に十錢を増す
 ○一市内電信料 一音信五錢 字數同斷一音信以上を加ふる毎に三錢を増す
 ○宿所姓名は電信料を要せず
 ○音信中一より九迄の數字及〇、は各一字濁點並に〇「」は二字とす
 ○電信料は頼信紙へ電信切手を貼附すへし又郵便切手を代用することを得

- 電信一通に發信人三名迄連名するとを得
- 電信料不足拂の分は二倍追納のと
- 配達料 一里迄無手数料一里以上は郵税を拂ふへし若し拂はざる時は郵税先拂のと
- 至急電信料は通常の三倍とす
- 追尾電信料 (受信人轉居又は旅行先へ追送すると云ふ) 原信料の半額を増す
- 同文電信料 (同時に同文を同着局へ向け數名各通にて報すると云ふ) 原信一通を除くの外一通毎に五錢とす
- 照校電信料 (發信人電文の誤りを防ぐと云ふ) 原信料の半額を増す
- 受信電報料 (受信人に電信正に達せしや否やの報を受けんと云ふ) 一音信料を増す
- 別使配達料 着局より九丁毎に三錢とす
- 電報受取證書の手数料は三錢とす
- 電報符號 至急ウナ 追尾チラ 同文ヨム 照文ムニ 受信ニナ 別使配達マツ 郵便配達ツツ 書留郵便配達カナ 親展ニカ 局待ヤム 返信料前納ナツ

●賣藥規則

第一章

- 第一條 此規則に稱する所の賣藥とは丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等を調製し効能書を附し販賣するものを云ふ
- 第二條 此賣藥營業者は藥味分量用法服量効能を詳記したる書に族籍氏名を記し其管轄廳に願出免許鑑札を受くへし

但免許を受けたる者ニヶ所以上に於て之を調製する時は其個所毎に免許鑑札を受くへし

- 第三條 管轄廳に於ては願書を検査し其製藥配伍の藥品劇毒微毒に拘はらず取扱上失誤を生し易きもの及び毒藥劇藥取締に關係するものは之を許さるへし
- 第四條 藥味分量用法服量能書を改正せんと欲するものは其由を届出舊鑑札を返納して更に新鑑札を受くへし
- 第五條 賣藥を請賣せんと欲し其營業者の許諾を得たる者は族籍氏名を記したる願書に營業者所持の免許鑑札寫及營業者と取結たる約定書を添へ其管轄廳へ願出免許鑑札を受くへし
- 第六條 賣藥營業者及請賣者共必免許の看板を掲ぐへし
- 第七條 賣藥營業者及請賣に於て自ら行商し又は賣子を派出して行商を爲さしめんと欲するときは其由を管轄廳へ届出行商鑑札を願受け行商する時は必ず之を所持すへし
- 第八條 (十九年勅令第七十) (三號を以て削除)
- 第九條 (全上)
- 第十條 製藥第三條に掲ぐる所の有害品なるを更に發見する時或は營業者製藥を粗惡にする等のある時は直に鑑札を取上げ發賣を禁止することあるへし
- 第十一條 營業者廢業するか又は禁止せらるゝ時は其請賣者及び賣子共其販賣を許さず
- 第十二條 諸鑑札を遺失し又は水火盜難に因て毀失したる時は其仔細を詳記して管轄廳へ届出再ひ之を願受けへし
- 第十三條 免許鑑札を他人に讓渡せんと欲する者は双方連印の願書を管轄廳に差出し名前

書換を請ふへし

第十四條 賣藥營業者及び請賣者其相續人に於て之を相續する時は其由を記し管轄廳へ鑑札名前書換を請ふへし

第十五條 賣藥營業者廢業し若くは禁止せられたる時は營業者は勿論其請賣者に於ても總て諸鑑札を返納すへし

第二章

第十六條 賣藥營業者は左の通税金並鑑札料を上納すへし

賣藥營業稅

藥劑一方に付一ヶ年

金貳圓

右鑑札料

藥劑一方に付一枚

金貳拾錢

但第二條但書に依り免許鑑札を受くる者は其箇所毎に本文の税金並鑑札料を納むへし

第十七條 水火盜難に因り鑑札を毀失し更新鑑札を願受る時は其鑑札料の半高を納むへし

第十八條 税金は毎年兩度に區分し前半年分は一月三十一日限り後半年分は七月三十一日限り鑑札料は其都度並に管轄廳に上納すへし

第十九條 税金は六月以前免許の者は全年分七月以後は半年分廢業の者は七月以後は全年分六月以前は半年分を納むへし

但第十條の有害品なるを更に發見せし時に限り月割を以て納めしむへし

第三章

第二十條 無鑑札又は鑑札を借受け自ら行商し又は行商せしむる者及び之を貸す者は其鑑札を取上げ藥劑一方に付五圓の罰金を科すへし

第二十一條 無鑑札又は鑑札を借受け請賣するもの及び無鑑札の者にして請賣せしめ又は

鑑札を貸す者は其鑑札を取上げ製藥を没入し藥劑一方に付拾圓の罰金を科すへし

(全上)

第二十二條 免許を受けずして私に藥味分量用法服量能書等を改更し又は許可を経ずして

無稽の妄説を記載し世人を街惑する者は其鑑札を取上げ製藥を没入し藥劑一方に付拾圓

以上貳拾五圓以下の罰金を科すへし

第二十三條 無鑑札にて營業する者又は營業者にして私に請賣者に藥劑を調製せしむる者

又は請賣者自ら之を調製する者は其製藥及び賣得金を没入し藥劑一方に付貳拾五圓以上

五拾圓以下の罰金を科すへし

第二十四條 諸鑑札を偽造し又は他人の賣藥を贗造して發賣する者は其製藥及其賣得金を

没入し藥劑一方に付五拾圓以上百圓以下の罰金を科すへし

第二十五條 私に有毒藥を配伍する者は其鑑札を取揚げ製藥及其賣得金を没入し藥劑一

方に付き百圓以上五百圓以下の罰金を科すへし

第二十六條 以上の犯則者を見届け訴出る者ある時は事實取札の上相違なきに於ては其賞

として其罰金の半高を與ふへし

●船稅規則

第一章 鑑札

稅率

免稅

第一條 凡そ船舶は此規則に依り課稅する者也す

第二條 船舶所有主は其船舶定繫場を定め定繫場所在の地方廳に願出檢査を受け鑑札を乞

ふへし

第三條 新規造船したる者其造船場所在の府縣管内に定繫場を定めざる時は該廳に願出検査を受け假鑑札を乞ひ定繫場に回漕の上其方廳に願出本鑑札と引換を乞ふ可し

第四條 船體を變更し積量若くは間數に増減を生ずる時は其定繫場所在の地方廳に願出検査を受け鑑札の引換を乞ふへし

第五條 船舶を賣買譲與したる者は雙方連署の上買受譲受主の定むる定繫場所在の地方廳に願出鑑札の引換を乞ふへし

第六條 船舶の税率は左の如し
西洋形汽船 百噸に付 一年金拾五圓
同 風帆船 同 金拾圓

日本形積石五十石以上 百石に付 同 金貳圓
同 積石五十石未満

解漁船小廻船ハラス 長自軸梁三間迄は一年金三拾錢
但三間以上壹間を加ふる毎に金拾五錢を増加す

遊船 長自軸梁三間迄は一年金五拾錢
但三間以上壹間を加ふる毎に金貳拾五錢を増加す

第七條 本鑑札又は假鑑札は船行若くは回漕の時之を本船に所持すへし
但日本形積石五十石未満の船並解漁船小廻船遊船の本鑑札は其船に釘付すへし

第八條 解船破船又は水火盜難等に因り船舶を失ひたるものは其旨定繫場所在の地方廳に願出鑑札を還納すへし

第九條 鑑札を亡失毀損したる時或は改名代替の時或は船號を改め若くは定繫場を變換し

たる時は其旨定繫場所在の地方廳に願出鑑札の再渡若くは引換を乞ふへし

第十條 左に掲ぐる船舶は其税を免除す其所有主は地方廳に届出免稅の烙印を乞ふへし
倉庫船 水田の耕作に用ふる船 水災の爲め陸地に備へ置く船 橋梁に換へ渡場のみに用ふる船 船橋の組成に用ふる船 航海中本船に揚げ置く傳馬船「バッテリー」船の類

第二章 納税

第十一條 税金は一年を二期に分ち一月一日七月一日現在の船舶より徴収する者どす其前半年分は一月三十一日限り後半年分は七月卅一日限り定繫場所在の地方廳に上納すへし

第十二條 新規造船したる者は鑑札を受くる時刻期に係る税金を上納すへし

第十三條 船體を變更し積量若くは間數に増減を生したる時は次期より其積量又は間數に隨ひ税金を納むへし

第十四條 他管下に定繫場を定むる者は該地に代人を定め連署の上其定繫場所在の地方廳に届出納税を辨せしむへし

第十五條 本籍管内に定繫場を定めたる者不在の時は代人を定め其地方廳に届出納税を辨せしむへし

第十六條 假鑑札を受けたる船舶定繫場に回漕中納税期限に係る時は豫め定繫場所在の地に代人を定め其地方廳に届出納税を辨せしむへし

第十七條 此規則を犯し脱税に係る者は處罰の後其税金を追徴す

第三章 罰則

第十八條 此規則を犯し脱税に係る者は其脱税高五倍の科料若くは罰金に處す

第十九條 免稅船を有稅船の用に充てたる者は貳圓以上五十圓以下の罰金に處す
 第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條を犯したる者及第十條の免稅船に烙印を受けざる者は壹圓以上壹圓九拾五錢以下の料に處す
 第二十一條 此規則に依り罰金若くは料に處する者は刑法の不論罪及び減輕再犯加重數罪俱發の例を用ひす但刑法第七十五條第七十六條の場合に此限にあらす

●車税規則

第一則 車馬二疋以上 一ヶ年税金三圓 馬車一疋立 一ヶ年税金貳圓 荷積馬車一ヶ年税金壹圓 人力車二人乘 一ヶ年税金貳圓 人力車一人乘 一ヶ年税金壹圓 牛車一ヶ年税金壹圓 荷積大七八車 一ヶ年税金壹圓 荷積中小車但大六以下 一ヶ年税金五拾錢

第二則 新調の車は總て其都道府長へ届出檢印可申受事
但從來所持の分にて檢印無之牛車荷積車等は更に檢印可申受事 (二十二年大藏省令第七號ヲ於テ車ノ檢印ヲ請ハント欲スルトキハ市ニ於テハ府縣知事ニ町村ニ於テハ郡長ニ申出ヘキコトトス)

第三則 新調のものは六月以前は全年分七月以後は半年分納稅し破解の者は七月以後は全年分六月以前は半年分納稅候儀と可相心得事

第四則 右税金上納は年々兩度に區別し半ヶ年分宛區戶長へ取集め其管轄廳へ可相納事

第五則 但前半年分は一月三十一日限り後半年分は七月三十一日限り其管轄廳へ可相納事

第六則 荷積車等の内耕作一途に相用候分は免稅たるへき事
附則 諸車類無届にて營業する歟又は使用する者は其脫稅高の五倍料料たるへき事

北海道廳管内に限り第一則に掲ぐる諸車の内荷積馬車牛車荷積大七八車荷積中小車は當分の内税金を免除す

廣 告

家傳 秘方 養 痢 煎

痢病下り腹ふり腹一切の 定價 金五錢。拾錢

(主方) 水二合入一合にせんじ用のべじ
 (禁物) 梨子柿總て生物の類藥用中禁す
 (功能) 赤痢病は何程重症にても一二貼用ゆれば腹の痛を去り立處に治すると妙なり其外痛氣寸白にて腹はり又は腹痛みに用ひてよし總て腹痛或は下痢等に用ひて奇功あり
 霍亂暑氣中にもちひて速効神のごとし
 内務省免許

家傳 名方 加 河 折 衝 飲

産前産後血症良劑 定價 金五錢。拾錢

(主治) 産前産後血の道一切婦人の神藥なりはやめに用ひてよし ●頭痛 ●眩暈 ●逆上 ●崩漏 ●白帶下 ●月經不順 ●惡阻 ●腰痛 ●衄血 ●吐血 ●兒枕痛 ●疝氣 ●寸白 ●平常産癖
 ありて速かに分娩なり難き婦人は産前より此神藥を一日に二貼つハ一週間位用ゆれば腹部を順さ血の道を防ぎ身体健康になると疑ひなし然る時は難産も變じて安産となると余か積年經驗にあり之れ神藥の名戻らざる所なり

(功能) 子なき婦人は平素此の神薬を二三月も服用ゆる時は腹内十全し愛兒を宿すと神妙あり又五六七八ヶ月にして流産する婦人等に用ゆる時は流産の患を免ると誠に奇妙の良劑にして之れ全く婦人の守薬と云ふも過言にわらず

(用法) 大人は一日二貼を白湯にて二回に用ゆ赤兒は一日一貼をさくろとして用てよし
内務省免許

家傳 名方 **順血朔日丸**

婦人月經良劑
 定價金拾錢。廿錢。卅錢

(功能) 此朔日丸は婦人月經の不順なるを治するの方劑にして月の廻り滞るときは諸血症の不順なる故に患ふるなり此藥丸を毎月朔日一粒晦日一粒つゝ用ゆれば月經順當にして身體健康となる良劑あり

官許元祖

改良 **北斗香**

定價金貳錢

(用法) 此藥かたくなりたるときは乳又は清水にてときつけべし●此改良北斗香は余か一家の秘製にして前記の眼病を全治せしむる事誠に奇妙の神藥あり●恐らくは廣しと雖此良藥に勝つ者なし諸君用て速に大効あるを知玉へ

本舖 茨城縣常陸國 行方郡玉造町 **至誠堂** **新堀太四郎**

定價金八拾錢

明治三十一年十月一日印刷
 明治三十一年十月四日發行

著者 岡見舜雅
 茨城縣行方郡玉造町三百十五番地ノ一

發行者 柴田勇之助
 同縣同郡同町三百二十四番地

事務員 小森惠田
 同縣東茨城郡上野合村大字小幡

印刷者 平島曠
 東京市日本橋區上横町十六番地

終

